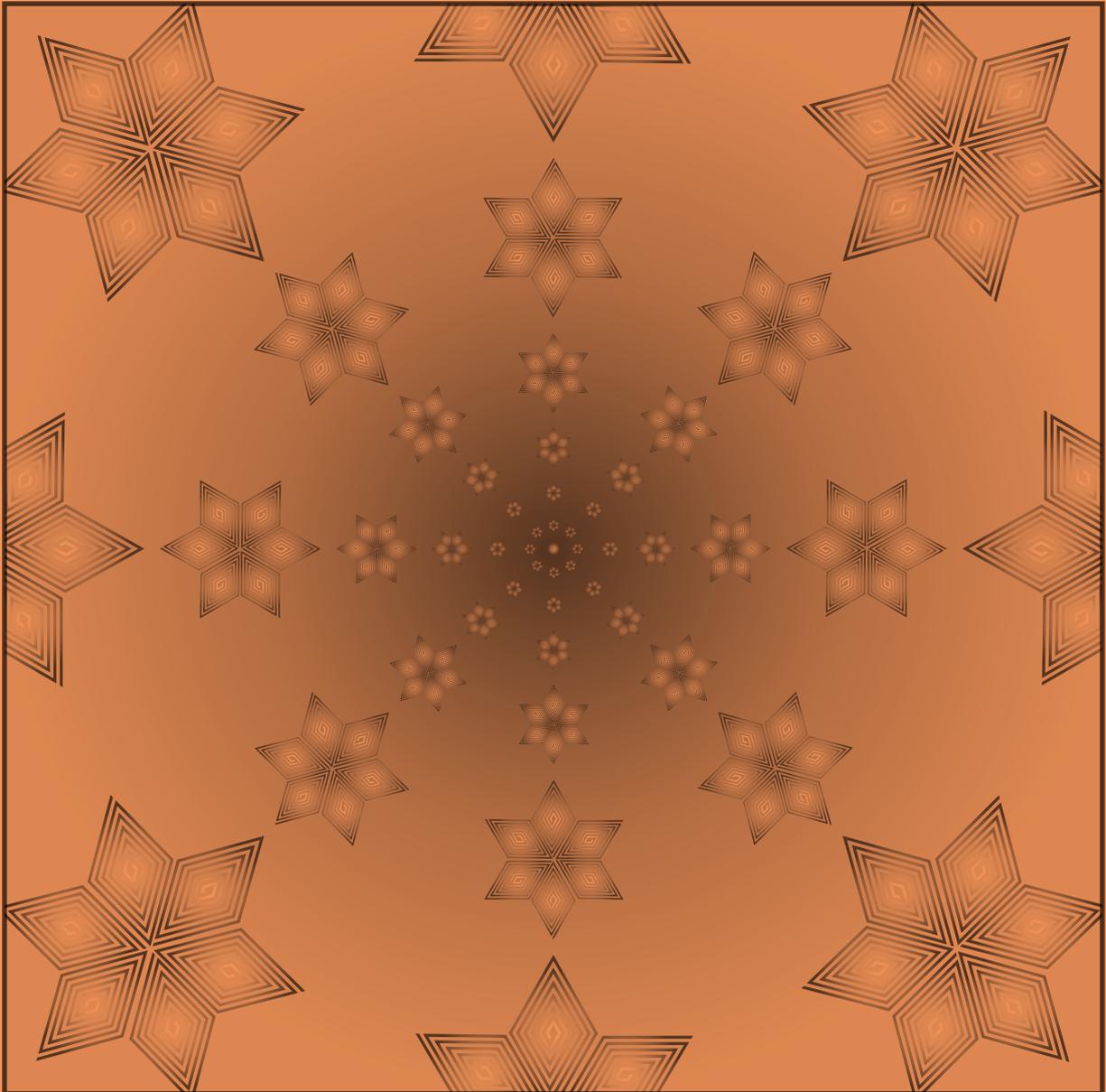


---

2013年度

# シラバス

# 交流文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

---

獨協大学

# シラバスの見方

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

## I 交流文化学科授業科目について

### 【シラバスページの検索方法】

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で記載されています。

### 【履修不可について】

- ① 目次には「履修不可」学科が記載されています。  
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。
- ② 表記方法  

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	経： 経済学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科		済： 経済学科	律： 法律学科
英： 英語学科		営： 経営学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科		環： 国際環境経済学科	総： 総合政策学科
交： 交流文化学科			
言： 言語文化学科	全： 交流文化学科以外の全学部学科		

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

## II シラバス本文の見方(右図参照)

- ① 入学年度
- ② 入学年度に対応した科目名
- ③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
- ④ 学期の授業計画  
各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。  
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。
- ⑤ 授業で使用するテキスト、参考文献
- ⑥ 評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

### 【注意事項】

#### 1.履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

#### 2.定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は『授業時間割表』を参照してください。

#### ●参考資料(英語レベル一覧表)●

上級	TOEIC®	700点以上
		(iBT) 68点以上
	TOEFL®	(PBT) 520点以上
		(CBT) 190点以上
	実用英語技能検定	準1級以上

中級	TOEIC®	600点以上
		(iBT) 54点以上
	TOEFL®	(PBT) 480点以上
		(CBT) 157点以上

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施したTOEIC®テストで満たしていれば履修登録は可能です。学外で受験したスコアを利用する場合は、証明するコピーを教務課外国語学部係へ提出してください。

# 交流文化学科 授業科目

## 学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
交流文化概論i	遠藤 充信	春	木4	2	1	全	13
交流文化概論ii	須永 和博/北野 収	春	金1	2	1	全	14
交流文化概論iii	永野 隆行	秋	木5	2	1	全	14
基礎演習 I	高橋 雄一郎	春	水1	2	1	全	15
基礎演習 II	高橋 雄一郎	秋	水1	2	1	全	15
基礎演習 I	島田 啓一	春	水1	2	1	全	16
基礎演習 II	島田 啓一	秋	水1	2	1	全	16
基礎演習 I	北野 収	春	水1	2	1	全	17
基礎演習 II	北野 収	秋	水1	2	1	全	17
基礎演習 I	永野 隆行	春	水1	2	1	全	18
基礎演習 II	永野 隆行	秋	水1	2	1	全	18
基礎演習 I	須永 和博	春	水1	2	1	全	19
基礎演習 II	須永 和博	秋	水1	2	1	全	19
英語圏の文学と文化概論	児嶋 一男	春	火2	2	1	全	20
英語圏の文学と文化概論	児嶋 一男	秋	火2	2	1	全	20
英語圏の文学と文化概論	上野 直子	春	木4	2	1	全	21
英語圏の文学と文化概論	片山 亜紀	秋	木4	2	1	全	21
英語の世界 I	府川 謹也	春	火5	2	1	全	22
English for Business I	各担当教員	春		1	2	全	23
English for Business II	各担当教員	秋		1	2	全	23
Listening & Speaking	P. ドーレ	春	火1	1	1	全	24
Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	P. ドーレ	秋	火1	1	1	全	24
Listening & Speaking	P. ドーレ	春	火2	1	1	全	25
Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	P. ドーレ	秋	火2	1	1	全	25
Listening & Speaking	日野 克美	春	火1	1	1	全	26
Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	日野 克美	秋	火1	1	1	全	26
Listening & Speaking	日野 克美	春	火3	1	1	全	27
Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	日野 克美	秋	火3	1	1	全	27
Listening & Speaking	田川 憲二郎	春	金3	1	1	全	28
Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	田川 憲二郎	秋	金3	1	1	全	28
Grammar for TOEFL® & TOEIC® I	各担当教員	春		1	1	全	29
Grammar for TOEFL® & TOEIC® II	各担当教員	秋		1	1	全	29
Reading Strategies I	伊藤 兵馬	春	木3	1	1	全	30
Reading Strategies II	伊藤 兵馬	秋	木3	1	1	全	30
Reading Strategies I	島田 啓一	春	火1	1	1	全	31
Reading Strategies II	島田 啓一	秋	火1	1	1	全	31
Reading Strategies I	瀬戸 千尋	春	月4	1	1	全	32
Reading Strategies II	瀬戸 千尋	秋	月4	1	1	全	32
Reading Strategies I	褰岩 ナオミ	春	金2	1	1	全	33
Reading Strategies II	褰岩 ナオミ	秋	金2	1	1	全	33
Reading Strategies I	褰岩 ナオミ	春	金3	1	1	全	34
Reading Strategies II	褰岩 ナオミ	秋	金3	1	1	全	34
Reading Strategies III	N. H. ジョスト	春	月4	1	2	全	35
Reading Strategies IV	N. H. ジョスト	秋	月4	1	2	全	35
Reading Strategies III	三吉 美加	春	月4	1	2	全	36
Reading Strategies IV	三吉 美加	秋	月4	1	2	全	36
Reading Strategies III	河原 宏之	春	水1	1	2	全	37
Reading Strategies IV	河原 宏之	秋	水1	1	2	全	37
Reading Strategies III	白川 貴子	春	水1	1	2	全	38
Reading Strategies IV	白川 貴子	秋	水1	1	2	全	38
Reading Strategies III	白川 貴子	春	水2	1	2	全	39
Reading Strategies IV	白川 貴子	秋	水2	1	2	全	39

## 学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Writing Strategies I	R. J. バロウズ	春	火2	1	1	全	40
Writing Strategies II	R. J. バロウズ	秋	火2	1	1	全	40
Writing Strategies I	R. J. バロウズ	春	火3	1	1	全	41
Writing Strategies II	R. J. バロウズ	秋	火3	1	1	全	41
Writing Strategies I	J. A. グレイ	春	月4	1	1	全	42
Writing Strategies II	J. A. グレイ	秋	月4	1	1	全	42
Writing Strategies I	M. ダーリン	春	月4	1	1	全	43
Writing Strategies II	M. ダーリン	秋	月4	1	1	全	43
Writing Strategies I	D. マッキャン	春	金2	1	1	全	44
Writing Strategies II	D. マッキャン	秋	金2	1	1	全	44
Comprehensive English I	D. ベーカー	春	木3	1	1	全	45
Comprehensive English II	D. ベーカー	秋	木3	1	1	全	45
Comprehensive English I	J. ウォールドマン	春	月3	1	1	全	46
Comprehensive English II	J. ウォールドマン	秋	月3	1	1	全	46
Comprehensive English I	J. ウォールドマン	春	木3	1	1	全	47
Comprehensive English II	J. ウォールドマン	秋	木3	1	1	全	47
Comprehensive English I	K. ミーハン	春	月3	1	1	全	48
Comprehensive English II	K. ミーハン	秋	月3	1	1	全	48
Comprehensive English I	K. ミーハン	春	金2	1	1	全	49
Comprehensive English II	K. ミーハン	秋	金2	1	1	全	49
Comprehensive English I	B. D. タッチャー	春	月2	1	1	全	50
Comprehensive English II	B. D. タッチャー	秋	月2	1	1	全	50
Comprehensive English I	L. K. ハーキンス	春	金2	1	1	全	51
Comprehensive English II	L. K. ハーキンス	秋	金2	1	1	全	51
Comprehensive English I	M. ダーリン	春	木3	1	1	全	52
Comprehensive English II	M. ダーリン	秋	木3	1	1	全	52
Comprehensive English I	N. H. ジョスト	春	月3	1	1	全	53
Comprehensive English II	N. H. ジョスト	秋	月3	1	1	全	53
Comprehensive English I	P. M. ホーネス	春	月2	1	1	全	54
Comprehensive English II	P. M. ホーネス	秋	月2	1	1	全	54
Comprehensive English III	D. マッキャン	春	木3	1	2	全	55
Comprehensive English IV	D. マッキャン	秋	木3	1	2	全	55
Comprehensive English III	E. フランコ	春	木1	1	2	全	56
Comprehensive English IV	E. フランコ	秋	木1	1	2	全	56
Comprehensive English III	P. アップス	春	水2	1	2	全	57
Comprehensive English IV	P. アップス	秋	水2	1	2	全	57
Comprehensive English III	P. ドーレ	春	月4	1	2	全	58
Comprehensive English IV	P. ドーレ	秋	月4	1	2	全	58
Comprehensive English III	R. ダラム	春	木3	1	2	全	59
Comprehensive English IV	R. ダラム	秋	木3	1	2	全	59
E-learning I	倉林 秀男	春	月5	1	1	全	60
E-learning II	倉林 秀男	秋	月5	1	1	全	60

## 学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Japanese Art & Culture)	A. ゴーリンジャー	春秋	月2	2	2	全	61
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Critically thinking things through)	小西 卓三	春秋	月2	2	2	全	62
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (インタビューやニュースのスキプトを読む)	鍋倉 健悦	春秋	月2	2	2	全	63
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Endangered languages: exploring the issues)	J. N. ウェンデル	春秋	月3	2	2	全	64
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (生成文法理論への誘い)	鈴木 英一	春秋	月3	2	2	全	65
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ミステリー・サスペンス短編小説の解読1 / ミステリー・サスペンス短編小説の解読2)	三吉 美加	春秋	月3	2	2	全	66
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	大木 理恵子	春秋	月4	2	2	全	67
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (生成文法入門)	河原 宏之	春秋	月4	2	2	全	68
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (The Language of Movies)	N. H. ジョスト	春秋	月5	2	2	全	69
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代イギリス小説)	東郷 公德	春秋	月5	2	2	全	70
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (戦後国際政治史)	永野 隆行	春秋	火1	2	2	全	71
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (対人コミュニケーションの理論)	工藤 和宏	春秋	火2	2	2	全	72
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代国際関係論)	佐野 康子	春秋	火2	2	2	全	73
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (SLA実証研究論文)	羽山 恵	春秋	火2	2	2	全	74
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Language & Teaching)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	全	75
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (James Joyce)	M. フッド	春秋	火3	2	2	全	76
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (音声聴くしくみと発達の入門 / 音声科学入門)	青柳 真紀子	春秋	火3	2	2	全	77
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (異文化理解の基礎と応用)	瀬戸 千尋	春秋	火3	2	2	全	78
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Doing Linguistics)	安井 美代子	春秋	火3	2	2	全	79
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英国ユダヤ人史 / 米国ユダヤ人史)	佐藤 唯行	春秋	火4	2	2	全	80
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (グローバルな眼でアジアを読む)	竹田 いさみ	春秋	火4	2	2	全	81
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Multiculturalism & Multicultural Education)	E. 本橋	春秋	水1	2	2	全	82
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	春秋	水1	2	2	全	83
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (航空規制緩和とLCC)	遠藤 充信	春秋	水2	2	2	全	84
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語圏の現代演劇)	児嶋 一男	春秋	水2	2	2	全	85
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山 晴信	春秋	水2	2	2	全	86
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語でグローバル社会を語る)	竹田 いさみ	春秋	水2	2	2	全	87
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ現代詩— Gary Snyderの詩集Regarding Wave を読む)	原 成吉	春秋	水2	2	2	全	88

## 学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Culture and Communication)	C. B. 池口	春秋	水3	2	2	全	89
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (日本語学)	長南 一豪	春秋	水4	2	2	全	90
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Materials Development for Language Teaching)	浅岡 千利世	春秋	木1	2	2	全	91
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (戦後米大統領の外交政策演説)	水本 義彦	春秋	木1	2	2	全	92
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカにおける人種概念)	佐原 彩子	春秋	木2	2	2	全	93
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (混成の王国・Mixed Britannia)	上野 直子	春秋	木3	2	2	全	94
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ビート詩人を「現代詩人」として読む)	遠藤 朋之	春秋	木3	2	2	全	95
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (オーストラリアの詩)	国見 晃子	春秋	木3	2	2	全	96
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ小説)	島田 啓一	春秋	木3	2	2	全	97
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (シンクタンクの政策提言レポートを読む)	水本 義彦	春秋	木3	2	2	全	98
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代における国際関係の展開)	伊藤 兵馬	春秋	木4	2	2	全	99
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (動詞の意味と文法)	小早川 暁	春秋	木4	2	2	全	100
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Macbethを読む)	前沢 浩子	春秋	木4	2	2	全	101
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Who's afraid of feminism?)	片山 亜紀	春秋	金2	2	2	全	102
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Deconstructing "Japaneseness")	須永 和博	春秋	金2	2	2	全	103
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ポピュラー・カルチャー入門① / ポピュラー・カルチャー入門②)	板場 良久	春秋	金3	2	2	全	104
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国の対外政策)	高木 綾	春秋	金3	2	2	全	105
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷 優子	春秋	金4	2	2	全	106
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (地球市民のためのフェアトレード入門)	北野 収	春秋	金4	2	2	全	107
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国の対外政策)	高木 綾	春秋	金5	2	2	全	108
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (International Development I /International Development II)	R. ピーターズ	春秋	水1	2	2	全	109
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ディスコース分析)	佐藤 芳明	春秋	火2	2	2	全	110

## 学科共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語の世界Ⅱ	府川 謹也	春	金1	2	2	全	111
英語の世界Ⅱ	府川 謹也	秋	火5	2	2	全	111
観光英語Ⅰ	日野 克美	春	木2	2	2	英	112
観光英語Ⅱ	日野 克美	秋	木2	2	2	英	112
通訳案内士の英語Ⅰ	日野 克美	春	木1	2	2	英	113
通訳案内士の英語Ⅱ	日野 克美	秋	木1	2	2	英	113
Business Writing	各担当教員	春		2	2	英	114
Business Writing	各担当教員	秋		2	2	英	114
Academic Writing	B. D. タッチャー	春	月1	2	2	全	115
Academic Writing	B. D. タッチャー	春	金5	2	2	全	116
Academic Writing	K. ミーハン	春	月4	2	2	全	117
Academic Writing	L. K. ハーキンス	秋	月4	2	2	全	118
Academic Writing	M. ダーリン	春	月5	2	2	全	119
Academic Writing	M. ダーリン	秋	月5	2	2	全	119
Academic Writing	D. H. ケネディ	春	火1	2	2	全	120
Academic Writing	D. H. ケネディ	秋	火1	2	2	全	120
Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	全	121
Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	全	121
Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	全	122
Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	全	122
Academic Writing	M. フッド	秋	火5	2	2	全	123
Academic Writing	R. ジョーンズ	春	水3	2	2	全	124
Academic Writing	R. ジョーンズ	秋	水3	2	2	全	124
Academic Writing	J. ウォールドマン	春	木2	2	2	全	125
Academic Writing	J. ウォールドマン	秋	木2	2	2	全	125
Academic Writing	E. フランコ	春	木3	2	2	全	126
Academic Writing	E. フランコ	秋	木3	2	2	全	126
Academic Writing	佐原 彩子	春	木3	2	2	全	127
Academic Writing	佐原 彩子	秋	木3	2	2	全	127
Academic Writing	阿部 真	春	金2	2	2	全	128
Academic Writing	阿部 真	秋	金2	2	2	全	128
Academic Writing	K. フォード	春	金4	2	2	全	129
Academic Writing	K. フォード	秋	金4	2	2	全	129
Academic Writing	S. ペイン	春	月2	2	2	全	130
Academic Writing	S. ペイン	秋	月2	2	2	全	130
翻訳Ⅰ	高田 宣子	春	火5	2	2	全	131
翻訳Ⅰ	高田 宣子	秋	火5	2	2	全	131
翻訳Ⅰ	上野 直子	秋	水2	2	2	全	132
翻訳Ⅰ	田村 斉敏	春	金4	2	2	全	133
翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	春	木3	2	2	全	134
翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	秋	木3	2	2	全	134
翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	春	木4	2	2	全	135
翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	秋	木4	2	2	全	135
翻訳Ⅰ	山中 章子	春	木3	2	2	全	136
翻訳Ⅰ	山中 章子	秋	木3	2	2	全	136
翻訳Ⅰ	国見 晃子	秋	木4	2	2	全	137
翻訳Ⅱ	P. ネルム	春	水5	2	2	全	138
翻訳Ⅱ	P. ネルム	秋	水5	2	2	全	138
翻訳Ⅱ	白川 貴子	春	水3	2	2	全	139
翻訳Ⅱ	白川 貴子	秋	水3	2	2	全	139

## 学科共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
College Grammar	鞆江 静	秋	月4	2	2	全	140
College Grammar	鞆江 静	春	水3	2	2	全	141
College Grammar	鞆江 静	秋	水3	2	2	全	141
College Grammar	鞆江 静	春	水4	2	2	全	142
College Grammar	小早川 暁	春	火3	2	2	全	143
College Grammar	小早川 暁	秋	火3	2	2	全	143
College Grammar	小早川 暁	春	木3	2	2	全	144
College Grammar	小早川 暁	秋	木3	2	2	全	144
College Grammar	長南 一豪	春	木4	2	2	全	145
College Grammar	長南 一豪	秋	木4	2	2	全	145
College Grammar	河原 宏之	春	月3	2	2	全	146
College Grammar	河原 宏之	秋	月3	2	2	全	146
College Grammar	河原 宏之	春	木2	2	2	全	147
College Grammar	河原 宏之	秋	木2	2	2	全	147
College Grammar	府川 謹也	春	金2	2	2	全	148
College Grammar	府川 謹也	秋	金2	2	2	全	148
College Grammar	佐藤 芳明	春	火3	2	2	全	149
College Grammar	佐藤 芳明	秋	火3	2	2	全	149
Communicative English	B. D. タッチャー	秋	月1	2	2	全	150
Communicative English	B. D. タッチャー	秋	金5	2	2	全	151
Communicative English	D. ブラドリー	春	火2	2	2	全	152
Communicative English	D. ブラドリー	秋	火2	2	2	全	152
Communicative English	D. マッキャン	春	木2	2	2	全	153
Communicative English	D. マッキャン	秋	木2	2	2	全	153
Communicative English	J. A. グレイ	春	月5	2	2	全	154
Communicative English	J. A. グレイ	春	水5	2	2	全	155
Communicative English	J. スネール	春	木2	2	2	全	156
Communicative English	J. スネール	秋	木2	2	2	全	156
Communicative English	K. フォード	春	金3	2	2	全	157
Communicative English	K. フォード	秋	金3	2	2	全	157
Communicative English	K. ミーハン	春	月1	2	2	全	158
Communicative English	K. ミーハン	秋	月1	2	2	全	158
Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	月3	2	2	全	159
Communicative English	M. ダーリン	春	木5	2	2	全	160
Communicative English	M. ダーリン	秋	木5	2	2	全	160
Communicative English	P. M. ホーネス	春	月1	2	2	全	161
Communicative English	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2	全	161
Communicative English	P. アップス	春	火2	2	2	全	162
Communicative English	P. アップス	秋	火2	2	2	全	162
Communicative English	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	全	163
Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	全	163
Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	164
Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	164
Communicative English	R. ダラム	春	火1	2	2	全	165
Communicative English	R. ダラム	秋	火1	2	2	全	165
Communicative English	R. ダラム	春	木2	2	2	全	166
Communicative English	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	166
Communicative English	R. ピーターズ	春	水2	2	2	全	167
Communicative English	R. ピーターズ	秋	水2	2	2	全	167
Discussion	P. マッケビリー	春	月1	2	2	全	168
Discussion	P. マッケビリー	秋	月1	2	2	全	168
Discussion	J. ウォールドマン	春	月4	2	2	全	169
Discussion	J. ウォールドマン	秋	月4	2	2	全	169
Discussion	N. H. ジョスト	春	水1	2	2	全	170
Discussion	N. H. ジョスト	秋	水1	2	2	全	170
Discussion	C. B. 池口	春	水4	2	2	全	171
Discussion	C. B. 池口	秋	水4	2	2	全	171
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	全	172
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	全	172
Discussion	B. D. タッチャー	春	金4	2	2	全	173
Discussion	B. D. タッチャー	秋	金4	2	2	全	173

## 学科共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Public Speaking I	J. N. ウェンデル	春	月4	2	2	全	174
Public Speaking II	J. N. ウェンデル	秋	月4	2	2	全	174
Public Speaking I	C. B. 池口	春	水2	2	2	全	175
Public Speaking II	C. B. 池口	秋	水2	2	2	全	175
Public Speaking I	門倉 弘枝	春	木3	2	2	全	176
Public Speaking II	門倉 弘枝	秋	木3	2	2	全	176
Debate I	小西 卓三	春	月3	2	2	全	177
Debate II	小西 卓三	秋	月3	2	2	全	177
Debate I	N. H. ジョスト	春	火1	2	2	全	178
Debate II	N. H. ジョスト	秋	火1	2	2	全	178
通訳 I	鍋倉 健悦	春	火3	2	2	全	179
通訳 I	鍋倉 健悦	秋	火3	2	2	全	179
通訳 I	中島 直美	春	金3	2	2	全	180
通訳 I	中島 直美	秋	金3	2	2	全	180
通訳 I	中島 直美	春	金4	2	2	全	181
通訳 I	中島 直美	秋	金4	2	2	全	181
通訳 II	中島 直美	春	金2	2	2	全	182
通訳 II	中島 直美	秋	金2	2	2	全	182
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月1	2	2	全	183
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月1	2	2	全	183
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月2	2	2	全	184
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月2	2	2	全	184
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	火3	2	2	全	185
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	火3	2	2	全	185
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	水3	2	2	全	186
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	水3	2	2	全	186
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木3	2	2	全	187
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木3	2	2	全	187
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木4	2	2	全	188
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木4	2	2	全	188
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	春	金1	2	3	全	189
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	秋	金1	2	3	全	189
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	月2	2	2	全	190
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	月2	2	2	全	190
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	金3	2	2	全	191
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	金3	2	2	全	191
メディア英語 I	海老沢 達郎	春	火2	2	2	全	192
メディア英語 I	海老沢 達郎	秋	火2	2	2	全	192
メディア英語 I	国見 晃子	春	木2	2	2	全	193
メディア英語 I	国見 晃子	秋	木2	2	2	全	193
メディア英語 I	P. ネルム	春	金1	2	2	全	194
メディア英語 I	P. ネルム	秋	金1	2	2	全	194
メディア英語 I	中田 ひとみ	春	水3	2	2	全	195
メディア英語 I	中田 ひとみ	秋	水3	2	2	全	195
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	全	196
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	全	196
メディア英語 II	東郷 公德	春	月4	2	2	全	197
メディア英語 II	東郷 公德	秋	月4	2	2	全	197
メディア英語 II	P. ネルム	春	金2	2	2	全	198
メディア英語 II	P. ネルム	秋	金2	2	2	全	198
シネマ英語	高田 宣子	春	火4	2	2	全	199
シネマ英語	高田 宣子	秋	火4	2	2	全	199
シネマ英語	田村 斉敏	秋	金4	2	2	全	200
シネマ英語	門倉 弘枝	春	木2	2	2	全	201
シネマ英語	門倉 弘枝	秋	木2	2	2	全	201
シネマ英語	朝江 静	春	月5	2	2	全	202

## 学科専門科目

### ツーリズム

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ツーリズム交流論	遠藤 充信	秋	木4	2	2	英	203
ツーリズム・リスク論	竹田 いさみ	春	月3	2	2	全	204
ツーリズム文化論	遠藤 充信	秋	木3	2	2	外	205
ツーリズム・メディア論	倉澤 治雄	秋	金1	2	2	外	206
ツーリズム・マネジメント論	井上 泰日子	秋	水1	2	2	外	207
国際会議・イベント事業論	遠藤 充信	春	水3	2	2	外	208
ツーリズム政策論	井上 泰日子	秋	水4	2	2	外	209
旅行・宿泊産業論	遠藤 充信	春	木3	2	2	外	210
航空産業論	井上 泰日子	春	水4	2	2	外	211
サステイナブル・ツーリズム論	北野 収	春	月3	2	2	外	212
オルタナティブ・ツーリズム論	須永 和博	秋	金5	2	2	外	213
ツーリズム人類学	須永 和博	春	金5	2	2	外	214
ツーリズム地誌論	須永 和博	秋	金4	2	2	全	215
市民参加のまちづくり論	北野 収	秋	金3	2	2	外	216
フィールドワーク論	須永 和博	春	金4	2	2	全	217
インターンシップ	遠藤 充信	春	水5	2	2	全	218

### トランスナショナル文化

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
トランスナショナル文化論	高橋 雄一郎	春	木5	2	2	英	219
トランスナショナル・メディア論	横村 出	春	水3	2	2	英	220
メディア・ライティング論	横村 出	春	水4	2	2	外	221
パフォーマンス研究	高橋 雄一郎	秋	木4	2	2	外	222
表象文化論	2013年度不開講						
開発文化論	北野 収	春	金3	2	2	外	223
トランスナショナル社会学	北野 収	秋	金2	2	2	外	224
食の文化論	北野 収	春	金2	2	2	外	225
英語圏のエリア・スタディーズa	前沢 浩子	春	月4	2	2	全	226
英語圏のエリア・スタディーズb	P. ネルム	秋	水4	2	2	全	227
ヨーロッパの文化(フランスの美術Ⅰ)	阿部 明日香	春	水1	2	2	全	228
ヨーロッパの文化(フランスの美術Ⅱ)	阿部 明日香	秋	水1	2	2	全	228
ヨーロッパの文化(ドイツ語概論a)	柿沼 義孝	春	金4	2	2	全	229
ヨーロッパの文化(ドイツ語概論b)	柿沼 義孝	秋	金4	2	2	全	229
ヨーロッパの文化(フランスの音楽Ⅰ)	松橋 麻利	春	木2	2	2	全	230
ヨーロッパの文化(フランスの音楽Ⅱ)	松橋 麻利	秋	木2	2	2	全	230
ヨーロッパの文化(ドイツ語圏文学・思想概論a)	矢羽々 崇	春	火1	2	2	全	231
ヨーロッパの文化(ドイツ語圏文学・思想概論b)	矢羽々 崇	秋	火1	2	2	全	231
ヨーロッパの文化(ドイツ語圏芸術・文化概論a)	山本 淳	春	木1	2	2	全	232
ヨーロッパの文化(ドイツ語圏芸術・文化概論b)	山本 淳	秋	木1	2	2	全	232

# 学科専門科目

## グローバル社会

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
グローバル社会論a	竹田 いさみ	春	火3	2	2	全	233
グローバル社会論a	竹田 いさみ	秋	火3	2	2	全	233
グローバル社会論b	佐野 康子	春	火3	2	2	全	234
グローバル社会論b	佐野 康子	秋	火3	2	2	全	234
国際協力論	竹田 いさみ	秋	月3	2	2	全	235
国際開発論	金子 芳樹	春	火2	2	2	全	236
国際交流論	小松 諄悦	春	金2	2	2	全	237
国際NGO・ボランティア論	金子 芳樹	秋	火2	2	2	全	238
英語圏の国際関係a	永野 隆行	春	月2	2	2	全	239
英語圏の国際関係b	永野 隆行	秋	月2	2	2	全	239
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅰ)	尾玉 剛士	春	月2	2	2	全	240
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅱ)	尾玉 剛士	秋	月2	2	2	全	240
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅰ)	廣田 愛理	春	水2	2	2	全	241
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅱ)	廣田 愛理	秋	水2	2	2	全	241
ヨーロッパの社会(ドイツ語圏歴史概論a)	古田 善文	春	木5	2	2	全	242
ヨーロッパの社会(ドイツ語圏歴史概論b)	古田 善文	秋	木5	2	2	全	242

## 第二外国語(英語プラス1言語)

言語	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語	ドイツ語(Ia 総合1)	S. ヴィーク	春	火4	1	1	全	243
	ドイツ語(Ib 総合1)	S. ヴィーク	秋	火4	1	1	全	243
	ドイツ語(Ia 総合2)	S. ヴィーク	春	木2	1	1	全	244
	ドイツ語(Ib 総合2)	S. ヴィーク	秋	木2	1	1	全	244
	ドイツ語(Ia 総合3)	辻本 勝好	春	金4	1	1	全	245
	ドイツ語(Ib 総合3)	辻本 勝好	秋	金4	1	1	全	245
	ドイツ語(IIa 総合1)	H. J. トロル	春	月2	1	2	全	246
	ドイツ語(IIb 総合1)	H. J. トロル	秋	月2	1	2	全	246
	ドイツ語(IIa 総合2)	H. J. トロル	春	金2	1	2	全	247
	ドイツ語(IIb 総合2)	H. J. トロル	秋	金2	1	2	全	247
	ドイツ語(IIa 総合3)	井村 行子	春	火2	1	2	全	248
	ドイツ語(IIb 総合3)	井村 行子	秋	火2	1	2	全	248
	ドイツ語(IIIa 応用)	E. ビリック	春	火1	1	3	全	249
	ドイツ語(IIIb 応用)	E. ビリック	秋	火1	1	3	全	249
フランス語	フランス語(Ia 総合1)	横地 卓哉	春	月1	1	1	全	250
	フランス語(Ib 総合1)	横地 卓哉	秋	月1	1	1	全	250
	フランス語(Ia 総合2)	B. レウルス	春	金4	1	1	全	251
	フランス語(Ib 総合2)	B. レウルス	秋	金4	1	1	全	251
	フランス語(Ia 応用)	富田 正二	春	火4	1	1	全	252
	フランス語(Ib 応用)	富田 正二	秋	火4	1	1	全	252
	フランス語(IIa 総合1)	富塚 真理子	春	金2	1	2	全	253
	フランス語(IIb 総合1)	富塚 真理子	秋	金2	1	2	全	253
	フランス語(IIa 総合2)	B. ファイフ	春	火2	1	2	全	254
	フランス語(IIb 総合2)	B. ファイフ	秋	火2	1	2	全	254
	フランス語(IIa 応用)	竹内 久雄	春	月2	1	2	全	255
	フランス語(IIb 応用)	竹内 久雄	秋	月2	1	2	全	255
	フランス語(IIIa 応用)	Ch. ペリセロ	春	火1	1	3	全	256
	フランス語(IIIb 応用)	Ch. ペリセロ	秋	火1	1	3	全	256
スペイン語	スペイン語(Ia 総合1)	兒島 峰	春	火4	1	1	全	257
	スペイン語(Ia 総合1)	柴田 バネッサ	春	火4	1	1	全	257
	スペイン語(Ib 総合1)	兒島 峰	秋	火4	1	1	全	257
	スペイン語(Ib 総合1)	柴田 バネッサ	秋	火4	1	1	全	257
	スペイン語(Ia 総合2)	櫻井 道子	春	木2	1	1	全	258
	スペイン語(Ia 総合2)	篠崎 英樹	春	金4	1	1	全	258
	スペイン語(Ib 総合2)	櫻井 道子	秋	木2	1	1	全	258
	スペイン語(Ib 総合2)	篠崎 英樹	秋	金4	1	1	全	258
	スペイン語(Ia 会話)	P. ラゴ	春	月1	1	1	全	259
	スペイン語(Ia 会話)	G. ベギリスタイン	春	月1	1	1	全	259
	スペイン語(Ib 会話)	P. ラゴ	秋	月1	1	1	全	259
	スペイン語(Ib 会話)	G. ベギリスタイン	秋	月1	1	1	全	259
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	火2	1	2	全	260
	スペイン語(IIa 会話1)	P. ラゴ	春	月2	1	2	全	260
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	火2	1	2	全	260
	スペイン語(IIb 会話1)	P. ラゴ	秋	月2	1	2	全	260
	スペイン語(IIa 会話2)	G. ベギリスタイン	春	金3	1	2	全	261
	スペイン語(IIa 会話2)	J. I. ドメネク・アロンソ	春	火2	1	2	全	261
	スペイン語(IIb 会話2)	G. ベギリスタイン	秋	金3	1	2	全	261
	スペイン語(IIb 会話2)	J. I. ドメネク・アロンソ	秋	火2	1	2	全	261
	スペイン語(IIa 総合)	北岸 団	春	月2	1	2	全	262
	スペイン語(IIa 総合)	高橋 睦	春	金3	1	2	全	262
	スペイン語(IIb 総合)	北岸 団	秋	月2	1	2	全	262
	スペイン語(IIb 総合)	高橋 睦	秋	金3	1	2	全	262

## 第二外国語(英語プラス1言語)

言語	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
スペイン語	スペイン語(IIIa 応用)	落合 佐枝	春	木1	1	3	全	263
	スペイン語(IIIa 応用)	中村 都珠子	春	水4	1	3	全	263
	スペイン語(IIIb 応用)	落合 佐枝	秋	木1	1	3	全	263
	スペイン語(IIIb 応用)	中村 都珠子	秋	水4	1	3	全	263
中国語	中国語(Ia 講読・文法)	阿邊 淳	春	木2	1	1	全	264
	中国語(Ib 講読・文法)	阿邊 淳	秋	木2	1	1	全	264
	中国語(Ia 会話1)	張 亜紅	春	月1	1	1	全	265
	中国語(Ib 会話1)	張 亜紅	秋	月1	1	1	全	265
	中国語(Ia 会話2)	張 亜紅	春	火4	1	1	全	266
	中国語(Ib 会話2)	張 亜紅	秋	火4	1	1	全	266
	中国語(IIa 講読・文法)	阿邊 淳	春	火2	1	2	全	267
	中国語(IIb 講読・文法)	阿邊 淳	秋	火2	1	2	全	267
	中国語(IIa 会話1)	星野 芳欣	春	月2	1	2	全	268
	中国語(IIb 会話1)	星野 芳欣	秋	月2	1	2	全	268
	中国語(IIa 会話2)	秦 敏	春	金3	1	2	全	269
	中国語(IIb 会話2)	秦 敏	秋	金3	1	2	全	269
	中国語(IIIa 応用)	阿邊 淳	春	木1	1	3	全	270
	中国語(IIIb 応用)	阿邊 淳	秋	木1	1	3	全	270
韓国語	韓国語(Ia 総合1)	森 勇俊	春	土1	1	1	全	271
	韓国語(Ib 総合1)	森 勇俊	秋	土1	1	1	全	271
	韓国語(Ia 総合2)	森 勇俊	春	土2	1	1	全	272
	韓国語(Ib 総合2)	森 勇俊	秋	土2	1	1	全	272
	韓国語(Ia 応用)	沈 元燮	春	木2	1	1	全	273
	韓国語(Ib 応用)	沈 元燮	秋	木2	1	1	全	273
	韓国語(IIa 総合1)	金 熙淑	春	月2	1	2	全	274
	韓国語(IIb 総合1)	金 熙淑	秋	月2	1	2	全	274
	韓国語(IIa 総合2)	金 熙淑	春	火2	1	2	全	275
	韓国語(IIb 総合2)	金 熙淑	秋	火2	1	2	全	275
	韓国語(IIa 応用)	白 寅英	春	金3	1	2	全	276
	韓国語(IIb 応用)	白 寅英	秋	金3	1	2	全	276
	韓国語(IIIa 応用)	金 熙淑	春	火1	1	3	全	277
	韓国語(IIIb 応用)	金 熙淑	秋	火1	1	3	全	277

## 外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	片山 亜紀	春	水3	2	1	養・経・法	279
総合講座	佐野 康子	秋	水3	2	1	養・経・法	279
総合講座	廣田 愛理	春	水1	2	1	養・経・法	280
総合講座	廣田 愛理	秋	水1	2	1	養・経・法	280
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	281
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	283
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	283
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	木1	2	1	養・経・法	284
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	284
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	284
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	木1	2	1	養・経・法	284
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	284
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	284
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	285
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	285
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	285
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	285
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	286
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	286
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	287
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	287
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	287
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	287
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	287
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	288
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	288
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	289
(言語情報処理1)	吉成 雄一郎	春	水4	2	2	英・養・経・法	290
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	289
(言語情報処理2)	吉成 雄一郎	秋	水4	2	2	英・養・経・法	290
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	291
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	291
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	291
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	291
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	292
経済原論a	野村 容康	春	木2	2	2	養・経・法	293
経済原論b	野村 容康	秋	木2	2	2	養・経・法	293
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

09年度以降	交流文化概論 i	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 領域も広範なツーリズム関連科目を学ぶ者の<b>入門編</b>として、<b>ツーリズムの基礎的な知識を修得する</b>。</p> <p>講義概要 21世紀は「人類大移動時代」と称されるようになり、観光は産業としてのみならず、人の生きがいとしても重要な要素の一つになっている。 語源から旅と観光の意義を把握し、旅と観光の歩みを辿りながらツーリズムの持つ意味を文明史的にとらえ、文化との関連を考える。</p> <p>又、旅や観光が持つ経済的影響をツーリズム産業の中核をなす旅行業、宿泊業、航空業を概観することにより理解する。併せて今日的課題である環境問題をエコツーリズムの視点から触れる事により、観光を身近な問題として把握したい。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要（ツーリズムを学ぶ意味と意義）</li> <li>2. ツーリズムとは・①観光とツーリズムの語源・</li> <li>3. ツーリズムとは・②観光の意義と役割</li> <li>4. 旅と観光の歩み・①グランドツアーの時代</li> <li>5. 旅と観光の歩み・②近代ツーリズムと トーマス・クックの時代</li> <li>6. 旅と観光の歩み・③マスツーリズムの時代</li> <li>7. 旅と観光の歩み・④新しい観光の時代と観光立国</li> <li>8. ツーリズムと文化・①（文化観光と観光行動）</li> <li>9. ツーリズムと文化 ②（文化の商品化と観光）</li> <li>10. ツーリズム産業・①航空業</li> <li>11. ツーリズム産業・②宿泊業</li> <li>12. ツーリズム産業・③旅行業</li> <li>13. 新しいツーリズム・①</li> <li>14. 新しいツーリズム・②</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『観光学入門』（岡本伸之編）有斐閣 『トーマス・クックの旅』（本城靖久）講談社 その他は適宜指示する。</p>		試験結果に基づいて評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化概論 ii	担当者	須永 和博 北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「トランスナショナル（越境的）」な視点で現代の社会や文化を捉える能力や態度は、これからの地球時代を生きる私たちにとっての重要なリテラシーのひとつです。「文化」「国家」「発展」など自明だとされてきた前提を離れて、異なる視点から複眼的に物事を理解するためのいくつかのヒントを提供することが本授業のねらいです。特に、人類学と社会学の理論や方法論に依拠しつつ、いくつかのトピックスをとりあげ、思考を深めます。</p> <p>前半は、文化人類学という学問を参照枠としながら、「異文化」を理解するための基本的な視点や感性を身につけることを目指します。</p> <p>後半は、グローバル～ナショナル～ローカルというフレームに基づき、近代化・発展、南北問題、国家と地域社会、戦後日本の開発経験などの問題について、社会学的な観点から考察を行い、現場から世界を捉え直すことの重要性について理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 自己紹介—人類学・観光・タイ（須永）</li> <li>3. 人類学的文明批評の可能性—映画『コイサンマン』から考える（須永）</li> <li>4. Covering Other Cultures—アイヌ・パレスチナを中心に（須永）</li> <li>5. 混淆する文化—アフロ・アメリカン文化（須永）</li> <li>6. 日本のなかの外国人 1—中華街からみる華人・華僑文化（須永）</li> <li>7. 日本のなかの外国人 2—日本のなかの「ブラジル空間」（須永）</li> <li>8. 開発と私（達）のまなざし：自己紹介を兼ねて（北野）</li> <li>9. 国際開発史概論（北野）</li> <li>10. 貧困と豊かさについて考える（北野）</li> <li>11. 国際協力と南へのまなざし（北野）</li> <li>12. グローバル化の光と影（北野）</li> <li>13. 日本の開発経験（北野）</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に定めない。		期末試験で評価する。ただし、期末試験の受験資格は欠席回数が4回未満の者に限る。	

09年度以降	交流文化概論 iii	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>半期の授業を通じて、国際関係研究（study of international relations）とはどのような学問なのかを、「戦争」について考えることを通じて理解してもらおう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。</p> <p>毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を30分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。</p> <p>授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。</p> <p>この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。</p> <p>なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらおう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス</li> <li>第2回：グローバリゼーションとは何か？</li> <li>第3回：国際関係論はなぜ生まれたのか？</li> <li>第4回：国際関係における個人・国家 ～個人と国家の安全と国際関係の安定</li> <li>第5回：戦争とは何か①その定義</li> <li>第6回：戦争とは何か②国際関係の構造と戦争</li> <li>第7回：戦争とは何か③戦争と国家 ～戦争は何をもたらすのか</li> <li>第8回：戦争とは何か④戦争観の変化 ～正戦論、無差別戦争観、人道的介入</li> <li>第9回：戦争とは何か⑤国際関係における正義と戦争 ～オバマ米大統領のノーベル平和賞受賞スピーチから</li> <li>第10回：戦争とは何か⑥新しい紛争 ～21世紀の紛争の特徴とは何か</li> <li>第11回：戦争とは何か⑦戦争の主体 ～「現代の傭兵」民間軍事会社（PMC）の登場</li> <li>第12回：戦争とは何か⑧核兵器と国際関係 ～オバマ米大統領の「核なき世界」演説から</li> <li>第13回：戦争とは何か⑨積極的平和と消極的平和 ～構造的暴力のない世界を目指して</li> <li>第14回：戦争とは何か⑩国際秩序と国家</li> <li>第15回：まとめ（質疑応答）&amp;国際関係をさらに学ぶには</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する。		不定期に実施するリアクションペーパーの提出（40%）と定期試験（論述形式、60%）による評価。	

09年度以降	基礎演習 I	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b>            大学で何を、いかに勉強し、どのように発表（レポート、論文、口頭発表）していくか、大学での学びの基礎をしっかりと身につけると共に、少人数の演習（ゼミ）型のクラスで、活発なディスカッションをおこなう。</p> <p><b>【講義概要】</b>            図書館やデータベースを使ったリサーチの仕方、レポートや論文の書き方、文献一覧表の作成の仕方などを学び、授業中で口頭発表（プレゼンテーション）をおこなうと共に、秋学期末までに完成させる研究の準備をする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODakシヨン</li> <li>2. 講義・発表・ディスカッションの組み合わせ</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 同上</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 同上</li> <li>12. 同上</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> <li>15. まとめ</li> </ol> 他に「図書館ガイダンス」が一度実施されます。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント、その他。		授業内での発表、小レポート、学期末レポートによる。 3回以上の遅刻（列車の遅延を含む）・欠席の場合は原則として単位を認定しない。	

09年度以降	基礎演習 II	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の続き。            学期末に個人研究をまとめた発表をしてもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODakシヨン</li> <li>2. 講義・発表・ディスカッションの組み合わせ</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 同上</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 同上</li> <li>12. 同上</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期に同じ		春学期に同じ	

09年度以降	基礎演習 I	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b>          交流文化学科1年生のゼミ形式の必修科目です。大学ではどのように勉強したらよいかを、実際に自分でテーマを探し、それについて調べ、自分自身の考えをまとめて発表し、他の学生と討論することにより学んでいく授業です。基本的なアカデミック・スキル(大学で学ぶ技能)を身につけ、プレゼンテーションの仕方やレポートの書き方の基本について学び、実習するのが、この授業の目的です。</p> <p><b>講義概要</b>          まず、基本的なアカデミック・スキル(Study Skills)について学びます。次に、毎週、課題文献を読み、レジユメを作成し、グループで順番にプレゼンテーションをしてもらいます。質疑応答のあと、プレゼンに対するリアクション・ペーパーを作成、提出してもらいます。最後に、レポートの書き方について解説し、プレゼンをしたテーマに関係するレポートを書いて提出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クラスガイダンス(1): 春学期の授業計画他</li> <li>2. クラスガイダンス(2): クラスメートを知る</li> <li>3. クラスガイダンス(3): クラスメートを紹介する</li> <li>4. スタディ・スキルズ (1)</li> <li>5. スタディ・スキルズ (2)</li> <li>6. スタディ・スキルズ (3)</li> <li>7. 文献を読み、レジユメを作成、発表する(1)</li> <li>8. 文献を読み、レジユメを作成、発表する(2)</li> <li>9. 文献を読み、レジユメを作成、発表する(3)</li> <li>10. 文献を読み、レジユメを作成、発表する(4)</li> <li>11. 文献を読み、レジユメを作成、発表する(5)</li> <li>12. アカデミック・ライティングの基本(1)</li> <li>13. アカデミック・ライティングの基本(2)</li> <li>14. 引用の仕方(1)</li> <li>15. 引用の仕方(2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：未定 参考文献：授業で随時紹介		授業参加度、複数回提出の課題、最終レポートをもとに総合的に評価します。4回以上欠席すると、単位取得資格を失います。遅刻は、2回で欠席1回扱いとします。	

09年度以降	基礎演習 II	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b>          「基礎演習 I」の継続です。交流文化やツーリズムに関するトピックをグループや個人で調査・研究して、それらをクラスメートの前で発表し、さらにそれらについて討論をすることを通じて、学問への取り組み方を身につけていきます。</p> <p><b>講義概要</b>          各自が、交流文化やツーリズムに関するテーマを選び、プレゼンテーションをしてもらいます。発表者以外は、毎週のプレゼンに対するリアクション・ペーパーを提出してもらいます。そして、学期末に、各自が、プレゼンテーションを発展させたレポートを作成し、提出します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレゼンのオリエンテーション</li> <li>2-14. 個人プレゼンテーション(毎週2名程度)とリアクション・ペーパーの提出</li> <li>15. まとめとレポートについて</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：未定 参考文献：授業で随時紹介		授業参加度、複数回提出の課題、最終レポートをもとに総合的に評価します。4回以上欠席すると、単位取得資格を失います。遅刻は、2回で欠席1回扱いとします。	

09年度以降	基礎演習 I	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の基礎演習では、大学における最低限のスタディスキルを身につけることを最大の目標とし、原則として教科書に準拠しながら、文献の読み方、要約の仕方、図書館の活用法、レポートの書き方、引用ルールなどについて学習します。基本的に講義形式となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クラスガイダンス</li> <li>2. 全体ガイダンス</li> <li>3. 自己紹介、MLづくり</li> <li>4. 大学と高校の違い、スタディスキルズとは</li> <li>5. ノート・テイキング</li> <li>6. リーディングの基本スキル</li> <li>7. より深いリーディングのために</li> <li>8. 文を読んで要約する</li> <li>9. 図書館ガイダンス ※日程は前後する可能性あり</li> <li>10. 作文とレポートの違いとは</li> <li>11. アカデミック・ライティングの基本スキル①</li> <li>12. アカデミック・ライティングの基本スキル②</li> <li>13. 引用ルール①</li> <li>14. 引用ルール②</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>学習技術研究会『知へのステップ 改訂版』くろしお出版 ※DUO等で各自で購入して下さい。</p>		<p>出席点 (60%)、提出物 (40%)、受講態度 (±α) 欠席・遅刻が4回以上の者は評価対象とならない。</p>	

09年度以降	基礎演習 II	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の基礎演習では、グループ・ワークによるレジメ作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより学習を進めていきます。とりあげる題材は、社会・文化のトランスナショナル化に関するものとし、1年間の学習の総括とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方について</li> <li>2. 専門文献を読んでレジメにまとめる①</li> <li>3. 専門文献を読んでレジメにまとめる②</li> <li>4. 専門文献を読んでレジメにまとめる③</li> <li>5. 専門文献を読んでレジメにまとめる④</li> <li>6. 専門文献を読んでレジメにまとめる⑤</li> <li>7. 質問を考える、問いをたてるということ</li> <li>8. プレゼン資料を作成し口頭で発表する①</li> <li>9. プレゼン資料を作成し口頭で発表する②</li> <li>10. プレゼン資料を作成し口頭で発表する③</li> <li>11. プレゼン資料を作成し口頭で発表する④</li> <li>12. プレゼン資料を作成し口頭で発表する⑤</li> <li>13. プレゼン資料を作成し口頭で発表する⑥</li> <li>14. 留学について、キャリア形成について</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>学習技術研究会『知へのステップ 改訂版』くろしお出版 ※DUO等で各自で購入して下さい。</p>		<p>出席点 (60%)、提出物 (40%)、受講態度 (±α) 欠席・遅刻が4回以上の者は評価対象とならない。</p>	

09年度以降	基礎演習 I	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学での「学び」と何でしょうか。それは高校とは違い、学生の自発的、積極的な取り組みが求められるものです。大学生は、ただ教師から与えられ、教えられる知識、そしてそれをもとに出来上がっている世界を盲目的に受け入れるのではなく、それらを「批判的」に受け止める姿勢を持つことが大切です。</p> <p>そして大学での「学び」を通じて（その「学び」がなんであれ）、これまで当たり前だ、常識だと教えられてきた世界に疑問を持ち、真実とは何かを見極める力を身につけて欲しいと思っています。大学での「学び」を通じて獲得した能力や姿勢は、卒業後の人生にとっても大いに役立つものです。</p> <p>授業では、前半では教員の用意する資料を使用しながら、大学で講義を聞くこと、疑問に思うこと、調べること、読むこと、考えをまとめること、書くこと、発表することとは何かを理解し、後半ではテキストの輪読と発表・討論を通じて、前半で学んだことを実践に移します。この授業を通じて、これから3ないし4年間の大学生活が、少しでも有意義なものとなるように願っています。</p> <p>なお4月、5月、6月、7月にそれぞれ課題を設定し、レポートの提出を義務づけます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス—この授業の進め方に関するオリエンテーション（第1週）</li> <li>2. 配付資料についての講義と討論（第2～第5週）</li> <li>3. テキストの内容（第1～第8章）についてのグループ・プレゼンテーション（第6～14週） *テキストの内容をまとめ、疑問に思った点、重要だと思われる点をいくつか取り上げて、それについて自分たちで調べた結果を報告します。レジメ（A3用紙1枚程度）を用意します。発表時間はおよそ40分とします。その後の質疑応答も、発表者が司会進行を務めます。</li> <li>4. まとめと秋学期にむけたガイダンス（第15週）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
高柳先男『戦争を知るための平和学入門』筑摩書房、2000年。		出欠（30%）、課題の提出状況（40%）、プレゼンテーション（30%）とします。3回以上欠席した場合には、単位取得の権利を失います。また、遅刻は2回で欠席1回に相当します。	

09年度以降	基礎演習 II	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、春学期に学んだことをもとにより実践に近い形で授業を進めます。自ら問題提起を行い、それについて調査し、結果を口頭で発表し、最終的に文章にしたためます。大学生としてふさわしい一連の知的作業を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期のオリエンテーション（第1週）</li> <li>2. 個人によるプレゼンテーション（第2～14週） *1週あたり2人の発表を予定しています。 *1人につき約20分のプレゼン（レジメ[A3用紙1枚程度]を用意）と約10分の質疑応答を行い、その後リアクションペーパーを書く時間を設けます。</li> <li>3. まとめ—最終レポートについて（第15週）</li> </ol> <p>【注意事項】 第2～14週の個人発表終了後には、発表担当者を除く全学生に対して<u>リアクションペーパーの提出</u>を求めます。発表を受けて自分が考えたこと、疑問に思ったことなどを出来る限り詳しく書くこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にテキストは指定しません。参考文献については授業の中で紹介します。		Presentation（20%）、リアクションペーパー（20%）、出欠（20%）、最終レポート（40%）で成績評価を行います。3回以上欠席した場合には、単位取得の権利を失います。また、遅刻は2回で欠席1回に相当します。	

09年度以降	基礎演習 I	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本演習は、1. グループ・ワークによる小研究（＝実践的な学習）を通じて、大学で勉強・研究するための基礎的な考え・技法を身につけること、2. グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況のなかでの文化の動態について学問的に分析する能力を養うこと、を目的としている。</p> <p>本演習ではまず、担当者が数回、文献資料収集やフィールドワーク技法、プレゼンテーション技法、レポート作成技法等について講義を行なう。そしてこの講義をふまえた上で、後半はグループごとに指定した課題に関する小研究を行なってもらう。</p> <p>小研究で扱うトピックは多岐にわたるが、現在のところ「世界の食文化」「世界の観光事情」「身近なものから考えるグローバリゼーション」などを予定している。小研究のトピックは、受講生の関心・能力等によって変更する可能性がある。詳細については、初回授業で説明する。</p> <p>また週末や夏季休業等を利用した課外授業を実施することもある（実費負担）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体ガイダンス</li> <li>2. 個別趣旨説明・自己紹介・グループ分け</li> <li>3. 講義 2：研究とは何か</li> <li>4. 講義 3：文献資料収集の作法</li> <li>5. 講義 4：文献資料の読解・引用の流儀</li> <li>6. 講義 5：フィールドワークの技法</li> <li>7. 講義 6：プレゼンテーション・レポート作成技法</li> <li>8~10 回：グループワークによる小研究</li> <li>11~15 回：小研究の成果発表</li> </ol> <p>（授業計画はあくまで目安ですので、変更になる可能性があります）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤望ほか（編）2006『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会		小レポート・小研究の成果発表、学期末レポートの成果をふまえ、総合的な評価をする。ただし、4回以上欠席（遅刻は2回で欠席1回に換算）で単位認定の資格を失う。	

09年度以降	基礎演習 II	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き、グループごとの小研究・プレゼンテーションを毎回行なう。</p> <p>自分で調べたことをクラスメートの前で発表し、議論することを通じて、大学で勉強する際に必要なアカデミック・スキルを磨くと同時に、研究を行なうための感性や想像力を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2~14 回 プレゼンテーション</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
韓敬九・桑山敬己 2008『グローバル化時代をいかに生きるか』平凡社		小レポート・小研究の成果発表、学期末レポートの成果をふまえ、総合的な評価をする。ただし、4回以上欠席（遅刻は2回で欠席1回に換算）で単位認定の資格を失う。	

09年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図ること。</p> <p><b>講義概要</b> それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か？ということ、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりから批評的に考えていきます。 作品の導入には、英文ハンドアウトを使用し、各回の始めに語彙 quiz を行い、それを基に内容を確認します。 各回の終わりに、言及したテーマに関する essay を書くことで、全体理解を旨とします。</p> <p>公欠扱いは一切ありません。 授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。</p>		<p>第1回：導入——文学とは？ 第2回：死生観——生きるための視点から 第3回：人種 1——ケルト人 第4回：人種 2——ケルト文化 第5回：イギリス島の人種と英語の始まり 第6回：<i>The Canterbury Tales</i>——人間とは？ 第7回：<i>Doctor Faustus</i>——性善説と性悪説 第8回：Shakespeare——ハムレットの悩み 第9回：社会とリーダー——Macbeth と王 第10回：ジャーナリズムの誕生——報道の責任 第11回：小説の誕生——社会と人間 第12回：<i>Oliver Twist</i>——19世紀のおもしろ小説 第13回：アイルランド移民とアメリカ 第14回：James Joyce ——20世紀から21世紀の小説に 第15回：まとめ——文学と人間</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意。参考文献は各回に紹介します。		毎回授業開始時に行う語彙 quiz で50%、授業終了前のテーマ essay で50%。学期末の定期試験はしません。	

09年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図ること。</p> <p><b>講義概要</b> それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か？ということ、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりから批評的に考えていきます。 作品の導入には、英文ハンドアウトを使用し、各回の始めに語彙 quiz を行い、それを基に内容を確認します。 各回の終わりに、言及したテーマに関する essay を書くことで、全体理解を旨とします。</p> <p>公欠扱いは一切ありません。 授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。</p>		<p>第1回：導入——文学とは？ 第2回：死生観——生きるための視点から 第3回：人種 1——ケルト人 第4回：人種 2——ケルト文化 第5回：イギリス島の人種と英語の始まり 第6回：<i>The Canterbury Tales</i>——人間とは？ 第7回：<i>Doctor Faustus</i>——性善説と性悪説 第8回：Shakespeare——ハムレットの悩み 第9回：社会とリーダー——Macbeth と王 第10回：ジャーナリズムの誕生——報道の責任 第11回：小説の誕生——社会と人間 第12回：<i>Oliver Twist</i>——19世紀のおもしろ小説 第13回：アイルランド移民とアメリカ 第14回：James Joyce ——20世紀から21世紀の小説に 第15回：まとめ——文学と人間</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意。参考文献は各回に紹介します。		毎回授業開始時に行う語彙 quiz で50%、授業終了前のテーマ essay で50%。学期末の定期試験はしません。	

09年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテキストに取り組みながら、理解し、身につけてほしいのは、特に次の四点である。</p> <p>1. 自分自身の「現在と此所」を、近現代500年の歴史と世界のひろがり、その複雑なつながりのなかで考える癖をつけよう。</p> <p>2. 歴史も物語もつくりあげられたものであること、その意味では現実とフィクションの境界は思ったより曖昧であることを理解しよう。</p> <p>3. 現実やフィクションが構築されるに際しては、「権力」が作用していることに気づこう。</p> <p>4. あらゆる現実・フィクションには、いくつもの側面があることに敏感になろう。</p> <p>なおこの講義は英国とその（旧）植民地で書かれた散文を中心としたものである。</p>		<p>第1回：英語圏とは。英語とは何か。</p> <p>第2回：帝国、文学、テクノロジー</p> <p>第3回：小説、この新しく奇なるもの</p> <p>第4回：帝国と小説（1）</p> <p>第5回：帝国と小説（2）</p> <p>第6回：世紀をこえるベストセラー <i>Jane Eyre</i>（1）</p> <p>第7回：世紀をこえるベストセラー <i>Jane Eyre</i>（2）</p> <p>第8回：フェミニズム批評と <i>Jane Eyre</i>（1）</p> <p>第9回：フェミニズム批評と <i>Jane Eyre</i>（2）</p> <p>第10回：ポストコロニアル文学の登場</p> <p>第11回：もうひとつの物語 <i>Wide Sargasso Sea</i>（1）</p> <p>第12回：もうひとつの物語 <i>Wide Sargasso Sea</i>（2）</p> <p>第13回：ディアスポラと言葉という故郷</p> <p>第14回：英語作家とは？</p> <p>第15回：グローバル文学の視点</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。</p>		<p>定期試験と、数回のコメント・ペーパーによる。詳細は開講時に説明する。</p>	

09年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、英語圏のひとつとしてイギリスを取り上げ、イギリスから見えてくる世界の歴史をたどりつつ、イギリスで書かれた文学作品を年代順に取り上げます。二回に1作品のペースで、作品の内容や解釈、同時代の社会背景、後世の評価などを紹介していきます。そうすることで、イギリスの社会と文化についての知識を得ながら、歴史の変化とともに文学作品も、そして書き手の顔ぶれも変化していることを実感していきたいと考えています。</p> <p>講義はパワーポイントで要点を提示しつつ、受講者に書き取ってもらうスタイルが中心です。原文で作品の一部を提示し、声に出して読んだり、日本語にして精読してもらうこともします。また、映像がある場合は一部お見せして作品理解を深めます。</p>		<p>1～2. シェイクスピアの世界 William Shakespeare, <i>Macbeth</i></p> <p>3～4. ジェイン・オースティンの世界 Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i></p> <p>5～6. ヴィクトリア時代への反逆 Charlotte Bronte, <i>Jane Eyre</i></p> <p>7～8. ルイス・キャロルと児童文学 Lewis Carroll, <i>Alice's Adventures in Wonderland</i></p> <p>9～10. 階級社会への挑戦 D.H. Lawrence, <i>Lady Chatterley's Lover</i></p> <p>11～12. 大英帝国への挑戦 Jean Rhys, <i>Wide Sargasso Sea</i></p> <p>13～14. 日系作家の近未来小説 Kazuo Ishiguro, <i>Never Let Me Go</i></p> <p>15. まとめ</p> <p>*内容は一部変更することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントを配布 参考文献は適宜授業中に提示</p>		<p>レポート点約3割、学期末試験約7割 ただし4回を越えて欠席の場合、評価対象としない</p>	

09年度以降	英語の世界 I	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>英語学(English linguistics)の学問研究から得られた英語についての知見を紹介することを通じ、高校時代までに習ってきた英語の知識(単語の意味・イントネーション・語法・構文)のうちで間違っ習った点を正しながら、さらに一歩掘り下げ、正しい知識であっても、なぜそのように言えて別の言い方ができないのかということを中心に解説します。したがってこの講義を受講すると、例えば、高校時代に楽器には定冠詞を付けて <b>play the guitar</b> と言わなければならないと教わりますが、冠詞を付けなくとも、あるいは <b>a</b> と <b>the</b> のどちらを付けてもよく、ただ単にギターという楽器にたいする意味づけの仕方が異なるだけであるということがわかるようになります。</p> <p>[概要]</p> <p>右の授業計画に沿い、高校時代までに学習してきた英語の知識にたいし、「どうしてそう言ってもこうは言えないのか？」という素朴な疑問に対し、現代言語学の観点からその成果を踏まえて説明することを試みます。</p> <p>※予習と復習ができないひとは履修を遠慮してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 和訳は英語をわからなくする</li> <li>2. コミュニケーションに必要な文法とは？</li> <li>3. 日常言語の中の比喻</li> <li>4. 多義語の意味も比喻によってつながる</li> <li>5. 続き</li> <li>6. 英語の基本構造(自動詞/他動詞構文・受動態の意味)</li> <li>7. 続き (have と be のイメージ・二重目的語構文)</li> <li>8. 英語の情報構造</li> <li>9. a と the の使い方</li> <li>10. 名詞の2つの用法—可算・不可算の区別はあるの？</li> <li>11. 時制の表現法—未来時制はあるの？</li> <li>12. 単純・進行・完了相の概念</li> <li>13. 過去形と丁寧表現</li> <li>14. 否定の意味</li> <li>15. 前置詞の意味</li> </ol> <p>※ 上のトピックに多少の変更を加える場合は、第1回目の授業で提示します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：</p> <p>①今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法』開拓社</p> <p>②講義支援ポータルサイトで配布するプリント</p>		最終成績は平常テストと課題と定期試験によって決まります。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	English for Business I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>小学校高学年で英語の授業が必修となり、また、ある大学では、世界各国から優秀な人材を集め、競争に勝ち抜くために、秋入学の検討を始めております。更に、社内公用語を英語に変更する企業が出現した現状を考えると、世界に通ずる英語の習得が重要となっていることは明らかです。</p> <p>そこで、本講義では、初学者を対象に、<b>Writing</b>、<b>Reading</b>を問わず、ビジネス場面における基礎レベルの英語運用能力を幅広く習得し、上級科目である「<b>Business Writing</b>」、「<b>英語ビジネス・コミュニケーション</b>」、「<b>英語ビジネス・コミュニケーション実務</b>」等を履修するための予備的な実力を養成します。</p> <p><b>Writing</b> では、<b>英文ビジネス・メール</b>の中でよく使用される<b>独特な英語表現</b>を勉強し、世界に通ずる実践的な学習となるよう指導していきます。</p> <p><b>Reading</b> では、英字新聞などに使用されているビジネスに関する基本的な語彙と語彙の説明や経済英語独特の表現を学び、英字新聞ビジネス記事の基本的な読み方を学習すると同時に、<b>Writing</b> と関連させ、総合的なビジネス英語の基本を学んでいきます。</p>		各担当教員が第1回目の授業で提示する。	
テキスト		評価方法	
(1)Writing：未定 (2) Reading：プリント使用		各担当者が第1回目の授業で説明する。	

09年度以降	English for Business II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「English for Business II」では、「English for Business I」の「講義目的・講義概要」で書かれた、<b>Writing</b> と <b>Reading</b> の続きを行い、<b>Writing</b> と <b>Reading</b> の能力向上に努めます。</p> <p>最終的には、英文ビジネス・メールの習得と同時に、企業内のさまざまなことも学び、よって、外国への留学手続き、国際的に活躍する企業への就職活動、そして就職してからの業務遂行に役立つことができるよう指導していきます。</p>		各担当教員が第1回目の授業で提示する。	
テキスト		評価方法	
(1)Writing：未定 (2) Reading：プリント使用		各担当者が第1回目の授業で説明する。	

09年度以降	Listening & Speaking (火1)	担当者	P. ドーレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Listening and speaking go hand-in-hand. Speaking helps improve your listening, and listening helps you to build your vocabulary for speaking.</p> <p>In this class, you will talk about the various topics you are introduced to through listening. We will use the internet a lot to give you a chance to hear authentic texts.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Introduction to topic issues, concepts, and vocabulary.</li> <li>3. Listening strategies I.</li> <li>4. Listening I. and discussion</li> <li>5. Discussion strategies I.</li> <li>6. Listening II. and discussion</li> <li>7. Continuation and review of Listening II.</li> <li>8. Listening strategies II.</li> <li>9. Listening III. and discussion</li> <li>10. Discussion strategies II.</li> <li>11. Listening IV. and discussion</li> <li>12. Continuation and review of Listening IV.</li> <li>13. In-class review of content</li> <li>14. In-class Final Assessment</li> <li>15. Final Assessment Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.	

09年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC® (火1)	担当者	P. ドーレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this class you will have the chance to do a lot of TOEIC and TOEFL listening practice. There will also be chance to listen to other real English from authentic programs.</p> <p>You will also get the opportunity to discuss the different listening strategies and decide which strategies are the most helpful for you.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Introduction to TOEIC, TOEFL and other websites. Homework I</li> <li>3. Practice TOEIC test and listening strategy discussion. Review homework I</li> <li>4. Practice TOEFL test and listening strategy discussion. Review homework II</li> <li>5. Practice OTHER format listening test and listening strategy discussion. Review homework III</li> <li>6. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper I.</li> <li>7. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper II.</li> <li>8. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper III.</li> <li>9. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper IV.</li> <li>10. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests.</li> <li>11. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests.</li> <li>12. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests</li> <li>13. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests</li> <li>14. In-class review of listening strategies.</li> <li>15. Final Assessment Review.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.	

09年度以降	Listening & Speaking (火2)	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Listening and speaking go hand-in-hand. Speaking helps improve your listening, and listening helps you to build your vocabulary for speaking.</p> <p>In this class, you will talk about the various topics you are introduced to through listening. We will use the internet a lot to give you a chance to hear authentic texts.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Introduction to topic issues, concepts, and vocabulary.</li> <li>3. Listening strategies I.</li> <li>4. Listening I. and discussion</li> <li>5. Discussion strategies I.</li> <li>6. Listening II. and discussion</li> <li>7. Continuation and review of Listening II.</li> <li>8. Listening strategies II.</li> <li>9. Listening III. and discussion</li> <li>10. Discussion strategies II.</li> <li>11. Listening IV. and discussion</li> <li>12. Continuation and review of Listening IV.</li> <li>13. In-class review of content</li> <li>14. In-class Final Assessment</li> <li>15. Final Assessment Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.	

09年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC® (火2)	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class you will have the chance to do a lot of TOEIC and TOEFL listening practice. There will also be chance to listen to other real English from authentic programmes.</p> <p>You will also get the opportunity to discuss the different listening strategies and decide which strategies are the most helpful for you.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Introduction to TOEIC, TOEFL and other websites. Homework I</li> <li>3. Practice TOEIC test and listening strategy discussion. Review homework I</li> <li>4. Practice TOEFL test and listening strategy discussion. Review homework II</li> <li>5. Practice OTHER format listening test and listening strategy discussion. Review homework III</li> <li>6. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper I.</li> <li>7. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper II.</li> <li>8. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper III.</li> <li>9. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests. Discussion and written reflection paper IV.</li> <li>10. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests.</li> <li>11. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests.</li> <li>12. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests</li> <li>13. Practice TOEIC, TOEFL + OTHER listening tests</li> <li>14. In-class review of listening strategies.</li> <li>15. Final Assessment Review.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.	

09年度以降	Listening & Speaking (火1)	担当者	日野 克美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語の音の本質を理解し、日本語の特質との違いを把握させることを主眼とする。</p> <p>歌には言語の特質が端的に現れる。歌詞と曲を集中的に学ぶことは英語の音の特質を把握する効果的方法の一つである。本授業ではよく知られた歌を取り上げ英語のリズムの特徴を理解し、さらに再現できることを目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Lesson 1</li> <li>3. Lesson 2</li> <li>4. Lesson 3</li> <li>5. Lesson 4</li> <li>6. Lesson 5</li> <li>7. Lesson 6</li> <li>8. Lesson 7</li> <li>9. Lesson 8</li> <li>10. Lesson 9</li> <li>11. Lesson 10</li> <li>12. Lesson 11</li> <li>13. Lesson 12</li> <li>14. Lesson 14</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書 適宜紹介する		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC® (火1)	担当者	日野 克美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的 Listening の訓練を行い TOEIC 及び TOEFL 等の試験に対応できるよう配慮する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Lesson 1</li> <li>3. Lesson 2</li> <li>4. Lesson 3</li> <li>5. Lesson 4</li> <li>6. Lesson 5</li> <li>7. Lesson 6</li> <li>8. Lesson 7</li> <li>9. Lesson 8</li> <li>10. Lesson 9</li> <li>11. Lesson 10</li> <li>12. Lesson 11</li> <li>13. Lesson 12</li> <li>14. Lesson 13</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	Listening & Speaking (火3)	担当者	日野 克美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語の音の本質を理解し、日本語の特質との違いを把握させることを主眼とする。</p> <p>歌には言語の特質が端的に現れる。歌詞と曲を集中的に学ぶことは英語の音の特質を把握する効果的方法の一つである。本授業ではよく知られた歌を取り上げ英語のリズムの特徴を理解し、さらに再現できることを目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Lesson 1</li> <li>3. Lesson 2</li> <li>4. Lesson 3</li> <li>5. Lesson 4</li> <li>6. Lesson 5</li> <li>7. Lesson 6</li> <li>8. Lesson 7</li> <li>9. Lesson 8</li> <li>10. Lesson 9</li> <li>11. Lesson 10</li> <li>12. Lesson 11</li> <li>13. Lesson 12</li> <li>14. Lesson 14</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書 適宜紹介する		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC® (火3)	担当者	日野 克美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的 Listening の訓練を行い TOEIC 及び TOEFL 等の試験に対応できるよう配慮する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Lesson 1</li> <li>3. Lesson 2</li> <li>4. Lesson 3</li> <li>5. Lesson 4</li> <li>6. Lesson 5</li> <li>7. Lesson 6</li> <li>8. Lesson 7</li> <li>9. Lesson 8</li> <li>10. Lesson 9</li> <li>11. Lesson 10</li> <li>12. Lesson 11</li> <li>13. Lesson 12</li> <li>14. Lesson 13</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	Listening & Speaking (金3)	担当者	田川 憲二郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>米、加、英、豪の4種類の英語の発音の特徴を学び、それぞれを確実に聞き取れるようにする。また、英語の音声を表層的に真似するのではなく、その調音の仕組みを理解することでnative speakerに近い自然な音声を自ら発することを目指す。</p> <p>英語の音声を、カタカナ音を複雑にアレンジしたものにとらえるのではなく、それ自身が単純な原理に基づいて発音されていることを理解し、音声言語としての英語に対する違和感を解消していく。</p> <p>また、日本語を介さずに英語の意味を直接理解し、頭の中に浮かんだ内容を直接、英語にして表現することの面白さを体感することを目指していく。</p> <p>教室では、聴解練習、dictation、shadowingなどを繰り返すとともに、ペアになって対話を演じる実技も行い、聴解と発話の両面から音声言語としての英語を使いこなせるよう練習を重ねていく。</p> <p>Web学習の進め方については、初回授業で説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 日常生活</li> <li>3. 日常生活</li> <li>4. 慣習・制度</li> <li>5. 娯楽・レジャー</li> <li>6. 健康・医療</li> <li>7. 健康・医療</li> <li>8. 環境問題</li> <li>9. ビジネス</li> <li>10. ビジネス</li> <li>11. 科学技術</li> <li>12. 政治</li> <li>13. 法律</li> <li>14. 社会問題</li> <li>15. 社会問題</li> </ol> <p>第2週以降、以上の各テーマの対話を扱う。この予定は、必要に応じて変更する場合がある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
秋葉利治／森秀夫『英単語・熟語ダイアログ 1800』旺文社		出席数、授業への参加姿勢、試験、Web学習への取り組みを総合的に判定して成績を算出する。詳細は初回授業で説明する。	

09年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC® (金3)	担当者	田川 憲二郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語力の指標として広く利用されている TOEFL と TOEIC 両テストのリスニング問題における得点力アップを目指す。</p> <p>いずれのテストも、正確に解答するためには、英語を日本語に置き換えて理解するのではなく、英語の意味を現実世界と直結させられるようにすることが必要であり、英語を聞きながら瞬時にその英語が表す内容をイメージできる力を養成しておくことが重要である。</p> <p>『TOEIC テスト・リスニング BOX』を主たる教材とし、これを毎回解きながら、米、加、英、豪の4種類の英語の発音の特徴に慣れていく。</p> <p>加えて、Web教材などを用いて TOEFL 向きのテーマの音声もたくさん聞くことで、TOEFL のリスニングに対応できる聴解力も養成していく。</p> <p>TOEFL と TOEIC の問題形式の違いや選ばれるテーマの違いなども研究し、それぞれのテストに対してできるだけ効率のよい準備が行えるよう、個人学習の仕方についても指導する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. TOEIC テスト・リスニング BOX Book 1</li> <li>3. Book 1</li> <li>4. Book 1</li> <li>5. Book 2</li> <li>6. Book 2</li> <li>7. Book 2</li> <li>8. Book 3</li> <li>9. Book 3</li> <li>10. Book 3</li> <li>11. Book 4</li> <li>12. Book 4</li> <li>13. Book 4</li> <li>14. Book 5</li> <li>15. Book 5</li> </ol> <p>この予定は、必要に応じて変更する場合がある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
中村紳一郎ほか『TOEIC テスト・リスニング BOX』the Japan Times 社		出席数、授業への参加姿勢、試験、Web学習への取り組みを総合的に判定して成績を算出する。詳細は初回授業で説明する。	

09年度以降	Grammar for TOEFL & TOEIC I	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英語の語法と文法の知識を身につけてもらうことである。そのためには「なぜそうは言っても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから学習し始めると、次第に英語という言葉の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語ということばの規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い英語の学習方法であるということがわかるようになる。この授業では、テキストを基にした講義から、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたい。</p> <p>なお、この授業は「英語の世界Ⅰ」と密接な関係にあるので、そちらも欠かさず出席し、この授業同様、予習・復習を怠ることのないようにしてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在と過去のコト</li> <li>2. 未来のコト</li> <li>3. 動詞で語るコト</li> <li>4. 続き</li> <li>5. 話し手の態度の表現（助動詞）</li> <li>6. 続き（助動詞の過去形、副詞・形容詞）</li> <li>7. 続き（助動詞の関連表現）</li> <li>8. 表に出ない行為者（能動文と受動文）</li> <li>9. 続き</li> <li>10. HAVE, BE, ING のちから</li> <li>11. 続き</li> <li>12. 動詞の共演者と構文タイプ</li> <li>13. 続き</li> <li>14. 続き</li> <li>15. 続き</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法 文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会		定期試験、課題、オンライン学習の成果および授業における参加度による。（オンライン学習の成果が最終成績に占める割合は授業で説明される。）	

09年度以降	Grammar for TOEFL & TOEIC II	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>表現する主体（話し手もしくは書き手）と文法とはけして無関係ではないという立場から、表現の主体を中心に据えて英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界をいかに描写するかという観点から英文法を見ると、ある事態を表現するのに「なぜそうは言ってもこうは言えないのか？」ということには意味的な動機付けのあることに気づく。したがって、文法がわかるということはその意味的な動機付けの仕組みがわかるということであり、それはとりもなおさず「なぜそうは言ってもこうは言えないのか」という説明ができるようになるということである。そうなると、英文法学習というのは暗記力の良し悪しの問題ではなく、「なるほど？」と納得しながら学ぶものであることがわかるようになり、現在完了形と過去形の使い分け、a と the の使い分け、あるいは 'I'm standing on/in the street.' の前置詞の使い分けもできるようになってくる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 形容詞を中心とした構文</li> <li>2. 動詞の文法の総括</li> <li>3. モノ（名詞）の文法</li> <li>4. 続き</li> <li>5. 修飾語とその配列順</li> <li>6. あとから言い足していく語り方（後置修飾）</li> <li>7. 続き</li> <li>8. 代名詞と指示詞、そして名詞節</li> <li>9. 続き</li> <li>10. 副詞で状況を語る</li> <li>11. 続き</li> <li>12. さまざまな副詞表現</li> <li>13. 仮想の状況を設定する</li> <li>14. 情報の接続と論理</li> <li>15. 続き</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法 文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会		定期試験、課題、オンライン学習の成果および授業における参加度による。（オンライン学習の成果が最終成績に占める割合は授業で説明される。）	

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	伊藤 兵馬
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本授業の主たる目的は、英語の基礎的な読解力をしっかりと身につけることであり、英文を「ていねいに訳す」のではなく、「内容を把握する」ことを念頭に置いて授業を進めます。同時に英語の語彙を増やしなが、日本語を介さず英語で理解し、英語で考える能力を養い、諸外国の社会や文化を理解する力をつけてもらいます。</p> <p>毎回の授業では、国際情勢・時事問題に関する英文を輪読し、要約・キーワードの確認などを通して内容理解を深め、その後、クラス全体で内容に関するディスカッションを行います。</p> <p>また適宜、受講者全員にテキストの部分訳を課題として提出してもらいます。</p>		<p>第1回：オリエンテーション  第2回：英文の講読およびディスカッション①  第3回：英文の講読およびディスカッション②  第4回：英文の講読およびディスカッション③  第5回：英文の講読およびディスカッション④  第6回：英文の講読およびディスカッション⑤  第7回：英文の講読およびディスカッション⑥  第8回：英文の講読およびディスカッション⑦  第9回：英文の講読およびディスカッション⑧  第10回：英文の講読およびディスカッション⑨  第11回：英文の講読およびディスカッション⑩  第12回：英文の講読およびディスカッション⑪  第13回：英文の講読およびディスカッション⑫  第14回：英文の講読およびディスカッション⑬  第15回：授業のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
使用テキストは、受講者の英語能力などを勘案して決定します。		出席率、授業への貢献度、課題（もしくは試験）を基に評価します。詳細に関しては、初回の授業で説明します。	

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	伊藤 兵馬
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的は、上記の Reading Strategies I と同様ですが、クオリティの高い英文を読むことを通じて、春学期で習得した能力をより一層向上させることを目指します。</p> <p>毎回の授業では、国際情勢・時事問題に関する英文を輪読し、トピックセンテンスの和訳、パラグラフの要約、キーワードの抽出などを通して、内容の理解を深め、その後、クラス全体で内容に関するディスカッションを行います。</p> <p>また適宜、受講者全員にテキストの部分訳を課題として提出してもらいます。</p>		<p>第1回：オリエンテーション  第2回：英文の講読およびディスカッション①  第3回：英文の講読およびディスカッション②  第4回：英文の講読およびディスカッション③  第5回：英文の講読およびディスカッション④  第6回：英文の講読およびディスカッション⑤  第7回：英文の講読およびディスカッション⑥  第8回：英文の講読およびディスカッション⑦  第9回：英文の講読およびディスカッション⑧  第10回：英文の講読およびディスカッション⑨  第11回：英文の講読およびディスカッション⑩  第12回：英文の講読およびディスカッション⑪  第13回：英文の講読およびディスカッション⑫  第14回：英文の講読およびディスカッション⑬  第15回：授業のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
使用テキストは、受講者の英語能力などを勘案して決定します。		出席率、授業への貢献度、課題（もしくは試験）を基に評価します。詳細に関しては、初回の授業で説明します。	

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目標： 英語の語彙を増やしなが、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。</p> <p>授業概要： 短編小説を中心に、毎週、予定された範囲を予習してきてもらい、パラグラフごとに英語や日本語で要約したり、精読が必要な箇所は、和訳してもらいます。 また時間があれば、Web上のAFP World Academic Archiveを利用して、時事英語にも、触れます。AFPニュースのプレゼンやミニ・レポートを課しますので、リアルタイムに世界で今、何が起こっているか、関心を持ってもらいたいと思います。 時間の許す限り、RL R 練習(Read, Look Up, and Repeat: テキストの英文を声を出して読み、一つの文章を読むごとに、テキストから目を離して、その文章をリピートする練習)を用いて、英語の総合力アップも図りたいと思います。</p>		<p>1. 授業のやり方、評価方法などの説明、RLR 練習の実習など</p> <p>2. 約2ページから4ページの範囲で、使用テキストを輪読する。</p> <p>3-15. 同上。随時、Web上のAFP World Academic Archiveのニュースについても学習する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: プリントを使用の予定 参考文献: 授業で随時紹介</p>		<p>授業参加度、ミニ・テスト、ミニ・レポート、試験などの結果を総合的に評価する。</p>	

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目標： “Reading Strategies I”に引き続き、英語の語彙力をつけながら、直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。“Reading Strategies I”で身につけた基礎的な読解技能を定着させ、発展させる。</p> <p>授業概要： 春学期の該当箇所を参照してください。</p>		<p>1. 約2ページから5ページの範囲で、使用テキストを輪読する。</p> <p>2-15. 同上。随時、Web上の課外読み物を扱う。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: プリントを使用の予定 参考文献: 授業で随時紹介</p>		<p>授業参加度、ミニ・テスト、ミニ・レポート、試験などの結果を総合的に評価する。</p>	

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、英語の語彙を増やし、正確に英語を理解するための基礎的な読解技能を習得することである。</p> <p>授業は、予習がなされていることを前提に進める。この段階で必ず音読まで出来るようにしておくことが重要である。テキスト本文の理解については、学生からの質疑によって確認する。また、読解技能や文法事項の確認に関しては、授業担当者が講義または質疑応答を行なう。</p> <p>テキストの内容は、ライフスタイル、社会問題、正義と犯罪、科学と歴史に関する英文が取り上げられている。学生諸君は、テキストに書かれている内容にとどまらず、興味・関心に基づいて積極的に図書館などを利用し、さまざまな情報を調べて授業に臨んでもらいたい。</p> <p>また、この授業では、毎回授業レポートが宿題として出され、単語テストも行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation</li> <li>2. 英文構造の分析法について</li> <li>3. A Culture Difference: Being on Time</li> <li>4. Changing Lifestyles and New Eating Habits</li> <li>5. Technology Competes for Family Time</li> <li>6. Language: Is It Always Spoken?</li> <li>7. Loneliness: How Can We Overcome It?</li> <li>8. The Importance of Grandmothers</li> <li>9. Innocent until Proven Guilty</li> <li>10. The Reliability of Eyewitnesses</li> <li>11. Solving Crimes with Modern Technology</li> <li>12. Ancient Artifacts and Ancient Air</li> <li>13. Medical Technology: Saving Lives with Robotics</li> <li>14. Mars Our Neighbor in Space</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol> <p>※ 理解度等により、授業進度が変わることもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Yamashina, M., Yokoyama, M. &amp; Okino, Y. (2013). <i>Reading Choice</i>. Tokyo: Cengage Learning.</li> <li>2) 京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社『京大・学術語彙データベース；基本英単語 1110』東京：研究社。</li> </ol>		平常点（授業レポート，10 Questions，授業態度），単語テスト，期末試験，出欠状況によって評価する。詳細については最初の授業で説明する。	

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、春学期に引き続き英語の語彙を増やし、より長い英文を効率よく読む力と、日本や外国の文化を理解する力を付けることである。さらに、フォーマリティが高い英文を読み、それについて自ら考えたり、表現したりする能力を身に付けることである。</p> <p>授業は、予習がなされていることを前提に進める。テキスト本文の理解については、読解技能や文法事項の確認と共に授業担当者が講義または質疑応答を行なう。</p> <p>この授業では、学生の積極的な参加態度が非常に重要になる。英語という言葉そのものはもちろんのこと、書かれている内容についても能動的に理解し、思考し、表現する姿勢が求められる。学生諸君の手で活気ある授業にしてみたい。</p> <p>また、この授業では、毎回授業レポートが宿題として出され、単語テストも行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation</li> <li>2. }</li> <li>3. }</li> <li>4. }</li> <li>5. }</li> <li>6. }</li> <li>7. }</li> <li>8. }</li> <li>9. }</li> <li>10. }</li> <li>11. }</li> <li>12. }</li> <li>13. }</li> <li>14. }</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol> <p>最初の授業で、テキストの中から学生が特に興味や関心のある 13 chapters を選んでもらいます。それらを順次進めていきます。</p> <p>※ 理解度により、授業進度が変わることもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Becker, C. (2012). <i>American and English Ideals</i> (rev. ed.). 英宝社。</li> <li>2) 京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社『京大・学術語彙データベース；基本英単語 1110』東京：研究社。</li> </ol>		平常点（授業レポート，10 Questions，授業態度），単語テスト，期末試験，出欠状況によって評価する。詳細については最初の授業で説明する。	

09年度以降	Reading Strategies I (金2)	担当者	袈岩(ほろいわ) ナオミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本人が英語を学ぶ上で欠かせない基礎体力をつけ、英語の文献を読み取る力を磨く。</p> <p>1. 英語文化圏と日本文化の特徴をつかむ。 2. 実生活で使われる英語表現を学ぶ。 3. 音読をすることにより、生きた英語のリズムを体感し、英文を読む、という行為における呼吸に気づく。</p>		<p>1. Overview and Introduction 2. Total Body Response 3. 10 } reading aloud lecture/ excercises 11-15 Integration / Summer Project Discussion</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Tba( to be arranged / announced in class)		出席最重要視・期日内課題提出・授業参加を重視 詳細は授業時に提示	

09年度以降	Reading Strategies II (金2)	担当者	袈岩(ほろいわ) ナオミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Reading Strategies I の基礎の上に成り立つ。 秋学期には、各自の意識するセンスを磨きたいと思う。</p> <p>さらに留学や国際機関での貢献を視野に入れ、 今、世界で展開されている（必ずしもメディアには載らない）さまざまな国際活動の実際に触れながら、生きた情報をつかみ、有効活用していく力を養う。</p>		<p>1. Review of the Summer Projects 2. Discussion on Summer Projects cont.</p> <p>3-12 Lecture/ exercise / 13-15 Presentations &amp; Integrations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Tba (to be arranged / announced) 開講時に提示		春に同じ + 夏季課題、グループワークなど。	

09年度以降	Reading Strategies I (金3)	担当者	袈岩(ほろいわ) ナオミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本人が英語を学ぶ上で欠かせない基礎体力をつけ、英語の文献を読み取る力を磨く。</p> <p>1. 英語文化圏と日本文化の特徴をつかむ。 2. 実生活で使われる英語表現を学ぶ。 3. 音読をすることにより、生きた英語のリズムを体感し、英文を読む、という行為における呼吸に気づく。</p>		<p>1. Overview and Introduction 2. Total Body Response 3. 10 } reading aloud lecture/ excercises 11-15 Integration / Summer Project Discussion</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Tba( to be arranged / announced in class)		出席最重要視・期日内課題提出・授業参加を重視 詳細は授業時に提示	

09年度以降	Reading Strategies II (金3)	担当者	袈岩(ほろいわ) ナオミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Reading Strategies I の基礎の上に成り立つ。 秋学期には、各自の意識するセンスを磨きたいと思う。</p> <p>さらに留学や国際機関での貢献を視野に入れ、 今、世界で展開されている（必ずしもメディアには載らない）さまざまな国際活動の実際に触れながら、生きた情報をつかみ、有効活用していく力を養う。</p>		<p>1. Review of the Summer Projects 2. Discussion on Summer Projects cont.</p> <p>3-12 Lecture/ exercise / 13-15 Presentations &amp; Integrations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Tba (to be arranged / announced) 開講時に提示		春に同じ + 夏季課題、グループワークなど。	

09年度以降	Reading Strategies III	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their reading skills and further develop their critical thinking skills. The reading material chosen for this class will look at some of the issues that face us today as they appear in print. Students in this class will have the opportunity to learn the different skills to become effective and efficient readers. This includes the abilities to skim and to scan, to improve vocabulary and to synthesize the material read.</p> <p>Students are required to maintain a notebook for this class which will include articles taken from various sources with written summaries</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 3: Continued; skimming  Week 4: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 5: Continued; scanning  Week 6: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 7: Continued; speed reading  Week 8: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 9: Continued; vocab. acquisition  Week 10: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 11: Continued; graded readers  Week 12: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 13: Continued; graded readers  Week 14: Final projects  Week 15: Final projects</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.	

09年度以降	Reading Strategies IV	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their reading skills and further develop their critical thinking skills. The reading material chosen for this class will look at some of the issues that face us today as they appear in print. Students in this class will have the opportunity to learn the different skills to become effective and efficient readers. This includes the abilities to skim and to scan, to improve vocabulary and to synthesize the material read.</p> <p>Students are required to maintain a notebook for this class which will include articles taken from various sources with written summaries</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 3: Continued; skimming  Week 4: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 5: Continued; scanning  Week 6: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 7: Continued; speed reading  Week 8: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 9: Continued; vocab. acquisition  Week 10: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 11: Continued; graded readers  Week 12: Reading/Vocabulary/Discussion  Week 13: Continued; graded readers  Week 14: Final projects  Week 15: Final projects</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		. Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.	

09年度以降	Reading Strategies III	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>英語圏のさまざまな雑誌のコラムやエッセイを多読していく。語彙を増やししながら、内容を味わっていく。</p> <p>多読、速読、熟読すべての読み方をさまざまな英文に触れながら、行う。</p> <p>【講義概要】</p> <p>一次テキストから興味のあるポイントを引出し、二次テキストを読むことで扱われているトピックの理解を勧めていく練習をしていく。</p>		<p>1 ガイダンス</p> <p>2 BBC English Learner</p> <p>3 BBC English Learner</p> <p>4 BBC English Learner</p> <p>5 BBC English Learner</p> <p>6 NATURE を扱ったリーディング</p> <p>7 HORSE を扱ったリーディング</p> <p>8 EMPIRE を扱ったリーディング</p> <p>9 EMPIRE を扱ったリーディング</p> <p>10 GLOBAL TIMES</p> <p>11 GLOBAL TIMES</p> <p>12 GLOBAL TIMES</p> <p>13 GLOBAL TIMES</p> <p>14 GLOBAL TIMES</p> <p>15 講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		授業時の態度 (30%)、試験 (40%) オンライン学習 (30%)	

09年度以降	Reading Strategies IV	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>英語圏のさまざまな雑誌のコラムやエッセイを多読していく。語彙を増やししながら、内容を味わっていく。</p> <p>多読、速読、熟読すべての読み方をさまざまな英文に触れながら、行う。</p> <p>【講義概要】</p> <p>一次テキストから興味のあるポイントを引出し、二次テキストを読むことで扱われているトピックの理解を勧めていく練習をしていく。</p>		<p>1 ガイダンス</p> <p>2 BBC English Learner</p> <p>3 BBC English Learner</p> <p>4 BBC English Learner</p> <p>5 BBC English Learner</p> <p>6 ETHNICITY を扱ったリーディング</p> <p>7 NATION を扱ったリーディング</p> <p>8 ENVIRONMENT を扱ったリーディング</p> <p>9 ENVIRONMENT を扱ったリーディング</p> <p>10 GLOBAL TIMES</p> <p>11 GLOBAL TIMES</p> <p>12 GLOBAL TIMES</p> <p>13 GLOBAL TIMES</p> <p>14 GLOBAL TIMES</p> <p>15 講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		授業時の態度 (30%)、試験 (40%) オンライン学習 (30%)	

09年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。</p> <p><b>Vocabulary building:</b> 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。</p> <p><b>Intensive reading:</b> 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。</p> <p><b>Faster reading :</b> Scanning や Skimming の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。</p> <p><b>オンライン学習プログラム:</b> 交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。</p>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第14回 初回授業にて指示します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：初回授業にて指示します。		出席、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。</p> <p><b>Vocabulary building:</b> 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。</p> <p><b>Intensive reading:</b> 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。</p> <p><b>Faster reading :</b> Scanning や Skimming の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。</p> <p><b>オンライン学習プログラム:</b> 交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。</p>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第14回 初回授業にて指示します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：初回授業にて指示します。		出席、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09年度以降	Reading Strategies III (水1)	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> この講義では、語彙を増やすことと、英文を深く読んで味わう力を養うことを目的とします。</p> <p><b>講義概要</b> 平易な文体で書かれたフィクションをじっくりと読みながら、わかったつもりから確かな理解へと読解力を磨いていきます。質問、発表、小テスト、課題やディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明します。 辞書は毎回必ず持参すること。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキスト購読</p> <p>第15回 総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜配布する。		出席状況、授業参加への積極性、課題・レポートを総合的に評価する。また3分の1を超える欠席は不可とする。	

09年度以降	Reading StrategiesIV (水1)	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた基礎的な読解力を定着させ、発展させることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> 受講生の進捗状況を踏まえ、教材を決定します。具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。 毎回必ず辞書を持参すること。 なおこの授業では課外学習用にオンライン学習プログラムを採用しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキスト購読</p> <p>第15回 総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜配布する。		出席状況、授業参加への積極性、課題・レポートを総合的に評価する。また3分の1を超える欠席は不可とする。	

09年度以降	Reading Strategies III (水2)	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> この講義では、語彙を増やすことと、英文を深く読んで味わう力を養うことを目的とします。</p> <p><b>講義概要</b> 平易な文体で書かれたフィクションをじっくりと読みながら、わかったつもりから確かな理解へと読解力を磨いていきます。質問、発表、小テスト、課題やディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明します。 辞書は毎回必ず持参すること。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキスト購読</p> <p>第15回 総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜配布する。		出席状況、授業参加への積極性、課題・レポートを総合的に評価する。また3分の1を超える欠席は不可とする。	

09年度以降	Reading Strategies IV (水2)	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた基礎的な読解力を定着させ、発展させることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> 受講生の進捗状況を踏まえ、教材を決定します。具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。 毎回必ず辞書を持参すること。 なおこの授業では課外学習用にオンライン学習プログラムを採用しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキスト購読</p> <p>第15回 総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜配布する。		出席状況、授業参加への積極性、課題・レポートを総合的に評価する。また3分の1を超える欠席は不可とする。	

09年度以降	Writing Strategies I (火2)	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing &amp; revising.</p> <p>In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reorts on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer &amp; a printer as hand-written assignments will not be accepted</p> <p>In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.</p>		<p>Week 1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Beginning to Work</p> <p>Week 3: Giving &amp; Receiving Presents</p> <p>Week 4: A Favourite Place</p> <p>Week 5: An Exceptional Person</p> <p>Week 6: Trends &amp; Fads</p> <p>Week 7: White Lies</p> <p>Week 8: Explanations &amp; Excuses</p> <p>Week 9: Problems</p> <p>Week10:StrangeStories</p> <p>Week 11: Differences</p> <p>Week 12: Difficult Decisions</p> <p>Week 13: Finding Answers</p> <p>Week 14: Course Review</p> <p>Week 15: Final Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
'Writing Paragraphs' by Dorothy Zemach & Carlos Islam & Dictionary		Attendance & Punctuality 30% Class work & homework 40% Final Evaluation 30%	

09年度以降	Writing Strategies II (火2)	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing &amp; revising.</p> <p>In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reorts on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer &amp; a printer as hand-written assignments will not be accepted.</p> <p>In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.</p>		<p>Week 1: Process &amp; Pre-Writing</p> <p>Week 2: The Structure of a Paragraph</p> <p>Week 3: The Development of a Paragraph</p> <p>Week 4: Descriptive &amp; Process Paragraphs</p> <p>Week 5: Opinion Paragraphs</p> <p>Week 6: Comparison &amp; Contrast Paragraphs</p> <p>Week 7: Problem/Solution Paragraphs</p> <p>Week 8: The Structure of an Essay</p> <p>Week 9: Outlining an Essay</p> <p>Week10:Introduction&amp;Conclusions</p> <p>Week 11: Unity &amp; Coherence</p> <p>Week 12: Footnotes, References &amp; Citations</p> <p>Week 13: Essays for Examinations</p> <p>Week 14: Course Review</p> <p>Week 15: Final Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
'Writing Essays' by Dorothy Zemach & Lisa Ghulldu & Dictionary		Attendance & Punctuality 30% Class work & homework 40% Final Evaluation 30%	

09年度以降	Writing Strategies I (火3)	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing &amp; revising.</p> <p>In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reorts on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer &amp; a printer as hand-written assignments will not be accepted</p> <p>In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Beginning to Work  Week 3: Giving &amp; Receiving Presents  Week 4: A Favourite Place  Week 5: An Exceptional Person  Week 6: Trends &amp; Fads  Week 7: White Lies  Week 8: Explanations &amp; Excuses  Week 9: Problems  Week10:StrangeStories  Week 11: Differences  Week 12: Difficult Decisions  Week 13: Finding Answers  Week 14: Course Review  Week 15: Final Evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
'Writing Paragraphs' by Dorothy Zemach & Carlos Islam & Dictionary		Attendance & Punctuality 30% Class work & homework 40% Final Evaluation 30%	

09年度以降	Writing Strategies II (火3)	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing &amp; revising.</p> <p>In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reorts on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer &amp; a printer as hand-written assignments will not be accepted.</p> <p>In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.</p>		<p>Week 1: Process &amp; Pre-Writing  Week 2: The Structure of a Paragraph  Week 3: The Development of a Paragraph  Week 4: Descriptive &amp; Process Paragraphs  Week 5: Opinion Paragraphs  Week 6: Comparison &amp; Contrast Paragraphs  Week 7: Problem/Solution Paragraphs  Week 8: The Structure of an Essay  Week 9: Outlining an Essay  Week10: Introductions&amp;Conclusions  Week 11: Unity &amp; Coherence  Week 12: Footnotes, References &amp; Citations  Week 13: Essays for Examinations  Week 14: Course Review  Week 15: Final Evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
'Writing Essays' by Dorothy Zemach & Lisa Ghulldu & Dictionary		Attendance & Punctuality 30% Class work & homework 40% Final Evaluation 30%	

09年度以降	Writing Strategies I	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is concentrated on writing at the sentence level in the first semester and paragraph level in the second semester to promote accuracy in grammar usage. Students will observe and learn how to avoid common grammatical errors produced by second language learners of English. As students begin to write assignments, they will learn to: find ideas for their writing and express them in sentences, logically order sentences to form paragraphs, and strengthen their work through review and revision. On-line, video, and other sources including a text may be used in and outside of class.</p>		1 Course Introduction Warm up Activities 2 Unit 1 Family Choosing the Essay Topic 3 Unit 2 Quiz Terrorism Prewriting 4 Unit 3 Quiz Discrimination Topic Thesis/Topic Sentences 5 Unit 4 Quiz TV/Game Entertainment Organization 6 Unit 5 Quiz Bullying Introduction Paragraph 7 Unit 6 Quiz Marrying Types Body Paragraphs 8 Unit 7 Quiz Smoking/Drinking Conclusion 9 Unit 8 Quiz High School Traditions First Draft 10 Unit 9 Quiz Getting a Driver's License Editing 11 Unit 10 Quiz Changing the Past Rewriting 12 Quiz Second Draft 13 Editing/Rewriting 14 Final Draft 15 Return Essays and Final Comments/Conclusion  <b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: To Be Announced		Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, and other assignments.	

09年度以降	Writing Strategies II	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is concentrated on writing at the sentence level in the first semester and paragraph level in the second semester to promote accuracy in grammar usage. Students will observe and learn how to avoid common grammatical errors produced by second language learners of English. As students begin to write assignments, they will learn to: find ideas for their writing and express these in sentences, logically order sentences to form paragraphs, and strengthen their work through review and revision. On-line, video, and other sources including a text may be used in and outside of class.</p>		1 Course Introduction Warm up Activities 2 Unit 1 How My Parents Helped Me Choosing the Essay Topic 3 Unit 2 Quiz Children's Health/Exercise Prewriting 4 Unit 3 Quiz Economy/Jobs/Careers Topic Sentences/Thesis 5 Unit 4 Quiz Safe/Dangerous Neighborhoods Organization 6 Unit 5 Quiz Cosmetic Surgery Introductory Paragraph 7 Unit 6 Quiz Greatest Personal Success Body Paragraphs 8 Unit 7 Quiz Greatest Desire Conclusion 9 Unit 8 Quiz Dream Career First Draft 10 Unit 9 Quiz An Act of Heroism Editing 11 Unit 10 Quiz Rewriting 12 Second Draft 13 Editing/Rewriting 14 Final Draft 15 Return Essays and Final Comments/Conclusion  <b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: To Be Announced		Assessment is made on a weekly basis. Attendance, completion of class tasks and homework will be 70% of the grade. Final Project will be 30% of the grade.	

09年度以降	Writing Strategies I	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to provide a basic introduction to the process of writing with an emphasis on grammatical accuracy. Students will learn various methods of pre-writing and then put their ideas into sentences. In addition, students will gain an awareness of common grammatical problems in writing made by Japanese students.</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Sentence Writing  Week 3: Sentence Structure  Week 4: Topic Sentences  Week 5: Connectors  Week 6: Brainstorming  Week 7: Combining sentences with adjectives  Week 8: Capitalization  Week 9: Tenses  Week 10: Modals  Week 11: Conditional  Week 12: Passive  Week 13: Assignment  Week 14: Assignment &amp; Journals due  Week 15: Review &amp; Feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Writing Paragraphs  Dorothy E. Zemach &amp; Carlos Islam  Macmillan</p>		<p>Students will be evaluated on their writing assignments, journals and their classroom participation.</p>	

09年度以降	Writing Strategies II	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Points for further consideration:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Students will need an English-English dictionary</li> <li>● Students will be required to make weekly entries for journal writing</li> </ul>		<p>Week 1: Review &amp; Freewriting  Week 2: Facts &amp; Opinions  Week 3: Proofreading &amp; Editing  Week 4: Assignment  Week 5: Error Analysis &amp; revise writing  Week 6: Noun clauses  Week 7: Combining sentences with so &amp; because  Week 8: Using Time Expressions  Week 9: Assignment  Week 10: Error Analysis  Week 11: Relative Clauses  Week 12: Concluding sentences  Week 13: Writing a movie review  Week 14: Assignment &amp; Journals due  Week 15: Review &amp; Feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Writing Paragraphs  Dorothy E. Zemach &amp; Carlos Islam  Macmillan</p>		<p>Students will be evaluated on their writing assignments, journals and their classroom participation.</p>	

09年度以降	Writing Strategies I	担当者	D. マッキャン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, I shall aim to help students improve their writing ability, beginning with vocabulary and sentence level activities and progressing to paragraph organization and construction, stressing the function of the paragraph as a building block of more extended texts.</p> <p>Attention will be paid to both accuracy and fluency of expression, and many activities will focus on the interconnection between writing and the other aspects of language learning (listening, speaking and reading). Materials will be selected from various sources, including authentic spoken and written texts, and students will be encouraged to share their writing activities with their classmates both as audience and source of support.</p> <p>Grammatical issues will be covered as the need arises, with special emphasis on students' individual needs and problems specific to most Japanese learners of English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions</li> <li>2. English alphabet and punctuation</li> <li>3. Alphabet activities</li> <li>4. The paragraph. A personal letter</li> <li>5. letter exchange and response</li> <li>6. Writing narrative: opening paragraph</li> <li>7. Writing narrative: closing paragraph</li> <li>8. Book and movie reviews</li> <li>9. Students present their own review</li> <li>10. Free/fast writing</li> <li>11. Describing pictures and photographs</li> <li>12. Making paragraphs from comic strips</li> <li>13. Writing plans for summer vacation</li> <li>14. Written course review, with suggestions</li> <li>15. Summer holiday alphabet project</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced		Grading will be based on enthusiasm, performance of language tasks and attendance throughout the course	

09年度以降	Writing Strategies II	担当者	D. マッキャン
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Holiday writing activities</li> <li>2. Paragraph exchange and questions</li> <li>3. Preparing 300-word paragraph</li> <li>4. Guided writing of paragraph</li> <li>5. Advertisements for goods and services</li> <li>6. Students present their own chosen product</li> <li>7. Review of grammar</li> <li>8. Common errors in students' own work</li> <li>9. Poetry and song lyrics</li> <li>10. Presentation of student-selected text</li> <li>11. Gift-giving and receiving letter style</li> <li>12. Beyond the paragraph</li> <li>13. Writing about future plans</li> <li>14. Letter to classmates</li> <li>15. Survey of course and feedback</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced		Grading will be based on enthusiasm, performance of language tasks and attendance throughout the course	

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
This course has three overall objectives to give students maximum opportunities to communicate to build students' confidence in interpersonal communication to develop basic study skills needed for English-language courses at university level		1 Introduction & Orientation 2 First Impressions 3 Communicative & Cultural Awareness 4 Real English 5 Ice-breakers 6 Big Numbers 7 Big History 8 Big Film 9 Language-learning through film I 10 Language-learning through film II 11 Questioning: Food & Drink 12 Answering: Character & Personality 13 Listening: Music 14 Review 15 Course- & Self-evaluations	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook E-J/J-E dictionary required		Minimum two-thirds attendance required to pass Evaluation based upon continuous assessment of class participation and written assignments	

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
This course has three overall objective to give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills to build students' organizational skills in writing for public-speaking to develop students' confidence in speech communication from small to larger groups		1 Overview of the Creative Process 2 Presentation #1: Choosing Topic & Researching 3 Outlining & Drafting 4 Rehearsing & Editing 5 Presentation Week 6 The Gunpowder Plot 7 Orwell & English 8 <i>V for Vendetta</i> 9 Speech Therapy I 10 Speech Therapy II 11 Presentation #2: choosing topic & researching 12 Outlining & Drafting 13 Rehearsing & Editing 14 Presentation Week 15 Review & Evaluations	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook E-J/J-E dictionary required		Evaluation based upon quality of three written assignments and two presentations	

09年度以降	Comprehensive English I (月3)	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements.</li> <li>2. Cosmetic surgery: Is there too much emphasis on appearance these days?</li> <li>3. Can man and woman be close without romance?</li> <li>4. This session will focus on environmental issues.</li> <li>5. Teenage life with student presentations.</li> <li>6. Is plagiarism a crime?</li> <li>7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>8. What are the options for pregnant teenagers?</li> <li>9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues.</li> <li>10. How important is appearance in a relationship?</li> <li>11. Should adult children move out? Quiz on previous issue.</li> <li>12. Should employees go out with their bosses?</li> <li>13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. The changing role of women in society.</li> <li>15. Explanation of summer homework projects.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Title: <i>Impact Issues 3</i>  Author: Day, Shaules and Yamanaka  Publisher: Pearson/Longman</p>		<p>Students will be grade on attendance, classroom participation, homework and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English II (月3)	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Discussion will focus on summer projects.</li> <li>2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class.</li> <li>3. Is money more important than life style?</li> <li>4. Story telling techniques.</li> <li>5. The problems faced by immigrants.</li> <li>6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations.</li> <li>7. Does technology create distance in relationships?</li> <li>8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue.</li> <li>9. Career choices.</li> <li>10. Story telling techniques.</li> <li>11. When is war justified?</li> <li>12. The art of compromise.</li> <li>13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. Unrequited love.</li> <li>15. Story telling techniques.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Title: <i>Impact Issues 3</i>  Author: Day, Shaules and Yamanaka  Publisher: Pearson/Longman</p>		<p>Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English I (木3)	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements.</li> <li>2. Cosmetic surgery: Is there too much emphasis on appearance these days?</li> <li>3. Can man and woman be close without romance?</li> <li>4. This session will focus on environmental issues.</li> <li>5. Teenage life with student presentations.</li> <li>6. Is plagiarism a crime?</li> <li>7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>8. What are the options for pregnant teenagers?</li> <li>9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues.</li> <li>10. How important is appearance in a relationship?</li> <li>11. Should adult children move out? Quiz on previous issue.</li> <li>12. Should employees go out with their bosses?</li> <li>13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. The changing role of women in society.</li> <li>15. Explanation of summer homework projects.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Title: <i>Impact Issues 3</i>  Author: Day, Shaules and Yamanaka  Publisher: Pearson/Longman</p>		<p>Students will be grade on attendance, classroom participation, homework and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English II (木3)	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Discussion will focus on summer projects.</li> <li>2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class.</li> <li>3. Is money more important than life style?</li> <li>4. Story telling techniques.</li> <li>5. The problems faced by immigrants.</li> <li>6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations.</li> <li>7. Does technology create distance in relationships?</li> <li>8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue.</li> <li>9. Career choices.</li> <li>10. Story telling techniques.</li> <li>11. When is war justified?</li> <li>12. The art of compromise.</li> <li>13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. Unrequited love.</li> <li>15. Story telling techniques.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Title: <i>Impact Issues 3</i>  Author: Day, Shaules and Yamanaka  Publisher: Pearson/Longman</p>		<p>Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English I (月3)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Memories and keepsakes</li> <li>3. Opinions about food</li> <li>4. Crimes and mysteries</li> <li>5. Trends</li> <li>6. Errands</li> <li>7. Postgraduate plans</li> <li>8. Celebrations</li> <li>9. Fairy tales and folk stories</li> <li>10. The world of work</li> <li>11. Telecommunications</li> <li>12. Technology today</li> <li>13. Travel preparation</li> <li>14. Destinations</li> <li>15. Test- Poster presentation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests	

09年度以降	Comprehensive English II (月3)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Summer vacation</li> <li>2. Imagination,dreams,and rules</li> <li>3. Career plans</li> <li>4. Media</li> <li>5. Men and women</li> <li>6. Cultural differences</li> <li>7. Big business</li> <li>8. Health</li> <li>9. Sports and hobbies</li> <li>10. Social issues</li> <li>11. Wealth</li> <li>12. Honesty and lies</li> <li>13. Our earth</li> <li>14. Developing countries</li> <li>15. Test- Poster presentation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests	

09年度以降	Comprehensive English I (金2)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Memories and keepsakes</li> <li>3. Opinions about food</li> <li>4. Crimes and mysteries</li> <li>5. Trends</li> <li>6. Errands</li> <li>7. Postgraduate plans</li> <li>8. Celebrations</li> <li>9. Fairy tales and folk stories</li> <li>10. The world of work</li> <li>11. Telecommunications</li> <li>12. Technology today</li> <li>13. Travel preparation</li> <li>14. Destinations</li> <li>15. Test- Poster presentation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests	

09年度以降	Comprehensive English II (金2)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Summer vacation</li> <li>2. Imagination,dreams,and rules</li> <li>3. Career plans</li> <li>4. Media</li> <li>5. Men and women</li> <li>6. Cultural differences</li> <li>7. Big business</li> <li>8. Health</li> <li>9. Sports and hobbies</li> <li>10. Social issues</li> <li>11. Wealth</li> <li>12. Honesty and lies</li> <li>13. Our earth</li> <li>14. Developing countries</li> <li>15. Test- Poster presentation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests	

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to build students comprehensive English skills. This means that we will be working on speaking, listening, reading and writing, through a broad variety of materials, techniques and mediums.</p> <p>The first semester focusses more on speaking and reading.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions and course orientation.</li> <li>2. Speaking skills. Types of speaking.</li> <li>3. Learning about others. Identity.</li> <li>4. The big questions. Discussion and debate activities.</li> <li>5. Perspectives on the past.</li> <li>6. Presentation preparation.</li> <li>7. Presentations.</li> <li>8. Review activities.</li> <li>9. Talking about reading.</li> <li>10. Reading skills. Types of reading.</li> <li>11. Reading and analysis.</li> <li>12. Students' articles and discussion.</li> <li>13. Assessment preparation.</li> <li>14. Assessment.</li> <li>15. Course review.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be provided by the teacher and the students.		Students will be assessed through ongoing class performance and presentations.	

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to build students comprehensive English skills. This means that we will be working on speaking, listening, reading and writing, through a broad variety of materials, techniques and mediums.</p> <p>The second semester has a greater focus upon writing and listening.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course orientation and introductions.</li> <li>2. Talking about you.</li> <li>3. Selecting topics in speaking.</li> <li>4. Speech delivery skills, mini-presentations.</li> <li>5. Presentations.</li> <li>6. Writing in our lives.</li> <li>7. Topic selection and outlining for writing.</li> <li>8. Outline review and first draft composition.</li> <li>9. Peer review and proofreading.</li> <li>10. Final draft.</li> <li>11. Presenting your written work to your group.</li> <li>12. How to be a good listener.</li> <li>13. Audio-visual excerpts and listening activities.</li> <li>14. Assessment / presentation preparation.</li> <li>15. Final assessment / presentation.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be provided by the teacher and the students.		Students will be assessed through ongoing class performance, a written piece, and presentations.	

09年度以降	Comprehensive English I (金2)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this class is to provide the students of the Tourism Department with an interesting and educational course in modern American English that will be of use to them in future when they must utilize their language skills in the work force.</p>		<p>In this class, we shall use a Disney movie, (subtitled in English) to study modern American English. Each week, the students will watch one subtitled scene of approximately 10 minutes. We will then study, the vocabulary, idioms and grammar used in that scene. In this class, the students will be exposed to a great deal of modern, idiomatic English, and will have ample opportunities to speak with both each other and the instructor. I hope this will be an enjoyable and educational class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.</p>		<p>The students will be evaluated on attendance, class participation, a speaking test and a written report.</p>	

09年度以降	Comprehensive English II (金2)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Same as the above.</p>		<p>This course will have the same format as the earlier semester and will build and expand upon the skills the students developed in the first part of the course.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Same as above.</p>		<p>Same as above.</p>	

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of this course is to develop students' fluency and increase their confidence as English speakers</p> <p>Students will have ample opportunities to speak in class doing pair work and having small group discussions</p>		<p>Week 1: course introduction</p> <p>Week 2: unit 1</p> <p>Week 3: unit 1</p> <p>Week 4: unit 1</p> <p>Week 5: unit 2</p> <p>Week 6: unit 2</p> <p>Week 7: unit 2</p> <p>Week 8: unit 3</p> <p>Week 9: unit 3</p> <p>Week 10: unit 3</p> <p>Week 11: introduce project</p> <p>Week 12: project preparation</p> <p>Week 13: project preparation</p> <p>Week 14: presentations</p> <p>Week 15: review &amp; feedback</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Interchange Third Edition Student's Book 3A Jack C. Richards Cambridge</p>		<p>Students will be evaluated on tests, presentations and participation.</p>	

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Points for further consideration</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Students will need an English - English dictionary</li> <li>• Students will be required to have a notebook</li> </ul>		<p>Week 1: unit 5</p> <p>Week 2: unit 5 continued</p> <p>Week 3: unit 5 continued</p> <p>Week 4: unit 7</p> <p>Week 5: unit 7 continued</p> <p>Week 6: unit 7 continued</p> <p>Week 7: unit 8</p> <p>Week 8: unit 8 continued</p> <p>Week 9: unit 8 continued</p> <p>Week 10: introduce project</p> <p>Week 11: project research</p> <p>Week 12: preparing visual aids</p> <p>Week 13: presentations</p> <p>Week 14: presentations</p> <p>Week 15: review &amp; feedback</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Interchange Third Edition Student's Book 3A Jack C. Richards Cambridge</p>		<p>Students will be evaluated on tests, presentations and participation.</p>	

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centered, group learning activities, it is important to maintain for all students to maintain a friendly learning relationship.</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: Old Friends: Discussion  Week 3: Old Friends: Discussion  Week 4: Technology: Debate  Week 5: Technology: Debate  Week 6: Time Management: Issues  Week 7: Time Management: Issues  Week 8: Life in the City: Views  Week 9: Life in the City: Views  Week 10: Knowledge: Knowing vs Not Know  Week 11: Knowledge: Knowing vs Not Know  Week 12: Histories' Most Famous People  Week 13: Histories' Most Famous People  Week 14: Final Class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Course text will be introduced during the first lesson.		Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.	

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centered, group learning activities, it is important to maintain for all students to maintain a friendly learning relationship.</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: If only: The Way Things Should Be  Week 3: If only: The Way Things Should Be  Week 4: Travel: Making my Way in the World  Week 5: Travel: Making my Way in the World  Week 6: Life's Choices: Discussion  Week 7: Life's Choices: Discussion  Week 8: A Look into the Future: Views  Week 9: A Look into the Future: Views  Week 10: Preparation for Presentations  Week 11: Graded Presentations  Week 12: Graded Presentations  Week 13: Graded Presentations  Week 14: Final Class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Course text will be introduced during the first lesson.		. Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.	

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	P. M. ホーネス																														
講義目的、講義概要		授業計画																															
<p>This required course emphasizes oral communication in class in a variety of ways. The main goal for the students is to develop confidence in stating personal opinions not only verbally, but also in written form. The course will begin with personal topics and move toward more academic issues. Students will be expected to research information prior to classes as the course transitions from personal to academic topics. In addition, students are expected to set personal language goals to accomplish in the course.</p>		<table> <tr><td>1</td><td>Introduction</td></tr> <tr><td>2</td><td>Movies</td></tr> <tr><td>3</td><td>Shopping</td></tr> <tr><td>4</td><td>Music</td></tr> <tr><td>5</td><td>Dating</td></tr> <tr><td>6</td><td>Speaking tests</td></tr> <tr><td>7</td><td>Speaking tests</td></tr> <tr><td>8</td><td>Language and identity</td></tr> <tr><td>9</td><td>Group behavior</td></tr> <tr><td>10</td><td>School types</td></tr> <tr><td>11</td><td>MASK</td></tr> <tr><td>12</td><td>Tourism</td></tr> <tr><td>13</td><td>Eco-tourism</td></tr> <tr><td>14</td><td>Speaking tests</td></tr> <tr><td>15</td><td>Speaking tests</td></tr> </table>		1	Introduction	2	Movies	3	Shopping	4	Music	5	Dating	6	Speaking tests	7	Speaking tests	8	Language and identity	9	Group behavior	10	School types	11	MASK	12	Tourism	13	Eco-tourism	14	Speaking tests	15	Speaking tests
1	Introduction																																
2	Movies																																
3	Shopping																																
4	Music																																
5	Dating																																
6	Speaking tests																																
7	Speaking tests																																
8	Language and identity																																
9	Group behavior																																
10	School types																																
11	MASK																																
12	Tourism																																
13	Eco-tourism																																
14	Speaking tests																																
15	Speaking tests																																
テキスト、参考文献		評価方法																															
None		<table> <tr><td>Attendance</td><td>20</td></tr> <tr><td>Class Participation</td><td>15</td></tr> <tr><td>Speaking test #1</td><td>15</td></tr> <tr><td>Speaking test #2</td><td>30</td></tr> <tr><td>Written summaries</td><td>20</td></tr> </table>		Attendance	20	Class Participation	15	Speaking test #1	15	Speaking test #2	30	Written summaries	20																				
Attendance	20																																
Class Participation	15																																
Speaking test #1	15																																
Speaking test #2	30																																
Written summaries	20																																

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	P. M. ホーネス																														
講義目的、講義概要		授業計画																															
<p>This required course emphasizes the organizational skills of speech communication. Students will make speech presentations on academic issues. Students will concentrate on speech delivery skills such as posture, eye contact, and pacing that will make them more effective public speakers. Students will collect data outside of class and prepare that information to be presented in class. Students will be expected to use visual aids such as Power point in all of the presentations.</p>		<table> <tr><td>1</td><td>Introduction</td></tr> <tr><td>2</td><td>Personal item</td></tr> <tr><td>3</td><td>Work</td></tr> <tr><td>4</td><td>Reading</td></tr> <tr><td>5</td><td>Money</td></tr> <tr><td>6</td><td>Culture</td></tr> <tr><td>7</td><td>Speaking tests</td></tr> <tr><td>8</td><td>Speaking tests</td></tr> <tr><td>9</td><td>Survey</td></tr> <tr><td>10</td><td>Presentation preparation</td></tr> <tr><td>11</td><td>Presentation preparation</td></tr> <tr><td>12</td><td>Presentation preparation</td></tr> <tr><td>13</td><td>Final Presentation</td></tr> <tr><td>14</td><td>Final Presentation</td></tr> <tr><td>15</td><td>Final Presentation</td></tr> </table>		1	Introduction	2	Personal item	3	Work	4	Reading	5	Money	6	Culture	7	Speaking tests	8	Speaking tests	9	Survey	10	Presentation preparation	11	Presentation preparation	12	Presentation preparation	13	Final Presentation	14	Final Presentation	15	Final Presentation
1	Introduction																																
2	Personal item																																
3	Work																																
4	Reading																																
5	Money																																
6	Culture																																
7	Speaking tests																																
8	Speaking tests																																
9	Survey																																
10	Presentation preparation																																
11	Presentation preparation																																
12	Presentation preparation																																
13	Final Presentation																																
14	Final Presentation																																
15	Final Presentation																																
テキスト、参考文献		評価方法																															
None, but Speaking of Speech is an excellent book to help you understand the basic components of a speech.		<table> <tr><td>Attendance</td><td>20</td></tr> <tr><td>Mini-presentations:(4X5)</td><td>20</td></tr> <tr><td>Speaking test</td><td>15</td></tr> <tr><td>Final Presentation</td><td>30</td></tr> <tr><td>Written summaries</td><td>15</td></tr> </table>		Attendance	20	Mini-presentations:(4X5)	20	Speaking test	15	Final Presentation	30	Written summaries	15																				
Attendance	20																																
Mini-presentations:(4X5)	20																																
Speaking test	15																																
Final Presentation	30																																
Written summaries	15																																

09年度以降	Comprehensive English III	担当者	D. マツキヤン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed.</p> <p>Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.</p> <p>Grammatical issues will be covered as the need arises, with special emphasis on students individual needs and problems specific to most Japanese learners of English.</p>		<p>The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions</li> <li>2. Collecting introduction cards</li> <li>3. Travel topic alphabets</li> <li>4. Student profiles and expectations Listening</li> <li>5. Varieties of English</li> <li>6. Group discussion</li> <li>7. World music and song</li> <li>8. Students select song texts</li> <li>9. Presentation of song texts</li> <li>10. Discussion of song and music</li> <li>11. Students select summer holiday topic</li> <li>12. Preparation of holiday topic Materials</li> <li>13. Discussion on language strategies</li> <li>14. Written feedback/personal interviews</li> <li>15. Letter to classmates</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A selection of authentic language materials		Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities	

09年度以降	Comprehensive English IV	担当者	D. マツキヤン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed.</p> <p>Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.</p>		<p>The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review of holiday topics</li> <li>2. Presentations of chosen topics</li> <li>3. Imagination and Fantasy : animation,comics and cartoons</li> <li>4. Exchange reading and discussion</li> <li>5. Films, books and magazines</li> <li>6. Students discuss their favourites</li> <li>7. Language learning strategies</li> <li>8. Individual learning/studying styles</li> <li>9. Use of multimedia-discussion</li> <li>10. Students select presentation topic</li> <li>11. Presentation preparation</li> <li>12. Presentations</li> <li>13. Presentations</li> <li>14. Review of presentations</li> <li>15. Feedback writing-farewells</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A selection of authentic language materials		Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities	

09年度以降	Comprehensive English III	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The overall objective of this class is to teach students the skills in effective group discussion. Improve reading, verbal and comprehension skills using topical material.</p> <p>Identifying the main ideas from the reading material, analyzing information and drawing logical conclusions. Discussion of explicit and implicit information presented in the readings.</p> <p>Students will prepare and research weekly reading topics and come to class prepared to share their ideas, opinions and answers in pairs, groups and as a class discussion.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements &amp; start reading topic # 1</p> <p>Week 2: reading topic # 2</p> <p>Week 3: reading topic # 3</p> <p>Week 4: reading topic # 4</p> <p>Week 5: reading topic # 5</p> <p>Week 6: reading topic # 6</p> <p>Week 7: reading topic # Quiz</p> <p>Week 8: reading topic # 7</p> <p>Week 9: reading topic # 8</p> <p>Week 10: reading topic # 9</p> <p>Week 11: reading topic # 10</p> <p>Week 12: reading topic # 11</p> <p>Week 13: reading topic # 12</p> <p>Week 14: reading topic # 13</p> <p>Week 15: reading topic # Quiz</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Notes and handouts will be provided every week.		Weekly exercises, quizzes, report, and class participation.	

09年度以降	Comprehensive English IV	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The overall objective of this class is to teach students the skills in effective group discussion. Improve reading, verbal and comprehension skills using topical material.</p> <p>Identifying the main ideas from the reading material, analyzing information and drawing logical conclusions. Discussion of explicit and implicit information presented in the readings.</p> <p>Students will prepare and research weekly reading topics and come to class prepared to share their ideas, opinions and answers in pairs, groups and as a class discussion.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements &amp; start reading topic # 1</p> <p>Week 2: reading topic # 2</p> <p>Week 3: reading topic # 3</p> <p>Week 4: reading topic # 4</p> <p>Week 5: reading topic # 5</p> <p>Week 6: reading topic # 6</p> <p>Week 7: reading topic # Quiz</p> <p>Week 8: reading topic # 7</p> <p>Week 9: reading topic # 8</p> <p>Week 10: reading topic # 9</p> <p>Week 11: reading topic # 10</p> <p>Week 12: reading topic # 11</p> <p>Week 13: reading topic # 12</p> <p>Week 14: reading topic # 13</p> <p>Week 15: reading topic # Quiz</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Notes and handouts will be provided every week.		Weekly exercises, quizzes, report, presentation, and class participation.	

09年度以降	Comprehensive English III	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
To develop speaking, Listening and social skills. Students will work through successive cycles of preparation and practice on a given topic, culminating in a discussion, poster or PowerPoint presentation.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. My Life – students prepare poster presentations on aspects of their own life (hometown, high school, hobbies, family)</li> <li>3. My Life preparation</li> <li>4. My Life preparation</li> <li>5. My Life poster presentations</li> <li>6. History Project - Students in this project will go around Tokyo and give a presentation</li> <li>7. History Project</li> <li>8. History Project</li> <li>9. History Project</li> <li>10. History Project</li> <li>11. Cultural Problems - East is East</li> <li>12. Cultural Problems - East is East</li> <li>13. Cultural Problems - East is East</li> <li>14. A Remarkable person – Power point final presentations</li> <li>15. Semester revision</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook but students will be expected to have a dictionary and A4 File for all the handouts.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Attendance &amp; participation</li> <li>2) Presentations</li> <li>3) Attitude in class</li> <li>4) Essays and various work</li> </ol>	

09年度以降	Comprehensive English IV	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
To develop speaking, Listening and social skills. Students will work through successive cycles of preparation and practice on a given topic, culminating in either a discussion, poster or PowerPoint presentation.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Gaijin Interview project</li> <li>3. Gaijin Interview project</li> <li>4. Gaijin Interview project</li> <li>5. Gaijin Interview project - PowerPoint Presentation</li> <li>6. Life cycle of a friend</li> <li>7. Life cycle of a friend</li> <li>8. Life cycle of a friend</li> <li>9. Life cycle of a friend</li> <li>10. Life cycle of a friend - Make a Movie</li> <li>11. Movie, essay and Interview</li> <li>12. Movie, essay and Interview</li> <li>13. Movie, essay and Interview</li> <li>14. Movie, essay and Interview</li> <li>15. How can we learn English</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook but students will be expected to have a dictionary and A4 File for all the handouts.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Attendance &amp; participation</li> <li>2) Presentations</li> <li>3) Attitude in class</li> <li>4) Essays and various work</li> </ol>	

09年度以降	Comprehensive English III	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Expressing an opinion is something we all do. Every person from every culture does this almost daily. In this class, we will learn the nuances of the language used to express opinions. We will also learn about and practice participating in and leading group discussions.</p> <p>You will begin by reading about a teacher-selected topic. Then you will develop your opinions and present your ideas in an in-class discussion.</p> <p>You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers and your teacher.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Communication methods #1</li> <li>3. Communication methods #2</li> <li>4. Facts, Opinions and beliefs</li> <li>5. Connect and communicate ideas + events #1</li> <li>6. Connect and communicate ideas + events #2</li> <li>7. Communication activity day #1</li> <li>8. Communication activity day #2</li> <li>9. Review communication activity and experience</li> <li>10. Communication project #1 start</li> <li>11. Communication project #1 continued</li> <li>12. Communication project#1 final day</li> <li>13. Communication assessment and review #1</li> <li>14. Communication assessment test</li> <li>15. Final Assessment Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their discussion leadership.	

09年度以降	Comprehensive English IV	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Presenting your ideas and research in a coherent way is an essential life skill. This skill will take you a long way in your professional career.</p> <p>In this class, you will have the opportunity to research, practice with peers, and finally present an issue you have researched.</p> <p>You will begin by collecting ideas and background information and developing your ideas on the subject. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers and teacher.</p> <p>Finally, you will present your research in class and be assessed on it. You will need to use other media (video, power point, pictures, etc) to support your presentation.</p> <p>You will also analyze other presentations in order to build on and improve your own presentation skills.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. &amp; 3. Presentation analysis</li> <li>4. &amp; 5. How to choose a topic</li> <li>6. &amp; 7. Preparing a presentation</li> <li>8. &amp; 9. Critical analysis of ideas, data and background information</li> <li>10. First draft of presentation due</li> <li>11. Research and documentation of sources</li> <li>12. In-class major presentation for final assessment</li> <li>13. In-class major presentations for final assessment</li> <li>14. In-class major presentations for final assessment</li> <li>15. Final Assessment Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their presentations.	

09年度以降	Comprehensive English III	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) research, learn about, and actively discuss hobbies, preferences, plans, and World Issues, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting discussions about those topics</i>, in English; and</p> <p>d) prepare and 'give' (present) a DYNAMIC English <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review/practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for INTERNATIONAL topics/themes which they would like to learn &amp; study</i>.</p> <p>Week 3: 'What are your plans for Golden Week?': explaining Future activities, in Modern English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment.</p> <p>Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with discussion thereof.</p> <p>Week 5: Student hobbies, and explaining thereof, in Modern English. Pair practice thereof. Continuous assessment. <b>Mother's Day</b> song and/or discussion.</p> <p>Week 6: Discussion of recent <b>International News</b> articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Ongoing student assessment.</p> <p>Week 7: Preparations for making presentations &amp; discussions. International vs. Domestic <b>etiquette and manners (EQ)</b>.</p> <p>Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment.</p> <p>Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of --- do you like?': explaining preferences, in Modern English.</p> <p>Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listening exercise.</p> <p>Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. Presentations.</p> <p>Week 12: Further student presentations &amp; class discussion. Video and/or song listening &amp; discussion exercise.</p> <p>Week 13: Final presentations. 'What do you think of ---?': <b>Giving your opinions</b> about various topics.</p> <p>Week 14: Giving opinions, part two: <b>elaborating</b>. Final presentations. Ongoing assessment.</p> <p>Week 15: Final presentations. If time remains: discussing &amp; explaining <b>future plans for the Summer</b>.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. <b>IF</b> a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>summarize &amp; present</b> your topic; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be <b>tentatively</b> &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (30%); and attendance (20%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) lateness will also affect your grade in this course. (<b>One late = 1/2 absence.</b>)</p>	

09年度以降	Comprehensive English IV	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to MORE EFFECTIVELY:</p> <p>a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) research, learn about, and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>MORE DYNAMIC, interesting discussions about those topics</i>, in English; and</p> <p>d) research and 'give' (present) a DYNAMIC &amp; EFFECTIVE English <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your <b>Summer Break</b>, using modern English.</p> <p>Week 2: "Used to": four different usages of 'used to'; with pair practice. Continuous assessments.</p> <p>Week 3: Researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video.</p> <p>Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone. Ongoing assessments.</p> <p>Week 5: Practice with <b>telephone invitations</b>. Hallowe'en discussion, and/or video.</p> <p>Week 6: <b>Restaurant ordering</b>, in English, at sit-down restaurants. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening &amp; discussion.</p> <p>Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (&amp; recommendations) of those short presentation 'intros'.</p> <p>Week 8: <b>Thanksgiving</b> history; and usual Thanksgiving customs &amp; dates. '<b>What are you thankful for?</b>' Further short 'demo' presentations; peer-assessment &amp; recommendations, re: those 'demo' presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations.</p> <p>Week 10: Asking for, and giving, <b>street directions</b> and/or <b>train directions</b>, in English. Pair practice of that. Student presentations begin.</p> <p>Week 11: Class presentations &amp; discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video.</p> <p>Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations.</p> <p>Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Discussing &amp; pair-practicing <b>New Year's Resolutions</b>. Last opportunity for class presentations.</p> <p>Week 15: Finalizing <b>specific</b> New Year's Resolutions. <i>If</i> time remains: discussion of <b>future plans</b> (for the February &amp; March Break).</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. <b>IF</b> a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you research, summarize, and present information in English; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (30%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) lateness will also affect your grade in this course. (<b>One late = 1/2 absence.</b>)</p>	

09年度以降	E-learning I	担当者	倉林 秀男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] Writing Strategies、Reading Strategiesなどの、教室での対面授業で習ったスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1週目および2週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと。</li> <li>● 初回授業後すぐにPCでの課題に取りかかることになる。自宅あるいは学内のPCを使用することになるので、学内のPCを利用するためのIDとパスワードを常に携帯すること。</li> <li>● 通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし、自主的に学習を進めること。</li> <li>● 4週目以降は隔週で対面授業（確認テスト）を行うので、指定教室に集合すること。</li> <li>● 計画的に学習を進めないと単位の取得は難しいので、十分注意すること。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体ガイダンス</li> <li>2. Criterion ガイダンス、Criterion (1)</li> <li>3. 自習</li> <li>4. ALC テスト(1)、Criterion (2)</li> <li>5. 自習</li> <li>6. ALC テスト(2)、Criterion (3)</li> <li>7. 自習</li> <li>8. ALC テスト(3)、Criterion (4)</li> <li>9. 自習</li> <li>10. ALC テスト(4) (中間試験)、Criterion (5)</li> <li>11. 自習</li> <li>12. ALC テスト(5)、Criterion(6)</li> <li>13. 自習</li> <li>14. ALC テスト(6)、Criterion (7)</li> <li>15. 自習</li> </ol> <p>ALC テスト(7) (定期試験)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン学習教材 (ALC NetAcademy 2, Criterion)		(a)テストの得点、(b)課題の提出回数、(c)課題の評定から総合的に評価する。	

09年度以降	E-learning II	担当者	倉林 秀男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] Writing Strategies、Reading Strategiesなどの、教室での対面授業で習ったスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1週目および2週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと。</li> <li>● 通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし、自主的に学習を進めること。</li> <li>● 3週目以降は隔週で対面授業（確認テスト）を行うので、指定教室に集合すること。</li> </ul> <p>計画的に学習を進めないと単位の取得は難しいので、十分注意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体ガイダンス</li> <li>2. Criterion ガイダンス、Criterion (1)</li> <li>3. 自習</li> <li>4. ALC テスト(1)、Criterion (1)Feedback</li> <li>5. 自習</li> <li>6. ALC テスト(2)、Criterion (2)</li> <li>7. 自習</li> <li>8. ALC テスト(3)、Criterion (2)Feedback</li> <li>9. 自習</li> <li>10. ALC テスト(4) (中間試験)、Criterion (3)</li> <li>11. 自習</li> <li>12. ALC テスト(5)、Criterion(3)Feedback</li> <li>13. 自習</li> <li>14. ALC テスト(6)、Criterion (4)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>ALC テスト(7) (定期試験)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン学習教材 (ALC NetAcademy 2, Criterion)		(a)テストの得点、(b)課題の提出回数、(c)課題の評定から総合的に評価する。	

09年度以降	英語専門講読 I (Japanese Art & Culture)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting.</p> <p>Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced.</p> <p>Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.</p>		<p>Exhibitions for study during the spring semester will include one or two from the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• サントリー美術館 「もののあはれ」と日本の美（仮称）」 4月17日～6月16日</li> <li>• 三井記念美術館 「河鍋暁斎の能・狂言画」 4月20日～6月16日</li> <li>• MOA美術館 「企画展 江戸の四季－浮世絵に見る歳時とくらし－」 6月14日～7月23日</li> <li>• サントリー美術館 「生誕250周年 谷文晁（仮称）」 7月3日～8月25日</li> </ul> <p>Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next. Class 15 will focus on review and assessment.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (20%), the completion of homework assignments (20%), and achievement on quizzes (25%) and a final essay (35%).	

09年度以降	英語専門講読 II (Japanese Art & Culture)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting.</p> <p>Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced.</p> <p>Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.</p>		<p>Exhibitions for study during the fall semester will include one or two from the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 出光美術館 「日本の美・発見 VIII 仙厓と禅の世界 特集展示：一休ゆかりの床菜菴コレクション」 9月21日～11月4日</li> <li>• 東京国立博物館 「特別展 京都－洛中洛外図と障壁画の美」 10月8日～12月8日</li> <li>• 出光美術館 「江戸の狩野派 一優美への革新」 11月12日～12月15日</li> </ul> <p>Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next. Class 15 will focus on review and assessment.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (20%), the completion of homework assignments (20%), and achievement on quizzes (25%) and a final essay (35%).	

09年度以降	英語専門講読 I (Critically thinking things through)	担当者	小西 卓三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>価値や意見の多様性を求めていく時代には、論争的な話題について考えていくことが大事になります。この授業では、議論の評価・作成をおこなうことによって、議論とは何か、論争にかかわるとは何かといったことを考えていきます。具体的には主に新聞や雑誌記事を分析、解釈することで、議論に関わるスキルの育成や、議論にかかわる際の望ましい態度の醸成を目指します。</p> <p>授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になります。まず重要な概念を学びそれを用いて考えていくという流れをとるため、学期が進むにつれて授業参加の重要性が増していきます。</p>		<p>1 Course Overview 2 What is argument? 3 Argument structure 4 Argument structure 5 Argument evaluation: acceptability 6 Argument evaluation: acceptability 7 Mid-term exam 8 Argument evaluation: relevance 9 Argument evaluation: relevance 10 Argument evaluation: strength 11 Argument evaluation: strength 12 Evaluating a sidetracking argument 13 Evaluating a sidetracking argument 14 Evaluating a sidetracking argument 15 Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に配布		授業参加、レポート、試験の総合評価による。	

09年度以降	英語専門講読 II (Critically thinking things through)	担当者	小西 卓三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の続きです。目的や授業形態は春学期と同じです。この学期では analogy (類推), causality (因果関係)などの特定の議論タイプ、視覚的議論に関して検討した後、実際の社会的論争について考えてみます。</p> <p>授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になりますが、本学期はグループワークの比重が前期よりも高くなります。</p>		<p>1 Retrospect and Prospect 2 Analogical argument 3 Analogical argument 4 Analogical argument 5 Causal argument 6 Causal argument 7 Causal argument 8 Mid-term 9 Visual argument 10 Visual argument 11 Visual argument 12 Controversies 13 Controversies 14 Controversies 15 Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に配布		授業参加、レポート、試験の総合評価による。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (インタビューやニュースの SCRIPT を読む)	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。 ただこのことは、往々にして忘れられがちである。</p> <p>当講座は、英会話以上の英語（スピーチ・レクチャー・インタビューetc）を聴いて理解できるようにするためにはどうしたらよいか、そのスキルを会得するためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルの SCRIPT を使って、聴解力アップのためのいろいろな読み方を体験してもらおう。</p> <p>なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>聴解能力には、読解能力だけでなく、スピードもまた重要となってくる。そこで、学生には、文頭からの読み、予測読み、速読など（英語を聴いて理解するための読みの技術）を教えていきたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとに SCRIPT のプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (インタビューやニュースの SCRIPT を読む)	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとに SCRIPT のプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

09年度以降	英語専門講読 I (Endangered languages: exploring the issues)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Language is what makes us human. And yet, in the midst of the extinction of most living languages across the planet, we understand so little about the significance of this loss to our future and even less about why we should care. This course will focus on both issues in language endangerment—an exploration of the reasons and processes underlying language endangerment and extinction—and the steps that people are taking to save languages.</p> <p>A word of advice: This course will require careful reading of a textbook that many students will find very challenging to read. I recommend this course only for students who are genuinely interested in this topic and who are willing to devote the time and effort it takes to understand the issues.</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2-3 Warramurrungunji's children</p> <p>4-6 Four millennia to tune it</p> <p>7 Test #1</p> <p>8-11 A Galapagos of tongues</p> <p>12-14 Your mind in mine: Social cognition in grammar</p> <p>15 Test #2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Dying Words: Endangered Languages And What They Have To Tell Us.</i> (2010). Nicholas Evans. Wiley-Blackwell Publishers</p>		<p>Students will be evaluated on their attendance, participation in class, written assignments, and tests.</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (Endangered Languages: exploring the issues)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Language is what makes us human. And yet, in the midst of the extinction of most living languages across the planet, we understand so little about the significance of this loss to our future and even less about why we should care. This course will focus on both issues in language endangerment—an exploration of the reasons and processes underlying language endangerment and extinction—and the steps that people are taking to save languages.</p> <p>A word of advice: This course will require careful reading of a textbook that many students will find very challenging to read. I recommend this course only for students who are genuinely interested in this topic and who are willing to devote the time and effort it takes to understand the issues.</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2-3 Sprung from some common source</p> <p>4-6 Travels in the logosphere</p> <p>7 Test #1</p> <p>8-11 Trellises of the mind: How language shapes thought</p> <p>12-14 What verse and verbal art can weave</p> <p>15 Test #2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Dying Words: Endangered Languages And What They Have To Tell Us.</i> (2010). Nicholas Evans. Wiley-Blackwell Publishers</p>		<p>Students will be evaluated on their attendance, participation in class, written assignments, and tests.</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (生成文法理論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 20世紀の言語学を主導したNoam Chomskyが1968年に公刊した、生成文法理論が人間の精神の研究にいかに関与するかを論じた論文を読み、生成文法理論の神髄を理解しながら、英語の読解力を伸ばすことを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> 春学期は、Chomsky (1968) “Linguistic contributions to the study of mind: present”という文献の前半部を読む。ここでは、心理学の研究の困難な理由、言語と精神の研究、言語の知識の研究、人間における規則の体験の内在化、説明理論としての文法、普遍文法と個別文法の関係、深層構造の必要性、深層構造の意味解釈への貢献、曖昧な文の説明、削除現象、削除に関する条件、英語の音構造・語派生の説明、音韻構造の説明と規則の循環適用といった問題を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. a difficulty in psychological sciences</li> <li>2. the study of language and mind</li> <li>3. the study of the knowledge of language</li> <li>4. internalizing a system of rules</li> <li>5. a grammar as an explanatory theory</li> <li>6. universal and particular grammars</li> <li>7. the necessity of deep structure</li> <li>8. the contribution to semantic interpretation; <u>MIDTERM EXAM</u></li> <li>9. the explanation of ambiguous sentences</li> <li>10. deletion phenomena</li> <li>11. deletion operation</li> <li>12. a condition on deletion</li> <li>13. the explanation of sound structures 1 (<i>sign – signify</i>)</li> <li>14. the explanation of sound structures 2 (<i>right – righteous</i>)</li> <li>15. sound structure and cyclic application; <u>TERM EXAM</u></li> </ol>	
テキスト・参考文献		評価方法	
テキスト: Chomsky, Noam “Linguistic contributions to the study of mind: present” (1968, 1972, 200)		中間試験(40%程度)と期末試験(40%程度)と受講状況に基づき総合的に評価する。単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

09年度以降	英語専門講読 II (生成文法理論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 20世紀の言語学を主導したNoam Chomskyが1968年に公刊した、生成文法理論が人間の精神の研究にいかに関与するかを論じた論文を読み、生成文法理論の神髄を理解しながら、英語の読解力を伸ばすことを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> 秋学期は、Chomsky (1968) “Linguistic contributions to the study of mind: present”という文献を春学期に引き続き用い、後半部を読む。ここでは、統語規則の循環適用、代名詞化規則、代名詞化規則と普遍文法、英語のWh-疑問文の形成、Wh-疑問文形成に関する条件、上位優先の原理(A-over-A principle)、上位優先の原理の問題点、言語理論における透明性(transparency)の特徴、定性(definiteness)条件、不定詞節の主語の解釈、構造依存性の特徴、普遍文法の諸原理と人間言語といった問題を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. cyclic application in syntax</li> <li>2. a rule of pronominalization</li> <li>3. a rule of pronominalization and universal grammar</li> <li>4. the formation of Wh-questions</li> <li>5. a condition on formation of Wh-questions (1)</li> <li>6. a condition on formation of Wh-questions (2)</li> <li>7. the A-over-A principle (1)</li> <li>8. the A-over-A principle (2); <u>MIDTERM EXAM</u></li> <li>9. problems with the A-over-A principle</li> <li>10. a property of transparency</li> <li>11. the definiteness condition</li> <li>12. the interpretation of the subject of infinitives (1)</li> <li>13. the interpretation of the subject of infinitives (2)</li> <li>14. a property of structure dependency</li> <li>15. the principles of UG and the human language; <u>TERM EXAM</u></li> </ol>	
テキスト・参考文献		評価方法	
テキスト: Chomsky, Noam “Linguistic contributions to the study of mind: present” (1968, 1972, 200)		中間試験(40%程度)と期末試験(40%程度)と受講状況に基づき総合的に評価する。単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

09年度以降	英語専門講読 I (ミステリー・サスペンス短編小説の解説 1)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>日本人向けに書かれた英語ではなく、英語圏の人びとが娯楽として読む文学性の高い作品を熟読することによって、内容の理解だけではなく、該当する社会の歴史や文化的事項を深く理解していく。</p> <p>【講義概要】</p> <p>19世紀終わりから現在を代表する欧米のミステリー、サスペンス短編小説を読む。時代背景、場所の歴史的社会的背景、登場人物の社会階級、人種、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教などさまざまな要素と内容との関連性について深く考えていく。</p> <p>視覚的資料にも多く利用する。 グループワークを採り入れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 コナン・ドイル</li> <li>3 コナン・ドイル</li> <li>4 コナン・ドイル</li> <li>5 コナン・ドイル</li> <li>6 ヒッチコック選集</li> <li>7 ヒッチコック選集</li> <li>8 ヒッチコック選集</li> <li>9 ヒッチコック選集</li> <li>10 ヒッチコック選集</li> <li>11 エドガー・アラン・ポー</li> <li>12 サスペンス賞受賞作品</li> <li>13 サスペンス賞受賞作品</li> <li>14 サスペンス賞受賞作品</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配る。		毎回の課題(40%)、グループワーク(10%)、試験(50%)。	

09年度以降	英語専門講読 II (ミステリー・サスペンス短編小説の解説 2)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>引き続き、ミステリー、サスペンス短編小説を読んでいく。</p> <p>【講義概要】</p> <p>同上。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 米国カリフォルニア州を舞台にしたミステリー</li> <li>2 米国カリフォルニア州を舞台にしたミステリー</li> <li>3 米国カリフォルニア州を舞台にしたミステリー</li> <li>4 米国カリフォルニア州を舞台にしたミステリー</li> <li>5 米国東海岸の町を舞台にしたミステリー</li> <li>6 米国東海岸の町を舞台にしたミステリー</li> <li>7 米国東海岸の町を舞台にしたミステリー</li> <li>8 米国東海岸の町を舞台にしたミステリー</li> <li>9 米国東海岸の町を舞台にしたミステリー</li> <li>10 ミステリー短編特選</li> <li>11 ミステリー短編特選</li> <li>12 ミステリー短編特選</li> <li>13 ミステリー短編特選</li> <li>14 講義のまとめ</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配る。		毎回の課題(40%)、グループワーク(10%)、試験(50%)。	

09年度以降	英語専門講読 I (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じ、『白雪姫』から『ジャングル・ブック』まで、Walt Disney 存命中の長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡をたどります。Disney 映画と、それを核として広がる壮大な Disney 文化の世界は、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。</p> <p>全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自 (skeptical な観かたで) 視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期コース・オリエンテーション</li> <li>2. Launching the Animated Feature</li> <li>3. Seven Dwarfs for Snow White</li> <li>4. New Tools 1</li> <li>5. New Tools 2</li> <li>6. Disney's Folly</li> <li>7. Pinocchio</li> <li>8. Fantasia</li> <li>9. Bambi</li> <li>10. Economizing: Dumbo</li> <li>11. The New Studio, The Strike, and the War 1</li> <li>12. The New Studio, The Strike, and the War 2</li> <li>13. Cinderella Restores the Glory</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas, Bob, <i>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</i>, Hyperion, New York, 1991.</p> <p>他の参考文献等については、授業中に随時紹介。</p>		<p>授業貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期から引き続き、Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じて、Disney 映画の軌跡をたどります。</p> <p>秋学期は、Walt の存命中の作品だけでなく、Walt 亡き後のスタジオの作品（『リトル・マーメイド』まで）も扱います。受講者の皆さんには、引き続きテキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>春学期と同じく、授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。</p> <p>全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自 (skeptical な観かたで) 視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The Anthology Features</li> <li>2. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 (Alice)</li> <li>3. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 (Peter Pan)</li> <li>4. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 (L&amp;T)</li> <li>5. Sleeping Beauty Awakens</li> <li>6. Walt Disney's Last Films</li> <li>7. Carrying on the Tradition</li> <li>8. The Black Cauldron</li> <li>9. A New Regime and a Rebirth</li> <li>10. A New Regime and a Rebirth</li> <li>11. Who Framed Roger Rabbit</li> <li>12. Triumph: The Little Mermaid</li> <li>13. The Rescuers Down Under</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas, Bob, <i>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</i>, Hyperion, New York, 1991.</p> <p>他の参考文献等については、授業中に随時紹介。</p>		<p>授業貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の1つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくこととなりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction</li> <li>2 Overview</li> <li>3 Overview</li> <li>4 Overview</li> <li>5 Phrase Structure</li> <li>6 Phrase Structure</li> <li>7 Phrase Structure</li> <li>8 Binding</li> <li>9 Binding</li> <li>10 Binding</li> <li>11 Binding</li> <li>12 Empty Pronoun PRO</li> <li>13 Empty Pronoun PRO</li> <li>14 Review</li> <li>15 Review</li> </ol> <p>※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p> <p>※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『チョムスキー理論辞典』 研究社</p>		<p>出席&amp;授業参加率(30%)、レポート&amp;試験(70%)の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の1つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくこととなりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Anaphors</li> <li>2 Anaphors</li> <li>3 Anaphors</li> <li>4 Government</li> <li>5 Government</li> <li>6 Types of Subject</li> <li>7 Types of Subject</li> <li>8 Types of Subject</li> <li>9 Pronouns</li> <li>10 Pronouns</li> <li>11 Pronouns</li> <li>12 Referential Expressions</li> <li>13 Referential Expressions</li> <li>14 Review</li> <li>15 Review</li> </ol> <p>※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『チョムスキー理論辞典』 研究社</p>		<p>出席&amp;授業参加率(30%)、レポート&amp;試験(70%)の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (The Language of Movies)	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The use of idiomatic language in spoken English is so common in ordinary speech that it makes learning English as a second language seem like an impossible task. The speed at which conversations are conducted also makes it challenging. The vocabulary usage as well presents obstacles. This is not to mention the difficulty of understanding nuances or the pragmatics of language. The aim of this class, then, is to investigate contemporary language usage through the analysis of film; to help students gain a new perspective on how to think about language.</p> <p>Movie scripts and movie reviews will serve as the primary texts.</p> <p>Each semester one or two movies will be viewed and the language will be analyzed. The goal for students in this course is to gain a fuller understanding of how language is used in relation to context/situation by looking at the following: Pragmatics, Idiomatic usage vocabulary, and cultural differences.</p> <p>Students interested in this course should have an interest in language and the language used in movies.</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Viewing and analysis  Week 3: Lecture and discussion  Week 4: Viewing and analysis  Week 5: Lecture and discussion  Week 6: Viewing and analysis  Week 7: Lecture and discussion  Week 8: Viewing and analysis  Week 9: Lecture and discussion  Week 10: Viewing and analysis  Week 11: Lecture and discussion  Week 12: Viewing and analysis  Week 13: Lecture and discussion  Week 14: Viewing and analysis  Week 15: Final summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Movie scripts from motion pictures. Movie reviews.		Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.	

09年度以降	英語専門講読 II (The Language of Movies)	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The use of idiomatic language in spoken English is so common in ordinary speech that it makes learning English as a second language seem like an impossible task. The speed at which conversations are conducted also makes it challenging. The vocabulary usage as well presents obstacles. This is not to mention the difficulty of understanding nuances or the pragmatics of language. The aim of this class, then, is to investigate contemporary language usage through the analysis of film; to help students gain a new perspective on how to think about language.</p> <p>Movie scripts and movie reviews will serve as the primary texts.</p> <p>Each semester one or two movies will be viewed and the language will be analyzed. The goal for students in this course is to gain a fuller understanding of how language is used in relation to context/situation by looking at the following: Pragmatics, Idiomatic usage vocabulary, and cultural differences.</p> <p>Students interested in this course should have an interest in language and the language used in movies</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Viewing and analysis  Week 3: Lecture and discussion  Week 4: Viewing and analysis  Week 5: Lecture and discussion  Week 6: Viewing and analysis  Week 7: Lecture and discussion  Week 8: Viewing and analysis  Week 9: Lecture and discussion  Week 10: Viewing and analysis  Week 11: Lecture and discussion  Week 12: Viewing and analysis  Week 13: Lecture and discussion  Week 14: Viewing and analysis  Week 15: Final summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Movie scripts from motion pictures. Movie reviews.		Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.	

09年度以降	英語専門講読 I (現代イギリス小説)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、英国の作家ジョージ・オーエルの小説 <i>Nineteen Eighty-four</i> (1948年作品) を読む。</p> <p>ここで描かれているのは、ビッグ・ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は3つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。</p> <p>人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”)」である。この20世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。</p>		<p>毎回、講読を行う。講読の実際のやり方、進捗については、参加者の様子を見て決定、調整する。折を見て、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末にレポートを課す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。	

09年度以降	英語専門講読 II (現代イギリス小説)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。		春学期の続き。	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (戦後国際政治史)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。</p> <p>毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお授業終了後には、英文和訳や内容確認の小テストを毎週行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。</p> <p>テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。</p> <p>*なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも5ページ分は読んでおくこと。<u>テキスト(もしくはコピー)を持参していないものの受講は認めない</u>。また、前年度以前に永野の専門講読をすでに受講している者は受講できない。</p>		<p>1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始(第1週)</p> <p>2. 各章、各セクション、各パラグラフの内容確認(第2～第15週)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert J. McMahon, <i>Cold War: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2003.		評価は次の3点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③小テスト(35%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (戦後国際政治史)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。</p> <p>毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠になる。なお授業終了後には、和文英訳の小テストを毎週行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。</p> <p>テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は要注意。</p> <p>*なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも5ページ分は読んでおくこと。<u>テキスト(もしくはコピー)を持参していないものの受講は認めない</u>。また、前年度以前に永野の専門講読をすでに受講している者は受講できない。</p>		<p>1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始(第1週)</p> <p>2. 各章、各セクション、各パラグラフの内容確認(第2～第15週)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert J. McMahon, <i>Cold War: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2003.		評価は次の3点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③小テスト(35%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。	

09年度以降	英語専門講読 I (対人コミュニケーションの理論)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give oral presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English.</p> <p>This course is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development.</p> <p>*内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Introduction (pp. 1-5)</li> <li>3. Communication by design (pp. 6-15)</li> <li>4. Reality, perception and the project of self (pp. 16-23)</li> <li>5. Vital cues (pp. 23-30)</li> <li>6. Reading the signs (pp. 31-36)</li> <li>7. The targeting of identity (pp. 36-43)</li> <li>8. Exploration of the nature of identity (pp. 48-56)</li> <li>9. The challenges of late modernity (pp. 57-63)</li> <li>10. Self and social identities (pp. 66-73)</li> <li>11. Roles: An introduction (pp. 73-79)</li> <li>12. Roles found in groups (pp. 79-86)</li> <li>13. Analysing interaction in groups (pp. 86-94)</li> <li>14. Summary</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Hill, A., Watson, J., Rivers, D. &amp; Joyce, M. (2007). <i>Key themes in interpersonal communication</i>. Berkshire, UK: Open University Press.</p> <p>* 各自で購入してください。</p>		Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)	

09年度以降	英語専門講読 II (対人コミュニケーションの理論)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give oral presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English.</p> <p>This course is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development.</p> <p>*内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Social identities (pp. 96-100)</li> <li>3. Ethnicity and language (pp. 100-108)</li> <li>4. Gender identities (pp. 108-117)</li> <li>5. Gender and non-verbal communication (pp. 117-123)</li> <li>6. Non-verbal communication, culture and consumption (pp. 126-132)</li> <li>7. Spatial behaviour (pp. 132-139)</li> <li>8. Non-verbal communication, identity and consumption (pp. 139-145)</li> <li>9. Cross-cultural communication (pp. 147-156)</li> <li>10. THT: Cross-cultural profiles (pp. 156-162)</li> <li>11. Ethnocentrism, stereotypes and prejudice (pp. 162-168)</li> <li>12. Identity, culture and outsiders (pp. 170-176)</li> <li>13. Disability: Becoming disabled (pp. 177-188)</li> <li>14. Summary</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Hill, A., Watson, J., Rivers, D. &amp; Joyce, M. (2007). <i>Key themes in interpersonal communication</i>. Berkshire, UK: Open University Press.</p> <p>* 各自で購入してください。</p>		Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)	

09年度以降	英語専門講読 I (現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、国際関係論の中でも民主化、「アラブの春」、核拡散、北朝鮮情勢などの個別イシューを扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>World Affairs</i>、<i>Foreign Policy</i> などに掲載された論文を用いる。これら論文を通して、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。</p> <p>基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3名で1つのグループを形成し、発表を行ってもらう。</p> <p>授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。</p> <p>なお、第1回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。</p>		<p>第1回 オリエンテーション、発表者決め 第2～15回 発表、ディスカッション</p> <p>(論文例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Zbigniew Brezinezinski, Balancing the East, Upgrading the West, <i>Foreign Affairs</i>, Jan./Feb. 2012.</li> <li>• Christopher Layne, The Global Power Shift from West to East, <i>The National Interest</i>, May/June 2012.</li> <li>• Fouad Ajami, The Arab Spring at One, <i>Foreign Affairs</i>, March/ April 2012.</li> <li>• Naoko Aoki, Korea's Third Kim: Will Anything Change?, <i>World Affairs</i>, March/ April 2012.</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜配布する。		出席、授業への参加態度、発表、課題、学期末レポートの総合評価とする。	

09年度以降	英語専門講読 II (現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、国際関係論の中でも米中関係、国連改革、人口増加、エネルギー問題などの個別イシューを扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>World Affairs</i>、<i>Foreign Policy</i> などに掲載された論文を用いる。これら論文を通して、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。</p> <p>基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3名で1つのグループを形成し、発表を行ってもらう。</p> <p>授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。</p> <p>なお、第1回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。</p>		<p>第1回 オリエンテーション、発表者決め 第2～15回 発表、ディスカッション</p> <p>(論文例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Henry A. Kissinger, The Future of US- Chinese Relations: Conflict is a Choice, Not a Necessity, <i>Foreign Affairs</i>, March/April 2012.</li> <li>• Kenneth N. Waltz, Why Iran Should Get the Bomb: Nuclear Balancing Would Mean Stability. <i>Foreign Affairs</i>, July/ August 2012.</li> <li>• Thomas G. Weiss, A Pipe Dream? Reforming the United Nations, <i>Harvard International Review</i>, Spring 2011.</li> <li>• Robert Kunzig, Population 7 Billion, <i>National Geographic</i>, Jan. 2011.</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜配布する。		出席、授業への参加態度、発表、課題、学期末レポートの総合評価とする。	

09年度以降	英語専門講読 I (SLA 実証研究論文)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【概要と目的】</p> <p>言語習得は人間ならではの能力、知識、技能が複雑に絡み合った不思議な現象です。その中でも第二言語習得 (SLA: second language acquisition) は学習環境、学習者の年齢・動機付け・適正等の個人差要因、教授法など、さらに多くの要素が絡み合っているもので、高度な研究の対象になり得ます。</p> <p>この授業では SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文(一つの論文は十数頁)を講読します。実証研究とは、研究者が持つ疑問(research question)に対する答えを求める際に、実際にデータをとって、数量的および質的にデータ分析を行い、得られた結果の提示とその考察を行うタイプの研究です。実証研究論文を読み進めるにあたっては、research question の答えが何かを期待しながら読み解く面白さがあります。また、その論文の研究方法が妥当かを、受講生の皆さんに議論してもらうことも含めます。</p> <p>これらの活動により、SLA 研究の専門的な知識を得るだけでなく、ロジカルな思考の訓練、高度な英文を読み解くスキル育成を目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】 実証研究とは何か</li> <li>2. 実証研究論文の一例 (練習用日本語論文)</li> <li>3. 論文 (1-1) : 実証研究体験、内容理解の確認</li> <li>4. 論文 (1-2) : 内容理解の確認</li> <li>5. 論文 (1-3) : 内容理解の確認</li> <li>6. 論文 (1-4) : ディスカッション</li> <li>7. 論文 (2-1) : 実証研究体験、内容理解の確認</li> <li>8. 論文 (2-2) : 内容理解の確認</li> <li>9. 論文 (2-3) : 内容理解の確認</li> <li>10. 論文 (2-4) : ディスカッション</li> <li>11. 論文 (3-1) : 実証研究体験、内容理解の確認</li> <li>12. 論文 (3-2) : 内容理解の確認</li> <li>13. 論文 (3-3) : 内容理解の確認</li> <li>14. 論文 (3-4) : ディスカッション</li> <li>15. 【まとめ】 学期末レポートの課題</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国内で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文 (英文)		出席、授業中の内容確認・ディスカッションへの貢献度、学期末レポート	

09年度以降	英語専門講読 II (SLA 実証研究論文)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【概要と目的】</p> <p>春学期同様、SLA 実証研究論文を講読していきます。秋学期は、海外で出版されたジャーナルの中から論文を選びお渡しします。海外における SLA 研究の場合、目標言語が英語ではない場合や、学習環境が日本とは異なる場合もあり、その点がまた興味深くもあります。</p> <p>論文の内容確認は日本語で行いますが、秋学期は授業中のディスカッションおよび学期末レポートは英語によります。論文をよく読み、その中で使用されている専門用語やアカデミックな表現を習得できるよう、自らアウトプットする練習を兼ねています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 論文 (1-1) : 実証研究体験、内容理解の確認</li> <li>3. 論文 (1-2) : 内容理解の確認</li> <li>4. 論文 (1-3) : 内容理解の確認</li> <li>5. 論文 (1-4) : Discussion</li> <li>6. 論文 (2-1) : 実証研究体験、内容理解の確認</li> <li>7. 論文 (2-2) : 内容理解の確認</li> <li>8. 論文 (2-3) : 内容理解の確認</li> <li>9. 論文 (2-4) : Discussion</li> <li>10. 論文 (3-1) : 実証研究体験、内容理解の確認</li> <li>11. 論文 (3-2) : 内容理解の確認</li> <li>12. 論文 (3-3) : 内容理解の確認</li> <li>13. 論文 (3-4) : Discussion</li> <li>14. Research design 練習</li> <li>15. 【まとめ】 Guidance on the final report</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海外で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文 (英文)		出席、授業中の内容確認・ディスカッションへの貢献度、学期末レポート	

09年度以降	英語専門講読 I (Language & Teaching)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the story of language, taking in phonetics, development, social uses, the Internet, endangered languages, and so forth.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction. Week 2: Baby-talk. Week 3: From cries to words. Week 4: Learning how to understand. Week 5: Making vibrations. Week 6: Pronouncing sounds. Week 7: Discovering grammar. Week 8: Quiz I. Journals due. Week 9: Having a conversation. Week 10: Learning to read and write. Week 11: Spelling rules and variations. Week 12: Grammar rules and variations. Week 13: Accents and dialects. Week 14: Being bilingual. Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Crystal, D. <i>A Little Book of Language</i> . (Yale University Press).		Grades are based on in-class participation, assignments, quizzes, and a final assessment based on the text and lecture.	

09年度以降	英語専門講読 II (Language & Teaching)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the story of language, taking in phonetics, development, social uses, endangered languages, and so forth.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction. Week 2: The languages of the world. Week 3: The origins of speech. Week 4: Modern writing. Week 5: Sign language. Week 6: Comparing languages. Week 7: Quiz I. Journals due. Week 8: Dying languages. Week 9: Language change. Week 10: Language variation. Week 11: Language at work. Week 12: Slang. Week 13: Quiz II. Journals due. Week 14: Consolidation. Week 15: Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Crystal, D. <i>A Little Book of Language</i> . (Yale University Press).		Grades are based on in-class participation, assignments, quizzes, and a final assessment based on the text and lecture.	

09年度以降	英語専門講読 I (James Joyce)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce.</p> <p>During the spring term, we will focus on Joyce's collection of short stories, <i>Dubliners</i> and begin reading his semi-autobiographical novel <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i>.</p> <p>Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature.</p> <p>This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion</p> <p>Week 2: The Sisters</p> <p>Week 3: Araby</p> <p>Week 4: Araby (video)</p> <p>Week 5: Eveline</p> <p>Week 6: Two Gallants</p> <p>Week 7: A Painful Case</p> <p>Week 8: The Dead</p> <p>Week 9: The Dead (video)</p> <p>Week 10: Review, Nora (video)</p> <p>Week 11: Nora (video)</p> <p>Week 12: Introduction to A Portrait of the Artist</p> <p>Week 13: Portrait, Chapter 1</p> <p>Week 14: Portrait, Chapter 2</p> <p>Week 15: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class. All of Joyce's works are in the public domain, so weekly readings will be sent to students via email.		Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.	

09年度以降	英語専門講読 II (James Joyce)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce.</p> <p>During the fall term, we will finish <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> and read excerpts from Joyce's most important novel, <i>Ulysses</i>. We will finish the course with a short introduction to Joyce's final and most enigmatic work, <i>Finnegans Wake</i>.</p> <p>Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature.</p> <p>This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Portrait, Chapter 3</p> <p>Week 2: Portrait, Chapters 4</p> <p>Week 3: Portrait 5</p> <p>Week 4: Review of Portrait</p> <p>Week 5: Introduction to Ulysses</p> <p>Week 6: Telemachus, Nestor (video)</p> <p>Week 7: Calypso, Hades (video)</p> <p>Week 8: Cyclops, The Wandering Rocks (video)</p> <p>Week 9: The Sirens, Circe (video)</p> <p>Week 10: Ithaca</p> <p>Week 11: Penelope (video)</p> <p>Week 12: Review of Ulysses</p> <p>Week 13: Finnegans Wake</p> <p>Week 14: Finnegans Wake</p> <p>Week 15: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class. All of Joyce's works are in the public domain, so weekly readings will be sent to students via email.		Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.	

09年度以降	英語専門講読 I (音声を聴くしくみと発達の入門)	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ヒトがことばの音を「聞いてわかる」ということはどういうことなのか、という問題についてその基礎を学び、またその習得・発達に関連して読んでいく。</p> <p>音声と言語に対する興味を開拓し、また乳児や動物の音声認知について知ることによりヒトの知能活動としての言語の面白さに触れる。</p> <p>テキストは比較的やさしい入門書である。ある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより、正確な読解力と分析的な視点を養う。</p> <p><b>講義概要</b> (1) 音声知覚入門(こどもの音声獲得・発達、動物による知覚も含む) (2) その他音声(発話・認知)に関するトピック</p> <p>学生は毎回の予習が前提となり、精読の練習をする。内容について、教員が解説・補足をし、また質疑応答・議論を行う。各章の後に担当者が配布資料とともにまとめを発表する。</p> <p>&lt;メッセージ&gt; ・コツコツ: 最初は少し大変かもしれないが、例年見ていると、少しずつ慣れていく。こつこつと継続することで、年度末には必ず読解力向上が実感できると思われる。進捗や理解をチェックしながら進めて行くので、一緒に頑張りましょう。 ・テキストは Duo に若干数を注文しておく。自分でオンライン購入してもよい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction /Preliminary reading サルの顔認知</li> <li>2. Ch-1 Sounds of Speech 音とは</li> <li>3. Ch-1 (2)</li> <li>4. Ch-2 Basic Speech Acoustics 音響の基礎</li> <li>5. Review exercises</li> <li>6. Ch-3 Perception of Consonants 子音を聴く</li> <li>7. Ch-3 (2)</li> <li>8. Ch-3 (3)</li> <li>9. Ch-4 Categorical Perception 微細であり大雑把であること</li> <li>10. Ch-4 (2)</li> <li>11. Ch-4 (3)</li> <li>12. Review exercises</li> <li>13. Ch-8 A theory of Acoustic Invariance 音の手がかりは何?</li> <li>14. Ch-8 (2)</li> <li>15. Review exercises</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Ryalls, Jack. (1996) <i>A Basic Introduction to Speech Perception</i> . Singular Publishing Group Inc. (ISBN: 1-56593-617-5) その他 配布資料		授業参加(準備・参加)、課題、発表、試験 等の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。	

09年度以降	英語専門講読 II (音声科学入門)	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 春学期に引き続き読み進め、さらなる読解力を養う。</p> <p><b>講義概要</b> 春学期に同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Ch-9 Dichotic Listening 右脳と左脳の話</li> <li>2. Ch-9 (2)</li> <li>3. Ch-9 (2)</li> <li>4. Ch-11 Studies of Infant Speech Perception 乳児の音声知覚</li> <li>5. Ch-11 (2)</li> <li>6. Ch-11 (3)</li> <li>7. Review exercises</li> <li>8. Ch-12 Development of Speech Perception 乳児の能力の不思議とその後の展開</li> <li>9. Ch-12 (2)</li> <li>10. Ch-12 (3)</li> <li>11. Ch-13 Speech Perception in Animals 動物は同じ?違う?</li> <li>12. Ch-13 (2)</li> <li>13. Ch-13 (3)</li> <li>14. Speech perception: selected topics</li> <li>15. Review exercises</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Ryalls, Jack. (1996) <i>A Basic Introduction to Speech Perception</i> . Singular Publishing Group Inc. (ISBN: 1-56593-617-5) その他 配布資料		授業参加(準備・参加)、小テスト、発表、試験等の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。	

09年度以降	英語専門講読 I (異文化理解の基礎と応用)	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、異文化間コミュニケーション論の専門的な文献を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的にしています。すなわち、より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り、研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します。春学期は特に、一般コミュニケーションに関する基本的な知識を学習した上で、より専門的な文献の内容を理解することを目的にします。</p> <p>授業は、グループワークが中心です。担当箇所についてのグループ発表の後、内容に関する質疑応答やディスカッション、担当者による補足説明と解説という形で進めていきます。グループ発表では、文献の内容を簡潔かつ具体的に説明することが求められます。コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し、その経験の中にあふれていて、学生諸君も必ず体験していることです。このことを念頭に置いて、受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。目指すのは「学生の、学生による、学生のための授業」です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション</li> <li>2. プレゼンテーションの準備、方法、資料の作成</li> <li>3. 異文化コミュニケーション研究の意義（講義）</li> <li>4. コミュニケーション、文化、異文化コミュニケーション（講義）</li> <li>5. }</li> <li>6. }</li> <li>7. }</li> <li>8. }</li> <li>9. }</li> <li>10. }</li> <li>11. }</li> <li>12. }</li> <li>13. }</li> <li>14. }</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol> <p style="text-align: center;">グループプレゼンテーションによる 授業を行います。グループは、受講生 確定後に決定します。文献は随時配布 します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) その他にコピー教材を配布します。</li> <li>2) 心理学、社会学、物理学、統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。</li> </ol>		グループワーク（準備、発表の仕方、発表内容）、授業への貢献度（質疑応答、議論への参加）、予習確認テスト、学期末レポートまたは試験により評価します。	

09年度以降	英語専門講読 II (異文化理解の基礎と応用)	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、コミュニケーション論における専門的な文献（書籍・論文）を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的にしています。すなわち、より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り、研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します。秋学期では、特にいくつかの理論について書かれた文献を読むため、文献中に見られるそれぞれに概念やそれらの違い、およびその関連性を正しく理解しながら読み進めていくことを最大の目的にします。</p> <p>授業は、グループワークが中心です。担当箇所についてのグループ発表の後、内容に関する質疑応答やディスカッション、担当者による補足説明と解説という形で進めていきます。コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し、その経験の中にあふれていて、学生諸君も必ず体験していることです。このことを念頭に置いて、受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。目指すのは「学生の、学生による、学生のための授業」です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション</li> <li>2. }</li> <li>3. }</li> <li>4. }</li> <li>5. }</li> <li>6. }</li> <li>7. }</li> <li>8. }</li> <li>9. }</li> <li>10. }</li> <li>11. }</li> <li>12. }</li> <li>13. }</li> <li>14. }</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol> <p style="text-align: center;">グループプレゼンテーションによる 授業を行います。文献は随時配布 します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コピー教材を配布します。</li> <li>2) 心理学、社会学、物理学、統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。</li> </ol>		グループワーク（準備、発表の仕方、発表内容）、授業への貢献度（質疑応答、議論への参加）、予習確認テスト、学期末レポートまたは試験により評価します。	

09年度以降	英語専門講読 I (Doing Linguistics)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは、「文法」と聞くとどういう印象をもつでしょうか。英文法であれば会話にはあまり役立たず、入試のために覚えなければならないもの、日本語の口語文法であれば、「意識せずに」ちゃんと話せるからわざわざ習う必要はないもの、古文だとほとんど役にたたず、ひたすら苦痛なもの(?) かもしれません。しかし、私たちの日本語に関する「無意識の知識」は単にコミュニケーションに役立つだけでなく非常に美しい規則性を持ち、英語の母国語話者、昔の日本人の知識も同様です。</p> <p>この授業では言語の規則性を皆さんに「発見」してもらうために、具体的分析を行いません。とりあげる3つの論文のうち(1)は英語学入門程度の知識があれば十分読めるので、2年生にレポート担当になって頂く予定です。(2)(3)は専門的知識が多少必要ですが、事前にワークシートを用意しますので、理解の助けになると思います。</p> <p>1回目の授業で論文の分担を決めるので必ず出席して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文の分担 &amp; Introduction</li> <li>2. Paper (1) Larson, R. K. (2010) <i>Grammar as Science</i>, Units 15-18.</li> <li>3. Paper (1)</li> <li>4. Paper (1)</li> <li>5. Paper (1)</li> <li>6. 授業内課題</li> <li>7. Paper (2) Bowers, J. (2001) "Predication," In Baltin &amp; Collins (eds.) <i>The Handbook of Contemporary Syntactic Theory</i>.</li> <li>8. Paper (2)</li> <li>9. Paper (2)</li> <li>10. Paper (2)</li> <li>11. Paper (3) "The Anatomy of a Diagnostic: The Resultative Construction," In Levin &amp; Rappaport Hovav (1994) <i>Unaccusativity: At the Syntax-Lexical Semantics Interface</i>, Ch.2.</li> <li>12. Paper (3)</li> <li>13. Paper (3)</li> <li>14. Paper (3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業計画に明記		担当部分の論文レポートをやることが単位取得の前提である。評価は Paper (1)に関する授業内課題(30%)、Papers (2), (3)に関するまとめのレポート(35%+35%)による。	

09年度以降	英語専門講読 II (Doing Linguistics)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的は英語専門講読 I と同様です。英語専門講読 I をとらなかつた履修者は英語専門講読 I の Paper (1)を自分で読んで下さい。</p> <p>(4)は主要部移動(Head Movement)に関する論文で、英語では疑問文にみられる主語と助動詞の倒置がその例です。英語では be や完了の have も倒置しますが、love, go などの一般動詞は倒置せず、do, don't を使います。ただし、否定命令文では be や完了の have でも don't を使い、"Don't be noisy"のような表現となります。この皆さんもよく知っている英文法の事実にはまるで規則性がないかのように見えますが、実は他の言語でも否定命令文は特別な性質を示します。何故命令文が特異な振る舞いをするか皆で議論したいと思います。</p> <p>(5)は日本語のwh疑問文を英語と対比して分析しています。"Which book did you recommend?"に対しては、例えば"War and Peace"というような答えが考えられますが、"Which book did every author recommend?"に対してはさらに"John recommended War and Peace, Mary The Catcher in the Rye, ..."や"His or her most recent book"もあり得ます。中学校で習う英語のwh疑問文も実は複雑な性質を持っており、それは日本語のwh疑問文も同様です。日本語に関しては皆さんの母国語話者としての直感を使い、議論したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文の分担 &amp; Introduction</li> <li>2. 英語における主語と助動詞の倒置についての概説</li> <li>3. Roberts, I (2001) "Head Movement," In Baltin &amp; Collins (eds.) <i>The Handbook of Contemporary Syntactic Theory</i>.</li> <li>4. Paper (4)</li> <li>5. Paper (4)</li> <li>6. Paper (4)</li> <li>7. 授業内課題</li> <li>8. 英語の wh 疑問文についての概説</li> <li>9. Paper (5) Nishigauchi, T. (1999) "Quantification and Wh-movement," In Tsujimura (ed.) <i>The Handbook of Japanese Linguistics</i>, Ch. 9.</li> <li>10. Paper (5)</li> <li>11. Paper (5)</li> <li>12. Paper (5)</li> <li>13. 授業内課題</li> <li>14. 授業内課題に関するコメント</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業計画に明記		担当部分の論文レポートをやることが単位取得の前提である。評価は Papers (4), (5)に関する2回の授業内課題(50%+50%)による。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (英国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
高価なため、コピーを配布します。		毎回出席をとります。授業日数の1/3以上欠席された方は単位をあげません。遅刻3回で欠席1回にカウント。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (米国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>米国ユダヤ人史の概説書を使用します。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

09年度以降	英語専門講読 I (火4) (グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に引き上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思ひます。</p> <p>グループごとにプレゼンテーションを行ないます。4人～5人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。</p> <p>グループは2週間を担当し、次のグループに交代します。</p> <p>第1週目には、グループごとにプレゼン資料（レジュメ）を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましよう。</p> <p>第2週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思ひます。</p>		<p>1. オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 6つのグループを編成 グループ発表の日程を調整</p> <p>2. グループ発表のテーマ候補 以下の中から、グループごとに選びます。</p> <p>アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど</p> <p>南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、 バングラデシュ、ネパールなど</p> <p>東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、 フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、 ミャンマー（ビルマ）など</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2012.		プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答への貢献度などによって評価します。	

09年度以降	英語専門講読 II (火4) (グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に引き上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思ひます。</p> <p>グループごとにプレゼンテーションを行ないます。4人～5人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。</p> <p>グループは2週間を担当し、次のグループに交代します。</p> <p>第1週目には、グループごとにプレゼン資料（レジュメ）を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましよう。</p> <p>第2週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思ひます。</p>		<p>1. オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 6つのグループを編成 グループ発表の日程を調整</p> <p>2. グループ発表のテーマ候補 春学期に扱っていない国を、以下の中から選びます。</p> <p>アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど</p> <p>南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、 バングラデシュ、ネパールなど</p> <p>東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、 フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、 ミャンマー（ビルマ）など</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2012.		プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答への貢献度などによって評価します。	

09年度以降	英語専門講読 I (Multiculturalism & Multicultural Education)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Societies around the world have been radically altered by colonialism &amp; globalization. Vast migrations of peoples have either voluntarily or involuntarily embarked on journeys for economic, personal or political reasons to countries and regions far from their homes, and indigenous peoples have suffered from colonialism and territorialism whereby foreign cultures where forced on native populations. In the Spring term this course considers the broader questions of multiculturalism with regard to the political, economic and social policies that multiethnic and multilingual countries face with increasingly diverse populations. This course explores the following questions:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• What is multiculturalism &amp; what historical antecedents precede current multicultural policies in the world?</li> <li>• Do societies that <i>claim to be</i> racially homogeneous suffer more social unrest and intercultural tension in adapting to multiculturalism than those with multicultural/multiethnic and multilingual historical 'roots'?</li> <li>• How might a laissez-faire attitude toward multiculturalism lead to cultural relativism?</li> <li>• What are the standard arguments both for and against multiculturalism?</li> </ul>		<p>Week 1 – Introduction to Course &amp; Each Other  Week 2 – What is Multiculturalism (Ch.1, pp.1-18)  Week 3 &amp; Week 4 – A Careful Consideration of Terms &amp; Cases (Ch. 1, pp. 18- 41)  Week 5 – Is Multiculturalism Bad for Women? (Ch. 2, pp.42-56)  Week 6 – Is Multiculturalism Bad for Women? (Ch. 2 pp. 57-67)  Week 7 – Has Multiculturalism Created Ghettos &amp; Parallel Lives? (Ch. 3, pp.68-80)  Week 8 – Has Multiculturalism Failed?  Week 9 – National Identity &amp; Belonging (What does it mean to 'be Japanese &amp; Who Counts as Japanese' – Pt. I  Week 10 – National Identity &amp; Belonging (What does it mean to 'be Japanese &amp; Who Counts as Japanese'? (Pt. II)  Week 11 – Multicultural &amp; Multiethnic Japan – The Changing &amp; Emerging Face(s) of Japan Pt. I  Week 12 – Multicultural &amp; Multiethnic Japan, Pt. II  Week 13 – Country Case Study Presentations  Week 14 – Country Case Study Presentations  Week 15 – Country Case Study Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Rattansi, A. (2011). <i>Multiculturalism: A very short introduction</i> . Oxford: Oxford University Press *Additional readings provided as hand-outs		In-class Participation (40%) Reading Assignments (20%) Case Study Project & Presentation (30%), Newspaper/Magazine journal (10%)	

09年度以降	英語専門講読 II (Multiculturalism & Multicultural Education)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Fall term will narrow the scope to consider the importance and influence of educational institutions to both aid and impede minority ethnic, racial and language groups' integration and transition into the host society. During Pt. II of this course we consider the following questions:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• How have schools been utilized by governments to assimilate ethnic, racial, and language minorities throughout history?</li> <li>• Is it the role of schools to support and preserve ethnic and language minority students' heritage language development and ethnic identity?</li> <li>• How do economic class, ethnicity, race and gender intersect with educational opportunity and success?</li> <li>• What educational programs best support ethnic and language minority students?</li> </ul> <p>*To remain consistent with the Spring term this course will remain focused on ethnic, racial and language minority students .</p>		<p>Week 1 – Introduction to Course &amp; Catch-Up  Week 2 – Characteristics &amp; Goals of Multicultural Ed. (Pt. I – article provided)  Week 3 – Characteristics &amp; Goals of Multicultural Ed. (Pt. I – article provided)  Week 4 – Ethnic/Racial/Linguistic Difference &amp; Schooling Practices: From Cultural Deficit to Empowerment (Pt. I –Case Study 1, hand-out)  Week 5 – Ethnic/Racial/Linguistic Difference &amp; Schooling Practices: From Cultural Deficit to Empowerment (Pt. I –Case Study 2, hand-out)  Week 6 – Ethnic/Racial/Linguistic Difference &amp; Schooling Practices: From Cultural Deficit to Empowerment (Pt. I –Case Study 3, hand-out)  Week 7– 8 – Class &amp; Minority Status – Minorities in Japan (Okano &amp; Tsuchiya reading)  Week 9 – 10 'Foreign' Children in Japanese Schools  Week 11 – Equal Ed. Opportunity in an Unequal System  Week 12 – Accepting &amp; Learning from Difference  Week 13 –Multicultural Ed. in Practice Presentations  Week 14 – Multicultural Ed. in Practice Presentations  Week 15 – Multicultural Ed. in Practice Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Selected readings provided in class		In-class Participation (40%) Reading Assignments (20%) Multicultural Education Presentation (30%), Newspaper/Magazine journal (10%)	

09年度以降	英語専門講読 I (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は3つあります。第1に、国際関係論や地域研究 (area studies) にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第2に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第3に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。</p> <p>上記の目的に沿って、テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとにテキストの指定された部分を精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読 I (春) と II (秋) は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で1時間程度の英文読解力を計るためのテスト (国際政治経済の時事問題に関する英文和訳) を実施します。</p>		<p>第1回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回～第15回：テキストのパート (チャプター) に沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Regional Outlook: Southeast Asia 2013-2014</i>, ISEAS, 2013 (近刊)。(150 ページ前後、価格は2000 円程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。</li> <li>・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

09年度以降	英語専門講読 II (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読 I と同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読 I (春) と II (秋) は継続性が強いので、本授業の履修については英語専門講読 I (春学期：金子担当) を履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>第1回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回～第15回：指定したテキストのパート (チャプター) に沿って受講者にプレゼンテーションをもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2014</i>, ISEAS, 2013 (予定)。(350 ページ前後、価格は2200 円程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。(内容の概略は以下の Web サイトで検索が可能：<a href="http://bookshop.iseas.edu.sg/">http://bookshop.iseas.edu.sg/</a>)</li> <li>・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

06年度以降	英語専門講読 I (航空規制緩和とLCC)	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的 各国の航空規制緩和がもたらした航空業界の変革の一つが、低価格での旅客輸送を売り物に世界的にシェアを急拡大している新興の格安航空会社（LCC・Low Cost Carrier）である。LCCの普及は従来の航空会社の経営に大きな影響を与え世界的な航空業界の再編成をもたらしている。</p> <p>この講義では、世界中のLCC各社がビジネスモデルとしている米国の「サウスウエスト航空」を取り上げ、その誕生と歩みを検証することにより、航空業界の規制緩和とLCCについて考察する。併せて、日本のLCCの現状にも触れる。</p> <p>「サウスウエスト航空」は最も成功した航空会社と言われていたが、その歩みは米国の航空規制と従来の大手航空会社との厳しく激しい闘いであった。</p> <p>「サウスウエスト航空」を成功に導いた革新的な経営マネジメントを学ぶことを通して、同時に広く企業における組織とそのスタッフ、顧客、又、企業の社会的役割等々を考察する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界やツーリズム業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にした。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と進め方</li> <li>2. NUTS?.....YOU DECIDE</li> <li>3. A LEGEND TAKE OFF The Southwest Spirit Is Born GOLIATH MEETS DAVID</li> <li>4. THE BATTLE HEATS UP</li> <li>5. A MAVERICK EMERGES</li> <li>6. FLYING IN THE FACE OF CONFORMITY</li> <li>7. PROFESSIONALS NEED NOT APPLY</li> <li>8. KILL THE BUREAUCRACY</li> <li>9. ACT LIKE AN OWNER</li> <li>10. LEARN LIKE CRAZY</li> <li>11. DON'T FEAR FAILURE</li> <li>12. ONE GREAT BIG FAMILY</li> <li>13. LCC IN ASIA AND JAPAN</li> <li>14. 個人発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義時にプリント配布。テキスト：NUTS! Southwest Airlines' Crazy Recipe for Business and Personal Success		出席、発表を含む授業への参画度（50%）、 期末試験（50%）	

06年度以降	英語専門講読 II (航空規制緩和とLCC)	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の講読に続き、今学期はサウスウエスト航空の人材育成への取り組み姿勢、従業員第一の経営ポリシー、社会貢献、職場と経営者のリーダーシップ、等々ユニークで革新的なマネジメントを通してLCCとして成長していく姿を考察する。併せて、サウスウエスト航空の経営マネジメントが与えた世界的な影響力についても考察する。</p> <p>春学期と同様に、航空業界やツーリズム業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にした。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と進め方</li> <li>2. KEEPING THE SPIRIT ALIVE</li> <li>3. THE ART OF CELEBRATING MILESTONES</li> <li>4. CELEBRATING PEOPLE WITH BIG HEARTS</li> <li>5. STILL NUTS AFTER ALL THESE YEARS</li> <li>6. LUV</li> <li>7. COMPASSION FOR THE COMMUNITY.</li> <li>8. UNCONVENTIONAL ADVERTISING</li> <li>9. CUSTOMERS COME SECOND</li> <li>10. EMPLOYEES COME FIRST</li> <li>11. LEADERS LEADING LEADERS</li> <li>12. LEADERSHIP FROM THE INSIDE OUT</li> <li>13. GO NUTS!</li> <li>14. 個人発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義時にプリント配布。テキスト：NUT! Southwest Airlines' Crazy Recipe for Business and Personal Success		出席、発表を含む授業への参画度（50%）、 期末試験（50%）	

09 年度以降	英語専門講読 I (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 15 ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>毎回授業開始時に vocabulary テストを行います。教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>また、上演予定のないミュージカル台本なども機会があれば読んでみようと思います。</p> <p>Reading StrategiesⅢ・Ⅳのクラスよりも、英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。</p> <p>指定する演劇の観劇レポート (450 字以上 500 字以下) に関する事など、詳細は教室にて説明します。</p> <p>* 第 1 回の授業の資料は中央棟 5 回 504 研究室前に用意しておきます。事前に準備してから出席すること。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。 観劇レポート (450~500 字) 2 編で 40%。レポートは 2 編必修です。未提出者には単位を認めません。 学期末定期試験はしません。</p>	

09 年度以降	英語専門講読 II (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 15 ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。</p>		<p>毎回授業開始時に vocabulary テストを行います。教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>また、上演予定のないミュージカル台本なども機会があれば読んでみようと思います。</p> <p>Reading StrategiesⅢ・Ⅳのクラスよりも、英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。</p> <p>指定する演劇の観劇レポート (450 字以上 500 字以下) に関する事など、詳細は教室にて説明します。</p> <p>* 秋学期から履修する人は、第 1 回の授業の資料について、必ず事前に問い合わせください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。 観劇レポート (450~500 字) 2 編で 40%。レポートは 2 編必修です。未提出者には単位を認めません。 学期末定期試験はしません。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インコタームズ®(Incoterms®)とは、国際商業会議所(the International Chamber of Commerce; ICC)が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の制定以来、長年にわたって貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。数次の改訂を経て、現在、最新版のIncoterms®2010と旧版のIncoterms®2000がもっぱら実務に使用されています。インコタームズ®を貿易取引に採用すれば、FOBやCIF等の貿易条件(trade terms)の略号を表示することにより、売主と買主の義務、費用負担、貨物の引渡し場所などが明確になり、誤解や紛争が防げます。</p> <p>ところで、貿易実務やビジネス・コミュニケーションの学習者にとって不可欠な知識でありながら、インコタームズ®だけに焦点をあてて広く深く勉強するといった機会はこれまでほとんどありませんでした。そこで、この授業では、海外の文献を使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件を徹底的に学習することにより、単に実務的な知識を身につけるだけでなく、いわゆるロジスティクスの観点からも貿易条件を考察します。(下欄に続く)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. Incoterms®2000が規定する4類型・13条件の概略</li> <li>3. E類型(出荷地条件)の詳細</li> <li>4-5. F類型(主要運賃買主負担条件)の詳細</li> <li>6-8. C類型(主要運賃込み条件)の詳細</li> <li>9-11. D類型(到着条件)の詳細</li> <li>12. 改正米国貿易定義(1941)とIncoterms®2000の比較</li> <li>13-14. 主要貿易条件を用いた輸出入価格の積算訓練</li> <li>15. 春学期の総復習および質疑応答</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Petersen, Catherine J., <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review</i> , Global Training Center Inc., 2011 および配布プリント		期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上欄から続く)春学期は、Incoterms®2000が規定する4類型・13条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の範囲(価格の構成要素)、危険負担の分岐点(貨物の引渡し場所)、適用可能な運送手段などの点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出価格および輸入価格の積算訓練を行います。また、特に米国との貿易で混乱を生じやすい「改正米国貿易定義」(Revised American Foreign Trade Definitions, 1941)の貿易条件についても学習する機会をもうけます。</p> <p>秋学期は、Incoterms®2010が規定する2分類・11条件について、Incoterms®2000からの変更点を中心に詳細かつ正確に学習した後、各々の貿易条件の長所と短所を売主と買主の立場からそれぞれ検討して、国際ロジスティクス(logistics)の観点から有利な貿易条件を選択する戦略を考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。</p> <p>この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクスなどに興味があり、これらの分野への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益な知識を提供できるものと確信しています。その一方、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くなければ最後まで履修を継続することが難しいかもしれません。くれぐれも熟慮して履修の決定をして下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. Incoterms®2000からIncoterms®2010への変更点</li> <li>3. Incoterms®2010が規定する2分類・11条件の概略</li> <li>4-7. 「いかなる単数または複数の輸送手段にも適した」7条件(EXW, FCA, CPT, CIP, DAT, DAP, DDP)の詳細</li> <li>8-10. 「海上および内陸水路輸送のための」4条件(FAS, FOB, CFR, CIF)の詳細</li> <li>11-12. 各々の貿易条件についての売主側および買主側からみた長所と短所の検討</li> <li>13. 貿易条件の誤用事例の紹介と問題点の検討</li> <li>14. 国際ロジスティクスの観点から有利な貿易条件を選択する戦略の検討</li> <li>15. 秋学期の総復習および質疑応答</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Petersen, Catherine J., <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review</i> , Global Training Center Inc., 2011 および配布プリント		期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。	

09年度以降	英語専門講読 I (水2) (英語でグローバル社会を語る)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、以下の3つの目標（チャレンジ）が設定されています。</p> <p>第1の目標は、グローバル化した国際関係の中で、主要メディアが取り上げたトピック（新聞・雑誌記事）に注目して討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>テキストは、英語圏を中心に発行された新聞、週刊誌、月刊誌に掲載された記事です。</p> <p>毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p> <p>課題テーマに関するプレゼン資料（レジュメ）を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。重複履修は原則として出来ません。</p>		<p>受講生の人数が確定した後、プレゼンテーションのテーマと発表者を適宜、受講生と相談しながら決めます。最終的に6つのグループを作ります。</p> <p>第1回 オリエンテーション (授業の進め方、テーマに関する事例の紹介)</p> <p>第2回～7回 受講生によるプレゼンと討論</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>第9～14回 受講生によるプレゼンと討論</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
アメリカの雑誌『フォーリン・アフェアーズ』などに掲載された記事を適宜配布します。		出席回数、プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。	

09年度以降	英語専門講読 II (水2) (英語でグローバル社会を語る)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、以下の3つの目標（チャレンジ）が設定されています。</p> <p>第1の目標は、グローバル化した国際関係の中で、主要メディアが取り上げたトピック（新聞・雑誌記事）に注目して討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>テキストは、英語圏を中心に発行された新聞、週刊誌、月刊誌に掲載された記事です。</p> <p>毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p> <p>課題テーマに関するプレゼン資料（レジュメ）を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。重複履修は原則として出来ません。</p>		<p>受講生の人数が確定した後、プレゼンテーションのテーマと発表者を適宜、受講生と相談しながら決めます。最終的に6つのグループを作ります。</p> <p>第1回 オリエンテーション (授業の進め方、テーマに関する事例の紹介)</p> <p>第2回～7回 受講生によるプレゼンと討論</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>第9～14回 受講生によるプレゼンと討論</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
アメリカの雑誌『フォーリン・アフェアーズ』などに掲載された記事を適宜配布します。		出席回数、プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。	

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ現代詩—Gary Snyder の詩集 <i>Regarding Wave</i> を読む)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『波について』(<i>Regarding Wave</i>, 1970)は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプレゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。</p> <p>DVD やCDを使って「声としての詩」についても紹介します。スナイダーについては、<a href="http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm">http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm</a> を参照してください。レポートの書き方については、<a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html</a> を参照。</p> <p>最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. An Introduction</li> <li>2. “Wave”</li> <li>3. “Seed Pods”</li> <li>4. “All Over the Dry Grasses”</li> <li>5. “By the Tama River at the North End of the Plain in April”</li> <li>6. The Wide Mouth”</li> <li>7. “In the House of the Rising Sun”</li> <li>8. “White Devils”</li> <li>9. “Song of the Cloud”</li> <li>10. “Song of the Tangle”</li> <li>11. “Song of the Slip”</li> <li>12. “Song of the View”</li> <li>13. “Song of the Taste”</li> <li>14. “Kyoto Born in Spring Song”</li> <li>15. “Archaic Round and Keyhole Tombs”</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Gary Snyder, <i>Regarding Wave</i>. New York: New Directions, 1970. (ISBN 978-0-8112-0196-4) *各自 amazon.co.jp などで購入のこと。</p>		<p>プレゼンテーションとレポート(4,000程度の作品論)によって決めます。ただし、欠席が授業回数の1/3を越えた場合は、評価対象とはしません。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ現代詩—Gary Snyder の詩集 <i>Regarding Wave</i> を読む)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『波について』(<i>Regarding Wave</i>, 1970)は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプレゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。</p> <p>DVD やCDを使って「声としての詩」についても紹介します。スナイダーについては、<a href="http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm">http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm</a> を参照。レポートの書き方については、原ゼミのHPの「MLA論文の書き方」を参照。</p> <p>最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. “Burning Island</li> <li>2. “Roots”</li> <li>3. “Rainbow Body”</li> <li>4. “Everybody Lying on Their Stomachs, Head Toward the Candle, Reading, Sleeping, Drawing”</li> <li>5. “Shark Meat”</li> <li>6. “It Was When”</li> <li>7. “The Bed in the Sky”</li> <li>8. “Kai, Today”</li> <li>9. “Not Leaving the House”</li> <li>10. “Regarding Wave”</li> <li>11. “Revolution in the Revolution in the Revolution”</li> <li>12. “What You Should Know to Be a Poet”</li> <li>13. “Aged Tamba Temple Plum Tree Song”</li> <li>14. “It”</li> <li>15. “Running Water Music”</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Gary Snyder, <i>Regarding Wave</i>. New York: New Directions, 1970. (ISBN 978-0-8112-0196-4) *各自 amazon.co.jp などで購入のこと。</p>		<p>プレゼンテーションとレポート(4,000程度の作品論)によって決めます。ただし、欠席が授業回数の1/3を越えた場合は、評価対象とはしません。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (Culture and Communication)	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course provides intensive training on reading different types of articles to build and develop integrated reading skills.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. The Importance of NVC</li> <li>3. Greetings: Kiss, Bow or Shake Hands</li> <li>4. Smile across cultures</li> <li>5. The Picture Paints a Thousand Words</li> <li>6. Body Language: Is It Important</li> <li>7. The Confusing World of Gestures</li> <li>8. Time Value Across Cultures</li> <li>9. Interpersonal Space and Distance</li> <li>10. Space Communication Style</li> <li>11. The Tempura Metaphor</li> <li>12. The Ping-Pong Metaphor</li> <li>13. Gender Styles in Communication</li> <li>14. Culture and Communication Style</li> <li>15. Summary and Assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.	

09年度以降	英語専門講読 II (Culture and Communication)	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course provides intensive training on reading different types of challenging articles to build and develop integrated reading skills.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review of First Term</li> <li>2. Computer for Literacy?</li> <li>3. The Power of You Tube</li> <li>4. SNS: Addicting?</li> <li>5. Fashion in Italy and around</li> <li>6. Self-Disclosure across Cultures</li> <li>7. Self-Assertiveness across Cultures</li> <li>8. The Skills of Active Listening</li> <li>9. Conflict Management</li> <li>10. Culture Values: Are they Changing?</li> <li>11. Ethnocentrism</li> <li>12. Barrier to Communication: Stereotypes</li> <li>13. Barrier to Communication: Prejudice</li> <li>14. Barrier to Communication: Discrimination</li> <li>15. Summary and Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.	

09年度以降	英語専門講読 I (日本語学)	担当者	長南 一豪
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>外国人に日本語を教える機会があると、私たちは母語である日本語のことをあまり知らないことに気づかされます。私たちが外国語を使いこなせるようになるためには、日本語について理解する必要があるでしょう。</p> <p>この授業では、英語で書かれた日本語に関する概説書を読みながら、日本語について考えます。日本語の特徴を理解するとともに、これまでどのような分析がなされ、どのような問題点があるかを概観します。同時に、英語で書かれた専門書を読むための実践的な読解力を養成します。受講者は、指定された部分についてきちんと予習しておくことが求められます。また、学期中に2回程度のレポートが課されます。</p> <p>春学期は、日本語の起源や歴史、方言といった内容を取り上げます。余裕があればアイヌ語についてもふれたいと思います。</p> <p>日本語学はもちろん、英語学、言語学、異文化理解等に関心のある学生の参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODakション</li> <li>2. はじめに 日本語は変わった言語か</li> <li>3. 起源① アルタイ説 (北方説)</li> <li>4. 起源② 朝鮮語との関係</li> <li>5. 起源③ 南方説</li> <li>6. 起源④ 混種説</li> <li>7. 歴史① 文字・発音の変化</li> <li>8. 歴史② 語彙・文法の変化</li> <li>9. 歴史③ 奈良時代は8母音だった</li> <li>10. 方言① 標準語・共通語</li> <li>11. 方言② 方言区分</li> <li>12. 方言③ 琉球方言</li> <li>13. 方言④ 東西区分と方言圏論</li> <li>14. アイヌ語入門</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Shibatani, M. (柴谷方良) (1990) <i>The Languages of Japan</i> , Cambridge. (プリント配布)		期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。	

09年度以降	英語専門講読 II (日本語学)	担当者	長南 一豪
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>外国人に日本語を教える機会があると、私たちは母語である日本語のことをあまり知らないことに気づかされます。私たちが外国語を使いこなせるようになるためには、日本語について理解する必要があるでしょう。</p> <p>この授業では、英語で書かれた日本語に関する概説書を読みながら、日本語について考えます。日本語の特徴を理解するとともに、これまでどのような分析がなされ、どのような問題点があるかを概観します。同時に、英語で書かれた専門書を読むための実践的な読解力を養成します。受講者は、指定された部分についてきちんと予習しておくことが求められます。また、学期中に2回程度のレポートが課されます。</p> <p>秋学期は、話題文や主語、使役・受身構文といった統語(文法)に関する内容を取り上げます。</p> <p>日本語学はもちろん、英語学、言語学、異文化理解等に関心のある学生の参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODakション</li> <li>2. 語順 日本語の語順の特徴</li> <li>3. 話題構文① 「は」と「が」</li> <li>4. 話題構文② 話題・対照の「は」</li> <li>5. 話題構文③ 中立叙述・総記の「が」</li> <li>6. 話題構文④ 話題構文の構造</li> <li>7. 文法関係① 主語とは何か</li> <li>8. 文法関係② 日本語に主語はあるか</li> <li>9. 文法関係③ 数量詞遊離</li> <li>10. 文法関係④ 二重主語文</li> <li>11. 使役と受身① 「を」使役と「に」使役</li> <li>12. 使役と受身② 二重「を」制約</li> <li>13. 使役と受身③ 直接受身と間接受身</li> <li>14. 使役と受身④ 統一理論と非統一理論</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Shibatani, M. (柴谷方良) (1990) <i>The Languages of Japan</i> , Cambridge. (プリント配布)		期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。	

09年度以降	英語専門講読 I (Materials Development for Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn theoretical principles as well as practical ideas and techniques in <i>materials development</i> for language teaching. You will also learn how to develop materials for target groups.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is strongly recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p>Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Materials evaluation</li> <li>3. Selection of materials</li> <li>4. Adapting classroom materials</li> <li>5. Designing worksheets</li> <li>6. Teaching materials for adults</li> <li>7. Teaching materials for beginners</li> <li>8. Teaching materials for primary school students</li> <li>9-10. Developing materials</li> <li>11-14. Presentations</li> <li>15. Your materials evaluation and wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システム & handouts 使用 参考文献: <u>Materials Development in Language Teaching</u> (B. Tomlinson, Cambridge Univ. Press), <u>Global Issues</u> (Sampedro & Hillyard, Oxford)		class participation, reading assignments and projects	

09年度以降	英語専門講読 II (Materials Development for Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn theoretical principles as well as practical ideas and techniques in <i>materials development</i> for language teaching. You will also learn how to integrate global issues into language learning materials.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is strongly recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p>Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Using authentic materials</li> <li>3. Materials for the teaching of grammar</li> <li>4. Materials for developing reading skills</li> <li>5. Materials for teaching vocabulary</li> <li>6. Materials for developing speaking skills</li> <li>7. Materials for cultural awareness</li> <li>8. Global issues and language learning</li> <li>9-10. Developing materials</li> <li>11-14. Presentations</li> <li>15. Your materials evaluation and wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システム使用 参考文献: <u>Developing Materials for Language Teaching</u> (B. Tomlinson, Continuum), <u>Materials Evaluation and Design for Language Teaching</u> (I. McGrath, Edinburgh)		class participation, reading assignments and projects	

09年度以降	英語専門講読 I (木1) (戦後米大統領の外交政策演説)	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、第二次大戦後の歴代アメリカ大統領による外交政策演説を教材に文献購読を行う。戦後アメリカの大統領は世界の指導者としてその言動に注目を集め、戦後の国際関係の転換となる重要な政策を発表してきた。この授業では、戦後初の大統領トルーマンから始まり、アイゼンハワー、ケネディ、ジョンソン、ニクソン、カーター、レーガン、ブッシュ (父)、クリントン、ブッシュ (子)、オバマの歴代大統領の演説を読み解いていく。</p> <p>春semesterではトルーマンからニクソンまでを扱う。大統領の演説では、スピーチ・ライターが起草した専門的な英語表現が用いられており、これを教材とすることで英語力の向上が期待される。テキストの内容は決して容易ではないため、自宅での十分な予習が必要となる。</p> <p>本授業は以下のように進める。まず受講者は全員英文和訳レポート (講義後に提出) を作成して毎回の授業に臨むものとする。各回、担当者が順番で英訳を発表し、全員で検討する。英語表現の理解のみならず、テキストの内容に関わる国際情勢についての解説もおこなう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：授業の進め方：発表順番の決定など</li> <li>2. Truman：冷戦開始宣言</li> <li>3. Truman：Part 2</li> <li>4. Eisenhower：冷戦の「雪解け」</li> <li>5. Eisenhower：Part 2</li> <li>6. Eisenhower：Part 3</li> <li>7. Kennedy：「ニュー・フロンティア」</li> <li>8. Kennedy：Part 2</li> <li>9. Kennedy：Part 3</li> <li>10. Johnson：ベトナム戦争 Part 1</li> <li>11. Johnson：Part 2</li> <li>12. Johnson：Part 3</li> <li>13. Nixon：「世界を変えた1週間」：米中和解 Part 1</li> <li>14. Nixon：Part 2</li> <li>15. Nixon：Part 3</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布する。		出席状況点(15%)、英文和訳レポート点(60%)、発表点(25%)を総合して評価を決定する。なお、出席回数が3分の2に満たない場合は、評価の対象とならない。	

09年度以降	英語専門講読 II (木1) (戦後米大統領の外交政策演説)	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、第二次大戦後の歴代アメリカ大統領による外交政策演説を教材に文献購読を行う。戦後アメリカの大統領は世界の指導者としてその言動に注目を集め、戦後の国際関係の転換となる重要な政策を発表してきた。この授業では、戦後初の大統領トルーマンから始まり、アイゼンハワー、ケネディ、ジョンソン、ニクソン、カーター、レーガン、ブッシュ (父)、クリントン、ブッシュ (子)、オバマの歴代大統領の演説を読み解いていく。</p> <p>秋semesterではカーターからオバマまでを扱う。大統領の演説では、スピーチ・ライターが起草した専門的な英語表現が用いられており、これを教材とすることで英語力の向上が期待される。テキストの内容は決して容易ではないため、自宅での十分な予習が必要となる。</p> <p>本授業は以下のように進める。まず受講者は全員英文和訳レポート (講義後に提出) を作成して毎回の授業に臨むものとする。各回、担当者が順番で英訳を発表し、全員で検討する。英語表現の理解のみならず、テキストの内容に関わる国際情勢についての解説もおこなう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：授業の進め方：発表順番の決定など</li> <li>2. Carter：人権外交 Part 1</li> <li>3. Carter：Part 2</li> <li>4. Regan：「悪の帝国」 Part 1</li> <li>5. Regan：Part 2</li> <li>6. Regan：Part 3</li> <li>7. Bush：「新世界秩序」宣言 Part 1</li> <li>8. Bush：Part 2</li> <li>9. Clinton：日米安保共同宣言 Part 1</li> <li>10. Clinton：Part 2</li> <li>11. Bush：「悪の枢軸」 Part 1</li> <li>12. Bush：Part 2</li> <li>13. Bush：Part 3</li> <li>14. Obama：初の非白人大統領就任演説 Part 1</li> <li>15. Obama：Part 2</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布する。		出席状況点(15%)、英文和訳レポート点(60%)、発表点(25%)を総合して評価を決定する。なお、出席回数が3分の2に満たない場合は、評価の対象とならない。	

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカにおける人種概念)	担当者	佐原 彩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は、アメリカ合衆国の文化・政治・社会を理解するために、避けては通れない人種概念を英語で理解することです。そのため Cheryl I. Harris, <i>Whiteness as Property</i> を春学期に読み、白人性がどのように法的概念として合衆国で成立してきたのかを学びます。また、白人性が、人種概念および権利概念として、文化・政治・社会において機能して来た役割を検討していきます。テキストは法的概念が中心ですが、授業では現在の合衆国の文化・政治・社会も題材に、テキストと結びつけながら合衆国社会における人種概念の変遷と白人性のあり方、そしてその問題点を考察します。</p> <p>週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、発表してもらいます。授業はテキストに基づいた内容の説明、質疑応答、討論を軸に進めます。</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Construction of Race</li> <li>3. Forms of Racialized Property</li> <li>4. Forms of Racialized Property II</li> <li>5. Critical Characteristics of Property and Whiteness</li> <li>6. The Property Functions of Whiteness</li> <li>7. White Legal Identity</li> <li>8. Bound by Law</li> <li>9. Bound by Law II</li> <li>10. The Persistence of Whiteness as Property</li> <li>11. The Persistence of Whiteness as Property II</li> <li>12. Affirmative Action</li> <li>13. De-regulating the Property Interest in Whiteness Through Affirmative Action</li> <li>14. Conclusion</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Cheryl I. Harris, <i>Whiteness as Property</i> , <i>Harvard Law Review</i> vol. 106, no. 8 (Jun., 1993), 1707-1791.		授業への参加・出席 30% 提出物など 30% 研究発表 40%	

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカにおける人種概念)	担当者	佐原 彩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は、春学期と同様ですが、秋学期は特に、「不法移民」と呼ばれる人たちが犯罪者扱いされる問題を、人種概念と結びつけて考えます。そのため、Lisa Mirie Cacho, <i>Social Death: Racialized Rightlessness and the Criminalization of the Unprotected</i> を読みます。授業では現在の合衆国の文化・政治・社会をテキストと結びつけながら、人種概念が、合衆国だけではなく、現在の世界の状況密接に結びついていることを考察します。</p> <p>授業は、受講者によるプレゼンテーション、テキストに基づいた内容の説明、質疑応答、討論を軸に進めます。初回の授業でプレゼンテーションの担当者を決めます。また、受講者の関心にしたがって、学期後半の週に研究発表をしてもらいます。</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Who is "Illegals"?</li> <li>3. The Violence of Value</li> <li>4. Value and Its Violence</li> <li>5. Legal Discrimination</li> <li>6. Whiteness as Property</li> <li>7. The Objects, Methods and Narrative Arc of Social Death</li> <li>8. Toward Unthinkable Politics</li> <li>9. White Entitlement and Other People's Crimes</li> <li>10. Illegal by Presence</li> <li>11. The Not-A-Gang Defense</li> <li>12. Deserving Redemption and Respect</li> <li>13. Becoming White through Anti-Mexican Violence</li> <li>14. Boys Will Be Boys</li> <li>15. Value Traps and Untold Stories</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lisa Mirie Cacho, <i>Social Death: Racialized Rightlessness and the Criminalization of the Unprotected</i> (New York University Press, 2013)		授業への参加・出席 30% プレゼンテーション 50% 学期末研究発表 20%	

09年度以降	英語専門講読 I (混成の英国・Mixed Britannia)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Mixed Britannia、混成の英国。これは現在の、そしてこれからの英国のすがたをもっともよく言いあらわす言葉のひとつでしょう。2012年、オリンピックの年、公共放送 BBC も、同名のドキュメンタリー・シリーズを世界に向けて放映しました。</p> <p>どのようなものが混じり合い、現在の英国を形成しているのでしょうか。その様々な要素は、いかなる歴史の渦のなかで、英国で出会うこととなったのでしょうか。異なるものどうしの出会いはどのようなものだったのでしょうか。もはや後もどりでできぬ多民族・多文化社会となった英国は、いま、どのような国家のアイデンティティを打ちだそうとしているのでしょうか。そしてなにより、そのような社会に生きる人々の暮らしはどのようなものなのでしょうか。このような事柄について、主に文学テキストや映像作品をとおして考えていきましょう。</p> <p>春学期は最初に 21 世紀の英国のすがたを眺めます。その後、英国の混成が一举に進む契機となった第二次大戦後の大量移民のはじまりから、移民第二世代が育ちはじめた 70 年代までを追っていきます。</p>		<p>1. Introduction—混成の英国 (Mixed Britannia)</p> <p>2. Mixed Britannia —リサーチ報告 (グループワーク)</p> <p>3 &amp; 4. よそ者の世紀、Zadie Smith, <i>White Teeth</i>, 抜粋を読む</p> <p>5 &amp; 6. よそ者たちの到来 (戦後の大量移民にかんする様々なテキストからの抜粋を読む)</p> <p>7—14. Andrea Levy, <i>Never Far From Nowhere</i> を読む (ジャマイカ移民第二世代の姉妹の成長を描いた中編小説です。授業はグループ・ワークを中心に進めます。可能であれば、半分ほどは英語で行います。グループ・ワークのやり方の詳細は授業内で説明します。)</p> <p>15. アセスメント</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトおよびインターネットからのダウンロードを使用します。<i>Never Far From Nowhere</i> のテキストは共同購入します。</p>		<p>クラスへの参加度、提出物、プレゼンテーション、試験、レポートを総合的に評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (混成の英国・Mixed Britannia)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、有色の移民たちがブラック・ブリティッシュとなってゆく過程を追い、その後、英国と英国民のアイデンティティを 500 年の近・現代史のなかで考察します。そして最後に、加速するグローバル化のなかで、ふたたび顕在化してきた、「階級」と「宗教」の問題を、英国のコンテキストにおいて考えます。</p> <p>また、プレゼンテーション技術を向上させることもこの授業の目的のひとつです。積極的に授業に参加してください。</p>		<p>1. Introduction—Coloured から Black British へ+レポートへのコメント</p> <p>2—4. Farruck Dhondy, "Iqbal Café" を読む</p> <p>5—8. 80 年代中期から現在までに発表された、Black British を主人公とした映画を 6 本観て、ミニ・プレゼンテーションをしていただきます。必要に応じて、講師によるレクチャーをはさみます。(6本のタイトルは、講義支援システムに掲示します。)</p> <p>9—11. 英国人とは誰か。(使用テキストは、講義支援システムに掲示します。)</p> <p>12—14. Mixed Britannia における新たな「他者」—21 世紀の「階級」と「宗教」の問題</p> <p>15. アセスメント</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトを用意します。映画については、原則として各自で観ていただきます。</p>		<p>クラスへの参加度、プレゼンテーション、レポート、試験を総合的に評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (ビート詩人を「現代詩人」として読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>表題のとおり、ビート詩人を「現代詩人」として読む。ビート詩人たちは1950年代以降に作品を書いていたが、作品を書いた問題意識は、現代の問題意識と関わってこないだろうか。教科書的な言い方をすれば、ビート詩人たちは、アメリカで超大量消費社会が成立しつつあった時代に「人間性の回復」を書いたとされる。現在の、新自由主義（「カネ本位主義」と言いかえられるだろうか）が行きわたった日本において、「人間性の回復」をうたったビート詩人たちは、どのような生きるヒントをわれわれに与えてくれるだろうか。そういったことを、ビートたちの詩に探る。</p> <p>“Here &amp; Now”というのは、ビートたちの合言葉だったわけだが、われわれは、小学校を「いい中学」のために、中学校を「いい高校」のために、そして高校を「いい大学」のために、そして現在のキミたちは、この現在を「いい会社」のために、つまり、“Here &amp; Now”を先の時間のために費やしてはいないだろうか。この構造は、「借金」に似ていないだろうか。</p>		<p>1: introduction 2~3: Jack Kerouac “Essentials of Spontaneous Prose” 4~5: from <i>Mexico City Blues</i>, “211<sup>th</sup> chorus,” “239 Chorus,” “240<sup>th</sup> Chorus,” “241<sup>st</sup> Chorus,” “242<sup>nd</sup> Chorus.” 6~7: Allen Ginsberg “A Supermarket in California” 8~10: Laurence Ferlinghetti “Dog,” “Constantly Risking Absurdity,” “In Goya’s greatest scenes...” 11~13: Michael McClure “Point Lobos: Animism,” “For the Death of 100 Whales.” 14~15: Gary Snyder “Milton by Firelight,” “Riprap”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Portable Beat Reader</i> (Penguin Books)		学生のプレゼンテーション、出席、学期末のレポート。	

09年度以降	英語専門講読 II (ビート詩人を「現代詩人」として読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(春学期の続き) ここには、「時間」と「場所」という問題が含まれている。現在の大学にいる時間と場所を、未来の、草加という場所にはない「いい会社」のために“AA”を取得しようとがんばってはいないだろうか。現在、獨協大学にいる自分を、未来のために切り売りしてはいないだろうか。そもそも「時間」と「場所」とは、切り離して考えられるものなのか。</p> <p>より良い現在を作り上げようとして、未来に借金を残す構造。住みよい社会を作り上げようとして、「核のゴミ」を未来に残す構造。似てはいないだろうか。</p> <p>「資本主義の終わりの始まり」を生きているわれわれを、60年ほど前に、同じような問題を考えて詩を書いていたビートたちの詩を読み、これからの「生き方」を考えたい学生に来てほしい。</p>		<p>1: レポートの返却 2~3: Gary Snyder “Note on the Religious Tendencies” 4~8: Allen Ginsberg “Wichita Vortex Sutra” 9~11: Michael McClure: “Song (I Work with the Shape),” “It’s Nation Time,” “Watching the Stolen Rose” 12~15: Gary Snyder “Mother Earth: Her Whales,” “Axe Handles”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Portable Beat Reader</i> (Penguin Books)		春学期と同様。	

09年度以降	英語専門講読 I (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年、「激動の時代」と表現されることが多くなりましたが、実際に就職活動を体験している学生の方や、これから卒業後の身の振り方の準備にかかる学生の方は、今の時代にリアルに不安を抱えているのではないのでしょうか。</p> <p>そんな状況の中で、「詩を学ぶ」ことは時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、<b>詩を学ぶことも実用的</b>だと言えらると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「<b>言葉の力</b>」を<b>体感</b>することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「<b>詩を学ぶ＝生き方を学ぶ</b>」と言えらるかもしれません。</p> <p>詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れしたイメージが詩にあるとしたら、詩を一面的にしか見ていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密接しているものなのですよ。(↓に続きます)</p>		<p>私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます(便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です)。</p> <p>発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、グループ作り</li> <li>2-3 オーストラリアの歴史①②</li> <li>4-5 アボリジニの歴史①②</li> <li>6-7 アボリジニの神話・伝説①②</li> <li>8-9 英訳されたアボリジニの詩①②</li> <li>10-14 英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol> <p><b>第一回目の授業でグループを作ります。必ず参加してくださいね</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。 <a href="http://www.leafandletters.com">www.leafandletters.com</a></p>		<p>※ 学期末レポート (提出しなかった場合不可)、 授業での参加度 (プレゼン発表&amp;発言)、出席状況 ※ 遅刻3回 (30分以内) で1回の欠席とみなします。 欠席5回した時点で単位取得が不可能となります。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(↑からの続きです)</p> <p>「オーストラリアを学ぶ」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しくなると思います。</p> <p>それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいですかね。(例えば「オーストラリア人とは誰を指すか?」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。)</p> <p>講義目的をまとめて書くと、「<b>言葉の力を体感する</b>」「<b>オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す</b>」「<b>オーストラリアを通して己を考える</b>」また、発表形式の授業ですので「<b>自分の言葉で考え、語る</b>」こととなります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「<b>自分の意見を他人に正確に伝える</b>」ことも学んでほしい大事なことです。</p> <p>授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立つことができたら最高に嬉しく思います。</p> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております!</p>		<p>春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。</p> <p>春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。</p> <p>春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2～14. オーストラリアの詩、精読</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。 <a href="http://www.leafandletters.com">www.leafandletters.com</a></p>		<p>※ 学期末レポート (提出しなかった場合不可)、 授業での参加度 (プレゼン発表&amp;発言)、出席状況 ※ 遅刻3回 (30分以内) で1回の欠席とみなします。 欠席5回した時点で単位取得が不可能となります。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とする。</p> <p>1951年に出版されたJ. D.サリンジャーの <i>The Catcher in the Rye</i> は50年以上経った今も若者達に愛読され、アメリカ戦後小説の古典となっている。その一方でアメリカの公立図書館や教育員会で最も検閲の対象となった小説でもあり、John Lennon の暗殺者、Mark Chapman の愛読書として物議をかもしている。80年代には映画、<i>The Field of Dreams</i> の原作本である Shoeless Joe のインスピレーションの源泉として、最近では村上春樹が翻訳を試みたことでも話題になった。私立の有名進学校(preparatory school)からはみ出た16歳の少年 Holden Caulfield の大人になれない悩みを扱ったこの小説の魅力を下記のような質問表に基づく討論を通じて考えていきたい。</p> <p>春学期は、この小説の前半を読む。</p>		<p>第1週 授業の進め方などについての説明と「第1週の質問表」にもとづく討論による体験授業。従って、左下の欄にある「第1週の質問表」に答えられるよう最初の1, 2ページを読んでくる必要がある。</p> <p>第2週 前週に配布した質問表による討論。第1章を終了する予定。</p> <p>第3週以降、同様な方法で毎週平均ほぼ1章ずつ読んでいく予定。本書は26章あるので、徐々に速度を上げ、中盤からは各週1章以上読んでいく予定。</p> <p>質問表は全章分を教師が用意し、教師が討論の司会をするが、途中から、学生諸君にプレゼンテーションや司会をしてもらおうかもしれない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i>		学期末の試験、および平常点（授業・討論への貢献度で、「出席点」ではない）	

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の項を参照。この小説の後半を読む。</p> <p>春学期 第1週の質問表 <i>The Catcher in the Rye</i>, Chapter 1.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Why doesn't the narrator want to tell us "all that David Copperfield kind of crap"?</li> <li>What does he say he is going to tell us about in this novel?</li> <li>Where do you think he is now, narrating his story?</li> <li>What kind of person is D. B.? What does he do? Where is he now and what do you think he is doing there?</li> </ol> <p>What kind of school is Pency Prep? Describe the narrator's attitude toward Pency. (Does he like it? If not, why not?)</p>		<p>春学期の項を参照。</p> <p>春学期と同様な方法で <i>The Catcher in the Rye</i> の後半を読んでいく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i>		学期末の試験、および平常点（授業・討論への貢献度で、「出席点」ではない）	

09年度以降	英語専門講読 I (木3) (シンクタンクの政策提言レポートを読む)	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、世界的に有名なアメリカ、イギリスのシンクタンク(The Asia Foundation, The Brookings Institution, Council on Foreign Relations, CSIS, Heritage Foundation, Hoover Institution, RAND, IISS, RIIS)が発行する国際情勢分析レポート、政策提言レポートを教材とし、文献講読を行っていく。これらのレポートは、それぞれの国際問題の専門家が執筆したものである。国際関係に関する英語表現と情勢の理解に努めたい。</p> <p>課題文献のテーマは、受講生の関心を考慮して決定するが、現在のところ、人権、民主化、テロ、内戦、人道的介入、平和構築、核(拡散)・ミサイル、開発支援、地域協力、経済格差、地球環境などの問題を想定している。テキストの内容は決して容易ではないため、自宅での十分な予習が必要となる。</p> <p>授業は以下のように進める。まず受講者は全員英文和訳レポート(講義後に提出)を作成して毎回の授業に臨むものとする。各回、担当者が順番で英訳を発表し、全員で検討する。英語表現の理解のみならず、テキストの内容に関わる国際情勢についての解説もおこなう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに：授業の進め方：発表順番の決定など</li> <li>文献① 民主化・人権 Part 1</li> <li>文献 ① Part 2</li> <li>文献 ① Part 3</li> <li>文献 ① Part 4</li> <li>文献 ① Part 5</li> <li>文献 ② 人道的介入・平和構築 Part 1</li> <li>文献 ② Part 2</li> <li>文献 ② Part 3</li> <li>文献 ② Part 4</li> <li>文献 ③ テロ・内戦 Part 1</li> <li>文献 ③ Part 2</li> <li>文献 ③ Part 3</li> <li>文献 ③ Part 4</li> <li>文献 ③ Part 5</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布する。		出席状況(15%)、英文和訳レポート点(60%)、発表点(25%)を総合して評価を決定する。なお、出席回数が3分の2に満たない場合は、評価の対象とならない。	

09年度以降	英語専門講読 II (木3) (シンクタンクの政策提言レポートを読む)	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、世界的に有名なアメリカ、イギリスのシンクタンク(The Asia Foundation, The Brookings Institution, Council on Foreign Relations, CSIS, Heritage Foundation, Hoover Institution, RAND, IISS, RIIS)が発行する国際情勢分析レポート、政策提言レポートを教材とし、文献講読を行っていく。これらのレポートは、それぞれの国際問題の専門家が執筆したものである。国際関係に関する英語表現と情勢の理解に努めたい。</p> <p>課題文献のテーマは、受講生の関心を考慮して決定するが、現在のところ、人権、民主化、テロ、内戦、人道的介入、平和構築、核(拡散)・ミサイル、開発支援、地域協力、経済格差、地球環境などの問題を想定している。テキストの内容は決して容易ではないため、自宅での十分な予習が必要となる。</p> <p>授業は以下のように進める。まず受講者は全員英文和訳レポート(講義後に提出)を作成して毎回の授業に臨むものとする。各回、担当者が順番で英訳を発表し、全員で検討する。英語表現の理解のみならず、テキストの内容に関わる国際情勢についての解説もおこなう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに：授業の進め方：発表順番の決定など</li> <li>文献 ④ 核(拡散)・ミサイル Part 1</li> <li>文献 ④ Part 2</li> <li>文献 ④ Part 3</li> <li>文献 ④ Part 4</li> <li>文献 ⑤ 開発支援・地域協力・経済格差 Part 1</li> <li>文献 ⑤ Part 2</li> <li>文献 ⑤ Part 3</li> <li>文献 ⑤ Part 4</li> <li>文献 ⑤ Part 5</li> <li>文献 ⑥ 地球環境問題 Part 1</li> <li>文献 ⑥ Part 2</li> <li>文献 ⑥ Part 3</li> <li>文献 ⑥ Part 4</li> <li>文献 ⑥ Part 5</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布する。		出席状況(15%)、英文和訳レポート点(60%)、発表点(25%)を総合して評価を決定する。なお、出席回数が3分の2に満たない場合は、評価の対象とならない。	

09年度以降	英語専門講読 I (現代における国際関係の展開)	担当者	伊藤 兵馬
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本授業では、現代における国際関係の展開を時系列で追っていきます。第一次世界大戦の勃発から、冷戦後の世界まで、国際政治がどのように発展し、形成されてきたかを明らかにしていきます。</p> <p>授業は、テキストに基づいて行い、受講者によるプレゼンテーションとその後のディスカッションを中心に進めます。受講者の人数によっては、プレゼンテーションをグループで行う可能性もあります。また、テキストの一部を翻訳して、受講者全員に適宜提出してもらいます。</p> <p>なお、本授業は継続性が高いため、基本的には春学期と秋学期両方の履修を求めます。</p>		<p>第1回：オリエンテーション、プレゼンテーションの担当者を決定 第2回～第14回：受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションおよび質疑応答 第15回：まとめ</p> <p>テキスト： 有賀貞 『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』(研究社、2003年)</p> <p>英文テキストは、国際関係の歴史を詳細に分析・解説したものです。受講者には、テキストに沿って以下の章からプレゼンテーションを担当してもらいます。</p> <p>The Second Phase of World War I The World in Postwar Confusion The Return of Relative Stability The Collapse of the International Order The Beginning of War in East Asia and in Europe World War II after Pearl Harbor</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
有賀貞 『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』(研究社、2003年)		出席率、プレゼン内容、翻訳内容、ディスカッションへの参加状況を基に評価します。	

09年度以降	英語専門講読 II (現代における国際関係の展開)	担当者	伊藤 兵馬
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的および概要は、上記の英語専門講読 I と同様です。春学期に扱った年代以降の国際関係史を検討していきます。</p> <p>授業は、テキストに基づいて行い、受講者によるプレゼンテーションとその後のディスカッションを中心に進めます。受講者の人数によっては、プレゼンテーションをグループで行う可能性もあります。また、テキストの一部を翻訳して、受講者全員に適宜提出してもらいます。</p> <p>なお、本授業は継続性が高いため、基本的には春学期と秋学期両方の履修を求めます。</p>		<p>第1回：オリエンテーション、プレゼンテーションの担当者を決定 第2回～第14回：受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションおよび質疑応答 第15回：まとめ</p> <p>テキスト： 有賀貞 『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』(研究社、2003年)</p> <p>英文テキストは、国際関係の歴史を詳細に分析・解説したものです。受講者には、テキストに沿って以下の章からプレゼンテーションを担当してもらいます。</p> <p>Turbulence in East Asia The Post-Stalin USSR and East-West Relations The Retreat of Western European Imperialism Vietnam and the Reorientation of American Foreign Policy The Advanced Industrial World and the Challenge of OPEC The End of Cold War</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
有賀貞 『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』(研究社、2003年)		出席率、プレゼン内容、翻訳内容、ディスカッションへの参加状況を基に評価します。	

09年度以降	英語専門講読 I (動詞の意味と文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。</p> <p>講義では、下記のテキストの2章と3章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。</p>		<p>進度の目安・目標は次の通りである。題目は章のタイトルに対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (出席は必須)</li> <li>2. Progressive Aspect 1</li> <li>3. Progressive Aspect 2</li> <li>4. Progressive Aspect 3</li> <li>5. Progressive Aspect 4</li> <li>6. Progressive Aspect 5</li> <li>7. Progressive Aspect 6</li> <li>8. Progressive Aspect 7</li> <li>9. The Expression of Past Time 1</li> <li>10. The Expression of Past Time 2</li> <li>11. The Expression of Past Time 3</li> <li>12. The Expression of Past Time 4</li> <li>13. The Expression of Past Time 5</li> <li>14. The Expression of Past Time 6</li> <li>15. The Expression of Past Time 7</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leech, Geoffrey (2011) <i>Meaning and the English Verb</i> (3rd edition). 東京：ひつじ書房.		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

09年度以降	英語専門講読 II (動詞の意味と文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。</p> <p>講義では、下記のテキストの4章と5章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。</p>		<p>進度の目安・目標は次の通りである。題目は章のタイトルに対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. The Expression of Future Time 1</li> <li>2. The Expression of Future Time 2</li> <li>3. The Expression of Future Time 3</li> <li>4. The Expression of Future Time 4</li> <li>5. The Expression of Future Time 5</li> <li>6. The Expression of Future Time 6</li> <li>7. The Expression of Future Time 7</li> <li>8. The Primary Modal Auxiliaries 1</li> <li>9. The Primary Modal Auxiliaries 2</li> <li>10. The Primary Modal Auxiliaries 3</li> <li>11. The Primary Modal Auxiliaries 4</li> <li>12. The Primary Modal Auxiliaries 5</li> <li>13. The Primary Modal Auxiliaries 6</li> <li>14. The Primary Modal Auxiliaries 7</li> <li>15. まとめと復習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leech, Geoffrey (2011) <i>Meaning and the English Verb</i> (3rd edition). 東京：ひつじ書房.		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

09年度以降	英語専門講読 I ( <i>Macbeth</i> を読む)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シェイクスピアの<i>Macbeth</i>を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。</p> <p><i>Macbeth</i>はシェイクスピアの四大悲劇の一つである。罪をおかすことへの躊躇、犯してしまった罪についての消えない記憶、権力への執着、人生に対する虚無感など、きわめて近代的な心理が濃密な韻文で表現されている。テキストを丹念に読みながら、ドラマティックなアクションと内省的な心理表現が結びつくシェイクスピアの作劇法を理解する。</p> <p>近代初期の英語の韻文に初めて触れるという人が多いので、現代の日常的な英語との語義や語法の違いなどを解説しながら、読んでいく。いろいろな上演の音声や映像を参考にしながら解釈の多様性への理解も深める。また音読を通して英語の韻文にも慣れるようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Act I (1)</li> <li>3. Act I (2)</li> <li>4. Act I (3)</li> <li>5. Act I (4)</li> <li>6. Act I (5)</li> <li>7. Act I (6)</li> <li>8. Midterm exam</li> <li>9. Act II (1)</li> <li>10. Act II (2)</li> <li>11. Act II (3)</li> <li>12. Act II (4)</li> <li>13. Act II (5)</li> <li>14. Act III (1)</li> <li>15. Act III (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Rex Gibson, ed. <i>Macbeth</i> (Cambridge School Shakespeare)		中間テスト：40% 学期末テスト 60%	

09年度以降	英語専門講読 II ( <i>Macbeth</i> を読む)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期「英語専門講読 I」に同じ。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Act III (3)</li> <li>2. Act III (4)</li> <li>3. Act III (5)</li> <li>4. Act IV (1)</li> <li>5. Act IV (2)</li> <li>6. Act IV (3)</li> <li>7. Act IV (4)</li> <li>8. Midterm exam</li> <li>9. Act IV (5)</li> <li>10. Act V (1)</li> <li>11. Act V (2)</li> <li>12. Act V (3)</li> <li>13. Act V (4)</li> <li>14. Act V (5)</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Rex Gibson, ed. <i>Macbeth</i> (Cambridge School Shakespeare)		中間テスト：40% 学期末テスト 60%	

09年度以降	英語専門講読 I (Who's afraid of feminism?)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〈講義目的〉みなさんはフェミニズムをどんなものだと思いますか？ 女性の生き方の可能性を切り開いてきた輝かしいもの、逆になんだか怖いもの、なんでも男と対等にしようとする極端な考え方、男性を不利な立場に追い込む危険で悪いものと捉えているかもしれません。</p> <p>この講義では、そうしたいろいろな先入観をとりあえず棚上げして、フェミニズムの歴史をみんなで追いかけてみます。テキストはイギリスを例に取って、フェミニズムがイギリスの歴史の中でどんな必然性をもって登場してきたかをたどったあと、20世紀にどんなグローバルな広がりをもつに至ったかを説明しています。テキストを読み込みながら、フェミニズムにはどんな人物たちがいて、何を問題にしてきたのかを考えましょう。そしてその上で、私たちの先入観がどう変わるのか、あるいは変わらないかも確認していきましょう。受講者の性別に関わらず、たくさん議論ができればいいと思っています。(講義概要は↓)</p>		<p>1. ガイダンス (テキストの読み方を説明し、各回の担当グループを決めます。受講予定者は、テキスト持参のうえかならず出席してください。)</p> <p>2. Introduction</p> <p>3-4. Ch1 (The religious roots of feminism)</p> <p>5-6. Ch2 (The beginning of secular feminism)</p> <p>7-9. Ch3 (The 18<sup>th</sup> century: Amazons of the pen)</p> <p>10-12. Ch4 (The early 19<sup>th</sup> century: reforming women)</p> <p>13-14. Ch5 (The late 19<sup>th</sup> century: campaigning women)</p> <p>15. まとめ</p> <p>*毎回5～6ページくらい読む予定ですが、ペースは調整することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Margaret Walters, <i>Feminism: A Very Short Introduction</i> (Oxford: OUP, 2005) DUO で販売予定		課題と授業中のパフォーマンス約4割、学期末試験約6割 (ただし欠席が四回を越える場合、評価対象外とする)	

09年度以降	英語専門講読 II (Who's afraid of feminism?)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〈講義概要〉テキストは小ぶりの薄手な本で、入門書として書かれています。でも英語の学術書を読みこなすというのは、受講者にとって初めての体験かもしれません。担当者(片山)はそのつもりでアシストするので、みんなで英語力を鍛えつつ、ひとつの分野——それも人が知っていそうで実はよく知らないフェミニズムという分野——に詳しくなる楽しみを共有したいです。</p> <p>毎回、翌週の指定範囲についてキーワードと設問を書いたプリントを配るので、プリントに答えながら指定範囲を読んでください。授業ではキーワードの確認テストをしたうえで、プリントの答えを突き合わせて、意味を噛み砕いたり掘り下げたりします。</p> <p>また、担当者からの一方的な授業にしたくないので、担当グループを決めて、指定範囲に関連した1テーマについてディスカッショントピックを提示し、司会を務めてもらう予定です。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2-3. Ch6 (Fighting for the vote: suffragists)</p> <p>4-5. Ch7 (Fighting for the vote: suffragettes)</p> <p>6-7. Ch8 (Early 20<sup>th</sup>-century feminism)</p> <p>8-11. Ch9 (Second wave feminism: the late 20<sup>th</sup> century)</p> <p>12-15. Ch10 (Feminists across the world)</p> <p>*毎回5～6ページくらい読む予定ですが、ペースは調整することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Margaret Walters, <i>Feminism: A Very Short Introduction</i> (Oxford: OUP, 2005) DUO で販売予定		課題と授業中のパフォーマンス約4割、学期末試験約6割 (ただし欠席が四回を越える場合、評価対象外とする)	

09年度以降	英語専門講読 I (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代日本の多民族・多文化状況について、文化人類学者や社会学者によって書かれた論文の読解・議論を通じて、日本社会の現状や課題について考える。</p> <p>春学期は、英語圏の大学で広く読まれている日本研究の基本的文献を教材とする。</p> <p>本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。</p> <p>なお週末等を利用して、東京郊外に巡検に出かける可能性もある。</p>		<p>1. 趣旨説明・グループ分け (初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。)</p> <p>2. 各課題についての解説(1~2回)</p> <p>3. 基礎文献の講読・議論 テキスト欄に紹介した本のなかから、いくつかのチャプターを読んでいく。それゆえ、履修希望者はテキストを初回授業時までに用意しておくこと。なお扱う予定のチャプターは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Geographical and Generational Variations</li> <li>・ Varieties in Work and Labor</li> <li>・ Gender Stratification and the Family System</li> <li>・ Minority Groups: Ethnicity and Discrimination</li> <li>・ Popular Culture and Everyday Life</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sugimoto, Yoshio 2010. <i>An Introduction to Japanese Society (Third Edition)</i> . Cambridge and New York: Cambridge University Press.		授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席(遅刻は2回で欠席1回に換算)で単位認定の資格を失う。	

09年度以降	英語専門講読 II (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代日本の多民族・多文化状況について、文化人類学者や社会学者によって書かれた論文の読解・議論を通じて、日本社会の現状や課題について考える。</p> <p>秋学期は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、在日フィリピン人女性などについて書かれた英文モノグラフを教材として扱う。</p> <p>本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。</p> <p>なお週末等を利用して、東京郊外に巡検に出かける可能性もある。</p>		<p>1回 講義</p> <p>2~14回 プレゼンテーション</p> <p>15回 総合討論・まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で、論文リスト(基本的には学術雑誌所収論文)を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。		授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席(遅刻は2回で欠席1回に換算)で単位認定の資格を失う。	

09年度以降	英語専門講読 I (ポピュラー・カルチャー入門 ①)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、ポピュラー・カルチャーについて、初歩的な説明や分析ができるようになることを目指します。消費者（欲望を刺激され動かされる側）としてではなく、文化研究者（の卵）としてポピュラー・カルチャーをとらえ、私たちが生活する後期資本主義文化について複眼的に考える方法を身につけましょう。</p> <p>授業形式は、グループ・ワークとグループ発表が中心となります。学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。</p> <p>使用するテキストについては注意が必要です。テキストは、<u>第5版（水色の最新版）</u>ではなく、<u>第4版（オレンジ色の表紙）</u>を使用します。初回の授業で共同購入申請ができるよう、現在、その手続き方法について検討中です。（各自で購入しても構いません。）また、数が限定されますが、テキストの貸し出しも検討中です。詳しくは初回の授業で説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Overview</li> <li>2. Introduction</li> <li>3. What Is Popular Culture? (1)</li> <li>4. What Is Popular Culture? (2)</li> <li>5. The 'Culture and Civilization' Tradition (1)</li> <li>6. The 'Culture and Civilization' Tradition (2)</li> <li>7. Culturalism (1)</li> <li>8. Culturalism (2)</li> <li>9. Marxisms (1)</li> <li>10. Marxisms (2)</li> <li>11. Case Study (1)</li> <li>12. Case Study (2)</li> <li>13. Consultation</li> <li>14. Presentation (1)</li> <li>15. Presentation (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Storey, <i>Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction</i> (Univ. of Georgia Press, 2006: 第4版)		<p>①参加&amp;貢献度（発表など）：50%（理由にかかわらず5回以上の欠席で学期成績がF又は×となります。）</p> <p>②クイズ：50%（1回又は複数回）</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (ポピュラー・カルチャー入門 ②)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期からの続きです。目的や授業形式、使用テキストは春学期と同じです。</p> <p>学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Overview</li> <li>2. Psychoanalysis (1)</li> <li>3. Psychoanalysis (2)</li> <li>4. Structuralism and Post-structuralism (1)</li> <li>5. Structuralism and Post-structuralism (2)</li> <li>6. Gender and Sexuality (1)</li> <li>7. Gender and Sexuality (2)</li> <li>8. Postmodernism (1)</li> <li>9. Postmodernism (2)</li> <li>10. The Politics of the Popular (1)</li> <li>11. The Politics of the Popular (2)</li> <li>12. Case Study</li> <li>13. Consultation</li> <li>14. Presentation (1)</li> <li>15. Presentation (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Storey, <i>Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction</i> (Univ. of Georgia Press, 2006: 第4版)		<p>①参加&amp;貢献度（発表など）：50%（理由にかかわらず5回以上の欠席で学期成績がF又は×となります。）</p> <p>②クイズ：50%（1回又は複数回）</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (米国の対外政策)	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>米国の対外政策、特に日米関係及び米中関係について、その背景と現状を学ぶ。その理由は、グローバル化が進展する世界において、米国と中国は、日本にとってこれまで以上に重要な大国となるためである。本講義では、米国の視点から捉えられた日米関係及び米中関係に関する知識を習得したのち、問題点を見つけ、解決策を模索することを試みる。</p> <p>講義の進め方は、次のとおりである。(1)毎回、全員が課題範囲の要約をA4で1枚程度にまとめて、講義前日までにメーリング・リスト(受講者全員が登録される)に送信する。(2)受講者はお互いの要約に目を通したうえで、講義に参加する。(3)当日は、それを踏まえたうえで、ディスカッションを行う。同時に、重要単語及び内容の確認も行う。</p> <p>有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。</p>		<p>第1週: Introduction (1) Japan-U.S. Relations</p> <p>第2週: Most Recent Developments</p> <p>第3週: March 2011 "Triple Disaster"</p> <p>第4週: Major Diplomatic and Security Issues</p> <p>第5週: Japan-China Relations</p> <p>第6週: Alliance Issues</p> <p>第7週: Economic Issues</p> <p>第8週: Japanese Politics</p> <p>(2) U.S.-China Relations</p> <p>第9週: Overview of U.S.-China Relations</p> <p>第10週: Obama Administration Policy Toward China</p> <p>第11週: Security Issues</p> <p>第12週: Taiwan</p> <p>第13週: Economic Issues</p> <p>第14週: Climate Change and Clean Energy Cooperation</p> <p>第15週: Human Rights Issues</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>米国連邦議会図書館議会調査局(CRS)の報告書を教材とする。(1)Japan-U.S. Relations 及び (2)U.S.-China Relations を扱う。</p>		<p>出席点(15%)、毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(10%)、小テスト(40%)で評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (米国の対外政策)	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語専門講読Ⅰ(米国の対外政策)で得た知識を前提に、米国の対外政策、特に日中関係及び米国のアジア重視政策について学ぶ。春学期で学んだ、日米関係及び米中関係と併せて、日本を取り巻く国際政治経済環境の総合的理解をめざす。</p> <p>講義の進め方は、春学期と同様である。</p>		<p>第1週: Introduction (1) Sino-Japanese Relations</p> <p>第2週: China's and Japan's Regional Strategies</p> <p>第3週: Historical Background</p> <p>第4週: Outline of Détente 2006 - Present</p> <p>第5週: Japan-China Economic Ties</p> <p>第6週: Potential Complications and Issues for U.S. Policy</p> <p>(2) Pivot to the Pacific? The Obama Administration's "Rebalancing" Toward Asia</p> <p>第7週: What's Old and What's New?</p> <p>第8週: Overall Benefits, Costs, and Risks</p> <p>第9週: Military and Strategic Dimensions of "The Pivot"</p> <p>第10週: Ditto (#2)</p> <p>第11週: Diplomatic Dimensions of the "Pivot"</p> <p>第12週: Ditto (#2)</p> <p>第13週: Economic Aspects of the "Pivot"</p> <p>第14週: Ditto (#2)</p> <p>第15週: 1年間の総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>米国連邦議会図書館議会調査局(CRS)の報告書を教材とする。(1) Sino-Japanese Relations 及び (2) Pivot to the Pacific? The Obama Administration's "Rebalancing" Toward Asia を扱う。</p>		<p>出席点(15%)、毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(10%)、小テスト(40%)で評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『怒りの葡萄』(<i>The Grapes of Wrath</i>, 1939)、『エデンの東』(<i>The East of Eden</i>, 1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck(1902-1968)は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えましょう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作しましたが、この授業では、短編集『長い谷間』(<i>The Long Valley</i>, 1938)を読解します。</p> <p>毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代的背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきましょう。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換することも予定しています。更に、象徴的表現の解釈や作品の社会背景についても考察することにより、小説読解を通して、文化的理解を深めて行くことを目指します。</p> <p>授業には予習をして臨んで下さい。</p>		<p>1: Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介</p> <p>2: 小説を読む楽しみについて</p> <p>3: “The Chrysanthemums” 読解</p> <p>4: 同上</p> <p>5: 同上</p> <p>6: “The White Quail</p> <p>7: 同上</p> <p>8: 同上</p> <p>9: 同上</p> <p>10: “The Flight”読解</p> <p>11: 同上</p> <p>12: 同上</p> <p>13: 同上</p> <p>14: “Breakfast”読解</p> <p>15: Review/期末レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: John Steinbeck, <i>The Long Valley</i> (Penguin Classics)</p> <p>参考文献: スタインベック『スタインベック短編集』(新潮文庫)</p>		出席(30%)、提出物(20%)、授業中の発表(20%)、期末レポート(30%)を総合的に評価。全体の2/3の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。	

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、<i>The Long Valley</i>を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、作品と映画とを比較検討してゆく。時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。</p> <p>*授業には予習をして臨んで下さい。</p>		<p>1: 前期レポートについての寸評</p> <p>2: “The Snake” 読解</p> <p>3: 同上</p> <p>4: 同上</p> <p>5: “The Raid” 読解</p> <p>6: 同上</p> <p>7: 同上</p> <p>8: “The Harness” 読解</p> <p>9: 同上</p> <p>10: 同上</p> <p>11: “Johnny Bear”</p> <p>12: 同上</p> <p>13: 同上</p> <p>14: Review</p> <p>15: 期末レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: John Steinbeck, <i>The Long Valley</i> (Penguin Classics)</p> <p>参考文献: スタインベック『スタインベック短編集』(新潮文庫)</p>		出席(30%)、提出物(20%)、授業中の発表(20%)、期末レポート(30%)を総合的に評価。全体の2/3の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (地球市民のためのフェアトレード入門)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。</p> <p>大切なのは身の回りのことから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。</p> <p>授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方について</li> <li>2. 教員によるレクチャー（予定）</li> <li>3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore?</li> <li>4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives</li> <li>5. Why is Fair Trade so popular?</li> <li>6. Fair Trade principles and practices</li> <li>7. Fair Trade histories</li> <li>8. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』</li> <li>9. Yes, but does it work?</li> <li>10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary</li> <li>11. Will free trade ever be fair?</li> <li>12. The future of Fair Trade</li> <li>13. Daily life with Fair Trade</li> <li>14. 教員によるレクチャー（予定）</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Jacqueline Decarlo, <i>Fair Trade: A Beginner's Guide</i> (Oneworld Publications, 2007) ※各自で購入して下さい。</p>		出席点、レジメ、プレゼン、プレゼンまとめ中間レポート、期末レポート。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (地球市民のためのフェアトレード入門)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。</p> <p>取り上げる文献は、今のところ、フェアトレード、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。</p>		<p>授業では、担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスをを行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>図書館の論文データベース、検索サービスを利用する。</p>		出席点、レジメ、プレゼン、プレゼンまとめ中間レポート、期末レポート。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (米国の対外政策)	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>米国の対外政策、特に日米関係及び米中関係について、その背景と現状を学ぶ。その理由は、グローバル化が進展する世界において、米国と中国は、日本にとってこれまで以上に重要な大国となるためである。本講義では、米国の視点から捉えられた日米関係及び米中関係に関する知識を習得したのち、問題点を見つけ、解決策を模索することを試みる。</p> <p>講義の進め方は、次のとおりである。(1)毎回、全員が課題範囲の要約をA4で1枚程度にまとめて、講義前日までにメーリング・リスト(受講者全員が登録される)に送信する。(2)受講者はお互いの要約に目を通したうえで、講義に参加する。(3)当日は、それを踏まえたうえで、ディスカッションを行う。同時に、重要単語及び内容の確認も行う。</p> <p>有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。</p>		<p>第1週: Introduction (1) Japan-U.S. Relations</p> <p>第2週: Most Recent Developments</p> <p>第3週: March 2011 “Triple Disaster”</p> <p>第4週: Major Diplomatic and Security Issues</p> <p>第5週: Japan-China Relations</p> <p>第6週: Alliance Issues</p> <p>第7週: Economic Issues</p> <p>第8週: Japanese Politics</p> <p>(2) U.S.-China Relations</p> <p>第9週: Overview of U.S.-China Relations</p> <p>第10週: Obama Administration Policy Toward China</p> <p>第11週: Security Issues</p> <p>第12週: Taiwan</p> <p>第13週: Economic Issues</p> <p>第14週: Climate Change and Clean Energy Cooperation</p> <p>第15週: Human Rights Issues</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>米国連邦議会図書館議会調査局(CRS)の報告書を教材とする。(1)Japan-U.S. Relations 及び(2)U.S.-China Relations を扱う。</p>		<p>出席点(15%)、毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(10%)、小テスト(40%)で評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (米国の対外政策)	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語専門講読Ⅰ(米国の対外政策)で得た知識を前提に、米国の対外政策、特に日中関係及び米国のアジア重視政策について学ぶ。春学期で学んだ、日米関係及び米中関係と併せて、日本を取り巻く国際政治経済環境の総合的理解をめざす。</p> <p>講義の進め方は、春学期と同様である。</p>		<p>第1週: Introduction (1) Sino-Japanese Relations</p> <p>第2週: China’s and Japan’s Regional Strategies</p> <p>第3週: Historical Background</p> <p>第4週: Outline of Détente 2006 - Present</p> <p>第5週: Japan-China Economic Ties</p> <p>第6週: Potential Complications and Issues for U.S. Policy</p> <p>(2) Pivot to the Pacific? The Obama Administration’s “Rebalancing” Toward Asia</p> <p>第7週: What’s Old and What’s New?</p> <p>第8週: Overall Benefits, Costs, and Risks</p> <p>第9週: Military and Strategic Dimensions of “The Pivot”</p> <p>第10週: Ditto (#2)</p> <p>第11週: Diplomatic Dimensions of the “Pivot”</p> <p>第12週: Ditto (#2)</p> <p>第13週: Economic Aspects of the “Pivot”</p> <p>第14週: Ditto (#2)</p> <p>第15週: 1年間の総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>米国連邦議会図書館議会調査局(CRS)の報告書を教材とする。(1) Sino-Japanese Relations 及び(2) Pivot to the Pacific? The Obama Administration’s “Rebalancing” Toward Asia を扱う。</p>		<p>出席点(15%)、毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(10%)、小テスト(40%)で評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (International Development I)	担当者	R. ピーターズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The contents of this course are intended to raise students' awareness of the problems developing countries are facing worldwide and to motivate students to develop critical thinking and communication skills. Each class will focus on a specific issue of international development with the aim of understanding what has happened, what is currently being done to tackle the problem, and possibilities for the future. Current articles and case studies will be utilized as a platform for promoting communication and learning. Students will be encouraged to participate in all stages of the lesson, bringing their own knowledge and opinions into the discussions.</p>		<p>Class 1. Introduction and course overview  Class 2. Foreign Aid: sources, motivations, and results  Class 3. Millennium Development Goals (MDGs) – explanation and progress  Class 4. MDG 1 - poverty and hunger  Class 5. MDG 1 – case study  Class 6. MDG 1 - article  Class 7. MDG 2 - universal primary education  Class 8. MDG 2 – case study  Class 9. Review and discussion  Class 10. MDG 3 - gender equality  Class 11. MDG 3 – case study  Class 12. MDG 3 – article  Class 13. Non Government Organizations (NGOs)  Class 14. Presentation building  Class 15. Presentation and feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set text for this course. Readings and case studies will be given in class.		Assessment will consist of: Attendance & Punctuality (20%), Class Participation (40%), and Presentation (40%).	

09年度以降	英語専門講読 II (International Development II)	担当者	R. ピーターズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The contents of this course are intended to raise students' awareness of the problems developing countries are facing, and to motivate students to develop critical thinking and communication skills. Each class will focus on a specific issue of international development with the aim of understanding what has happened, what is currently being done to tackle the problem, and possibilities for the future. Current articles and case studies will be utilized as a platform for promoting communication and learning. Students will be encouraged to participate in all stages of the lesson, bringing their own knowledge and opinions into the discussions.</p>		<p>Class 1. Introduction and course overview  Class 2. MDG 4 &amp; 5 - child mortality &amp; maternal health  Class 3. MDG 4 &amp; 5 – case study  Class 4. MDG 6 - disease  Class 5. MDG 6 – case study  Class 6. MDG 6 – article  Class 7. War &amp; Conflict  Class 8. Fair Trade  Class 9. Review and discussion  Class 10. MDG 7 - environmental sustainability  Class 11. MDG 7 – case study  Class 12. MDG 7 - article  Class 13. MDG 8 – global partnership for development  Class 14. Presentation building  Class 15. Presentation and feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set text for this course. Readings and case studies will be given in class.		Assessment will consist of: Attendance & Punctuality (20%), Class Participation (40%), and Presentation (40%).	

09年度以降	英語専門講読 I (ディスコース分析)	担当者	佐藤 芳明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>時事、演説、論文、広告、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴って行われる言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の言語形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと首尾一貫性 (coherence)、さらに、テキストタイプ (expository, narrative, argumentative など)、レジスター (思想的・対人的・テキスト的変数を考慮)、ジャンル等も射程に収める必要がある。</p> <p>本講座のねらいは、英文テキストの語彙文法的 (lexico-grammatical) 分析を、実際のコンテキストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。言い換えれば、テキストが孕むクリティカルな意味のポテンシャルを説得力ある言語分析を通じて浮かび上がらせることである。この中庸の感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテキストに接して、それを分析したり解釈したりする自信がいてくるのではないかと期待している。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 方法論、評価システムの説明など</li> <li>2. 時事 Barack Obama 大統領第二期就任演説</li> <li>3. Web 情報 I TED (<a href="http://www.ted.com/">http://www.ted.com/</a>)</li> <li>4. 演説 I Steve Jobs スタンフォード大卒業式祝辞</li> <li>5. 学術論文 I Critical Discourse Studies 関連</li> <li>6. Web 情報 II Vigilant Citizen</li> <li>7. 演説 II Martin Luther King Jr.</li> <li>8. 学術論文 II 認知科学系</li> <li>9. Web 情報 III Prison Planet</li> <li>10. 企業広告 “Think Different” (Apple)</li> <li>11. プレゼンテーション&amp;ディスカッション I</li> <li>12. プレゼンテーション&amp;ディスカッション II</li> <li>13. プレゼンテーション&amp;ディスカッション III</li> <li>14. 洋楽歌詞 Taylor Swift 等</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教室でハンドアウトを配布する。Web を活用して情報共有を行うこともある (具体的方法は授業時に指示する)。		出席=20% (4回以上欠席は単位を与えない); 授業参加態度=20%; アサインメント=20%; プレゼンテーション=20%; ファイナルペーパー (A4×5頁以上) =20%。	

09年度以降	英語専門講読 II (ディスコース分析)	担当者	佐藤 芳明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期と同じ目的及び方法で、異なる題材を使う予定。</p> <p>時事、演説、論文、物語、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴って行われる言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の言語形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと首尾一貫性 (coherence)、さらに、テキストタイプ (expository, narrative, argumentative など)、レジスター (思想的・対人的・テキスト的変数を考慮)、ジャンル等も射程に収める必要がある。</p> <p>本講座のねらいは、英文テキストの語彙文法的 (lexico-grammatical) 分析を、実際のコンテキストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。言い換えれば、テキストが孕むクリティカルな意味のポテンシャルを説得力ある言語分析を通じて浮かび上がらせることである。この中庸の感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテキストに接して、それを分析したり解釈したりする自信がいてくるのではないかと期待している。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 方法論、評価システムの説明など</li> <li>2. 時事 ポスト3.11 ・エネルギー政策関連</li> <li>3. Web 情報 I TED (<a href="http://www.ted.com/">http://www.ted.com/</a>)</li> <li>4. 演説 I Abraham Lincoln ゲティスバーグ演説</li> <li>5. 学術論文 I Discourse in Society 関連</li> <li>6. Web 情報 II The truth may scare you</li> <li>7. 演説 II ブータン王国国会演説</li> <li>8. 学術論文 II Cognitive Critique</li> <li>9. Web 情報 III End the Lie</li> <li>10. 物語 Aesop's Fables 等</li> <li>11. プレゼンテーション&amp;ディスカッション I</li> <li>12. プレゼンテーション&amp;ディスカッション II</li> <li>13. プレゼンテーション&amp;ディスカッション III</li> <li>14. 洋楽歌詞 Backstreet Boys, Cold Play 等</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教室でハンドアウトを配布する。Web を活用して情報共有を行うこともある (具体的方法は授業時に指示する)。		出席=20% (4回以上欠席は単位を与えない); 授業参加態度=20%; アサインメント=20%; プレゼンテーション=20%; ファイナルペーパー (A4×5頁以上) =20%。	

09年度以降	英語の世界 II	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者は TOEIC900 点以上の取得者から break の過去形を broked と、また dog に冠詞も-s も付けずに書く人までさまざまですが、9 割は教諭免許取得希望者ですから、授業の狙いは、言語学の最近の成果を踏まえ、英語その本来の姿についての知識をしっかりと身につけてもらうことにあります。したがって、授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそう言えるのに、こうは言えないの？」という素朴な疑問に対する「なるほど！」と納得のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。</p> <p>この授業は単位を取るのが難しいと言われていますが、予習・復習をしていればそのようなことはないはずですが。参考のために、単位を落とす人の傾向を示しておきます。</p> <p>★授業当日までにプリントに目を通し、例文の意味を調べず、授業後も復習をしない。</p> <p>★欠席しがちで、出席しても集中して聴かない。</p> <p>★講義内容でわからないところを（メール等で）質問せず、ほったらかしておく。</p> <p>★英語の知識を身につけたいという意欲があまりない。</p> <p>要するに、学習の基本的態度さえ身につけていれば容易に単位をとることができるということです。&lt;以下に続く&gt;</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>前置詞の意味</li> <li>前置詞と動詞の意味ネットワーク</li> <li>不定冠詞 vs. はだか名詞</li> <li>英語と日本語の情報構造</li> <li>情報の新旧と冠詞</li> <li>自動詞構文と他動詞構文</li> <li>英語受動文</li> <li>GET 受身と BE 受身・動詞的受身と形容詞的受身</li> <li>再帰代名詞の使い方</li> <li>動詞の意味と構文（結果構文）</li> <li>動詞の意味と構文（二重目的語構文）</li> <li>動詞の意味と構文（壁塗り構文）</li> <li>動詞の意味と構文（tough 構文と中間構文）</li> <li>書き換え構文はどこまで交替可能か</li> <li>時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相）</li> </ol> <p>※ 上のトピックに変更を加える場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：第 2 週目からは講義支援ポータルサイトを通じて配布しますので、各自で印字して下さい。</p> <p>参考書：佐藤・田中『レキシカル・グラマーへの招待』開拓社</p>		最終成績は平常テストと課題と定期試験の総合評価で決まります。	

09年度以降	英語の世界 II	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業を受ける利点には次のようなこともあります。</p> <p>(1) 3 通りのかたちの名詞それぞれの使い分けが出来るようになる。</p> <p>a. Anyone who plays <u>piano</u> knows that is no great feat.</p> <p>b. He hates playing <u>a piano</u> which is out of tune.</p> <p>c. Do you play <u>the piano</u>?</p> <p>(2) 上の c の the と the sun, the wines of France などに使う the の規則に共通性のあること知ることができる。</p> <p>(3) “I was standing ( ) the corner.” のカッコに at も on も入るが意味 (=見方) が違うことがわかる。</p> <p>(4) 疲れている人に向かって「一所懸命働いたから疲れているんだよ」という場合には a のほうがよいとわかる。</p> <p>a. You feel tired because you've worked hard.</p> <p>b.??Because you've worked hard, you feel tired.</p> <p>(5) 日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言っても、“I persuaded John out of smoking, but he didn't quit smoking.”とは言えない理由がわかるようになる。</p> <p>(6) The President of the United States is Barack Obama, に付く付加疑問は isn't he?ではなく isn't it?になることがわかるようになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>前置詞の意味</li> <li>前置詞と動詞の意味ネットワーク</li> <li>不定冠詞 vs. はだか名詞</li> <li>英語と日本語の情報構造</li> <li>情報の新旧と冠詞</li> <li>自動詞構文と他動詞構文</li> <li>英語受動文</li> <li>GET 受身と BE 受身・動詞的受身と形容詞的受身</li> <li>再帰代名詞の使い方</li> <li>動詞の意味と構文（結果構文）</li> <li>動詞の意味と構文（二重目的語構文）</li> <li>動詞の意味と構文（壁塗り構文）</li> <li>動詞の意味と構文（tough 構文と中間構文）</li> <li>書き換え構文はどこまで交替可能か</li> <li>時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相）</li> </ol> <p>※ 上のトピックに変更を加える場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：第 2 週目からは講義支援ポータルサイトを通じて配布しますので、各自で印字して下さい。</p> <p>参考書：佐藤・田中『レキシカル・グラマーへの招待』開拓社</p>		最終成績は平常テストと課題と定期試験の総合評価で決まります。	

09年度以降	観光英語Ⅰ	担当者	日野 克美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の到達目標及びテーマ 海外に旅行する日本人、海外から来日する外国人の数も飛躍的に増えており、これに対応する職業（旅行・観光・ホテル・レストランサービス等）にあつては、必然的に外国語、特に英語による業務が急増している。そこでは英語の一般的能力だけではなく、業界専門用語や独特の言い回しなど、業務遂行に必要な英語力を持ったプロフェッショナルの養成が急務であり、また恒常的にもかかる能力を有する人への高い需要がある。したがって、この授業では、主として海外旅行で必要かつ観光・旅行の仕事で役立つ観光英語の運用能力を身につけることを目的とし、具体的には、「観光英語検定試験」（Tourism English Proficiency Test）の2級合格を目指すことをひとつの目標とする。</p> <p>授業の概要 マルチメディア(DVD/ビデオ・PC)を駆使して、実際の観光状況を確認し、観光に関する用語・表現様式、文化の差異、マナー等々について学びながら、実践的英語運用能力を高めてゆくことを目指す。</p>		<p>第1回：Orientation(参加者の英語力・異文化経験・外国旅行経験等々調査) 第2回：観光英語検定試験の模擬試験実施 第3回：英語力涵養の様々な Tool(Internet,映画、テレビ、ラジオ等々)の確認と利用実験 第4回：観光体験を基にシナリオ作成 第5回：シナリオを基に観光活動を英語で実践 第6回：観光実務に必要なとされる語彙の確認 第7回：異文化に対する感性を鋭くするための Case Study 第8回：観光英語検定試験の模擬試験実施 第9回：ビデオによる擬似観光体験をしながら、英語による案内を練習 第10回：ビデオによる擬似観光体験をしながら、英語による案内を練習 第11回：案内の講評と校正版の実施 第12回：ゲストを招き観光についてのインタビュー 第13回：観光英語検定試験の模擬試験実施 第14回：観光英語検定試験の解説と対策 第15回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書 適宜紹介する		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	観光英語Ⅱ	担当者	日野 克美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の到達目標及びテーマ 「観光英語Ⅰ」の続きの授業で、国際観光事業に従事する際に必要となる実務レベルの観光英語の運用能力を身につけることを目的とし、具体的には、「観光英語検定試験」（Tourism English Proficiency Test）の1級合格を目指すことをひとつの目標とする。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 「観光英語Ⅰ」の続きの授業で、国際観光事業に従事する際に必要となる実務レベルの観光英語の運用能力を身につけることを目的とし、具体的には、「観光英語検定試験」（Tourism English Proficiency Test）の1級合格を目指すことをひとつの目標とする。</p>		<p>授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：種々の英語検定試験の概観と英語語彙力テスト 第3回：観光英語検定試験1級の問題実施 第4回：問題解説 第5回：学習方法の紹介と研究 第6回：英語での日本観光計画作成 第7回：観光客からの想定質問集作成 第8回：想定質問に対する回答作成 第9回：想定質問に対する回答作成 第10回：日本の観光名所を選び、想定案内シナリオ作成 第11回：Role Playingによる観光案内の練習とその経過のビデオ撮り 第12回：ビデオを見ながら検討会 第13回：観光英語検定試験1級の問題実施 第14回：観光英語検定試験1級の解説と対策 第15回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト London Alive Survival English Asahi Press 参考書 『英語で話す「日本」Q&A』 講談社		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	通訳案内士の英語 I	担当者	日野 克美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>通常通訳ガイドとして最低限求められる読解力、説明力、語彙力等、口述力以外の総合的な語学能力を身につけることを目的とし、具体的には通訳案内士試験の第一次試験の合格を目指すことを目標とする。第1次試験の出題に沿い、その受験対策となるような実践的学習を行う。</p> <p>授業の概要</p> <p>明確な目標の下、問題演習を多くこなしてゆく。また集中的訓練を中心としたPair-work, Group-workの形式で柔軟な対応を身につける相互訓練、及び Communication 訓練を行う。</p>		<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：Orientation（出席者の異文化体験・外国旅行体験等々調査を含む）</p> <p>第3回：実際の通訳案内士試験問題に取り組む</p> <p>第4回：必要とされる英語レベルの確認を行いながら、自己の英語総合力を認識させる</p> <p>第5回：幅広い理解力運用力涵養のため、様々な英語（各国の訛・特徴）を知る</p> <p>第6回：Speaking の訓練方法を紹介実践</p> <p>第7回：Listening の訓練方法を紹介実践</p> <p>第8回：Writing の訓練方法を紹介実践</p> <p>第9回：Extensive/Intensive Reading の紹介実践</p> <p>第10回：模擬通訳案内士試験問題取り組み</p> <p>第11回：英字新聞を利用し、時事問題について簡潔に伝える練習を行う</p> <p>第12回：映画を利用して名場面を英語で紹介する練習を行う</p> <p>第13回：日本の名所旧跡を選び印象的に紹介する練習をする</p> <p>第14回：日本一週のガイドに挑戦</p> <p>第15回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書 適宜紹介する		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	通訳案内士の英語 II	担当者	日野 克美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>「通訳案内士の英語 I」の続きの授業であるが、「通訳案内士の英語 I」で目標とした英語力に加え、通訳案内士の第2次口述試験を合格するのに必要な実践的コミュニケーション能力の訓練を行う</p> <p>授業の概要</p> <p>「通訳案内士の英語 I」の授業の方式を踏襲しつつ、更に高度な応用能力を涵養すべく、擬似口述試験の練習を定期的に取り入れる。クラス内でゲストを招き実際の通訳案内士の体験を行う。</p>		<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：Orientation（通訳案内士の英語 I で身につけた総合力の確認）</p> <p>第3回：Project（観光案内の計画）大テーマ策定</p> <p>第4回：各グループに分かれ、テーマを絞り、観光計画策定</p> <p>第5回：各グループで調査・演習活動（1）具体的計画策定</p> <p>第6回：各グループで調査・演習活動（2）計画実行及び反省・検討</p> <p>第7回：各グループ発表（審査・検討会）</p> <p>第8回：新しいテーマと新しいグループによる観光案内計画策定</p> <p>第9回：各グループで調査・演習活動（1）前回の計画・実行の反省・検討を基に計画策定</p> <p>第10回：各グループで調査・演習活動（2）計画実行及び反省・検討</p> <p>第11回：各グループ発表（審査・検討会）</p> <p>第12回：模擬試験</p> <p>第13回：模擬試験検討会</p> <p>第14回：各人による観光案内計画発表</p> <p>第15回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書 『英語で読む日本史』 講談社、『翻訳力練成テキストブック』 日外アソシエーツ		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、TOEICで900点を取得しても大半の学生が、ある程度本格的なビジネスレターを書けないのが現状である。本講義では、本格的な <b>Business Writing</b> の書き方を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたい学生と英語教員志望の学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的な <b>Business Writing</b> の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。</p> <p>具体的に講義を説明いたします。英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、ビジネスレターの書き方を指導する。同時に、国際企業への就職活動や海外の大学・大学院に入学するために必要な英文履歴書と英文カバーレターの書き方も分かりやすく説明し、指導する。<b>English for Business</b> と <b>Business Writing</b> の講義を併せて履修すると、社会に出ても十分に通用する <b>Business English</b> を総合的に学習することになります。</p> <p>尚、半期終了型の授業なので、それなりのスピードで授業を進めていきますので、予習・復習を十分にできる学生を対象といたします。第1回目の授業で詳しく説明いたします。一緒に勉強いたしましょう。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：ビジネスレターの形式（1） 第3回：ビジネスレターの形式（2）&amp;練習問題 第4回：効果的なビジネスレターの書き方&amp;練習問題 第5回：よく使用される表現（取引の申込み）&amp;練習問題 第6回：よく使用される表現（取引の申込みに対する応答）&amp;練習問題 第7回：よく使用される表現（引合い）&amp;練習問題 第8回：中間試験と復習 第9回：よく使用される表現（オファー）&amp;練習問題 第10回：よく使用される表現（オファーに対する応答）&amp;練習問題 第11回：よく使用される表現（信用状）&amp;練習問題 第12回：よく使用される表現（積出し）&amp;練習問題 第13回：よく使用される表現（クレーム）&amp;練習問題 第14回：就職申込状の書き方（カバーレター、レジュメ）&amp;練習問題 第15回：まとめ</p> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：海老沢達郎著『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007年・2011年重版） プリント：必要に応じて随時配布する</p>		<p>学期末試験（60%）を中心にして、これに中間試験(30%)、出席・授業貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は5回までとする。</p>	

09年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、TOEICで900点を取得しても大半の学生が、ある程度本格的なビジネスレターを書けないのが現状である。本講義では、本格的な <b>Business Writing</b> の書き方を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたい学生と英語教員志望の学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的な <b>Business Writing</b> の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。</p> <p>具体的に講義を説明いたします。英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、ビジネスレターの書き方を指導する。同時に、国際企業への就職活動や海外の大学・大学院に入学するために必要な英文履歴書と英文カバーレターの書き方も分かりやすく説明し、指導する。<b>English for Business</b> と <b>Business Writing</b> の講義を併せて履修すると、社会に出ても十分に通用する <b>Business English</b> を総合的に学習することになります。</p> <p>尚、半期終了型の授業なので、それなりのスピードで授業を進めていきますので、予習・復習を十分にできる学生を対象といたします。第1回目の授業で詳しく説明いたします。一緒に勉強いたしましょう。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：ビジネスレターの形式（1） 第3回：ビジネスレターの形式（2）&amp;練習問題 第4回：効果的なビジネスレターの書き方&amp;練習問題 第5回：よく使用される表現（取引の申込み）&amp;練習問題 第6回：よく使用される表現（取引の申込みに対する応答）&amp;練習問題 第7回：よく使用される表現（引合い）&amp;練習問題 第8回：中間試験と復習 第9回：よく使用される表現（オファー）&amp;練習問題 第10回：よく使用される表現（オファーに対する応答）&amp;練習問題 第11回：よく使用される表現（信用状）&amp;練習問題 第12回：よく使用される表現（積出し）&amp;練習問題 第13回：よく使用される表現（クレーム）&amp;練習問題 第14回：就職申込状の書き方（カバーレター、レジュメ）&amp;練習問題 第15回：まとめ</p> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：海老沢達郎著『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007年・2011年重版） プリント：必要に応じて随時配布する</p>		<p>学期末試験（60%）を中心にして、これに中間試験(30%)、出席・授業貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は5回までとする。</p>	

09年度以降	Academic Writing (月1)	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this course students will aim to build upon academic writing skills they have developed in previous studies. Through analysis of different forms of writing we will increase their understanding of the form and function of various types of academic essay.</p> <p>Students will strengthen their abilities to develop, outline and communicate their written English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course orientation and introduction.</li> <li>2. Examples of essays.</li> <li>3. Narrative essays.</li> <li>4. Narrative essays.</li> <li>5. Outlining.</li> <li>6. Narrative essay writing.</li> <li>7. Peer review and editing.</li> <li>8. Course review.</li> <li>9. Comparison essays.</li> <li>10. Comparison essays.</li> <li>11. Argumentative essays.</li> <li>12. Argumentative essays.</li> <li>13. Essay writing.</li> <li>14. Peer review and editing.</li> <li>15. Course review.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Great essays – Heinle – Keith S. Folse		Students will be assessed through development of their academic writing skills in submitted written work.	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	Academic Writing (金5)	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this course students will aim to build upon academic writing skills they have developed in previous studies. Through analysis of different forms of writing we will increase their understanding of the form and function of various types of academic essay.</p> <p>Students will strengthen their abilities to develop, outline and communicate their written English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course orientation and introduction.</li> <li>2. Examples of essays.</li> <li>3. Narrative essays.</li> <li>4. Narrative essays.</li> <li>5. Outlining.</li> <li>6. Narrative essay writing.</li> <li>7. Peer review and editing.</li> <li>8. Course review.</li> <li>9. Comparison essays.</li> <li>10. Comparison essays.</li> <li>11. Argumentative essays.</li> <li>12. Argumentative essays.</li> <li>13. Essay writing.</li> <li>14. Peer review and editing.</li> <li>15. Course review.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Great essays – Heinle – Keith S. Folse		Students will be assessed through development of their academic writing skills in submitted written work.	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Brainstorming and topic selection</li> <li>3. Organization</li> <li>4. Collecting and synthesizing information</li> <li>5 Paragraph to short essay</li> <li>6. Descriptive essay</li> <li>7. Narrative essay</li> <li>8. Opinion essay</li> <li>9. Peer evaluation</li> <li>10. writing final draft</li> <li>11. Comparison and contrast essay</li> <li>12. Paraphrasing</li> <li>13. Bibliography</li> <li>14 In-text citations</li> <li>15. Final Examination</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook is to be announced		Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	Academic Writing	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to instruct the students on how to write a well-structured, well-organized, logical and convincing essay in English. The students will be required master the use the basic essay structure (i.e. an introduction, a clear and concise topic sentence, a body and conclusion) and to compose essays on a variety of topics.</p>		<p>In this course, we will focus mainly in essay structure, to compose well-organized, well-thought, persuasive essays. We will write on number of interesting topics of increasing complexity. We hope to have an interesting, useful and educational class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided by the instructor.		Attendance and the quality of the essays.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself.</p> <p>The typical class will usually consist of a short lecture, followed by the presentation and analysis of a model writing.</p> <p>The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers.</p> <p>By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.</p>		<p>Week1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Evaluating sources</p> <p>Week 3: Prewriting activities</p> <p>Week 4: Brainstorming and narrowing the topic</p> <p>Week 5: Writing a thesis statement</p> <p>Week 6: Organizing ideas: writing task</p> <p>Week 7: Writing an essay outline</p> <p>Week 8: Revising the outline</p> <p>Week 9: Writing the draft</p> <p>Week 10: Quoting sources &amp; paraphrasing</p> <p>Week 11: Using statistics; writing task</p> <p>Week 12: Revising and Editing</p> <p>Week 13: Final draft due</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Points for further consideration:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Students will need an English-English dictionary</li> <li>• Students will be required to have a notebook</li> </ul>		<p>Week1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Evaluating sources</p> <p>Week 3: Prewriting activities</p> <p>Week 4: Brainstorming and narrowing the topic</p> <p>Week 5: Writing a thesis statement</p> <p>Week 6: Organizing ideas: writing task</p> <p>Week 7: Writing an essay outline</p> <p>Week 8: Revising the outline</p> <p>Week 9: Writing the draft</p> <p>Week 10: Quoting sources &amp; paraphrasing</p> <p>Week 11: Using statistics; writing task</p> <p>Week 12: Revising and Editing</p> <p>Week 13: Final draft due</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	D. H. ケネディ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is a one-semester course to develop students' confidence and ability to write academic research papers in English. Students will approach this art experientially – by participating meaningfully within a real academic community. In the process, they will understand the relevance of doing primary and secondary research, as well the logic behind expressing their discoveries in an acceptable academic format. The course will culminate in a short research paper with proper citation.</p> <p>Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback.</p> <p>Students are expected to spend plenty of time outside class doing readings, responding to these readings in a casual written format, conducting research, and completing assignments with care. In class, students should be prepared to contribute and to engage with others in the exchange of ideas.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Discussions on first reading</li> <li>3. Discussions on second reading</li> <li>4. Discussions on third reading</li> <li>5. Explanation of primary research project</li> <li>6. Planning and preparation</li> <li>7. Planning and preparation</li> <li>8. Group presentations</li> <li>9. Explanation of secondary research paper</li> <li>10. Discovering the natural structure of research papers</li> <li>11. Introductions, thesis statements, plans</li> <li>12. Plagiarism and the importance of citations</li> <li>13. Peer and instructor consultations</li> <li>14. Research paper due</li> <li>15. Review and feedback</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>All materials will be provided by the instructor. Students are expected to retain these materials until the end of the semester.</p>		<p>Students will be graded on the basis of attendance, preparation, participation, a group presentation, and a final research paper.</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	D. H. ケネディ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is a one-semester course to develop students' confidence and ability to write academic research papers in English. Students will approach this art experientially – by participating meaningfully within a real academic community. In the process, they will understand the relevance of doing primary and secondary research, as well the logic behind expressing their discoveries in an acceptable academic format. The course will culminate in a short research paper with proper citation.</p> <p>Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback.</p> <p>Students are expected to spend plenty of time outside class doing readings, responding to these readings in a casual written format, conducting research, and completing assignments with care. In class, students should be prepared to contribute and to engage with others in the exchange of ideas.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Discussions on first reading</li> <li>3. Discussions on second reading</li> <li>4. Discussions on third reading</li> <li>5. Explanation of primary research project</li> <li>6. Planning and preparation</li> <li>7. Planning and preparation</li> <li>8. Group presentations</li> <li>9. Explanation of secondary research paper</li> <li>10. Discovering the natural structure of research papers</li> <li>11. Introductions, thesis statements, plans</li> <li>12. Plagiarism and the importance of citations</li> <li>13. Peer and instructor consultations</li> <li>14. Research paper due</li> <li>15. Review and feedback</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>All materials will be provided by the instructor. Students are expected to retain these materials until the end of the semester.</p>		<p>Students will be graded on the basis of attendance, preparation, participation, a group presentation, and a final research paper.</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Learning to write in a foreign language takes time and effort, but it is very satisfying to be able to communicate your ideas in writing. The purpose of this course is to refine the skills acquired in the Basic Essay Writing course. Each student has a different level of skill in writing, but the only way to improve writing skills is to write. The course will introduce and give practice in collecting, organizing and presenting information in a written format in an academic environment. There will be a number of short assignments that students will resubmit after receiving feedback and one critical review. Students with a score of less than TOEIC 700 may find this course challenging.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Review of writing basics 1</li> <li>3. Review of writing basics 2</li> <li>4. Review of writing basics 3 – writing assignment</li> <li>5. Critical reading and Summary skills 1</li> <li>6. Summary skills 2 - summary assignment</li> <li>7. Responding to an article – summary and outlining</li> <li>8. Responding to an article – summary and outlining</li> <li>9. Common errors in English – revising and editing</li> <li>10. Academic patterns – revision - assignment</li> <li>11. Citations and references</li> <li>12. Writing a critical review</li> <li>13. Checking the first draft - formatting</li> <li>14. Revision and editing -</li> <li>15. Assignment submission and wrap up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>All materials will be provided by the instructor Reference materials will be introduced during the course.</p>		<p>Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to further refine academic writing skills. The more students practice, the more enjoyable writing will become. There will be a number of short assignments designed to reinforce class content and to enable students to receive detailed feedback from the instructor. Students should resubmit these assignments because it is common practice in academic writing to revise drafts before final submission. Students will also write one short paper on a topic of their choice. Students with a score of less than TOEIC 700 may find this course challenging.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Writing workshop 1</li> <li>3. Writing workshop 2 – writing assignment</li> <li>4. Library research skills</li> <li>5. Avoiding plagiarism 1 – summary and paraphrase</li> <li>6. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>7. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>8. Avoiding plagiarism 2 – citations and references</li> <li>9. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>10. Topic for the final paper</li> <li>11. Research, narrowing the topic and making an outline</li> <li>12. Questionnaires, graphs and tables</li> <li>13. Checking the first draft</li> <li>14. Sharing the final product</li> <li>15. Final paper submission and wrap up</li> </ol> <p>This syllabus may be modified to better suit student needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>All materials will be provided by the instructor. Reference materials will be introduced during the course.</p>		<p>Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and narrowing a topic Week 3 The five-paragraph essay Week 4 Outlining Week 5 Introductions and conclusions Week 6 Quoting sources Week 7 Choosing a project Week 8 Describing a process Week 9 Cause and effect essay Week 10 Expressing opinions Week 11 Expressing opinions Week 12 Classifying information Week 13 Writing a reaction Week 14 Editing your essay Week 15 Timed essay	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).	

09年度以降	Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and narrowing a topic Week 3 The five-paragraph essay Week 4 Outlining Week 5 Introductions and conclusions Week 6 Quoting sources Week 7 Choosing a project Week 8 Describing a process Week 9 Cause and effect essay Week 10 Expressing opinions Week 11 Expressing opinions Week 12 Classifying information Week 13 Writing a reaction Week 14 Editing your essay Week 15 Timed essay	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	Academic Writing	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice.</p> <p>Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion</p> <p>Week 2: Summarizing</p> <p>Week 3: Summary Workshop</p> <p>Week 4: Responding</p> <p>Week 5: Responding</p> <p>Week 6: Response Workshop</p> <p>Week 7: Textual Analysis</p> <p>Week 8: Textual Analysis</p> <p>Week 9: Textual Analysis Workshop</p> <p>Week 10: Comparison &amp; Contrast</p> <p>Week 11: Comparison &amp; Contrast</p> <p>Week 12: Comparison &amp; Contrast</p> <p>Week 13: Comparison &amp; Contrast Workshop</p> <p>Week 14: Final Workshop</p> <p>Week 15: Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary each week.		Grades will be based on participation and written assignments.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This positive and active class is for students who are serious about improving their academic writing skills. The lessons will progress step by step allowing the students to improve their essay writing skills.</p> <p>In addition to essay writing, the class will contain many opportunities to debate and discuss important social and world issues.</p> <p>Students who study hard will be able to improve their writing and debating skills. In addition, it is hoped that the students will be able to increase their vocabulary levels.</p> <p>Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English.</p>		<p>Below is a general outline of the course.</p> <p>Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics.  Week 3 - 4, The thesis statement. Discussion topics  Week 5 - 6, Writing an effective introduction. Discussion topics.  Week 7 - 8, Unity in an essay. Discussion topics.  Week 9 - 10, Concluding an essay. Discussion topics.  Week 11 - 14, Other important points in essay writing. Discussion topics. Week 15 - Final assessments.</p> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%, Final assessment: 20%	

09年度以降	Academic Writing	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This positive and active class is for students who are serious about improving their academic writing skills. The lessons will progress step by step allowing the students to improve their essay writing skills.</p> <p>In addition to essay writing, the class will contain many opportunities to debate and discuss important social and world issues.</p> <p>Students who study hard will be able to improve their writing and debating skills. In addition, it is hoped that the students will be able to increase their vocabulary levels.</p> <p>Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English.</p>		<p>Below is a general outline of the course.</p> <p>Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics.  Weeks 3 - 4, The paragraph and review of short essay structure. Discussion topics.  Weeks 5 - 7, Developing the 5 paragraph essay. Discussion topics.  Weeks 8 - 10, Unity and coherence in an essay. Discussion topics.  Weeks 11 -14, Editing your writing. Discussion topics.  Week 15 Final assessments.</p> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%, Final assessment: 20%	

09年度以降	Academic Writing	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation with explanation of grading system and student requirements.</li> <li>2. In-class diagnostic writing and Chapter 1</li> <li>3. Chapter 2: Review of paragraph basics.</li> <li>4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2.</li> <li>5. Chapter 3. Revising and editing.</li> <li>6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook.</li> <li>7. Chapter 4: The five-paragraph essay.</li> <li>8. The process essay.</li> <li>9. The division and classification essay.</li> <li>10. In-class timed division and classification essay.</li> <li>11. Causes and effects essay.</li> <li>12. Finish chapter 7</li> <li>13. The comparison/contrast essay</li> <li>14. Problem – Solution Essays</li> <li>15. Final in-class essay.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Title: <i>Ready To Write 3</i> Author: Blanchard and Root Publisher: Pearson/Longman		Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays..	

09年度以降	Academic Writing	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation with explanation of grading system and student requirements.</li> <li>2. In-class diagnostic writing and Chapter 1</li> <li>3. Chapter 2: Review of paragraph basics.</li> <li>4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2.</li> <li>5. Chapter 3. Revising and editing.</li> <li>6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook.</li> <li>7. Chapter 4: The five-paragraph essay.</li> <li>8. The process essay.</li> <li>9. The division and classification essay.</li> <li>10. In-class timed division and classification essay.</li> <li>11. Causes and effects essay.</li> <li>12. Finish chapter 7</li> <li>13. The comparison/contrast essay.</li> <li>14. Problem – Solution Essays</li> <li>15. Final in-class essay.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Title: <i>Ready To Write 3</i> Author: Blanchard and Root Publisher: Pearson/Longman		Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to improve and refine academic writing skills. Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement.</p> <p>Some of the topics that will be covered in class are: evaluation of basic writing structures, drafting, re-drafting, pre-writing techniques, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, citation, referencing, peer evaluation, library research skills, etymology and referencing in order to synthesize information to produce clear and coherent discourse.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start writing topic # 1</p> <p>Week 2: Writing Topic # 2</p> <p>Week 3: Writing Topic # 3</p> <p>Week 4: Writing Topic # 4</p> <p>Week 5: Writing Topic # 5</p> <p>Week 6: Writing Topic # 6</p> <p>Week 7: Quiz</p> <p>Week 8: Writing Topic # 7</p> <p>Week 9: Writing Topic # 8</p> <p>Week 10: Writing Topic # 9</p> <p>Week 11: Writing Topic # 10</p> <p>Week 12: Writing Topic # 11</p> <p>Week 13: Writing Topic # 12</p> <p>Week 14: Writing Topic # 13</p> <p>Week 15: Quiz</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.		Attendance, weekly exercises, quizzes, participation, class writing activities and writing of a number of papers.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to improve and refine academic writing skills. Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement.</p> <p>Some of the topics that will be covered in class are: evaluation of basic writing structures, drafting, re-drafting, pre-writing techniques, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, citation, referencing, peer evaluation, library research skills, etymology and referencing in order to synthesize information to produce clear and coherent discourse.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start writing topic # 1</p> <p>Week 2: Writing Topic # 2</p> <p>Week 3: Writing Topic # 3</p> <p>Week 4: Writing Topic # 4</p> <p>Week 5: Writing Topic # 5</p> <p>Week 6: Writing Topic # 6</p> <p>Week 7: Quiz</p> <p>Week 8: Writing Topic # 7</p> <p>Week 9: Writing Topic # 8</p> <p>Week 10: Writing Topic # 9</p> <p>Week 11: Writing Topic # 10</p> <p>Week 12: Writing Topic # 11</p> <p>Week 13: Writing Topic # 12</p> <p>Week 14: Writing Topic # 13</p> <p>Week 15: Quiz</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.		Attendance, weekly exercises, quizzes, participation, class writing activities and writing of a number of papers.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	佐原 彩子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this course, the students will learn how to write academic essays in English. The aim of the class is to write an organized research paper in English (1000-1300 words). To reach this goal, the student will be taught how to write thesis statement, show evidences and cite sources. This is a process to learn how to develop ideas into academic essay topics.</p> <p>Students are expected to turn in a couple of drafts before the final draft. To produce an English academic essay, students need to do some research, write drafts and revise them.</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Choosing a topic</li> <li>3. Research skills (citation format, quotation, plagiarism)</li> <li>4. Analyzing research findings</li> <li>5. Writing a thesis statement</li> <li>6. Writing outline (flow of argument)</li> <li>7. Writing a first draft</li> <li>8. Revising organization (overall argument, each paragraph)</li> <li>9. Revising thesis statement</li> <li>10. Writing the second draft</li> <li>11. Peer evaluation</li> <li>12. Revising and editing the second draft</li> <li>13. Writing the final draft</li> <li>14. Peer evaluation</li> <li>15. Feedback</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Robyn Najar and Lesley Riley, Developing Academic Writing Skills (Macmillan Language House, 2013)		Attendance & participation 25%, Each draft 25% (75%). Instruction will be given on the first day of the class.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	佐原 彩子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this course, the students will learn how to write academic essays in English. The aim of the class is to write an organized research paper in English (1000-1300 words). To reach this goal, the student will be taught how to write thesis statement, show evidences and cite sources. This is a process to learn how to develop ideas into academic essay topics.</p> <p>Students are expected to turn in a couple of drafts before the final draft. To produce an English academic essay, students need to do some research, write drafts and revise them.</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Choosing a topic</li> <li>3. Research skills (citation format, quotation, plagiarism)</li> <li>4. Analyzing research findings</li> <li>5. Writing a thesis statement</li> <li>6. Writing outline (flow of argument)</li> <li>7. Writing a first draft</li> <li>8. Revising organization (overall argument, each paragraph)</li> <li>9. Revising thesis statement</li> <li>10. Writing the second draft</li> <li>11. Peer evaluation</li> <li>12. Revising and editing the second draft</li> <li>13. Writing the final draft</li> <li>14. Peer evaluation</li> <li>15. Feedback</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Robyn Najar and Lesley Riley, Developing Academic Writing Skills (Macmillan Language House, 2013)		Attendance & participation 25%, Each draft 25% (75%). Instruction will be given on the first day of the class.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	阿部 真
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The purpose of this course is to refine academic essay-writing skills. In this course, we will particularly focus on two types of essay (argumentative and descriptive essays). Mechanics, punctuation and other basic elements (quoting, referencing, paraphrasing, summarizing, etc.) necessary for academic writing will also be emphasized. Students will need to carefully review their own first draft, avoid basic grammar mistakes, and create a final draft through several revisions. Students will also be required to participate classroom discussion about the topical issues, peer feedback about and pair/team writing activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Writing an argumentative essay (essay organization)</li> <li>2. Writing an argumentative essay (understanding a prompt)</li> <li>3. Writing an argumentative essay (using a rubric)</li> <li>4. Writing an argumentative essay (unity and coherence)</li> <li>5. Timed writing and teacher/peer feedback</li> <li>6. Mechanics and punctuation</li> <li>7. Interpreting and describing visual images (interpreting)</li> <li>8. Interpreting and describing visual images (describing a table)</li> <li>9. Interpreting and describing visual images (describing a chart)</li> <li>10. Interpreting and describing visual images (describing a graph)</li> <li>11. Timed writing and teacher/peer feedback</li> <li>12. Mechanics and punctuation</li> <li>13. References, quotes, and citations</li> <li>14. Paraphrasing, summarizing and synthesizing</li> <li>15. Semester review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Handouts will be provided in each class.		Attendance and participation (20%); in-class achievement (20%); written assignments (60%)	

09年度以降	Academic Writing	担当者	阿部 真
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The purpose of this course is to refine academic essay-writing skills. In this course, we will particularly focus on two types of essay (argumentative and descriptive essays). Mechanics, punctuation and other basic elements (quoting, referencing, paraphrasing, summarizing, etc.) necessary for academic writing will also be emphasized. Students will need to carefully review their own first draft, avoid basic grammar mistakes, and create a final draft through several revisions. Students will also be required to participate classroom discussion about the topical issues, peer feedback about and pair/team writing activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Writing an argumentative essay (essay organization)</li> <li>2. Writing an argumentative essay (understanding a prompt)</li> <li>3. Writing an argumentative essay (using a rubric)</li> <li>4. Writing an argumentative essay (unity and coherence)</li> <li>5. Timed writing and teacher/peer feedback</li> <li>6. Mechanics and punctuation</li> <li>7. Interpreting and describing visual images (interpreting)</li> <li>8. Interpreting and describing visual images (describing a table)</li> <li>9. Interpreting and describing visual images (describing a chart)</li> <li>10. Interpreting and describing visual images (describing a graph)</li> <li>11. Timed writing and teacher/peer feedback</li> <li>12. Mechanics and punctuation</li> <li>13. References, quotes, and citations</li> <li>14. Paraphrasing, summarizing and synthesizing</li> <li>15. Semester review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Handouts will be provided in each class.		Attendance and participation (20%); in-class achievement (20%); written assignments (60%)	

09年度以降	Academic Writing	担当者	K. フォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this one-semester Academic Writing course students develop their ability to write an essay that has logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in an argumentative style essay.</p> <p>The 1000-word essay is on an academic topic of each student's choosing. It will incorporate researched sources, using paraphrases/summaries and quotations.</p> <p>This assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Course Introduction</li> <li>2.Review of essay structure/ Analyzing model essays</li> <li>3.Analyzing introductions and thesis statements</li> <li>4.Brainstorming/ Outlining</li> <li>5.Analyzing logical body paragraph structure</li> <li>6.Finding sources</li> <li>7.Finding sources</li> <li>8.Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>9.Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>10.Revision/Editing of body paragraphs</li> <li>11.Analyzing concluding paragraphs</li> <li>12.Revision and editing checklists</li> <li>13.Peer review of latest draft</li> <li>14.Final essay submission/Course review test</li> <li>15.Return of essays/Self-reflection</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required for this course.		Grades are based on attendance, submissions of work in progress, final writing assignment.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	K. フォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this one-semester Academic Writing course students develop their ability to write an essay that has logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in an argumentative style essay.</p> <p>The 1000-word essay is on an academic topic of each student's choosing. It will incorporate researched sources, using paraphrases/summaries and quotations.</p> <p>This assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Course Introduction</li> <li>2.Review of essay structure/ Analyzing model essays</li> <li>3.Analyzing introductions and thesis statements</li> <li>4.Brainstorming/ Outlining</li> <li>5.Analyzing logical body paragraph structure</li> <li>6.Finding sources</li> <li>7.Finding sources</li> <li>8.Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>9.Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>10.Revision/Editing of body paragraphs</li> <li>11.Analyzing concluding paragraphs</li> <li>12.Revision and editing checklists</li> <li>13.Peer review of latest draft</li> <li>14.Final essay submission/Course review test</li> <li>15.Return of essays/Self-reflection</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required for this course.		Grades are based on attendance, submissions of work in progress, final writing assignment.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	S. ペイン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of this class is to learn how to construct a logical, unified, coherent academic essay.</p> <p>The typical class will include a short lecture followed by writing related activities such as discussions, brainstorming, and peer-review editing. Time will be provided in class for some writing.</p> <p>The classroom language will be English only. Students are expected to speak English only in the classroom.</p> <p>Students are expected to spend time outside of class reading, writing, doing research, and completing assignments. In class, students are expected to participate in class and small-group discussions based on homework assignments.</p>		<p>Week 1: Course Introduction and sample writing</p> <p>Week 2: Choosing a topic</p> <p>Week 3: Pre-writing and Research</p> <p>Week 4: Thesis statements and Logic</p> <p>Week 5: Outlines and Unity</p> <p>Week 6: Paragraph and Coherence</p> <p>Week 7: Transitions and Fluency</p> <p>Week 8: Evidence and Support</p> <p>Week 9: Citations</p> <p>Week 10: Introductions and Conclusions</p> <p>Week 11: Drafts and Editing</p> <p>Week 12: First drafts due</p> <p>Week 13: Final drafts due</p> <p>Week 14: Writing reviews</p> <p>Week 15: Wrapping up</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be provided by the instructor. Students are expected to retain these materials and use them throughout the semester.		Students will be graded on the basis of attendance, preparation, participation, and a final research paper.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	S. ペイン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of this class is to learn how to construct a logical, unified, coherent academic essay.</p> <p>The typical class will include a short lecture followed by writing related activities such as discussions, brainstorming, and peer-review editing. Time will be provided in class for some writing.</p> <p>The classroom language will be English only. Students are expected to speak English only in the classroom.</p> <p>Students are expected to spend time outside of class reading, writing, doing research, and completing assignments. In class, students are expected to participate in class and small-group discussions based on homework assignments.</p>		<p>Week1: Course Introduction and sample writing</p> <p>Week 2: Choosing a topic</p> <p>Week 3: Pre-writing and Research</p> <p>Week 4: Thesis statements and Logic</p> <p>Week 5: Outlines and Unity</p> <p>Week 6: Paragraph and Coherence</p> <p>Week 7: Transitions and Fluency</p> <p>Week 8: Evidence and Support</p> <p>Week 9: Citations</p> <p>Week 10: Introductions and Conclusions</p> <p>Week 11: Drafts and Editing</p> <p>Week 12: First drafts due</p> <p>Week 13: Final drafts due</p> <p>Week 14: Writing reviews</p> <p>Week 15: Wrapping up</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be provided by the instructor. Students are expected to retain these materials and use them throughout the semester.		Students will be graded on the basis of attendance, preparation, participation, and a final research paper.	

09年度以降	翻訳 I	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。</p> <p>授業では、主として新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。</p> <p>また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較検討</p> <p>第5回 復習テスト</p> <p>第6～14回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりません。	

09年度以降	翻訳 I	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p> <p>なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。</p> <p>また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回 前期テストの講評および後期授業のガイダンス</p> <p>第2回 日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第3回 日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第7回 復習テスト</p> <p>第8～14回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりません。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	翻訳 I	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。</p> <p>問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたうえで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。またテキストの性質によっても、考慮すべき問題はかわってきますので、そこにも注目していきます。また後半にはグループでミニ翻訳プロジェクトに取り組んでももらいます。</p> <p>受講生に求める英語力のレベル： <i>Guardian</i> 紙のトップ記事が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。特に文法的な構造がしっかりと理解できること。(時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません)そこに達していない学生は、「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として基礎的な文法の指導は行いません。</p>		<p>*授業はひとつの教材について次の流れで行う。 教材の紹介(授業)→教材を読んで不明点を洗い出す+翻訳開始(課題)→不明点を解決する(授業)→訳了+提出(課題)→添削+解説(授業)。</p> <p>*15回の授業は原則として以下のとおりにする。紙幅の都合によりここに提示できない詳細については一回目の授業で説明する。</p> <p>_____15回の授業は以下のとおり_____</p> <p>1. 導入とトライアル(短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う)+教材1の紹介</p> <p>2~10. 教材1-8までを上記のプロセスで訳す。 (第2回めの半分は図書館で辞書・事典の紹介を行う。適切なところで、11回目以降のプロジェクトについての解説と下準備を行う。)</p> <p>11~15. グループ・プロジェクト (邦訳されていない本を選び、一冊読了したうえで、最初の章、あるいは数頁を翻訳し、その本の書評の翻訳と、自分たちで作成した本の紹介文とともに提出。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
1回から10回までは、ハンドアウトおよびインターネットからのダウンロードを使用する。また、講師が実際に仕事としてやってきた業務翻訳から文学作品まで、翻訳の実際のプロセスも提示する。11回以降のプロジェクト用には、自分が選んだ本を購入していただく。対象テキストは散文とする。辞書や参考書については、授業内で指示する。		出席 20% 教材1~8までの提出物の評価 50% グループ・プロジェクトの評価 30%	

09年度以降	翻訳 I	担当者	田村 斉敏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>目的</b> このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。授業で取り上げる対象は、短編小説、詩、戯曲、短めのエッセイなど様々なジャンルの文学作品を主としたものです。</p> <p><b>概要</b> 授業はグループワークを中心とします。あらかじめ課題に対する作業を個別に行ったものを持ち寄り、グループ内で疑問点等を出し合います。その上で他グループに対する質問票を作成し、全体討議でグループ間での質疑応答をします。</p> <p>次に、グループリーダーを中心として、グループで一つの訳文を作成する作業を行います。できあがった訳文は他のグループと共有して相互評価をします。</p> <p>教員はグループワークに適宜助言を行います。また、最終的に提出された訳文に対する教員側からの提案や評価を与えます。</p> <p>最後に、個別に翻訳したものを発表会形式で発表し、相互添削を行います。</p>		<p>1 インTRODクシヨン ここで最初の課題文をプリントで手渡します。</p> <p>2～ 概要の説明にあるような方法で授業を進めます。グループは基本的に課題ごとに作り直します。</p> <p>14.15 最終発表会 13回目までの途中に、最終発表会の候補リストを配布し（自分で素材を追加することも可）、自分で翻訳を作成、全員の前で発表、相互添削を行います。具体的なやり方については授業中に説明します。</p> <p>期末にレポートの代わりとして、最終発表会で出された意見等を反映した修正された訳文を提出してもらいます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
個別のテキストは授業内で指示、配布します。		授業中に提出された課題と最終発表会での発表を8割とする。期末に最終発表会を経て修正した訳文をレポート代わりに提出、その評価も含む（2割）。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	翻訳 I (木 3)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・春学期は 53 番から 75 番を扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 翻訳という仕事①</li> <li>2 試練に立つ文明</li> <li>3 文体論</li> <li>4 技師の親指</li> <li>5 過激の効用</li> <li>6 神経質な私</li> <li>7 独立独歩</li> <li>8 詩人の感性</li> <li>9 文化伝達の経路</li> <li>10 旅の楽しみ</li> <li>11 興味をもつこと</li> <li>12 食べ物の話題</li> <li>13 余暇の過ごし方</li> <li>14 自分の基準をもて</li> <li>15 翻訳のための文法①</li> </ol> <p>*各回、他に 1 題を扱います</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

09年度以降	翻訳 I (木 3)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・秋学期は 76 番から 100 番を扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、翻訳という仕事②</li> <li>2、集団と個人</li> <li>3、編集者の誇り</li> <li>4、歴史が証明するもの</li> <li>5、親であるよろこび</li> <li>6、隣人について</li> <li>7、民主主義国家の政治</li> <li>8、イギリスの官界の習い</li> <li>9、あるがままの人生</li> <li>10、赤ずきんのお話</li> <li>11、人から尊敬をうけるには</li> <li>12、話すことと書くこと</li> <li>13、日本人論</li> <li>14、都市問題</li> <li>15、翻訳のための文法②</li> </ol> <p>*各回とも上記ほか 1 編を扱う</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

09年度以降	翻訳Ⅰ（木4）	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれませんが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。</p> <p>秋学期同時限(木4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、英語の規則 ①</li> <li>2、児童文学「幸福の王子」Ⅰ</li> <li>3、児童文学「幸福の王子」Ⅱ</li> <li>4、児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅰ</li> <li>5、児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅱ</li> <li>6、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅰ</li> <li>7、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅱ</li> <li>8、子供百科「フクロウの目」</li> <li>9、子供百科「恐竜」</li> <li>10、子供百科「宇宙」</li> <li>11、ミュージカル「オクラホマ」</li> <li>12、詩「虹の歌」</li> <li>13、小説「マダム・ロゼット」</li> <li>14、歴史「トロイ戦争」</li> <li>15、歴史「ミノタウロス」</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』（青弓社、2012年）。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、をみます。</p>	

09年度以降	翻訳Ⅰ（木4）	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。</p> <p>抽選に落ちて、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、英語の規則②</li> <li>2、音楽「スライ・ストーン」</li> <li>3、ロマンス小説「サラの冒険」</li> <li>4、ロマンス小説「サラの冒険」(続き)</li> <li>5、評論「日本人」</li> <li>6、評論「俗物根性とは」</li> <li>7、評伝「吉田寅次郎」</li> <li>8、評伝「吉田寅次郎」(続き)</li> <li>9、ジャック・ニコラウス自伝</li> <li>10、精神世界「ミーガンの奇跡」</li> <li>11、歴史「ギロチン」</li> <li>12、短編小説「悲劇のはじまり」①</li> <li>13、短編小説「悲劇のはじまり」②</li> <li>14、短編小説「悲劇のはじまり」③</li> <li>15、短編小説「悲劇のはじまり」④</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』（青弓社、2012年）。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、をみます。</p>	

09年度以降	翻訳 I	担当者	山中 章子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。</p> <p>翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。</p> <p>授業では毎回全員から、前もって課題文(1~2ページ)を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。</p> <p>本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。</p> <p>なお、履修登録のみの幽霊学生を予防するため、初回の授業に出席することを履修の条件とします。</p>		<p>1. イントロダクション 2-14. 演習 15. 講義のまとめ</p> <p>一時間に翻訳する分量は少な目かもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。</p> <p>慣れてきたら、グループやペアになって発表します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>Sudden Fiction (Continued)</i>. R. Shapard and J. Thomas eds. New York: Norton, 1996. Aimee Bender. <i>Willful Creatures</i>. New York: Anchor Books, 2005.等を使用。必要箇所のコピーを配布します。</p>		<p>授業内の提出課題・参加度(50%)、レポート(50%)の総合評価。</p>	

09年度以降	翻訳 I	担当者	山中 章子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。</p> <p>翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。</p> <p>授業では毎回全員から、前もって課題文(1~2ページ)を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。</p> <p>本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。</p> <p>なお、履修登録のみの幽霊学生を予防するため、初回の授業に出席することを履修の条件とします。</p>		<p>1. イントロダクション 2-14. 演習 15. 講義のまとめ</p> <p>一時間に翻訳する分量は少な目かもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。</p> <p>慣れてきたら、グループやペアになって発表します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>Sudden Fiction (Continued)</i>. R. Shapard and J. Thomas eds. New York: Norton, 1996. Aimee Bender. <i>Willful Creatures</i>. New York: Anchor Books, 2005.などを使用。必要箇所のコピーを配布します。</p>		<p>授業内の提出課題・参加度(50%)、レポート(50%)の総合評価。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	翻訳 I	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳するためには、テキストにどっぷり浸かり込んで、他者のなかに入り込み、声に耳を澄ませ、沢山ある可能性のなかから選択し削り取り、懇切丁寧に別の言語に変えていくという必要があります。翻訳は、「自分を表現する場」というよりは、「愛情持ってテキストの内容を伝える場」となるのかもしれませんが。</p> <p>翻訳とは「もっとも効率の悪い読書」であり、「何かを真剣に学びとろうという作業」。そして翻訳者にとって一番必要なのは「偏見ある愛情」で、「悲観的な人には翻訳なんてできない」。村上春樹はこう表現しました。「翻訳」の好きな方、どうぞお待ちしております。</p>		<p>1. ガイダンス 2-14 演習 15. 講義のまとめ</p> <p>この授業では、毎回全員がテキストの範囲分をあらかじめ翻訳し、2部ずつ印刷してきて、授業に参加していただきたいと考えております。1部は自分の手元に、もう1部はクラスメイトと交換します（私が集め、シャッフルして配ります）。</p> <p>更に、毎回発表者が前に来て、自分の訳を全員に配布し、クラスメイトに説明します。発表者はパワーポイントを利用し、訳の背景や疑問点や工夫した点などを発表します。</p> <p>学生の皆さんの手元には、自分の訳、交換したクラスメイトの訳、発表者の訳、3種類の訳があります。この資料をもとに、近所のクラスメイトの方と話し合ってください。そして、それぞれのグループの意見を教えて下さい。</p> <p>「うわ、面倒くさい…」と思ったかもしれませんが。確かに大変かと思いますが。でも、翻訳の楽しさも皆さんと一緒に分かち合いたいと思っています。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回の授業で指示します。		<p>※ 授業参加度、提出物、発表などを総合的に評価します。 ※ 遅刻3回（30分以内）で1回の欠席とみなします。 欠席5回した時点で単位取得が不可能となります。</p>	

09年度以降	翻訳 II	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on <u>translations from English to Japanese</u>. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include <u>poems</u> (by Robert Frost, et al.), <u>novels</u> (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.) <u>newspaper and magazine articles</u> (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language movies (Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures <u>in Japanese</u> presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1.1 Introduction 1.2 Document #1 (see list at left for examples) 1.3 Document #2 1.4 Document #3 1.5 Document #4 1.6 Document #5 1.7 Document #6 1.8 Document #7 1.9 Document #8 1.10 Document #9 1.11 Document #10 1.12 Document #11 1.13 Document #12 1.14/15 Final Examination and Self-Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Class participation 25%, Homework 25%, Final examination and self-evaluation 25%	

09年度以降	翻訳 II	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on <u>translations from Japanese to English</u>. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include <u>English translations of novels and essays by famous Japanese authors</u> (including Matsuo Basho, Natsume Soseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with <u>movies</u> based on those authors's works, and Japanese <u>animated features</u> (looking at the English and Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures <u>in Japanese</u> presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		2.1 Introduction 2.2 Author #1 (see list at left for examples) 2.3 Author #2 2.4 Author #3 2.5 Author #4 2.6 Author #5 2.7 Author #6 2.8 Author #7 2.9 Author #8 2.10 Author #9 2.11 Author #10 2.12 Author #11 2.13 Author #12 2.14/15 Final Examination and Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Class participation 25%, Homework 25%, Final examination and self-evaluation 25%	

09年度以降	翻訳 II	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>翻訳と英語学習で使われている英文和訳の間には、大きな違いがある。翻訳の第一歩は、その違いをしっかりと認識することから始まる。この講義では等価の翻訳とは何か、ニーズに応じた理想的な翻訳とは何かの枠組みを学び、実践に役立つ基本姿勢を身に付けることを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>名訳とされる翻訳作品などのテキストを用い、パソコンを活用して訳語や表現を検索し、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通じて、さまざまな角度から翻訳の要諦を取り上げていく。詳細は初回のオリエンテーションで説明する。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 翻訳演習</p> <p>第15回 総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜配布する。		出席状況、授業参加への積極性、課題・レポートを総合的に評価する。また3分の1を超える欠席は不可とする。	

09年度以降	翻訳 II	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>翻訳をするときには、目的・コンテキスト・対象者・ジャンルに応じた訳語や決まり事など、さまざまな面を踏まえる必要がある。この講義では翻訳にあたって必要な心得を身に付け、翻訳の実務に役立つ基礎体力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>幅広い範囲から抜粋するテキストを用い、パソコン検索の利点を活かしながら、短文・長文を織り交ぜた実践的演習を中心に授業を進める。詳細は初回のオリエンテーションで説明する。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 翻訳演習</p> <p>第15回 総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜配布する。		出席状況、授業参加への積極性、課題・レポートを総合的に評価する。また3分の1を超える欠席は不可とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	College Grammar (月4)	担当者	朝江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ(授業計画 2~4 参照)。次に、各構文について学ぶ(授業計画 5~14 参照)。</p> <p>この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。</p> <p>なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 時制</li> <li>3. 呼応と時制の一致 (1)</li> <li>4. 呼応と時制の一致 (2)</li> <li>5. 態</li> <li>6. 仮定法</li> <li>7. 不定詞</li> <li>8. 分詞</li> <li>9. 動名詞</li> <li>10. 関係代名詞 (1)</li> <li>11. 関係代名詞 (2)</li> <li>12. 関係副詞</li> <li>13. 比較</li> <li>14. 否定</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社</p> <p>参考文献：安井稔 (1996) 『英文法総覧 (改訂版)』開拓社</p>		<p>出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

09年度以降	College Grammar (水3)	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ(授業計画 2~6 参照)。次に、文の各要素について学ぶ(授業計画 7~14 参照)。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 文</li> <li>3. 主部・文型</li> <li>4. 述語動詞Ⅰ</li> <li>5. 述語動詞Ⅱ</li> <li>6. 文の種類・8品詞</li> <li>7. 名詞</li> <li>8. 代名詞</li> <li>9. 形容詞</li> <li>10. 冠詞</li> <li>11. 副詞・動詞</li> <li>12. 助動詞</li> <li>13. 接続詞</li> <li>14. 前置詞</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：安井稔 (1996) 『英文法総覧 (改訂版)』開拓社</p>		出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

09年度以降	College Grammar (水3)	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ(授業計画 2~4 参照)。次に、各構文について学ぶ(授業計画 5~14 参照)。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 時制</li> <li>3. 呼応と時制の一致 (1)</li> <li>4. 呼応と時制の一致 (2)</li> <li>5. 態</li> <li>6. 仮定法</li> <li>7. 不定詞</li> <li>8. 分詞</li> <li>9. 動名詞</li> <li>10. 関係代名詞 (1)</li> <li>11. 関係代名詞 (2)</li> <li>12. 関係副詞</li> <li>13. 比較</li> <li>14. 否定</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：安井稔 (1996) 『英文法総覧 (改訂版)』開拓社</p>		出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

09年度以降	College Grammar (水4)	担当者	韮江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画 2~6 参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画 7~14 参照）。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 文</li> <li>3. 主部・文型</li> <li>4. 述語動詞 I</li> <li>5. 述語動詞 II</li> <li>6. 文の種類・8 品詞</li> <li>7. 名詞</li> <li>8. 代名詞</li> <li>9. 形容詞</li> <li>10. 冠詞</li> <li>11. 副詞・動詞</li> <li>12. 助動詞</li> <li>13. 接続詞</li> <li>14. 前置詞</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：安井稔 (1996) 『英文法総覧 (改訂版)』開拓社</p>		<p>出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	College Grammar (火3)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (出席は必須)</li> <li>2. 場所扱いか道具扱いか (1)</li> <li>3. 場所扱いか道具扱いか (2)</li> <li>4. 自動詞+前置詞は他動詞か (1)</li> <li>5. 自動詞+前置詞は他動詞か (2)</li> <li>6. 〈道具〉はいつ主語になれるか (1)</li> <li>7. 〈道具〉はいつ主語になれるか (2)</li> <li>8. 再帰代名詞の不思議 (1)</li> <li>9. 再帰代名詞の不思議 (2)</li> <li>10. EAT AT は EAT とどう違うのか (1)</li> <li>11. EAT AT は EAT とどう違うのか (2)</li> <li>12. Mary hit John on the head. の構文 (1)</li> <li>13. Mary hit John on the head. の構文 (2)</li> <li>14. I did the book. = 「私はその本をした」? (1)</li> <li>15. I did the book. = 「私はその本をした」? (2)</li> </ol> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中右実 (1995-1998)「発見の英文法 連載 1~7」『高校英語展望』第 8 号~第 14 号. 小学館・尚学図書.		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

09年度以降	College Grammar (火3)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (出席は必須)</li> <li>2. 「数の一致」はどのように決まるか (1)</li> <li>3. 「数の一致」はどのように決まるか (2)</li> <li>4. 絶対複数名詞 trousers の不思議 (1)</li> <li>5. 絶対複数名詞 trousers の不思議 (2)</li> <li>6. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか (1)</li> <li>7. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか (2)</li> <li>8. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか (3)</li> <li>9. 秤の変遷: scales から scale への道 (1)</li> <li>10. 秤の変遷: scales から scale への道 (2)</li> <li>11. なぜ in a car なのに on a bus なのか (1)</li> <li>12. なぜ in a car なのに on a bus なのか (2)</li> <li>13. なぜ in a car なのに on a bus なのか (3)</li> <li>14. なぜ at night というのに at day とはいわないか (1)</li> <li>15. なぜ at night というのに at day とはいわないか (2)</li> </ol> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中右実 (1998-2001)「発見の英文法 連載 8~20」『高校英語展望』第 15 号~第 20 号. 小学館・尚学図書.		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

09年度以降	College Grammar (木3)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (出席は必須)</li> <li>2. 場所扱いか道具扱いか (1)</li> <li>3. 場所扱いか道具扱いか (2)</li> <li>4. 自動詞+前置詞は他動詞か (1)</li> <li>5. 自動詞+前置詞は他動詞か (2)</li> <li>6. 〈道具〉はいつ主語になれるか (1)</li> <li>7. 〈道具〉はいつ主語になれるか (2)</li> <li>8. 再帰代名詞の不思議 (1)</li> <li>9. 再帰代名詞の不思議 (2)</li> <li>10. EAT AT は EAT とどう違うのか (1)</li> <li>11. EAT AT は EAT とどう違うのか (2)</li> <li>12. Mary hit John on the head.の構文 (1)</li> <li>13. Mary hit John on the head.の構文 (2)</li> <li>14. I did the book.=「私はその本をした」? (1)</li> <li>15. I did the book.=「私はその本をした」? (2)</li> </ol> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中右実 (1995-1998)「発見の英文法 連載 1~7」『高校英語展望』第 8号~第 14号. 小学館・尚学図書.		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3分の2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

09年度以降	College Grammar (木3)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (出席は必須)</li> <li>2. 「数の一致」はどのように決まるか (1)</li> <li>3. 「数の一致」はどのように決まるか (2)</li> <li>4. 絶対複数名詞 trousers の不思議 (1)</li> <li>5. 絶対複数名詞 trousers の不思議 (2)</li> <li>6. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか (1)</li> <li>7. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか (2)</li> <li>8. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか (3)</li> <li>9. 秤の変遷: scales から scale への道 (1)</li> <li>10. 秤の変遷: scales から scale への道 (2)</li> <li>11. なぜ in a carなのに on a busなのか (1)</li> <li>12. なぜ in a carなのに on a busなのか (2)</li> <li>13. なぜ in a carなのに on a busなのか (3)</li> <li>14. なぜ at night というのに at day とはいわないか (1)</li> <li>15. なぜ at night というのに at day とはいわないか (2)</li> </ol> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中右実 (1998-2001)「発見の英文法 連載 8~20」『高校英語展望』第 15号~第 20号. 小学館・尚学図書.		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3分の2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

09年度以降	College Grammar	担当者	長南 一豪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、英語で書かれた最近の英文法書を読みながら、英文法の全体像をつかみ、理解を深めることを目的とします。毎回、右に示すようなテーマを1つ設定し、テキストを読みながら考えていきます。講義やテキストの内容をただ受動的に受け入れるだけではなく、問題点を自分の頭で考えることに重点を置きます。同時に、英文法書を読むために必要な英語力・読解力を身につけます。さらに、「日本人（日本語を母語とする者）にとっての英文法」という観点から、英語と日本語の違いについても考えます。これらのテーマに対する答えは1つとは限りませんので、自分なりの結論を出し、自分の言葉で説明できるようにすることを目指します。</p> <p>受講者は、テキストの指定された部分についてきちんと予習しておくことが求められます。また、学期中に4回程度の簡単なレポートが課されます。</p> <p>春学期は、語や句に関する内容が中心となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. はじめに I done it は正しい英語か</li> <li>3. 概観 英語と日本語の語順の共通点と相違点は何か</li> <li>4. 動詞① I must <u>work</u>. は原形か、現在形か</li> <li>5. 動詞② 英語の過去形と日本語の「た」はどう違うか</li> <li>6. 動詞③ I <u>got</u> it. と I've <u>got</u> it. はどう違うか</li> <li>7. 動詞④ You <u>must</u> be honest. はどんな意味か</li> <li>8. 節① He used <u>the key</u>. は省略できるか</li> <li>9. 節② 英語と日本語の主語はどう違うか</li> <li>10. 節③ He became the treasurer. は受身になるか</li> <li>11. 名詞① improvement には冠詞が必要か</li> <li>12. 名詞② my criticism of her decision をどう訳すか</li> <li>13. 名詞③ everyone はどの代名詞で受ければよいか</li> <li>14. 形容詞 almost boys はなぜ誤りか</li> <li>15. 前置詞 He came <u>in</u>. は前置詞か、副詞か</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Huddleston, R, and G. Pullum. (2005), <i>A Student's Introduction to English Grammar</i>, Cambridge. (一括注文し、実費で頒布します。3000円程度)</p>		<p>期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。</p>	

09年度以降	College Grammar	担当者	長南 一豪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、英語で書かれた最近の英文法書を読みながら、英文法の全体像をつかみ、理解を深めることを目的とします。毎回、右に示すようなテーマを1つ設定し、テキストを読みながら考えていきます。講義やテキストの内容をただ受動的に受け入れるだけではなく、問題点を自分の頭で考えることに重点を置きます。同時に、英文法書を読むために必要な英語力・読解力を身につけます。さらに、「日本人（日本語を母語とする者）にとっての英文法」という観点から、英語と日本語の違いについても考えます。これらのテーマに対する答えは1つとは限りませんので、自分なりの結論を出し、自分の言葉で説明できるようにすることを目指します。</p> <p>受講者は、テキストの指定された部分についてきちんと予習しておくことが求められます。また、学期中に4回程度の簡単なレポートが課されます。</p> <p>秋学期は、文や節に関する内容が中心となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 否定 I have <u>any</u> books. はなぜ誤りか</li> <li>3. 節の種類 英語と日本語の疑問文はどう違うか</li> <li>4. 内容節 I insisted that he met her. はどんな意味か</li> <li>5. 関係節① 「魚が焼けるにおい」は英語で言えるか</li> <li>6. 関係節② 制限用法と非制限用法はどう使い分けるか</li> <li>7. 比較 old でなくてもなぜ older と言えるのか</li> <li>8. 非定形節①不定詞の意味上の主語はどう決まるか</li> <li>9. 非定形節②want to と seem to はどう違うか</li> <li>10. 等位節 and は同じ品詞のものをつなぐのか</li> <li>11. 情報提示①A book was bought by me. はなぜ不自然か</li> <li>12. 情報提示②どんな場合に前置・後置されるのか</li> <li>13. 形態論① stop の過去形はなぜ stoped でないのか</li> <li>14. 形態論② gentlemanly という語はどんな構造か</li> <li>15. 形態論③ -ness のような接辞はどんな特徴をもつか</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Huddleston, R, and G. Pullum. (2005), <i>A Student's Introduction to English Grammar</i>, Cambridge. (一括注文し、実費で頒布します。3000円程度)</p>		<p>期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。</p>	

09年度以降	College Grammar (月3)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be 動詞の機能 (1) 13・Be 動詞の機能 (2) 14・Be 動詞の機能 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (前期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>出席&amp;授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	College Grammar (月3)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC 構文の下位区分 (1) 6・SVOC 構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・情報構造 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (後期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>出席&amp;授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09 年度以降	College Grammar (木 2)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be 動詞の機能 (1) 13・Be 動詞の機能 (2) 14・Be 動詞の機能 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (前期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>出席&amp;授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09 年度以降	College Grammar (木 2)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC 構文の下位区分 (1) 6・SVOC 構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・情報構造 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (後期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>出席&amp;授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	College Grammar	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切です。そうすると、次第に表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む、ネイティブスピーカーが無意識に身につけてきた英語の感覚・イメージを探っていく習慣が身につく、結局はこの方法がもっとも効率の良い英語が学習方法である、ということがわかるようになります。この授業は、日本語には無くて日本人にはもっとも習得の難しいとされる冠詞の a か the の付く名詞表現および冠詞も -s も付かない名詞表現（はだか名詞）の使用法を会得することを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. a と the およびはだか名詞の解説</li> <li>2. 同上</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 同上</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 同上</li> <li>12. 同上</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：講義支援システムを通じて配布するプリント		課題と定期試験および授業への参加度によります。	

09年度以降	College Grammar	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ドアをノックする」を英語では knock the door ではなく knock on the door ですが、ではなぜそう言うのかと問うと、「そう習ったから」としか答えない人がほとんどです。しかし、実はどうして on が必要なのかというような問い掛けこそが英語の勘を養う上でとても重要なことです。そしてこの間にたいする答（＝理屈）に「なるほど!」と納得することができれば、英語を学ぶことの知的好奇心を満たすことになり、それがひいては英語学習への強い動機づけにつながります。そうやって動機づけられれば、「そういえば、ああいうような前置詞の使い方をするのも同じように理屈があるのでは」という思考を通じ、ネイティブスピーカーが無意識に身につけた自然な感覚に迫るための「気づき」を持てるようになります。この授業では、そういった観点から、前置詞の本当のイメージを理解してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. つづき (以降は以下の前置詞のいくつかを取り上げる。)</li> <li>3. toward(s), to, in/into, inward, outward,</li> <li>4. through, out (of), from (vs. of), away (from)</li> <li>5. on vs. of, onto, on vs. in, on vs. out, off, vs. from</li> <li>6. 続き</li> <li>7. in vs. on &amp; out, in vs. inside, within, during</li> <li>8. beside, along, near, alongside, against</li> <li>9. between, among, amid, inter-</li> <li>10. across (from), opposite, catty-corner</li> <li>11. in front (of), behind, before, next</li> <li>12. above, over, across, through, throughout, via</li> <li>13. (a)round, about vs. by/past, over, on</li> <li>14. under, below, beneath, underneath</li> <li>15. back, backward(s), at vs. in, on, toward(s), by,</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： Lindstromberg, S. 2010. <i>English Prepositions Explained</i>. (Revised edition) John Benhamins Publishing Company. (プリント配布)</p>		課題と定期試験および授業への参加度によります。	

09年度以降	College Grammar	担当者	佐藤 芳明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>レキシカル・グラマーの観点からコミュニケーションに資する英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙（レキシコン）に文法情報（グラマー）が含まれているという前提に立って、語のコア（本質的な意味）に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。</p> <p>レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ（semantic motivation）」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。</p> <p>英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、Grammar in text（テキストにおける文法）の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 レキシカル・グラマーの世界</li> <li>2. 前置詞の用法展開</li> <li>3. Grammar in text I 前置詞の空間的イメージ</li> <li>4. WILL とテンス</li> <li>5. Grammar in text II 未来表現とテンス・アスペクト</li> <li>6. 冠詞の使用原理と名詞チャンクの基本構造</li> <li>7. Grammar in text III 名詞形への感性を磨く</li> <li>8. GIVE のコアと構文展開と句動詞</li> <li>9. Grammar in text IV 基本動詞の表現世界</li> <li>10. AS の構文的多様性 比較、比例、同時、同様など</li> <li>11. Grammar in text V 複文構造に慣れる</li> <li>12. プレゼンテーション I</li> <li>13. プレゼンテーション II</li> <li>14. プレゼンテーション III</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：『レキシカル・グラマーへの招待—新しい教育英文法の可能性』（開拓社）。参考文献：『イメージでわかる単語帳』（NHK 出版），『Eゲイト英和辞典』（ベネッセ）。</p>		<p>出席＝20%（4回以上欠席は単位を与えない）；授業参加態度＝20%；アサインメント＝20%；プレゼンテーション＝20%；ファイナルペーパー（A4×5頁以上）＝20%。</p>	

09年度以降	College Grammar	担当者	佐藤 芳明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期から継続して、レキシカル・グラマーの観点からコミュニケーションに資する英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙（レキシコン）に文法情報（グラマー）が含まれているという前提に立って、語のコア（本質的な意味）に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。</p> <p>レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ（semantic motivation）」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。</p> <p>英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、Grammar in text（テキストにおける文法）の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 レキシカル・グラマーの可能性</li> <li>2. 前置詞の多義と文法化</li> <li>3. Grammar in text I 前置詞の把握が解釈を決める</li> <li>4. TO DO と ING の用法</li> <li>5. Grammar in text II 不定詞・動名詞・分詞の意味世界</li> <li>6. WH-構文のネットワーク 疑問詞ー関係詞へ</li> <li>7. Grammar in text III WH 構文を自在に操る</li> <li>8. 態度表明を示す法助動詞 MAY, MUST, CAN など</li> <li>9. Grammar in text IV 話し手の主観を読み解く</li> <li>10. IT&amp;THAT とその構文展開</li> <li>11. Grammar in text V IT・THAT から見えてくること</li> <li>12. プレゼンテーション I</li> <li>13. プレゼンテーション II</li> <li>14. プレゼンテーション III</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※「前置詞」は春学期も扱っているが、特に重要な項目であるため、敢えて、秋学期も再度扱うことにする。 ※ 上記内容はクラス状況に応じて調整・変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：『レキシカル・グラマーへの招待—新しい教育英文法の可能性』（開拓社）。参考文献：『イメージでわかる単語帳』（NHK 出版），『Eゲイト英和辞典』（ベネッセ）。</p>		<p>出席＝20%（4回以上欠席は単位を与えない）；授業参加態度＝20%；アサインメント＝20%；プレゼンテーション＝20%；ファイナルペーパー（A4×5頁以上）＝20%。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	Communicative English	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course we will build upon what students have learned in Communicative English I as well as Comprehensive English.</p> <p>The students will work on their speaking and reading, and developing their critical thinking processes through a variety of topics and materials, provided either by the teacher or the students themselves.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course orientation and introduction.</li> <li>2. Aspects of culture.</li> <li>3. Aspects of culture.</li> <li>4. Media communications and you.</li> <li>5. Media communications and you.</li> <li>6. Ways of thinking.</li> <li>7. Ways of thinking.</li> <li>8. Presentation preparations.</li> <li>9. Student Presentations.</li> <li>10. World matters.</li> <li>11. World matters.</li> <li>12. Looking ahead.</li> <li>13. Looking ahead.</li> <li>14. Test / Presentation.</li> <li>15. Course review.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the teacher and the students.		Students will be assessed through ongoing class performance and presentations.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	Communicative English	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course we will build upon what students have learned in Communicative English I as well as Comprehensive English.</p> <p>The students will work on their speaking and reading, and developing their critical thinking processes through a variety of topics and materials, provided either by the teacher or the students themselves.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course orientation and introduction.</li> <li>2. Aspects of culture.</li> <li>3. Aspects of culture.</li> <li>4. Media communications and you.</li> <li>5. Media communications and you.</li> <li>6. Ways of thinking.</li> <li>7. Ways of thinking.</li> <li>8. Presentation preparations.</li> <li>9. Student Presentations.</li> <li>10. World matters.</li> <li>11. World matters.</li> <li>12. Looking ahead.</li> <li>13. Looking ahead.</li> <li>14. Test / Presentation.</li> <li>15. Course review.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the teacher and the students.		Students will be assessed through ongoing class performance and presentations.	

09年度以降	Communicative English	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions. The materials for spring and autumn will be different.</p> <p>There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course  Week 2 Consolidation  Week 3 Giving opinions  Week 4 Background introduction to the UK  Week 5 Work and daily lives  Week 6 Discussion and introduction to the project  Week 7 Health  Week 8 A famous author  Week 9 Discussion and project follow up  Week 10 Language development quiz  Week 11 Social English  Week 12 Language development: conditionals  Week 13 Project corrections  Week 14 Review  Week 15 Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.	

09年度以降	Communicative English	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions. The materials for spring and autumn will be different.</p> <p>There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course  Week 2 Consolidation  Week 3 Giving opinions  Week 4 Discussion  Week 5 Vocabulary game  Week 6 Fluency activity and introduction to the project  Week 7 Language development: phrasal verbs  Week 8 Roleplay  Week 9 Language development quiz  Week 10 Discussion and project follow up  Week 11 London taxi  Week 12 More about London  Week 13 Project corrections  Week 14 Review  Week 15 Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.	

09年度以降	Communicative English	担当者	D. マツキャン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.</p>		<p>Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.</p>	

09年度以降	Communicative English	担当者	D. マツキャン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.</p>		<p>Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.</p>	

09年度以降	Communicative English (月5)	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may be assigned and can include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point individually and in groups depending on class size. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction Effective Communication</li> <li>2. Listening</li> <li>3. Listening</li> <li>4. Practice</li> <li>5. Outcome</li> <li>6. Outcome</li> <li>7. Practice</li> <li>8. Awareness</li> <li>9. Awareness</li> <li>10. Practice</li> <li>11. Course</li> <li>12. Course</li> <li>13. Final Practice</li> <li>14. Final Practice/Interviews</li> <li>15. Wrap-up of this semester's work.</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced		Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, and tests, participation, homework, special presentations, etc.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	Communicative English (水5)	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may be assigned and can include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point individually and in groups depending on class size. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction Effective Communication</li> <li>2. Listening</li> <li>3. Listening</li> <li>4. Practice</li> <li>5. Outcome</li> <li>6. Outcome</li> <li>7. Practice</li> <li>8. Awareness</li> <li>9. Awareness</li> <li>10. Practice</li> <li>11. Course</li> <li>12. Course</li> <li>13. Final Practice</li> <li>14. Final Practice/Interviews</li> <li>15. Wrap-up of this semester's work.</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced		Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, and tests, participation, homework, special presentations, etc.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	Communicative English	担当者	J. スネール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of this course is to improve students' communicative English in speaking and listening. The class will emphasize developing fluency for everyday speaking, improving listening comprehension, and developing effective presentation skills.</p> <p>Most of class time will be devoted to speaking. Students are expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Most of the listening will take place outside of class.</p> <p>Grades will be based on attendance and participation, listening tests, a class presentation and a speaking test at the end of the semester.</p>		<p>Week 1: Class orientation  Week 2: Listening introduction  Week 3: Small talk, family; self-introductions  Week 4: Travel; interrupting  Week 5: Music; natural openers and closings  Week 6: Health; reported speech  Week 7: Beliefs; responding naturally  Week 8: Movies; inviting  Week 9: Reading; speaking from notes  Week 10: Presentation workshop  Week 11: Presentation  Week 12: Free time; pronunciation workshop  Week 13: Restaurants; keeping a conversation going  Week 14: Speaking test  Week 15: Review and consultation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Sound Bytes 2: Listening for Today's World (Pearson Longman)		20% attendance and participation 20% class presentation 40% listening tests 20% speaking test	

09年度以降	Communicative English	担当者	J. スネール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of this course is to improve students' communicative English in speaking and listening. The class will emphasize developing fluency for everyday speaking, improving listening comprehension, and developing effective presentation skills.</p> <p>Most of class time will be devoted to speaking. Students are expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Most of the listening will take place outside of class.</p> <p>Grades will be based on attendance and participation, listening tests, a class presentation and a speaking test at the end of the semester.</p>		<p>Week 1: Class orientation  Week 2: Famous people; likes and dislikes  Week 3: Comedy; telling a joke  Week 4: Food; describing Japanese food  Week 5: Fashion; tag questions  Week 6: TV; talking about experiences  Week 7: Sleep; pronunciation workshop  Week 8: Work; informal vs. formal usage  Week 9: Dating; describing Japanese things  Week 10: Presentation workshop  Week 11: Presentation  Week 12: Technology and online; asking for advice  Week 13: Review  Week 14: Speaking test  Week 15: Review and consultation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Sound Bytes 2: Listening for Today's World (Pearson Longman)		20% attendance and participation 20% class presentation 40% listening tests 20% speaking test	

09年度以降	Communicative English	担当者	K. フォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this one-semester Communicative English course students develop their persuasive and communicative language skills.</p> <p>This will involve researching, reading about, discussing, and presenting social issues chosen by the students. Presentations will be using power point.</p> <p>The course will also involve presenting and discussing recent news internet articles chosen by students. This will mean giving an oral report of the article to a small group of students and then leading a discussion based on questions they have prepared.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Course Introduction</li> <li>2.Discussing example social issues</li> <li>3.Class survey of students' chosen issues</li> <li>4.Collation of survey result</li> <li>5.Sharing research</li> <li>6.Review of presentation skills</li> <li>7.Preparation of presentation materials</li> <li>8.Presentation practice using handout</li> <li>9.Power point presentations</li> <li>10.Power point presentations</li> <li>11.Power point presentations</li> <li>12.Example news article for report and discussion</li> <li>13.Student news article reports</li> <li>14.Student news article reports</li> <li>15.Speaking test</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required for this course.		Grades are based on attendance, active class participation and communication, presentations, and speaking test.	

09年度以降	Communicative English	担当者	K. フォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this one-semester Communicative English course students develop their persuasive and communicative language skills.</p> <p>This will involve researching, reading about, discussing, and presenting social issues chosen by the students. Presentations will be using power point.</p> <p>The course will also involve presenting and discussing recent news internet articles chosen by students. This will mean giving an oral report of the article to a small group of students and then leading a discussion based on questions they have prepared.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Course Introduction</li> <li>2.Discussing example social issues</li> <li>3.Class survey of students' chosen issues</li> <li>4.Collation of survey result</li> <li>5.Sharing research</li> <li>6.Review of presentation skills</li> <li>7.Preparation of presentation materials</li> <li>8.Presentation practice using handout</li> <li>9.Power point presentations</li> <li>10.Power point presentations</li> <li>11.Power point presentations</li> <li>12.Example news article for report and discussion</li> <li>13.Student news article reports</li> <li>14.Student news article reports</li> <li>15.Speaking test</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required for this course.		Grades are based on attendance, active class participation and communication, presentations, and speaking test.	

09年度以降	Communicative English	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Exchanging personal information</li> <li>3. Personality Types</li> <li>4. Appearances</li> <li>5. Attitudes</li> <li>6. Comparing experiences</li> <li>7. Getting information</li> <li>8. Events</li> <li>9. Quiz</li> <li>10. Movies</li> <li>11. Music</li> <li>12. Media</li> <li>13. Education</li> <li>14. Commercials</li> <li>15. Presentations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation and tests.	

09年度以降	Communicative English	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussion. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Summer vacation</li> <li>2. Personal opinions</li> <li>3. Japan</li> <li>4. Preferences</li> <li>5. Religions</li> <li>6. Film and TV</li> <li>7. Language</li> <li>8. Poverty</li> <li>9. War and Peace</li> <li>10. Diet and nutrition</li> <li>11. Green issues</li> <li>12. Natural Disasters</li> <li>13. Sexism</li> <li>14. Poster Presentations</li> <li>15. Poster Presentations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation and tests	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	Communicative English	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to introduce the students to modern American idiomatic English and to improve both their speaking and listening ability. We will focus on vocabulary development, idioms and useful grammatical structures as well. It is hoped that the students will greatly expand both their vocabulary and listening ability in this class, and also enjoy the opportunity to practice the English they have learned.</p>		<p>We will utilize subtitled American movies in this class. The students will receive handouts for each scene and will study vocabulary, idioms and grammatical structures in each lesson, as well as engage in a speaking exercise to practice the English they have learned. It is hoped that this will be an interesting and effective method of study that will motivate the students to do their best and make this course a productive experience.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provide by the teacher.		Attendance, Participation, (1) test, (1) report	

09年度以降	Communicative English	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues from the textbook.</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Small group discussion task  Week 3: Assessing discussions  Week 4: Language for discussions  Week 5: Discussions &amp; text - unit 1  Week 6: Discussions &amp; text - unit 1 continued  Week 7: Discussions &amp; text - unit 2  Week 8: Discussions &amp; text - unit 2 continued  Week 9: Discussions &amp; text - unit 3  Week 10: Discussion &amp; text - unit 3 continued  Week 11: Discussion &amp; text - unit 4  Week 12: Discussion &amp; text - unit 4 continued  Week 13: Discussion &amp; text - unit 5  Week 14: Discussion &amp; text - unit 5 continued  Week 15: Review and feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson Longman		Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, written reports, tests, vocabulary notebooks and attendance.	

09年度以降	Communicative English	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues in the textbook.</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Small group discussion task  Week 3: Assessing discussions  Week 4: Language for discussions  Week 5: Discussions &amp; text - unit 1  Week 6: Discussions &amp; text - unit 1 continued  Week 7: Discussions &amp; text - unit 2  Week 8: Discussions &amp; text - unit 2 continued  Week 9: Discussions &amp; text - unit 3  Week 10: Discussion &amp; text - unit 3 continued  Week 11: Discussion &amp; text - unit 4  Week 12: Discussion &amp; text - unit 4 continued  Week 13: Discussion &amp; text - unit 5  Week 14: Discussion &amp; text - unit 5 continued  Week 15: Review and feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson Longman		Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, written reports, tests, vocabulary notebooks and attendance.	

09年度以降	Communicative English	担当者	P. M. ホーネス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Suprasegmentals</li> <li>3. Suprasegmentals</li> <li>4. Simple past review</li> <li>5. Fluency exercise</li> <li>6. Past perfect/ Fluency exercise</li> <li>7. Be going to versus will</li> <li>8. Fluency exercise</li> <li>9. Comparisons and superlatives</li> <li>10. Conditionals</li> <li>11. Conditionals</li> <li>12. Culture presentation</li> <li>13. Instructor-led discussion</li> <li>14. Instructor-led discussion</li> <li>15. Review</li> </ol> <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Attendance, participation, written summaries, and speaking exercises	

09年度以降	Communicative English	担当者	P. M. ホーネス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Bilinguals</li> <li>3. Travel</li> <li>4. Culture Presentation</li> <li>5. MASK</li> <li>6. Survey activity</li> <li>7. Music</li> <li>8. Culture and Identity</li> <li>9. Music presentation</li> <li>10. Culture presentation</li> <li>11. World Heritage</li> <li>12. World Heritage</li> <li>13. World Heritage</li> <li>14. Instructor-led discussion</li> <li>15. Review</li> </ol> <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Attendance, participation, written summaries, and discussions	

09年度以降	Communicative English	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>To improve the students' critical thinking skills</li> <li>To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>To improve discussion and presentation skills.</li> </ul> <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher. Most of the topics will be popular in the media.</p> <p>In 2012 we discussed topics such as</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Gun Control</li> <li>Global Warming</li> <li>Japanese Population</li> <li>Japanese Education</li> <li>Homelessness in the World</li> <li>Religion</li> <li>Arab Spring</li> <li>Do you have Passion</li> <li>Chewing Gum</li> <li>British food</li> <li>Clever Mums and Maths</li> <li>Blood Tests Predict when you Die</li> <li>Seven Billion People</li> <li>Energy Saving Haircuts</li> <li>Blood Test Predicts when you Die</li> </ol> <p>Also please note there is homework after every class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		1 Student Attendance 3. Interview test	2. Student participation 4. Homework

09年度以降	Communicative English	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>To improve the students' critical thinking skills</li> <li>To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>To improve discussion and presentation skills.</li> </ul> <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher. Most of the topics will be popular in the media.</p> <p>In 2012 we discussed topics such as</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Employment Issues</li> <li>Drugs and medicines</li> <li>Japanese Population</li> <li>War and Military</li> <li>Cheating</li> <li>Divorce</li> <li>Homosexuality</li> <li>Pollution and recycling</li> <li>Growing Old</li> <li>Smoking</li> <li>Alcohol Abuse</li> <li>Gambling</li> <li>Moving Children out</li> <li>Stress</li> <li>Problems for Japan in the Future</li> </ol> <p>Also please note there is homework after every class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		1 Student Attendance 3. Interview test	2. Student participation 4. Homework

09年度以降	Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture</p> <p>b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 minute presentation or submit an essay on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory Class</li> <li>2. Presentation Preparation</li> <li>3. Course Preview</li> <li>4. Introduction to Britain I</li> <li>5. British Pop</li> <li>6. London</li> <li>7. The Train</li> <li>8. Heathrow Airport</li> <li>9. William Shakespeare</li> <li>10. Tea</li> <li>11. Climbers</li> <li>12. Sherlock Holmes</li> <li>13. The Purple Violin</li> <li>14. Semester Evaluation</li> <li>15. Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 20% Presentation, 20% Report,	

09年度以降	Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture</p> <p>b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 minute presentation or submit an essay on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Summer / Spring Review</li> <li>2. Fall Preview</li> <li>3. The Seven Wonders of Britain</li> <li>4. Wales</li> <li>5. BBC World Service</li> <li>6. The Mini</li> <li>7. The Village</li> <li>8. Agatha Christie</li> <li>9. The Sea</li> <li>10. Taxi</li> <li>11. Public School</li> <li>12. WOMAD</li> <li>13. Semester Evaluation</li> <li>14. UK Christmas</li> <li>15. Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 20% Presentation, 20% Report	

09 年度以降	Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Japanese work ethics.</li> <li>3 Attitudes towards women.</li> <li>4 Other gender issues.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from:  Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40%  End of term speaking tests: 40%  Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

09 年度以降	Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Beat the Monday morning blues with this dynamic and exciting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Brief introduction/welcome back to class.</li> <li>2 Computers and society.</li> <li>3 Ageing Society.</li> <li>4 The Automobile.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from:  Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40%  End of term speaking tests: 40%  Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

09年度以降	Communicative English (火1)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to <b>International communication</b>)</i>.</p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> <b>Expressing your opinions</b>, part one: "How do you feel about ...?" &amp; "What do you think of ...?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?!" "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song-listening, and/or video watching-listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <i>etiquette</i> and <i>manners</i>. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <i>street directions</i>, and/or <i>train directions</i>. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: <b>Body Language &amp; EQ</b> (gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. Class presentations.</p> <p>Week 15: Ongoing assessment. Discussing &amp; communicating your <b>future plans (for the Summer)</b>, in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs &amp; song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class: how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b></p>	

09年度以降	Communicative English (火1)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your <b>Summer Break</b>, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: <b>"What do you usually do ...?"</b>: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: <b>Hallowe'en</b>: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive <b>advice</b>, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about <b>"EQ"</b>, and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: <b>Thanksgiving</b>. Song-listening exercise. Student answersto <i>"What are you thankful for?"</i> Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: <b>"How often do you ...?"</b>: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: <b>Christmas, and Christmas cultures</b> in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about <b>New Year's wishes and plans</b>. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: <b>"How was your Christmas?"</b> &amp; <b>"How was your O Sho Gatau?"</b>: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your <b>"New Year's Resolutions"</b>. Final student presentations.</p> <p>Week 15: Review of <i>specific</i> New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: <b>future plans</b> for the February &amp; March Break.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class: how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b></p>	

09年度以降	Communicative English (木2)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to <b>International communication</b>).</i></p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> <b>Expressing your opinions</b>, part one: "How do you feel about ...?" &amp; "What do you think of ...?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?!" "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song-listening, and/or video watching-listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <i>etiquette</i> and <i>manners</i>. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <i>street directions</i>, and/or <i>train directions</i>. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: <b>Body Language &amp; EQ</b> (gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. Class presentations.</p> <p>Week 15: Ongoing assessment. Discussing &amp; communicating your <b>future plans (for the Summer)</b>, in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs &amp; song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b></p>	

09年度以降	Communicative English (木2)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your <b>Summer Break</b>, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: <b>"What do you usually do ...?"</b>: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: <b>Hallowe'en</b>: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive <b>advice</b>, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about <b>"EQ"</b>, and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: <b>Thanksgiving</b>. Song-listening exercise. Student answersto <i>"What are you thankful for?"</i> Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: <b>"How often do you ...?"</b>: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: <b>Christmas, and Christmas cultures</b> in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about <b>New Year's wishes and plans</b>. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: <b>"How was your Christmas?"</b> &amp; <b>"How was your O Sho Gatau?"</b>: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your <b>"New Year's Resolutions"</b>. Final student presentations.</p> <p>Week 15: Review of <i>specific</i> New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: <b>future plans</b> for the February &amp; March Break.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b></p>	

09年度以降	Communicative English	担当者	R. ピーターズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The underlying aim of this course is to develop and enhance the communicative language skills of the students. Using an integrated skills approach, students will engage in a number of activities that promote critical thinking, opinion generation, and discussion. The content will include a variety of topics that are current and meaningful for university students. Students will always be encouraged to interact with other classmates, sharing their own perspectives of issues and society. At times, students will be asked to research and bring in materials to be used in sharing and discussion activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Travel and experiences</li> <li>3. Current issue (student generated)</li> <li>4. Famous person</li> <li>5. Economy and globalization</li> <li>6. Famous place</li> <li>7. Current issue (student generated)</li> <li>8. Debating skills and debate</li> <li>9. Famous item/invention</li> <li>10. TV shows and movies</li> <li>11. Popular media and technology</li> <li>12. Current issue (student generated)</li> <li>13. Fashion and trends</li> <li>14. Review</li> <li>15. Summary and wrap up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no text for this class. Materials will be given in class by the teacher.		Assessment will consist of: Attendance & Punctuality (20%), Class Participation (40%), and Speaking Test (40%).	

09年度以降	Communicative English	担当者	R. ピーターズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The underlying aim of this course is to develop and enhance the communicative language skills of the students. Using an integrated skills approach, students will engage in a number of activities that promote critical thinking, opinion generation, and discussion. The content will include a variety of topics that are current and meaningful for university students. Students will always be encouraged to interact with other classmates, sharing their own perspectives of issues and society. At times, students will be asked to research and bring in materials to be used in sharing and discussion activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Travel and experiences</li> <li>3. Current issue (student generated)</li> <li>4. Famous person</li> <li>5. Economy and globalization</li> <li>6. Famous place</li> <li>7. Current issue (student generated)</li> <li>8. Debating skills and debate</li> <li>9. Famous item/invention</li> <li>10. TV shows and movies</li> <li>11. Popular media and technology</li> <li>12. Current issue (student generated)</li> <li>13. Fashion and trends</li> <li>14. Review</li> <li>15. Summary and wrap up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no text for this class. Materials will be given in class by the teacher.		Assessment will consist of: Attendance & Punctuality (20%), Class Participation (40%), and Speaking Test (40%).	

09年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course introduction  Week 2- First Impressions  Week 3- Traffic Jam  Week 4- Who Needs the Local Language  Week 5- Getting Ahead  Week 6- Forever Single  Week 7- Students Choose Discussion Topic  Week 8- What are Friends For?  Week 9- What's for Dinner?  Week 10- Cyber Bullying  Week 11- Taking Care of Father  Week 12- Why Go To School?  Week 13- Students Choose Discussion Topic  Week 14- Students Choose Discussion Topic  Week 15- Final Examination</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Impact Issues – Book 2  Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka  Publisher: Pearson Longman</p>		<p>Due to the necessity of participating in discussions, regular class attendance is essential. Students will be evaluated on their level of preparedness for class, the discussions they prepare, and the final examination.</p>	

09年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course Introduction  Week 2- An International Relationship  Week 3- Too Little, Too Late  Week 4- Ben and Mike  Week 5- Government Control  Week 6- Living Together  Week 7- Students Choose Discussion Topic  Week 8- Size Discrimination  Week 9- Who Will Help Them?  Week 10- Finding the Right One  Week 11- Dress for Success  Week 12- A Mother's Story  Week 13- Students Choose Discussion Topic  Week 14- Students Choose Discussion Topic  Week 15- Final Examination</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Impact Issues – Book 2  Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka  Publisher: Pearson Longman</p>		<p>Due to the necessity of participating in discussions, regular class attendance is essential. Students will be evaluated on their level of preparedness for class, the discussions they prepare, and the final examination</p>	

09年度以降	Discussion	担当者	J. ウォールドマン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements.</li> <li>2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class.</li> <li>3. Can man and woman be close without romance?</li> <li>4. This session will focus on environmental issues.</li> <li>5. Teenage life with student presentations.</li> <li>6. Is plagiarism a crime?</li> <li>7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>8. What are the options for pregnant teenagers?</li> <li>9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues.</li> <li>10. How important is appearance in a relationship?</li> <li>11. Should adult children move out? Quiz on previous issue.</li> <li>12. Should employees go out with their bosses?</li> <li>13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. The changing role of women in society.</li> <li>15. Explanation of summer homework projects.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be Announced		Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.	

09年度以降	Discussion	担当者	J. ウォールドマン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Discussion will focus on summer projects.</li> <li>2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class.</li> <li>3. Is money more important than life style?</li> <li>4. Story telling techniques.</li> <li>5. The problems faced by immigrants.</li> <li>6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations.</li> <li>7. Does technology create distance in relationships?</li> <li>8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue.</li> <li>9. Career choices.</li> <li>10. Story telling techniques.</li> <li>11. When is war justified?</li> <li>12. The art of compromise.</li> <li>13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. Unrequited love will be the topic of this class.</li> <li>15. Story telling techniques.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be Announced		Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.	

09年度以降	Discussion	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Student-Discussion 1  Week 3: Presentation and Discussion  Week 4: Discussion and Summation  Week 5: Student-Discussion 2  Week 6: Presentation and Discussion  Week 7: Discussion and Summation  Week 8: Student-Discussion 3  Week 9: Presentation and Discussion  Week 10: Discussion and Summation  Week 11: Student-Discussion 4  Week 12: Presentation and Discussion  Week 13: Discussion and Summation  Week 14: Final Summations  Week 15: Final Summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.	

09年度以降	Discussion	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Student-Discussion 5  Week 3: Presentation and Discussion  Week 4: Discussion and Summation  Week 5: Student-Discussion 6  Week 6: Presentation and Discussion  Week 7: Discussion and Summation  Week 8: Student-Discussion 7  Week 9: Presentation and Discussion  Week 10: Discussion and Summation  Week 11: Student-Discussion 8  Week 12: Presentation and Discussion  Week 13: Discussion and Summation  Week 14: Final Summations  Week 15: Final Summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		. Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.	

09年度以降	Discussion	担当者	C. B. 池口
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class will provide training on self-expression, correct language use and confidence through effective discussion and practical hands-on exercises.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the Course</li> <li>2. Discussion and Chat: what's the difference?</li> <li>3. Discussion VS Debate: what's the difference?</li> <li>4. Principles of a Good Discussion</li> <li>5. Listening, Agreeing and Disagreeing</li> <li>6. Topic 1: Graded (group) Exercise</li> <li>7. Organization of Ideas</li> <li>8. Topic 2: Graded (group) Exercise</li> <li>9. The Importance of Language</li> <li>10. Topic 3: Graded Exercise</li> <li>11. Mind-mapping: Can't be overlooked</li> <li>12. Topic 4: Graded Exercise</li> <li>13. Facts, Data &amp; Evidence</li> <li>14. Topic 4: Graded Exercise</li> <li>15. Summary and evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.	

09年度以降	Discussion	担当者	C. B. 池口
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class will provide training on self-expression, correct language use and confidence through effective discussion and practical hands-on exercises.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the Course</li> <li>2. Discussion VS Chat: what's the difference?</li> <li>3. Discussion VS Debate: what's the difference?</li> <li>4. Principles of a Good Discussion</li> <li>5. Skills for Effective Discussion</li> <li>6. Topic 1: Social Networking (Graded)</li> <li>7. Organization of Ideas</li> <li>8. Topic 2: LCC (Graded)</li> <li>9. Importance of Language</li> <li>10. Topic 3: Providing Evidence (Graded)</li> <li>11. Mind-mapping: Can't be overlooked</li> <li>12. Topic 4: Data Processing (Graded)</li> <li>13. Connecting Links in Speech</li> <li>14. Topic 4: Why Plastic Surgery (Graded)</li> <li>15. Summary and evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.	

09年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication and speaking skills.</p> <p>The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current and interesting topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English speaking, comprehension and knowledge.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start topic # 1</p> <p>Week 2: Discussion Topic # 2</p> <p>Week 3: Discussion Topic # 3</p> <p>Week 4: Discussion Topic # 4</p> <p>Week 5: Discussion Topic # 5</p> <p>Week 6: Discussion Topic # 6</p> <p>Week 7: Quiz</p> <p>Week 8: Discussion Topic # 7</p> <p>Week 9: Discussion Topic # 8</p> <p>Week 10: Discussion Topic # 9</p> <p>Week 11: Discussion Topic # 10</p> <p>Week 12: Discussion Topic # 11</p> <p>Week 13: Discussion Topic # 12</p> <p>Week 14: Discussion Topic # 13</p> <p>Week 15: Quiz</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		Attendance, discussion involvement, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.	

09年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication and speaking skills.</p> <p>The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current and interesting topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English speaking, comprehension and knowledge.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start topic #1</p> <p>Week 2: Discussion Topic # 2</p> <p>Week 3: Discussion Topic # 3</p> <p>Week 4: Discussion Topic # 4</p> <p>Week 5: Discussion Topic # 5</p> <p>Week 6: Discussion Topic # 6</p> <p>Week 7: Quiz</p> <p>Week 8: Discussion Topic # 7</p> <p>Week 9: Discussion Topic # 8</p> <p>Week 10: Discussion Topic # 9</p> <p>Week 11: Discussion Topic # 10</p> <p>Week 12: Discussion Topic # 11</p> <p>Week 13: Discussion Topic # 12</p> <p>Week 14: Discussion Topic # 13</p> <p>Week 15: Quiz</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		Attendance, discussion involvement, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.	

09年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>As the title of the course suggests, in this class we will focus on developing students' discussion abilities. Through a variety of teacher and student led activities we will work upon improving our skills in forming and communicating our thoughts and ideas. We will aim to offer the students opportunities to develop new perspectives on the world through consideration of their own ideas and those of others.</p> <p>As well as pair work and group work students will be required to do presentations in groups and for the class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course orientation and introduction.</li> <li>2. First Impressions.</li> <li>3. Mystery items presentation and discussion.</li> <li>4. Cultural comparisons.</li> <li>5. Topics chosen by students.</li> <li>6. Presentation preparation.</li> <li>7. Presentations.</li> <li>8. Paris syndrome. Perceptions and expectations.</li> <li>9. Versions of self.</li> <li>10. On screen. Movie or TV excerpts and discussion.</li> <li>11. The influence and construction of attitudes in society.</li> <li>12. Topics chosen by students.</li> <li>13. Presentation preparation.</li> <li>14. Presentation.</li> <li>15. Course review.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be provided by the teacher and the students.		Students will be assessed through ongoing class performance and presentations.	

09年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>As the title of the course suggests, in this class we will focus on developing students' discussion abilities. Through a variety of teacher and student led activities we will work upon improving our skills in forming and communicating our thoughts and ideas. We will aim to offer the students opportunities to develop new perspectives on the world through consideration of their own ideas and those of others.</p> <p>As well as pair work and group work students will be required to do presentations in groups and for the class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course orientation and introduction.</li> <li>2. First Impressions.</li> <li>3. Mystery items presentation and discussion.</li> <li>4. Cultural comparisons.</li> <li>5. Topics chosen by students.</li> <li>6. Presentation preparation.</li> <li>7. Presentations.</li> <li>8. Paris syndrome. Perceptions and expectations.</li> <li>9. Versions of self.</li> <li>10. On screen. Movie or TV excerpts and discussion.</li> <li>11. The influence and construction of attitudes in society.</li> <li>12. Topics chosen by students.</li> <li>13. Presentation preparation.</li> <li>14. Presentation.</li> <li>15. Course review.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be provided by the teacher and the students.		Students will be assessed through ongoing class performance and presentations.	

09年度以降	Public Speaking I	担当者	J. N. ウェンデル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.		1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.		Assessment will be based on attendance, classroom participation, written assignments, and speeches and presentations.	

09年度以降	Public Speaking II	担当者	J. N. ウェンデル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.		1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.		Assessment will be based on attendance, classroom participation, written assignments, and speeches and presentations.	

09年度以降	Public Speaking I	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The class aims to familiarize students with the principles of public speaking. It will prepare students for actual public speaking presentations through prescribed guidelines and hands-on exercises.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course: brainstorming</li> <li>2. Preliminary Exercises: the effective speaker</li> <li>3. What is Public Speaking?</li> <li>4. Why is Public Speaking necessary?</li> <li>5. Different Types of Public Speeches</li> <li>6. Informative Speech: Principles &amp; Exercises</li> <li>7. Informative Speech: Outline &amp; Exercises</li> <li>8. Informative Speech: Graded Presentations</li> <li>9. Narrative Speech: Principles &amp; Exercises</li> <li>10. Narrative Speech: Outline &amp; Exercises</li> <li>11. Narrative Speech: Graded Presentations</li> <li>12. Persuasive Speech: Principles &amp; Exercises</li> <li>13. Persuasive Speech: Outline &amp; Exercises</li> <li>14. Persuasive Speech: Graded Presentation</li> <li>15. Summary, Evaluation and assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on speeches delivered in class, submission of requirements, and participation in class exercises.	

09年度以降	Public Speaking II	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The class aims to familiarize students with the principles of public speaking. It will prepare students public speaking presentations through prescribed guidelines and hands-on exercises.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review of 1<sup>st</sup> Term</li> <li>2. Exercises: the effective speaker</li> <li>3. Impromptu Speech: Principles</li> <li>4. Impromptu Speech: Exercises</li> <li>5. Graded Speech 1: Impromptu Speech (Recorded)</li> <li>6. Review: Introduction, Thesis, Outline</li> <li>7. Review: Speech Outline: Body &amp; Organization</li> <li>8. Review: Research &amp; Evidence</li> <li>9. Review: Style and Delivery</li> <li>10. Graded Speech 2: Persuasive Speech (Recorded)</li> <li>11. Review: Introduction, Thesis, Outline</li> <li>12. Review: Speech Outline: Body &amp; Organization</li> <li>13. Review: Research &amp; Evidence</li> <li>14. Graded Speech 3: Final Presentation (recorded)</li> <li>15. Summary, Evaluation and assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on speeches delivered in class, submission of requirements, and participation in class exercises.	

09年度以降	Public Speaking I	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 「異文化コミュニケーション」という言葉がよく聞かれる今日、どうしたら英語で上手くコミュニケーションがとれるようになるのでしょうか。この授業では、自分の伝えたい事を言葉のみでなく、Physical Message, Visual Message, Story Message によって如何により効果的にプレゼンテーションが出来るようになるかを学びます。</p> <p>講義概要： プレゼンテーションをする時のコミュニケーションの方法と段階を上記の三つに分けます。それぞれのメッセージは‘What’, ‘Why’, ‘How’, ‘Practice’ の四項目から成り、更に‘Performance’と‘Evaluation’のセクションで自分のプレゼンテーションを通じて、又クラスメイトのプレゼンテーションを聞き、如何に改善すべきかを自ら学びとります。カラーの愉快的イラストを使いながら、100パーセント学習者参加型の演習方法で授業を進めていきます。進度は皆さんの様子を見ながら必要に応じて調整していきます。DVD が大きな助けとなるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. [I] THE PHYSICAL MESSAGE: What is Physical Message?</li> <li>3. Posture and Eye Contact</li> <li>4. Informative Speech</li> <li>5. Performance</li> <li>6. Gestures</li> <li>7. Layout Speech</li> <li>8. Performance</li> <li>9. Voice Inflection</li> <li>10. Demonstration Speech</li> <li>11. Performance</li> <li>12. [II] THE VISUAL MESSAGE: Effective Visuals (1)</li> <li>13. Effective Visuals (2)</li> <li>14. Performance(1)</li> <li>15. Performance(2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Harrington, D. &amp; LeBeau, C., <i>Speaking of Speech – New Edition-Basic Presentation Skills for Beginners</i>. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2009. 2500円 + 税</p>		<p>出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験などから総合的に評価します。主に授業中のプレゼンテーションを最重要視するので、出席は最も重要。</p>	

09年度以降	Public Speaking II	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 春学期と同じ。</p> <p>講義概要： 春学期に引き続く。</p> <p>注意： 何らかの理由で秋学期から履修する場合は、春学期の授業内容を理解し、且つ実際にそこまでの段階のパフォーマンスが出来るようにしておく必要があります。秋学期の最初の授業で指導致します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [II] THE VISUAL MESSAGE (春学期の続き) Explaining Visuals (1)</li> <li>2. Explaining Visuals (2)</li> <li>3. Performance</li> <li>4. [III] THE STORY MESSAGE: What is Story Message? Presentation Structure</li> <li>5. Introduction What is the Story Message?</li> <li>6. Introductory Phrases Model Introduction</li> <li>7. Performance (Introduction)</li> <li>8. The Body Evidence</li> <li>9. Transitions</li> <li>10. Sequencers</li> <li>11. Performance (Body)</li> <li>12. The Conclusion – How to Make a Conclusion?</li> <li>13. Performance (Conclusion)</li> <li>14. Final performance(1)</li> <li>15. Final performance(2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

09年度以降	Debate I	担当者	小西 卓三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In our lives, we sometimes have to develop a position on certain controversial topics, consider objections and counterarguments and respond to them. English debate helps us understand the fundamentals of argumentation through conducting and judging debates.</p> <p>In the spring semester, students will learn debate procedures, criteria for assessing arguments, cross-examination and refutation skills and will join individual and team debate activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course overview</li> <li>2 Introduction to debate</li> <li>3 Practice of judging debate</li> <li>4 Mock Debate</li> <li>5 What is argument?</li> <li>6 Constructing argument</li> <li>7 Constructing argument</li> <li>8 Cross-examination</li> <li>9 Refuting argument</li> <li>10 Mock Debate</li> <li>11 Team Debate Preparation</li> <li>12 Team Debate</li> <li>13 Team Debate</li> <li>14 Team Debate</li> <li>15 Team Debate</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
小西卓三、菅家知洋、P. J. Collins 『Let the Debate Begin!』 (東海大学出版会)		Students will be graded on class participation (doing and judging debate and providing feedback to class members) and writing assignments.	

09年度以降	Debate II	担当者	小西 卓三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Based on what we've learned in the spring semester, we will decide topics for policy debate, analyze and constructs arguments on the topics, and conduct Individual Debate and Team Debate.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Retrospect and Prospect</li> <li>2 Deciding on Fall Semester debate topic</li> <li>3 Analyzing the proposition of policy (affirmative)</li> <li>4 Analyzing the proposition of policy (negative)</li> <li>5 Analyzing the proposition of policy (counterplan)</li> <li>6 Individual Debate</li> <li>7 Individual Debate</li> <li>8 Team Debate preparation</li> <li>9 Team Debate preparation</li> <li>10 Team Debate</li> <li>11 Team Debate</li> <li>12 Team Debate</li> <li>13 Team Debate</li> <li>14 Team Debate</li> <li>15 Team Debate</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
小西卓三、菅家知洋、P. J. Collins 『Let the Debate Begin!』 (東海大学出版会)		Students will be graded on class participation (doing and judging debate and providing feedback to class members) and writing assignments.	

09年度以降	Debate I	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Mini Lecture on Debating  Week 3: Debate Preparations 1  Week 4: Debate &amp; Summations  Week 5: Mini Lecture on Debating  Week 6: Debate Preparations 2  Week 7: Debate &amp; Summations  Week 8: Mini Lecture on Debating  Week 9: Debate Preparations 3  Week 10: Debate &amp; Summations  Week 11: Mini Lecture on Debating  Week 12: Debate Preparations 4  Week 13: Debate &amp; Summations  Week 14: Final Group Summations  Week 15: Final Group Summations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.	

09年度以降	Debate II	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Mini Lecture on Debating  Week 3: Debate Preparations 5  Week 4: Debate &amp; Summations  Week 5: Mini Lecture on Debating  Week 6: Debate Preparations 6  Week 7: Debate &amp; Summations  Week 8: Mini Lecture on Debating  Week 9: Debate Preparations 7  Week 10: Debate &amp; Summations  Week 11: Mini Lecture on Debating  Week 12: Debate Preparations 8  Week 13: Debate &amp; Summations  Week 14: Final Group Summations  Week 15: Final Group Summations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		. Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.	

09年度以降	通訳 I	担当者	鍋倉 健悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>通訳の基礎訓練というのは、コミュニケーション能力としての総合的語学力をアップするためシステムティックなトレーニングにほかならない。</p> <p>このため、様々な方法で、リーディング、リスニング、スピーキングの技術を強化していくための練習を具体的にやっていく。</p> <p>なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>1～2回は通訳全般についての話。3回目以降から実際のトレーニングに入るが、その内容は次のとおり：</p> <p>リピーティング、クイック・レスポンス、シャドーイング、サイト・トランスレーション、サラマイゼーション、ワンセンテンスからパラグラフ通訳、リテンション、通訳メモの取り方 etc.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを使用する予定		平常の授業から、通訳技術をどれくらい身に付けたかで評価する。授業はステップ・アップ形式で進むので欠席すると大変不利。	

09年度以降	通訳 I	担当者	鍋倉 健悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		<p>同上</p> <p>ただし、春学期よりも内容の種類と難易度が増す。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	

09年度以降	通訳 I (金3)	担当者	中島 直美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。</p> <p>将来的に通訳者を目指す人はもちろん、場に応じた適切な表現を学びたい人も対象としています。</p> <p>逐次通訳演習を中心としますが、毎時の冒頭に数字の聞き取り演習（文章題）も行います。また、語彙力増強のために毎回単語テストも実施します。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。</p> <p>* USBメモリを持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ノートテークング演習 (1)</li> <li>3. ノートテークング演習 (2)</li> <li>4. 逐次通訳演習：Barack Obama</li> <li>5. 逐次通訳演習：Charles Schulz</li> <li>6. 逐次通訳演習：Tiger Woods</li> <li>7. 逐次通訳演習：Haruki Murakami</li> <li>8. 確認テスト (1)</li> <li>9. 逐次通訳演習：Charlie Chaplin</li> <li>10. 逐次通訳演習：Prince Tenko</li> <li>11. 逐次通訳演習：Harland Sanders</li> <li>12. 逐次通訳演習：Nelson Mandela</li> <li>13. 逐次通訳演習：John Pemberton</li> <li>14. 逐次通訳演習：Ernest Hemingway</li> <li>15. 確認テスト (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 『トレンド日米表現辞典 第4版』（小学館、2007年）</p>		<p>授業中に実施する単語テストおよび2回の確認テストによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻2回を1欠席と見なし、欠席4回以上は評価の対象外とする。</p>	

09年度以降	通訳 I (金3)	担当者	中島 直美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。</p> <p>将来的に通訳者を目指す人はもちろん、場に応じた適切な表現を学びたい人も対象としています。</p> <p>逐次通訳演習を中心としますが、クイックレスポンスやシャドーイングなどの訓練を行うこともあります。また、語彙力増強のために毎回単語テストも実施します。</p> <p>逐次演習で扱う教材のレベルは春学期よりも多少難易度が高くなっています。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。</p> <p>* USBメモリを持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ノートテークング演習</li> <li>3. ノートテークング演習 (2)</li> <li>4. 逐次通訳演習：原油流出と自然への影響</li> <li>5. 逐次通訳演習：法と秩序</li> <li>6. 逐次通訳演習：空港での緊急着陸</li> <li>7. 逐次通訳演習：海賊版 CD</li> <li>8. 確認テスト (1)</li> <li>9. 逐次通訳演習：消防士の活躍</li> <li>10. 逐次通訳演習：自然災害（地震）</li> <li>11. 逐次通訳演習：薬物の密輸</li> <li>12. 逐次通訳演習：南シナ海の沈没船</li> <li>13. 逐次通訳演習：内紛</li> <li>14. 逐次通訳演習：タイのお守り</li> <li>15. 確認テスト (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 『トレンド日米表現辞典 第4版』（小学館、2007年）</p>		<p>授業中に実施する単語テストおよび2回の確認テストによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻2回を1欠席と見なし、欠席4回以上は評価の対象外とする。</p>	

09年度以降	通訳 I (金4)	担当者	中島 直美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。</p> <p>将来的に通訳者を目指す人はもちろん、場に応じた適切な表現を学びたい人も対象としています。</p> <p>逐次通訳演習を中心としますが、毎時の冒頭に数字の聞き取り演習（文章題）も行います。また、語彙力増強のために毎回単語テストも実施します。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。</p> <p>* USBメモリを持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ノートテークング演習 (1)</li> <li>3. ノートテークング演習 (2)</li> <li>4. 逐次通訳演習：Barack Obama</li> <li>5. 逐次通訳演習：Charles Schulz</li> <li>6. 逐次通訳演習：Tiger Woods</li> <li>7. 逐次通訳演習：Haruki Murakami</li> <li>8. 確認テスト (1)</li> <li>9. 逐次通訳演習：Charlie Chaplin</li> <li>10. 逐次通訳演習：Prince Tenko</li> <li>11. 逐次通訳演習：Harland Sanders</li> <li>12. 逐次通訳演習：Nelson Mandela</li> <li>13. 逐次通訳演習：John Pemberton</li> <li>14. 逐次通訳演習：Ernest Hemingway</li> <li>15. 確認テスト (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 『トレンド日米表現辞典 第4版』（小学館、2007年）</p>		<p>授業中に実施する単語テストおよび2回の確認テストによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻2回を1欠席と見なし、欠席4回以上は評価の対象外とする。</p>	

09年度以降	通訳 I (金4)	担当者	中島 直美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。</p> <p>将来的に通訳者を目指す人はもちろん、場に応じた適切な表現を学びたい人も対象としています。</p> <p>逐次通訳演習を中心としますが、クイックレスポンスやシャドーイングなどの訓練を行うこともあります。また、語彙力増強のために毎回単語テストも実施します。</p> <p>逐次演習で扱う教材のレベルは春学期よりも多少難易度が高くなっています。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。</p> <p>* USBメモリを持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ノートテークング演習</li> <li>3. ノートテークング演習 (2)</li> <li>4. 逐次通訳演習：原油流出と自然への影響</li> <li>5. 逐次通訳演習：法と秩序</li> <li>6. 逐次通訳演習：空港での緊急着陸</li> <li>7. 逐次通訳演習：海賊版 CD</li> <li>8. 確認テスト (1)</li> <li>9. 逐次通訳演習：消防士の活躍</li> <li>10. 逐次通訳演習：自然災害（地震）</li> <li>11. 逐次通訳演習：薬物の密輸</li> <li>12. 逐次通訳演習：南シナ海の沈没船</li> <li>13. 逐次通訳演習：内紛</li> <li>14. 逐次通訳演習：タイのお守り</li> <li>15. 確認テスト (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 『トレンド日米表現辞典 第4版』（小学館、2007年）</p>		<p>授業中に実施する単語テストおよび2回の確認テストによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻2回を1欠席と見なし、欠席4回以上は評価の対象外とする。</p>	

09年度以降	通訳 II	担当者	中島 直美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。</p> <p>将来的に通訳者を目指す人はもちろん、場に応じた適切な表現を学びたい人も対象としています。</p> <p>通訳演習を中心としますが、毎時の冒頭に数字の聞き取り演習（経済ニュース）も行います。通訳演習では逐次通訳（初見）と同時通訳（復習教材）の両方を扱います。また、語彙力増強のために毎回単語テストも実施します。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 通訳演習：原油流出と自然への影響</li> <li>3. 通訳演習：法と秩序</li> <li>4. 通訳演習：空港での緊急着陸</li> <li>5. 通訳演習：海賊版 CD</li> <li>6. 通訳演習：消防士の活躍</li> <li>7. 通訳演習：自然災害（地震）</li> <li>8. パフォーマンステスト</li> <li>9. 通訳演習：薬物の密輸</li> <li>10. 通訳演習：南シナ海の沈没船</li> <li>11. 通訳演習：内紛</li> <li>12. 通訳演習：タイのお守り</li> <li>13. 通訳演習：フランスの壁画</li> <li>14. 通訳演習：鳥インフルエンザ</li> <li>15. パフォーマンステスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 『トレンド日米表現辞典 第4版』（小学館、2007年）</p>		<p>単語テストおよび2回のパフォーマンステストによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻2回を1欠席と見なし、欠席4回以上は評価の対象外とする。</p>	

09年度以降	通訳 II	担当者	中島 直美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とします。実践にもとづいた演習を行い、英語の受信力・発信力を鍛えます。</p> <p>将来的に通訳者を目指す人はもちろん、場に応じた適切な表現を学びたい人も対象としています。</p> <p>通訳演習では逐次通訳（初見）と同時通訳（復習教材）の両方を扱います。内容はビジネススピーチが中心です。また、語彙力増強のために毎回単語テストも実施します。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席してください。初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Introducing Your Company</li> <li>3. Celebrating Achievement of Objectives</li> <li>4. Dedication of a New Facility</li> <li>5. At the Beginning of a Meeting</li> <li>6. Closing a Meeting</li> <li>7. At the Completion of a Project</li> <li>8. パフォーマンステスト</li> <li>9. Explaining Company Strategy</li> <li>10. Introduction of a New Product</li> <li>11. A New Product Announced outside the Company</li> <li>12. Improving the Company's Public Image</li> <li>13. Improving Quality Control</li> <li>14. Announcing a Crisis</li> <li>15. パフォーマンステスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 『トレンド日米表現辞典 第4版』（小学館、2007年）</p>		<p>単語テストおよび2回のパフォーマンステストによって評価する。なお出席は前提条件であり、遅刻2回を1欠席と見なし、欠席4回以上は評価の対象外とする。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月1）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っでの演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビジネス英語の特徴</li> <li>2 プリント①（英文ビジネスコラム）</li> <li>3 国際取引概略Ⅰ</li> <li>4 プリント②</li> <li>5 国際取引概略Ⅱ</li> <li>6 プリント③</li> <li>7 引合（inquiry）</li> <li>8 プリント④</li> <li>9 オファーⅠ（offer）</li> <li>10 プリント⑤</li> <li>11 オファーⅡ</li> <li>12 プリント⑥</li> <li>13 プリント⑦</li> <li>14 プリント⑧</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月1）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 契約Ⅰ（contract）</li> <li>2 プリント⑦</li> <li>3 契約Ⅱ</li> <li>4 プリント⑧</li> <li>5 クレームⅠ（claim）</li> <li>6 プリント⑨</li> <li>7 クレームⅡ</li> <li>8 プリント⑩</li> <li>9 企業内組織の英語</li> <li>10-15 プレゼンテーションの実習</li> </ol> <p>授業と平行して、10月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月2）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っでの演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビジネス英語の特徴</li> <li>2 プリント①（英文ビジネスコラム）</li> <li>3 国際取引概略Ⅰ</li> <li>4 プリント②</li> <li>5 国際取引概略Ⅱ</li> <li>6 プリント③</li> <li>7 引合（inquiry）</li> <li>8 プリント④</li> <li>9 オファーⅠ（offer）</li> <li>10 プリント⑤</li> <li>11 オファーⅡ</li> <li>12 プリント⑥</li> <li>13 プリント⑦</li> <li>14 プリント⑧</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月2）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 契約Ⅰ（contract）</li> <li>2 プリント⑦</li> <li>3 契約Ⅱ</li> <li>4 プリント⑧</li> <li>5 クレームⅠ（claim）</li> <li>6 プリント⑨</li> <li>7 クレームⅡ</li> <li>8 プリント⑩</li> <li>9 企業内組織の英語</li> <li>10-15 プレゼンテーションの実習</li> </ol> <p>授業と平行して、10月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者には、英文 <b>Business Writing</b> の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。</p> <p>水曜3限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で1年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。一緒に勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」）</li> <li>3. ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と練習問題1</li> <li>4. 効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」）</li> <li>5. 効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と練習問題2</li> <li>6. よく使用される表現（その1―「取引の申込み」）</li> <li>7. よく使用される表現（その2―「引合い」）練習問題3</li> <li>8. よく使用される表現（その3―「オファー」）</li> <li>9. よく使用される表現（その4―「信用状」）練習問題4</li> <li>10. よく使用される表現（その5―「積出し」）</li> <li>11. よく使用される表現（その6―「クレーム」）</li> <li>12. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方</li> <li>13. 英文 Business Writing 実践練習問題（その1）</li> <li>14. 英文 Business Writing 実践練習問題（その2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢達郎著 『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007年・2011年重版） プリント：必要に応じて随時配布する		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、出席・授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は5回までとする。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあつて、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEICで900点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事のある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。また、随時、授業中に経済用語（例えば、ヨーロッパの債務危機、TPP）について分かりやすく解説・説明していきます。水曜3限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で1年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 「英字新聞の特徴について（1）」</li> <li>3. 「英字新聞の特徴について（2）」</li> <li>4. 「Headlineの読み方実践練習（1）」</li> <li>5. 「Headlineの読み方実践練習（2）」</li> <li>6. 「Leadの読み方実践練習（1）」</li> <li>7. 「Leadの読み方実践練習（2）」</li> <li>8. 「Leadの読み方実践練習（3）」</li> <li>9. 「Leadの読み方実践練習（4）」</li> <li>10. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（1）」</li> <li>11. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（2）」</li> <li>12. 「国際経済記事の読み方実践練習（1）」</li> <li>13. 「国際経済記事の読み方実践練習（2）」</li> <li>14. 「国際経済記事の読み方実践練習（3）」</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、出席・授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は5回までとする。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあつて、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEICで900点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事のある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょうか。本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。また、随時、授業中に経済用語（例えば、ヨーロッパの債務危機、TPP）について分かりやすく解説・説明していきます。火曜3限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で1年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 「英字新聞の特徴について（1）」</li> <li>3. 「英字新聞の特徴について（2）」</li> <li>4. 「Headlineの読み方実践練習（1）」</li> <li>5. 「Headlineの読み方実践練習（2）」</li> <li>6. 「Leadの読み方実践練習（1）」</li> <li>7. 「Leadの読み方実践練習（2）」</li> <li>8. 「Leadの読み方実践練習（3）」</li> <li>9. 「Leadの読み方実践練習（4）」</li> <li>10. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（1）」</li> <li>11. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（2）」</li> <li>12. 「国際経済記事の読み方実践練習（1）」</li> <li>13. 「国際経済記事の読み方実践練習（2）」</li> <li>14. 「国際経済記事の読み方実践練習（3）」</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、出席・授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は5回までとする。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょうか。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に英文 <b>Business Writing</b> の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。火曜3限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で1年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。一緒に勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」）</li> <li>3. ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と練習問題1</li> <li>4. 効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」）</li> <li>5. 効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と練習問題2</li> <li>6. よく使用される表現（その1—「取引の申込み」）</li> <li>7. よく使用される表現（その2—「引合い」）練習問題3</li> <li>8. よく使用される表現（その3—「オファー」）</li> <li>9. よく使用される表現（その4—「信用状」）練習問題4</li> <li>10. よく使用される表現（その5—「積出し」）</li> <li>11. よく使用される表現（その6—「クレーム」）</li> <li>12. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方</li> <li>13. 英文 Business Writing 実践練習問題（その1）</li> <li>14. 英文 Business Writing 実践練習問題（その2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢達郎著『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007年・2011年重版） プリント：必要に応じて随時配布する		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、出席・授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は5回までとする。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木3)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文 (Business Correspondence) を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに (右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元 (春学期は Unit1~12) における実務知識、通信文のスケルトン・プラン (skeleton plan)、および専門語彙 (technical terms) を学ぶとともに、通信文の読解 (英文和訳) と作成 (和文英訳) の訓練を行います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意:</b> <u>このシラバスは木曜日3時限の授業のものです。</u> 杉山担当のもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。</li> <li>3. 「市況」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>4. 「取引先の発見」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>5. 「取引の申込み」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>6. 「信用照会」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>7. 「引合い」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>8. 「引合いに対する返事」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>9. 「オファー」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>10. 「カウンター・オファー」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>11. 「注文」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>12. 「注文の受諾」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>13. 「注文の謝絶」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>14. 「成約」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>15. 春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習 2 1 講 (三訂版)』(三恵社、2013年) および配布プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		<p>期末試験の結果 (概ね 80% の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20% の比重) を合計して評価します。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木3)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文 (Business Correspondence) を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに (右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元 (秋学期は Unit13~21) における実務知識、通信文のスケルトン・プラン (skeleton plan)、および専門語彙 (technical terms) を学ぶとともに、通信文の読解 (英文和訳) と作成 (和文英訳) の訓練を行います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意:</b> <u>このシラバスは木曜日 3 時限の授業のものです。</u> 杉山担当のもう 1 つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。</li> <li>3. 「信用状の開設と訂正」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>4. 「海上保険」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>5. 「輸出手配」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>6. 「船積み」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>7. 「輸入手配」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>8. 「決済」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>9. 「クレーム」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>10. 「クレーム調整」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>11. 「会社社交文」(推薦状) の読解・作成を行います。</li> <li>12. 「会社社交文」(案内状) の読解・作成を行います。</li> <li>13. 「会社社交文」(礼状) の読解・作成を行います。</li> <li>14. 「会社社交文」(見舞状) の読解・作成を行います。</li> <li>15. 秋学期の総復習と質疑応答を行います。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習 2 1 講 (三訂版)』(三恵社、2013年) および配布プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		<p>期末試験の結果 (概ね 80% の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20% の比重) を合計して評価します。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木4)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents)の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、<u>成約にいたるまでの段階</u>に登場する代表的なビジネス文書として、レター・オブ・インテント (Letter of Intent ; LOI)、スポット売買契約(One-shot Sales Contract)の表面約款と裏面約款、長期売買契約書(Long-term Sales Contract)、取扱説明書(Instruction Manual)などを扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意：</b>このシラバスは<b>木曜日4時限</b>の授業のものです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2.-3. LOIの意義と目的や作成上の注意点について説明し実際のサンプルを検討します。</li> <li>4.-5. 実際の案件に基づき LOI 作成の実習を行います。</li> <li>6.-8. スポット売買契約書の目的や作成上の注意点について説明し、「表面約款」および「裏面約款 (一般取引条件)」の現物のサンプルを検討します。</li> <li>9-10. 長期売買契約書について説明し、現物のサンプルを「実質条項」を中心に検討します。</li> <li>11-12. 製造物責任 (Product Liability) の観点から英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。</li> <li>13-14. “Plain English” を用いた取扱説明書作成の方略を検討します。</li> <li>15. 春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 当方で用意するプリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		<p>期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木4)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents)の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、<u>履行および決済の段階</u>に登場する代表的なビジネス文書として、商業送り状(Commercial Invoice)、船荷証券 (Bill of Lading; B/L)、保険証券 (Insurance Policy) 等の船積書類、輸出申告書と輸入(納税)申告書、荷為替信用状 (Documentary Letter of Credit; L/C)などを扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意：</b>このシラバスは<b>木曜日4時限</b>の授業のものです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2. 各種の船積書類(Shipping Documents; S/D)の意義と目的、作成上および読解上の注意点等を説明します。</li> <li>3.-4. 商業送り状のサンプルを検討し、作成する実習を行います。</li> <li>5.-6. 船荷証券と保険証券のサンプルを検討し、各々の記載事項を読解する実習を行います。</li> <li>7. 輸出通関および輸入通関について詳しく説明します。</li> <li>8.-9. 輸出申告書 (Export Declaration; E/D) を作成する実習を行います。</li> <li>10.-11. 輸入(納税)申告書 (Import Declaration; I/D) を作成する実習を行います。</li> <li>12.-14. 荷為替信用状による決済の仕組を詳しく説明し、サンプルを検討しながら信用状の記載事項をチェックする実習を行います。</li> <li>15. 秋学期の授業の総復習と質疑応答を行います。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 当方で用意するプリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		<p>期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス (logistics) に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。</p> <p>具体的には、春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その前半 (貿易マーケティング段階、取引関係創設段階、成約段階) に属するテーマを詳しく学習します。</p> <p>履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. 貿易の基本概念(1)：貿易の意義、貿易の主体など</li> <li>3. 貿易の基本概念(2)：貿易実務の遂行手順の概観</li> <li>4. 貿易の基本概念(3)：種々の貿易形態、貿易関係機関</li> <li>5. 貿易の基本概念(4)：貿易管理制度、関係法令など</li> <li>6. 貿易マーケティング段階(1)：”Market Research”</li> <li>7. 貿易マーケティング段階(2)：”Marketing Research”</li> <li>8. 取引関係創設段階(1)：取引先選定と引合い</li> <li>9. 取引関係創設段階(2)：信用照会(credit inquiry)</li> <li>10. 成約段階(1)：「一般取引条件」の意義と内訳</li> <li>11. 成約段階(2)：オファー(offer)と承諾(acceptance)</li> <li>12. 成約段階(3)：品質と数量に関する条件</li> <li>13. 成約段階(4)：価格と決済に関する条件</li> <li>14. 成約段階(5)：船積みと保険に関する条件</li> <li>15. 春学期の授業の総復習および質疑応答</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
(テキスト) 当方で用意する英文と和文の資料プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		期末試験の結果 (概ね 80%の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20%の比重) を合計して評価します。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス (logistics) に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。</p> <p>具体的には、秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その後半 (履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階) に属するテーマを詳しく学習します。</p> <p>履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. 履行段階(1)：”Incoterms 2010”の各貿易条件の概観</li> <li>3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認</li> <li>4. 履行段階(3)：輸出通関手続き</li> <li>5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き</li> <li>6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き</li> <li>7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き</li> <li>8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き</li> <li>9. 履行段階(8)：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き</li> <li>10. 履行段階(9)：各種運送書類 (transport document)</li> <li>11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法</li> <li>12. 決済段階(1)：信用状(Letter of Credit: L/C)と荷為替手形による決済の仕組み</li> <li>13. 決済段階(2)：L/Cによらない決済の仕組み</li> <li>14. クレームおよびクレーム調整の段階：クレームの種類、クレームの予防、クレームの種々の解決法など</li> <li>15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
(テキスト) 当方で用意する英文と和文の資料プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		期末試験の結果 (概ね 80%の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20%の比重) を合計して評価します。	

09年度以降	メディア英語 I (月2)	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Mosque building ban</li> <li>3. Sharia Law ban</li> <li>4. Confederate History revision</li> <li>5. Reconciliation of slavery issues</li> <li>6. Sons of the Confederacy lobbyists</li> <li>7. Birther issues</li> <li>8. Picture Manipulation</li> <li>9. Alcoholism in Russia</li> <li>10. Koran Burning</li> <li>11. CNN Vs Fox false Allegations</li> <li>12. Women in the Military</li> <li>13. Bullying</li> <li>14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.</p>		<p>Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation.</p>	

09年度以降	メディア英語 I (月2)	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Mistaking bath room pictures as child pornography</li> <li>3. Conspiracy Theories</li> <li>4. Tea Party Racists</li> <li>5. Michele Bachman misquotes</li> <li>6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions</li> <li>7. Afghanistan War Atrocities</li> <li>8. Pakistan border conflicts</li> <li>9. European racism of Muslims</li> <li>10. Doubts of Obama's religion</li> <li>11. Arizona Immigration law</li> <li>12. Sex Education</li> <li>13. Whale Hunting</li> <li>14. Ritual Dolphin Killings</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.</p>		<p>Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation.</p>	

09年度以降	メディア英語 I (金3)	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Mosque building ban</li> <li>3. Sharia Law ban</li> <li>4. Confederate History revision</li> <li>5. Reconciliation of slavery issues</li> <li>6. Sons of the Confederacy lobbyists</li> <li>7. Birther issues</li> <li>8. Picture Manipulation</li> <li>9. Alcoholism in Russia</li> <li>10. Koran Burning</li> <li>11. CNN Vs Fox false Allegations</li> <li>12. Women in the Military</li> <li>13. Bullying</li> <li>14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.</p>		<p>Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation.</p>	

09年度以降	メディア英語 I (金3)	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Mistaking bath room pictures as child pornography</li> <li>3. Conspiracy Theories</li> <li>4. Tea Party Racists</li> <li>5. Michele Bachman misquotes</li> <li>6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions</li> <li>7. Afghanistan War Atrocities</li> <li>8. Pakistan border conflicts</li> <li>9. European racism of Muslims</li> <li>10. Doubts of Obama's religion</li> <li>11. Arizona Immigration law</li> <li>12. Sex Education</li> <li>13. Whale Hunting</li> <li>14. Ritual Dolphin Killings</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.</p>		<p>Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation.</p>	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度、春学期は「映画で学ぶ言葉と文化」と題して、マスメディアの一つである「映画」を取り上げて講義いたします。外国映画を見る場合に、言葉だけでは映画を十分に理解できない場合があります。従って、時代背景・映画の題材と言った「外国の文化」を学んでいきます。また、「日本語字幕と音声英語の違い」、「原作小説との比較」などを通して、「映画で学ぶ言葉と文化」を分かりやすく講義していきます。同時に、映画が社会にどのような影響を与えるかについて考えたいと思います。就活や社会に出るから必要な「考える力」も養います。学生諸君にとっては、きっと「目から鱗が落ちる」講義となるでしょう。</p> <p>具体的に講義を説明いたします。アメリカ映画を2本取りあげます。最初の映画は、『アラバマ物語 <i>To Kill a Mockingbird</i>』（1962年）で、アカデミー賞3部門受賞した作品です。原作の小説は1961年度のピューリッツァー賞を受賞。2本目の映画は、『ボウリング・フォー・コロンバイン <i>Bowling for Columbine</i>』（2002年）で、マイケル・ムーア監督の話題作品です。2本の映画を通して、アメリカの「人種問題、陪審員制度・銃の問題等」について講義し、皆さんとお話したいと思っております。積極的な学生の参加を望みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 「アラバマ物語（その1）」部分鑑賞と講義</li> <li>3. 「アラバマ物語（その2）」部分鑑賞と講義</li> <li>4. 「アラバマ物語（その3）」部分鑑賞と講義</li> <li>5. 「アラバマ物語（その4）」部分鑑賞と講義</li> <li>6. 「アラバマ物語（その5）」部分鑑賞と講義</li> <li>7. 「キング牧師の関連映像」鑑賞と講義</li> <li>8. 人種問題と陪審員制度などについて解説し、アメリカ社会について論じてみたいと思います。</li> <li>9. 「ボウリング・フォー・コロンバイン（その1）」</li> <li>10. 「ボウリング・フォー・コロンバイン（その2）」</li> <li>11. 「ボウリング・フォー・コロンバイン（その3）」</li> <li>12. 「ボウリング・フォー・コロンバイン（その4）」</li> <li>13. 「ボウリング・フォー・コロンバイン（その5）」</li> <li>14. 銃の問題を取り上げ、憲法修正第2条、NRAなどの関連から、考えてみたいと思います。</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント（英文）使用		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、出席・授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は5回までとする。	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は「英字新聞丸かじり」と題して、マスメディアの一つである「英字新聞」を取り上げて講義いたします。TOEICで900点を取得しても英字新聞を読みこなすことはできません。また、大半の学生が卒業しても、英字新聞を読めないのが現状であります。英字新聞が読めたらどんなに素晴らしいことでしょうか。そこで、本講義では、「英字新聞丸かじり」と称して、英字新聞に馴染みのない学生に、「英字新聞の基本的な読み方」を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明いたします。本講義ではプリントを使用して、英字新聞を読む意義、英字新聞の特徴、Headlineの読み方、Leadの読み方などの基本をまず指導していきます。次に、具体的に社会面・政治面・経済面・国際面などの記事を読んでいき、英字新聞をある程度読みこなす力を養成していきたいと思っております。</p> <p>授業の最初に、「英字新聞の読み方のコツ」と称して、大きな問題となったトピックスを取り上げ、英字新聞に頻出する語彙などを解説・説明いたします。同時に、「英字新聞に頻出する基本語彙集」のプリントを配布いたします。これにより、学期末には英字新聞をある程度読めるようになっていると確信しております。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 「英字新聞を読む意義」と「英字新聞の特徴」</li> <li>3. 「Headlineの読み方実践練習（1）」</li> <li>4. 「Headlineの読み方実践練習（2）」</li> <li>5. 「Headlineの読み方実践練習（3）」</li> <li>6. 「Leadの読み方実践練習（1）」</li> <li>7. 「Leadの読み方実践練習（2）」</li> <li>8. 「Leadの読み方実践練習（3）」</li> <li>9. 「社会面の記事の読み方実践練習」</li> <li>10. 「経済面の記事の読み方実践練習」</li> <li>11. 「政治面の記事の読み方実践練習」</li> <li>12. 「国際面の記事の読み方実践練習」</li> <li>13. 「社説の読み方実践練習（1）」</li> <li>14. 「社説の読み方実践練習（2）」</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、出席・授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は5回までとする。	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「メディア英語を学ぶ」とは何を意味するのでしょうか。</p> <p>*英字新聞・雑誌やネットの記事を効率よく読む学習 (頻出単語なども、項目ごとに暗記したりする)</p> <p>*テレビ・ラジオの音声を学習教材にして学ぶ (ニュースや演説のみならず、CMも題材になりえる)</p> <p>*マスメディアの流す記事を鵜呑みにせず、懐疑的に読む</p> <p>「メディア英語学習法」のいくつか例を挙げてみましたが、学習者の目的・興味によって、「メディア英語の学習法」は様々な方法があると思います。</p> <p>今回この授業では、日々のニュースや現在世界で起こっている様々な出来事を、表面的ではなく深く理解するために、その発端となった重大事件や現在に至るまでの経緯、関連した歴史上重要な演説や論争を学習します。</p> <p>背景知識をしっかりと理解した上で、自分自身の意見を言うように論理的思考を身につけることも、この授業の目的となります。(↓に続きます)</p>		<p>私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます。<b>第一回目の授業でグループを作ります。必ず参加してくださいね!</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、グループ作り</li> <li>2. <b>テーマ 公民権運動</b> 概論</li> <li>3. 演説：キング牧師 議論：差別是正案は是か非か</li> <li>4. <b>テーマ 9.11</b> 概論</li> <li>5. 演説：G. W. ブッシュ 議論：テロは正当化できるか</li> <li>6. <b>テーマ アポロ計画</b> 概論</li> <li>7. 演説：J. F. ケネディ 議論：宇宙開発を推進すべきか</li> <li>8. <b>テーマ 大恐慌とサブプライムローン</b> 概論</li> <li>9. 演説：バーナンキ 議論：政府は銀行を救済すべきか</li> <li>10. <b>テーマ ソ連の解体</b> 概論</li> <li>11. 演説：ゴルバチョフ 議論：旧ソ連国(グルジアとウクライナ)のNATO加盟を認めてもいいか</li> <li>12. <b>テーマ EU誕生</b> 概論</li> <li>13. 演説：シューマン 議論：EUは加盟希望国をすべて受け入れるべきか</li> <li>14. <b>テーマ ベルリンの壁崩壊</b> 概論</li> <li>15. 演説：レーガン 議論：NATOは解体すべきか</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>植田十三他著『Global Dynamics:世界情勢を英語で読む』 (センゲージラーニング、2011年) ISBN: 978-4-86312-183-6</p>		<p>※ 成績は以下の配分で評価します。 期末試験60%、授業内での発表40%</p> <p>※ 遅刻3回(30分以内)で1回の欠席とみなします。 欠席5回した時点で単位取得が不可能となります。</p>	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(上からの続きです。)</p> <p>この授業の目的を以下のように設定します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>*可能な限り、多種多様な情報に目を通す (極端な考えに偏らないようにするため)</p> <p>*↑をもとに、自分の考えを創り出す</p> <p>*自分の考えを他人に正確に伝える</p> <p>*他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 (議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。)</p> <p>*行動を起こす</p> </div> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております!</p>		<p>私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます。<b>第一回目の授業でグループを作ります。必ず参加してくださいね!</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、グループ作り</li> <li>2. <b>テーマ 中国民主化運動</b> 概論</li> <li>3. 演説：江沢民 議論：政府の言論規制は是か非か</li> <li>4. <b>テーマ 朝鮮戦争</b> 概論</li> <li>5. 演説：マッカーサー 議論：北朝鮮への経済制裁</li> <li>6. <b>テーマ ベトナム戦争</b> 概論</li> <li>7. 演説：チザム 議論：米のベトナム戦争関与の是非</li> <li>8. <b>テーマ 高度経済成長</b> 概論</li> <li>9. 演説：中曽根康弘 議論：資本主義と社会主義</li> <li>10. <b>テーマ 中東情勢</b> 概論</li> <li>11. 演説：ラビン 議論：中東和平「ロードマップ」計画</li> <li>12. <b>テーマ キューバ危機</b> 概論</li> <li>13. 演説：J. F. ケネディ 議論：核兵器は廃絶すべきか</li> <li>14. <b>テーマ アパルトヘイト</b> 概論</li> <li>15. 演説：マンデラ 議論：アパルトヘイトの是非</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>植田十三他著『Global Dynamics:世界情勢を英語で読む』 (センゲージラーニング、2011年) ISBN: 978-4-86312-183-6</p>		<p>※ 成績は以下の配分で評価します。 期末試験60%、授業内での発表40%</p> <p>※ 遅刻3回(30分以内)で1回の欠席とみなします。 欠席5回した時点で単位取得が不可能となります。</p>	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>political and economic/business stories, with a focus on Japan</u>. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p>		1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay or Presentation #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay or Presentation #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay or Presentation #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay or Presentation #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>cultural and entertainment stories from around the world</u>, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.</p>		2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay or Presentation #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay or Presentation #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay or Presentation #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay or Presentation #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>目的</u> 英語学習の目標の一つとして「いわゆる教材英語ではない生きた英語（時事英語）を直接理解すること」がある。時事的なトピックを英語で読める・聞けるようになるには一般的な英語力に加えて日本国外の社会や歴史に関心を持つことも必要である。以上を前提として、このコースでは、自分の生活圏を離れた国内外の出来事への興味関心を喚起し、同時に「使える英語」の習得を目標とする。</p> <p><u>概要</u> 春学期は主に国内で配信されているオンラインニュースを中心に演習をすすめる。語彙のまとめ方などを工夫して、理解した内容を自分のフィルターを通して要約文が書けるようになるプロセスを News Report として順次学習していく。それと同時に NetAcademy2 リスニングの中から時事的な内容をピックアップし、聴解力及び語彙力の増進も図る。またグループワークとして英語学習サイトの紹介→発表も予定している。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース概要1：オリエンテーション</li> <li>2. コース概要2：NetAcademy2の履歴確認など</li> <li>3. 様々なオンラインニュース（国内・国際） （含：ニュース以外の英語関連ウェブサイト）</li> <li>4. News Report の書き方1－1</li> <li>5. News Report の書き方1－2</li> <li>6. News Report の書き方1－3</li> <li>7. &lt;中間テスト&gt;</li> <li>8. グループワーク－1</li> <li>9. グループワーク－2</li> <li>10. グループワーク－3</li> <li>11. News Report の書き方2－1</li> <li>12. News Report の書き方2－2</li> <li>13. News Report の書き方2－3</li> <li>14. &lt;期末テスト&gt;</li> <li>15. Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① ハンドアウト</li> <li>② オンライン教材は授業中に指示する。</li> </ol>		試験の他に発表の課題提出や出席率を加味して総合評価する。欠席5回で単位認定が不可能となります。	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>目的</u> オンラインで配信されるジャーナリズムの英語を中心に様々な媒体を通して生きた英語に触れ、教材英語ではない「生の英語を理解する」ことを目標とする。後半は英語の理解（読解・聴解）にとどまらず、ショートエッセイコンテストへの応募やプレゼンテーションの場を設けて、英語での発信力も徐々に養っていく。</p> <p><u>概要</u> 前半はネットで配信されるニュース記事にアクセスし、英語学習のリソースとして運用できるものを検討する。（最近国内・国際版共に学習者に配慮した練習問題付きのものが多く、一つのサイトを継続的に学習することで相応の進歩が期待できる）。学期の後半はショートエッセイの公募に全員が参加し「短くとも内容のある文章」を書く機会を設ける。さらにグループワークで地域（国）別の問題・社会現象を取り上げ、発表することを中心課題とする。秋学期全体を通して NetAcademy2・リスニングセクションを取り入れ、聴解能力及び語彙力の向上も図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース概要1：オリエンテーション</li> <li>2. コース概要2：NetAcademy2の履歴確認など</li> <li>3. 様々なオンラインニュース（国内）</li> <li>4. 様々なオンラインニュース（国際）</li> <li>5. ESSC（ショートエッセイ）について</li> <li>6. ESSC 応募前の吟味・注意</li> <li>7. &lt;中間テスト&gt;</li> <li>8. グループの決定→地域／リソースの選択</li> <li>9. グループワーク－1</li> <li>10. グループワーク－2</li> <li>11. グループワーク－3</li> <li>12. プレゼンテーション－1</li> <li>13. プレゼンテーション－2</li> <li>14. &lt;期末テスト&gt;</li> <li>15. Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① ハンドアウト</li> <li>② オンライン教材は授業中に指示する。</li> </ol>		試験の他に発表の課題提出や出席率を加味して総合評価する。欠席5回で単位認定が不可能となります。	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. By the end of the Spring term students should be able to use POWER POINT for at least one presentation PER TERM! The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction</li> <li>2 Route 66, Weekly Current Event</li> <li>3 The American RED Cross, Weekly Current Event</li> <li>4 The Boston Ballet, Weekly Current Event</li> <li>5 Comedy, Weekly Current Event</li> <li>6 Political Protest, Weekly Current Event</li> <li>7 The Yellow Pages, Weekly Current Event</li> <li>8 The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event</li> <li>9 The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event</li> <li>10 Healthy Life Styles, Weekly Current Event</li> <li>11 Supermarkets, Weekly Current Event</li> <li>12 Apples in the US Northwest, Weekly Current Event</li> <li>13 Women in the military</li> <li>14 Social Welfare Change</li> <li>15 Final Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation.	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. Students will use POWER POINT for at least one presentation this term. As in the Spring term, students will submit homework by email.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction</li> <li>2 Tennessee, Weekly Current Event</li> <li>3 The Special Olympics, Weekly Current Event</li> <li>4 Sports Shoes, Weekly Current Event</li> <li>5 Charities for Children, Weekly Current Event</li> <li>6 Health and Comedy, Weekly Current Event</li> <li>7 Broadway Musical, Weekly Current Event</li> <li>8 Country Western Singers, Weekly Current Event</li> <li>9 Space Exploration, Weekly Current Event</li> <li>10 Analysis of Commercial</li> <li>11 You tube music analysis</li> <li>12 Critique of Viral video</li> <li>13 The Cove</li> <li>14 Whaling Issues</li> <li>15 Final Presentations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation.	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	東郷 公德
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に努めたい。</p>		<p>毎回、授業の初めに単語小テストを行う。授業では主に和訳をしながら記事を読み進める。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		主として単語小テストの結果の平均点により評価する。	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	東郷 公德
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		主として単語小テストの平均点により評価する。	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.</p>		1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay or Presentation #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay or Presentation #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay or Presentation #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay or Presentation #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English II.</p>		2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay or Presentation #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay or Presentation #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay or Presentation #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay or Presentation #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%	

09年度以降	シネマ英語	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。</p> <p>前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。</p> <p>履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（2～3人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。</p>		<p>第1回 ガイダンス サイレントからトーキーへ</p> <p>第2回 ミュージカル映画について</p> <p>第3回 映画に見られるエスニシティとジェンダー</p> <p>第4回 アジア系アメリカ人をテーマとした映画 その1</p> <p>第5回 アジア系アメリカ人をテーマとした映画 その2</p> <p>第6回 アフリカ系アメリカ人をテーマとした映画 その1</p> <p>第7回 アフリカ系アメリカ人をテーマとした映画 その2</p> <p>第8回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第9回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第10回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第11回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第12回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第13回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第14回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第15回 まとめと復習テスト</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントその他。開講時に指示します。		コメント60%、プレゼンテーション20%、復習テスト20%とします。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりません。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画を映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。</p> <p>後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。</p> <p>履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（2～3人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。</p>		<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 アメリカ映画に登場する日本人 その1</p> <p>第3回 アメリカ映画に登場する日本人 その2</p> <p>第4回 先住民族をテーマとした映画 その1</p> <p>第5回 先住民族をテーマとした映画 その2</p> <p>第6回 メキシコ系アメリカ人をテーマとした映画 その1</p> <p>第7回 メキシコ系アメリカ人をテーマとした映画 その2</p> <p>第8回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第9回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第10回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第11回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第12回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第13回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第14回 学生によるプレゼンテーション</p> <p>第15回 まとめと復習テスト</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントその他。開講時に指示します。		コメント60%、プレゼンテーション20%、復習テスト20%とします。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりません。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	シネマ英語	担当者	田村 斉敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>About a Boy</i>は、Nick Hornbyが1998年に発表した同名の小説を映画化したものです。 この授業は、この映画を鑑賞しながら、次のことを目標として進めていきます。</p> <p>1 リスニングや役に立つ語彙・表現の習得にむすびつく訓練をします。 2 映画を小説のように「読解」することを目指します。主題、メタファー分析、語りの技法等を分析していきますが、その際原作を意識し、原作と必要に応じて比較していきます。</p> <p>なお、個別のタスクのほか、ペアワークないしグループワークによるプレゼンテーションも取り入れて進める予定です。 学期末にはレポートを課します。</p> <p>参考文献 原作：Nick Hornby, <i>About a Boy</i> (Penguin, New Ed., 2002) スクリプト：亀山太一監修「アバウト・ア・ボーイ」(スクリーンプレイ、2003) ※語注や和訳付 その他は授業中に紹介。</p>		<p>1 イントロダクション 2～13 演習 14～15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Peter Hedges, Chris Weitz, Paul Weitz 著「About a Boy/映画総合教材『アバウト・ア・ボーイ』(松柏社、2011)		授業内での活動に対する評価および期末のレポートの評価をほぼ半分ずつとする。出席が3分の2に達しない場合は単位は出さない。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>公開後60年を経ても今尚その輝きを失わない名画、「カサブランカ」。(アカデミー賞受賞)第二次世界大戦のヨーロッパ、モロッコを舞台に繰り広げられる物語をDVDで観賞し、生き生きとしたオーセンティックな使える英語を学び、発表などを通じて実際に使えるようにしていきます。時代的背景の中で深みのある台詞でつづられていくストーリーを楽しみながら学べると思います。</p> <p>講義概要：</p> <p>DVDを見てスクリプトをよく理解し、Exerciseで確認します。チャプターごとに好きな表現を選び、ペアでスキットを作成し発表して、生きた英語を身につけていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Unit 1. I'll Die in Casablanca</li> <li>3. Unit 2. Where Were You Last Night?</li> <li>4. Unit 3 Yeah? What's His Name? Afternoon Tea Break 1</li> <li>5. Unit 4. Play "As Time Goes By"</li> <li>6. Unit 5. Here's Looking at You, Kid.</li> <li>7. Unit 6. Kiss Me As If It Were the Last Time Afternoon Tea Break 2</li> <li>8. Unit 7. Your Story Had Me a Little Confused</li> <li>9. Unit 8. Nobody Ever Loved Me That Much</li> <li>10. Unit 9. This Café Is Closed Until Further Notice! Afternoon Tea Break 3</li> <li>11. Unit 10. I Wish I Didn't Love You So Much</li> <li>12. Unit 11. She Isn't Just Any Woman</li> <li>13. Unit 12. We Always Have Paris</li> <li>14. まとめ(1)</li> <li>15. まとめ(2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ed. by Hiromi Akimoto/Mayumi Hamada. <i>Casablanca -- Cool and Unforgettable English</i> . Macmillan Languagehouse, ¥2500 +税		出席状況、授業への参加度、宿題、発表、エッセイ提出等から総合的に評価します。授業中のプレゼンテーションも重要視しますので、出席は最も重要。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>3つの有名なアメリカ映画、マーガレット ミッチェルの「風と共に去りぬ」、ルイザ メイ オルコットの「若草物語」、ライマン フランク ボームの「オズの魔法使い」を通してアメリカの歴史的、社会的、文化的背景を理解し、アメリカの心を感じることが出来れば嬉しいと思います。</p> <p>講義概要：</p> <p>DVDを観て、練習問題をして内容の理解を確認します。それからその場面場面にちりばめられた多くの英語表現を学び、それらの表現を使い各自スキットを作成して発表することにより実際に使えるようにしていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. "Gone With the Wind" Unit 1. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</li> <li>3. Unit 2. Same as Above</li> <li>4. Unit 3. "</li> <li>5. Unit 4. Vocabulary Exercises/Scene 1,2,3/Summary</li> <li>6. "Little Women" Unit 5. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</li> <li>7. Unit 6. Same as above</li> <li>8. Unit 7. "</li> <li>9. Unit 8 Vocabulary Exercises/Scene 1, 2,3/Summary</li> <li>10. "The Wizard of Oz" Unit 9. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</li> <li>11. Unit 10. Same as Above</li> <li>12. Unit 11. "</li> <li>13. Unit 12. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/ Summary</li> <li>13. Performance</li> <li>14. まとめ (1)</li> <li>15. まとめ (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ed. by M. Ishizuka, M. Kobayashi, M. Maass, M. Nagasaki. <i>American Spirits in Movies</i> . Seibido. ¥2400.		春学期に同じ。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 映画は英語の台詞を理解できれば、描かれている全てを理解できる訳ではない。その台詞の背景にある、その国の文化、歴史、思想、考え方を理解しなければ、英語の台詞の真意を理解できない。そこで本講義は、映画の中の英語表現を理解するだけでなく、映画の中で描かれる海外の文化、歴史、思想、考え方を理解することを目標にする。</p> <p><b>講義概要</b> 毎週1本の映画を指定するので、予習として各自その映画を観てくること。台詞だけにとらわれず、映像の中の文化の描かれ方まで観察し、最低限あらすじは必ず頭に入れておくこと。授業は、予習を前提とし、映画について講義と議論をする。扱う映画は、授業の進行状況や学生の関心に応じて変更することがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. イギリスの歴史 (1) 『ブレイブハート』</li> <li>3. イギリスの歴史 (2) 『英国王のスピーチ』</li> <li>4. アメリカの歴史 (1) 独立戦争『パトリオット』</li> <li>5. アメリカの歴史 (2) 南北戦争『グローリー』</li> <li>6. アメリカの戦争 (1) 第二次世界大戦『大脱走』</li> <li>7. アメリカの戦争 (2) ベトナム戦争 『プラトーン』</li> <li>8. アメリカの戦争 (3) イラク戦争『ハートロッカー』</li> <li>9. 銃について『ボーリングフォーコロンバイン』</li> <li>10. アメリカ人にとっての宇宙『ET』</li> <li>11. アメリカでの移民文化 (1) 『ゴッドファーザー1』</li> <li>12. アメリカでの移民文化 (2) 『アメリカンギャングスター』</li> <li>13. サスペンス (1) 『めまい』</li> <li>14. サスペンス (2) 『ユージュアルサスペクツ』</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：なし 参考文献：なし</p>		<p>出席状況、授業中の議論への参加度、課題提出とその評価を総合して成績評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム交流論	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ツーリズムによる交流が持つ力は、国際収支改善、雇用促進、地域開発等の経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境、国際親善など非常に広範囲な分野に強い影響力を及ぼしていることを学習する。</p> <p>講義概要 わが国の国家戦略としての観光立国政策を理解し、日本における国際観光の意義、国際観光の歴史的経緯を学びながら、経済的、文化的、社会的側面を考察し、その重要性を認識する。 ことに、日本人の海外旅行者数と訪日外国人旅行者数のアンバランスは重大問題として学習する。訪日外国人旅行者の動向、日本の観光魅力、主要国の国際観光の状況と日本との交流、国際観光マーケティングについても理解を深める。</p> <p>講義では、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々、観光関連報道記事を適宜取り上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 国際観光の推移と概況</li> <li>3. 日本のソフトパワーと観光</li> <li>4. ソフトパワーとしての国家の観光魅力</li> <li>5. 国際観光立国の今日的意義</li> <li>6. 訪日外国人旅行者誘致の歴史①</li> <li>7. 訪日外国人旅行者誘致の歴史②</li> <li>8. 国際観光と観光マーケティング</li> <li>9. 観光立国推進基本法と実施策 (VJC)</li> <li>10. インバウンド振興と観光政策</li> <li>11. 日本の海外旅行市場動向①</li> <li>12. 日本の海外旅行市場動向②</li> <li>13. 日本の海外旅行市場動向③</li> <li>14. 国際観光の展望</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。</p>		試験結果に基づいて評価する。	

09年度以降	ツーリズム・リスク論	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>W・ディズニー映画「カリブの海賊」を手掛かりに、世界の危険な海を舞台に、航海のリスクを抱えつつ、歴史に登場した海賊の正体に迫ります。さらに春学期の後半では、現代のパイレーツ問題を扱う予定です。</p> <p>授業の前半でディズニー映画、もしくはアメリカCNNやイギリスBBCの国際ニュースを取り上げます。国際ニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。</p> <p>授業の後半はツーリズム・リスクに関連したトピックを取り上げます。この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。</p> <p>①16～18世紀の海賊に焦点をあて、なぜリスクを冒してまで世界中を移動したのか——その謎を解きます。</p> <p>②現代のパイレーツ問題を取り上げ、海洋リスクを概観する予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 ディズニー映画「カリブの海賊」解説</li> <li>3 ディズニー映画の解説、海賊の用語解説</li> <li>4 海賊ドレークの世界一周</li> <li>5 海洋覇権のゆくえ——海賊の役割</li> <li>6 スパイ争奪戦——海賊の「東インド会社」</li> <li>7 コーヒーから「午後の紅茶」へ</li> <li>8 国名・カレンダー(暦)・宗教勢力—用語解説</li> <li>9 まとめ</li> <li>10 海洋リスク——現代のパイレーツ</li> <li>11 同上</li> <li>12 同上</li> <li>13 同上</li> <li>14 同上</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
竹田いさみ『世界史をつくった海賊』(ちくま新書)など		評価方法は、登録確認の小テスト、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム文化論	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を考察し、観光の多様性を理解する。</p> <p>講義概要 観光を、擬似イベント、イメージ、メディアの視点から考察し、観光現象を多面的に理解する。</p> <p>併せて、貧困ツーリズム、戦場ツーリズムに見る観光形態の多様性や、バリ島の観光開発の光と影に触れ、文化の変容についても考える。又、ディズニーランドを模型文化としての視点より考察し観光現象の多様性を学ぶ。</p> <p>近年若者の海外旅行離れが懸念されているが、その現象を観光メディアの視点から考えてみたい。</p> <p>又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化、観光関連業界の報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にした</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. 文化への新しいアプローチとしての観光</li> <li>3. 観光の誕生・擬似イベントとしての観光</li> <li>4. メディアと観光・イメージの形成とメディア</li> <li>5. バリ島観光開発の植民地政策と文化の流れ</li> <li>6. 楽園バリ島誕生の形成と文化の流れ</li> <li>7. 観光文化のグローバル化と商品化</li> <li>8. 文化観光と観光行動（疑似体験としての観光旅行）</li> <li>9. 疑似体験としての貧困・戦場ツーリズム</li> <li>10. 文化の商品化と観光文化・観光芸術</li> <li>11. 模型文化とディズニーランド</li> <li>12. ディズニー化とマクドナルド化</li> <li>13. 観光メディアと旅行市場形成</li> <li>14. 観光メディアと海外旅行</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。</p> <p>参考文献：『観光文化学』（山下晋司編）新曜社 その他は適宜指示する。</p>		試験結果に基づいて評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム・メディア論	担当者	倉澤 治雄				
講義目的、講義概要		授業計画					
<p><u>講義の目的</u></p> <p>「国際社会」は冷戦の終結後も政治、経済、宗教、領土、人権などをめぐって軋轢が絶えず、「波乱の時代」となっています。</p> <p>一方、移動やコミュニケーションの手段は革新的な発展を遂げており、世界はますます狭くなりつつあります。</p> <p>講義では、まず「メディア」の特性や社会での役割などを整理したうえで、「ツーリズム」との連携について考察します。</p> <p>また「ツーリズム」と「メディア」のコラボレーションによって、国際社会での相互理解、平和と安定の維持、人間の創造力の開拓にどのように貢献できるか考えます。</p> <p><u>講義概要</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「メディア・コンテンツ」産業の現状と制度の枠組みについて、論文を中心に紹介します。</li> <li>「ツーリズム」と「メディア」の連携によって、政治、経済、文化、芸術などに与えた影響を、映像メディアを駆使して位置づけます。</li> <li>常に国際社会の動向に敏感であるため、時事問題について、新聞記事を中心に解き明かします。</li> <li>「メディア」を利用した新しいツーリズムについて構想します。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>講義の概要と方法論。取り上げるテーマなどについて。</li> <li>日本のメディア・コンテンツ産業の現状と課題 13兆円といわれるメディア産業の実態</li> <li>ジャーナリズムについて 「構成の原則」などジャーナリズム論入門</li> <li>ツーリズムとメディアの歴史的關係 「エジプト」「ギリシア」から「アンコール」まで</li> <li>ネットメディアの現状と課題 ネットメディアのリテラシーについて考察</li> <li>マスメディアの現状と課題</li> <li>ソーシャルメディアとツーリズム</li> <li>キュレーションの時代 「情報」から「目利き」へ</li> <li>メディア論の立場からツーリズムを考える</li> <li>国際社会とツーリズム・メディア メディアに現れる国際情勢とツーリズムの關係</li> <li>環境問題をツーリズムとメディアの立場から考える</li> <li>コンテンツ・ツーリズムと地域活性化 地域活性化とコンテンツについて実証的に検証</li> <li>アートとしてのツーリズム</li> <li>「見えない国」と「行けない国」を見る 国際情勢と新しい観光資源</li> <li>新しいツーリズムとメディアのコラボレーション</li> </ol>					
テキスト、参考文献		評価方法					
テキストは指定しません。授業に使う記事、論文、映像などは用意します。必要なときに文献を紹介します。		<table> <tr> <td>期末定期試験</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>毎回行う演習への参加</td> <td>50%</td> </tr> </table>		期末定期試験	50%	毎回行う演習への参加	50%
期末定期試験	50%						
毎回行う演習への参加	50%						

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム・マネジメント論	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、ツーリズム産業の現状や課題を理解することを目的とする。特に、ツーリズム産業のけん引役である旅行産業におけるビジネスの実態を理解することも主要目的の一つである。</p> <p>我が国は、高度成長期以降、製造業が我が国経済のけん引役であったが、新興国の台頭により、その役割が低下している。一方、ツーリズム産業に代表されるサービス産業（第三次産業）の重要性が高まりつつある。しかし、このような方向性にはあるものの、我が国の少子高齢化・人口減少、また国際競争の激化、インターネットの普及拡大などで、ツーリズム関連産業も従来型のビジネスから脱し、新たな成功モデルの構築が求められている。</p> <p>本講義においては激しく変動する我が国及び世界のツーリズム市場を理解し、その動きの中におけるツーリズム産業の現状の理解、特にマネジメントに関わる知識の習得を目指している。より深く理解するために、「ツーリズム産業発展のための新たな処方箋は何か？」とのテーマで、ディスカッションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（講義概要、進め方、評価など）</li> <li>2. 世界の動きとツーリズム、観光産業の課題</li> <li>3. ツーリズムと企業マネジメントの基本</li> <li>4. ツーリズムと企業会計</li> <li>5. ツーリズムとマーケティング</li> <li>6. ツーリズムと価格政策（プライシング）</li> <li>7. 旅行会社の構造について</li> <li>8. ツーリズムにおける商品企画</li> <li>9. ツアーの手配とツアーの流れ、およびコンダクターの役割など（タイムマネジメントの考察も行う）</li> <li>10. ツーリズムと旅行業法</li> <li>11. ツーリズムと世界各地の文化、宗教、その他魅力</li> <li>12. ツーリズム産業発展のための新たな処方箋は何か（ディスカッション）</li> <li>13. 新しいツーリズム商品の企画（1）（プレゼンテーション）</li> <li>14. 新しいツーリズム商品の企画（2）（プレゼンテーション）</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		出席、発表、受講姿勢など講義参画：70% レポートとプレゼンテーション：30%	

09年度以降	国際会議・イベント事業論	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。</p> <p>講義概要 国際会議、博覧会やイベントとは何か、その歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。</p> <p>講義では、国際会議、博覧会、イベントを中心に観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. イベント・コンベンションの発生と発展</li> <li>3. イベント・コンベンションとは①</li> <li>4. イベント・コンベンションとは②</li> <li>5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向</li> <li>6. イベント・コンベンションの仕組みと実務①</li> <li>7. イベント・コンベンションの仕組みと実務②</li> <li>8. イベント・コンベンション産業①</li> <li>9. イベント・コンベンション産業②</li> <li>10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備</li> <li>11. コンベンション・ビューローの役割と機能</li> <li>12. イベント・コンベンションの推進機関</li> <li>13. イベント・コンベンションの課題と展望①</li> <li>14. イベント・コンベンションの課題と展望②</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『イベント&amp;コンベンション概論』（JTB総合研究所）その他は適宜指示する。</p>		試験結果に基づいて評価する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム政策論	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、ツーリズムにおける政策、及び課題を理解することを目的とする。ツーリズム政策は、国家の主要政策の一つで世界各国、各地域において推進されてきたが、世界がグローバル化する今日、その重要性がさらに高まっている。我が国では戦後の高度成長期を主にモノづくり産業が牽引してきたことから、これまでのツーリズム政策が必ずしも充分ではなかったとの評価もあるが、このような評価も踏まえながら、出来るだけ多様な視点からツーリズム政策を分析すると同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>ツーリズム政策は単に、レジャーの領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション、また受講生自ら新たなツーリズム政策の構築に挑戦するなどの試みを通して、より深く理解することを求めていく。</p> <p>尚、時間に余裕があれば、ツーリズムの領域におけるキャリア形成についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（講義概要、進め方、評価など）</li> <li>2. ツーリズム政策の目的（観光立国など）</li> <li>3. ツーリズム政策の歴史（景観法、リゾート法など）</li> <li>4. 世界におけるツーリズム政策</li> <li>5. ツーリズム政策と観光資源、クールジャパン政策</li> <li>6. 我が国の魅力について（ディスカッション）</li> <li>7. 地域振興政策（着地型観光、観光特使制度、フィルムコミッション、ニセコ、旭山動物園の成功など）</li> <li>8. ツーリズム政策の基礎と制度</li> <li>9. ツーリズム政策と情報制度</li> <li>10. 世界遺産、グリーンツーリズム、メディカルツーリズム、ソーシャルツーリズムなど</li> <li>11. ツーリズムと多様性、異文化交流、男女共同参画</li> <li>12. ツーリズム産業とキャリア形成、就職活動</li> <li>13. 新しい地域振興策（1） （プレゼンテーション）</li> <li>14. 新しい地域振興策（2） （プレゼンテーション）</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		出席、発表、受講姿勢など講義参画：70% レポートとプレゼンテーション：30%	

09年度以降	旅行・宿泊産業論	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的</p> <p>ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。</p> <p>講義概要</p> <p>旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。</p> <p>旅行業の発展経緯と機能役割、商品形態等について重点的に触れ、又、IT時代における旅行ビジネスの今日的課題及び将来像についても考察する。</p> <p>宿泊産業では、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホテル業のサービスの実態についても学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要・旅行市場の現状</li> <li>2. 旅行業の機能・役割</li> <li>3. 旅行業の歩み①</li> <li>4. 旅行業の歩み②</li> <li>5. 旅行業の商品と形態</li> <li>6. 旅行業法と消費者保護</li> <li>7. 旅行業界の現状と課題</li> <li>8. 旅行業の今後</li> <li>9. ホテル業とは・ホテル業の分類</li> <li>10. 欧米におけるホテル業の歴史</li> <li>11. 日本におけるホテル業の歴史</li> <li>12. ホテル業の動向</li> <li>13. ホテルの組織と経営特性</li> <li>14. ホテル業界のホスピタリティー</li> <li>15. ホテル業の今後・講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。</p> <p>参考文献：適宜指示する。</p>		試験結果に基づいて評価する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	航空産業論	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>我が国は人口減少社会に突入しているが、世界の人口は今後も増加を続けると想定されている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で、他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まることになる。このような環境下で近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空事業は成長と同時に大きな変化の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。</p> <p>我が国における航空産業は、航空輸送産業と航空機製造産業に分かれ行政区分も異なる。しかしながら、世界の実態は、航空輸送と航空機製造が一体となって、国家を支える構造にあることから、航空の各領域の解説に加え、航空輸送と航空機製造の極めて強い連携の構造についての解説も行う。</p> <p>尚、時間に余裕があれば、航空産業におけるキャリア形成についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（講義概要、進め方、評価など）</li> <li>2. 最近の航空産業の動きなど</li> <li>3. 航空産業とキャリア形成</li> <li>4. 航空における世界の歴史</li> <li>5. JALとANAの登場と成長</li> <li>6. LCC（低コスト航空会社）</li> <li>7. アライアンス</li> <li>8. 航空産業の課題について（ディスカッション）</li> <li>9. 航空政策とJALの破綻と復活</li> <li>10. オープンスカイと規制緩和</li> <li>11. 航空安全</li> <li>12. 航空機製造ビジネス</li> <li>13. 航空産業の特性と航空運賃</li> <li>14. 空港、および国際航空法</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト（教科書）：『最新 航空事業論』（2013年2月 日本評論社）</p> <p>（注）受講生は、事前に予習しておくことを薦める。</p>		<p>ディスカッションなど講義参画：30%</p> <p>最終試験：70%</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	サステイナブル・ツーリズム論	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。</p> <p>近年、成長の持続化の追求から、持続可能な社会を形成しようとするパラダイムシフトの兆しがみられます。環境や健康に配慮した持続可能 (sustainable) なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。</p> <p>本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えていきます。</p> <p>なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます (他の講義との重複をさけるため)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. マスツーリズムとサステイナブル・ツーリズム</li> <li>3. 開発と持続可能性概念</li> <li>4. 地球環境問題</li> <li>5. 自然・環境思想 (国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産)</li> <li>6. エコツーリズム (歴史と概説)</li> <li>7. エコツーリズムと野生動物保護 (マレーシアの事例)</li> <li>8. エコミュージアム (歴史と概説)</li> <li>9. LOHAS (ロハス) と観光</li> <li>10. 欧米のグリーンツーリズム</li> <li>11. ビデオ (水俣病) (予定)</li> <li>12. 日本のグリーンツーリズム (歴史・背景・展開)</li> <li>13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾</li> <li>14. アクセシブル観光 (ユニバーサル交流)</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。</p>		<p>期末試験 (90%)、学期中課題 (10%)、出席点 (+<math>\alpha</math>)。</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	オルタナティブ・ツーリズム論	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明</li> <li>オルタナティブ・ツーリズムの背景</li> <li>ビデオ上映（ジャマイカの観光開発）</li> <li>場所性の商品化—アマンリゾートの戦略</li> <li>環境主義の商品化—エコリゾート</li> <li>世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例</li> <li>世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例</li> <li>ビデオ上映（バックパッカーの窮状）</li> <li>先住民と観光—北米イヌイットの事例</li> <li>先住民と開発—開発的遭遇</li> <li>先住民と環境主義</li> <li>12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例</li> <li>現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として</li> <li>ダーク・ツーリズムの現状と可能性—西アフリカの事例から</li> </ol> <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09年度以降	ツーリズム人類学	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムを作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. グローバリゼーションの民族誌 1</li> <li>3. グローバリゼーションの民族誌 2</li> <li>4. 観光の誕生</li> <li>5. ビデオ上映</li> <li>6. 表象の政治学—情報資本主義と観光</li> <li>7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史</li> <li>8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生</li> <li>9. 文化装置としてのホテル</li> <li>10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例</li> <li>11. セックス・ツーリズム—タイの事例</li> <li>12. 少数民族と観光—タイの事例</li> <li>13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」</li> <li>14. 他者との協働を目指して：北海道アイヌ観光の現在</li> <li>15. まとめ・予備日</li> </ol> <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末テスト(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム地誌論	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における1泊3日の研修旅行を通じて、世界各地のツーリズムに関連する幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指す。</p> <p>リトルワールドには、22カ国、33の地域・民族の家屋や生活道具が移築・復元されている。受講者は、複数のグループに分かれ、そのなかから1つの地域・民族を選び、それぞれの地域や民族の文化や習慣について、事前に資料収集を行なう。そして、こうした文献調査を踏まえた上で、研修旅行では、各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらう。さらに、これらの文献調査・研修旅行の成果を踏まえた上で、学期末に報告書を作成する。</p> <p>本講義は、リトルワールドにおける実習を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となる。またグループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備に積極的に参加できる者のみ履修を認める。なお、初回授業時にグループ分け等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明・グループ分け</li> <li>講義(2回) 文化の収集と展示の歴史、芸術=文化システム論など異文化展示・博物館論に関する基礎的な概念についての紹介。</li> <li>発表・議論(3~4回) 各グループによる、発表計画・中間報告。</li> <li>研修旅行 11月16日(土)、17日(日)に実施予定(出発は15日(金)の夜行バス)であるが、詳細は初回の授業で説明する。費用は往路夜行バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで2.5万円程度(飲食費は除く)。</li> <li>発表・議論(6回) 文献資料・博物館での実習を踏まえた、成果発表。</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
山下晋司・船曳建夫(編)『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣		研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえて、総合的に評価する。 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	市民参加のまちづくり論	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 地域とは何か、発展とは何か</li> <li>3. 住民参加の意義と多義性</li> <li>4. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ</li> <li>5. 組織・制度化、学習プロセス：山形県の事例</li> <li>6. 地域づくりにおけるキーパーソン：兵庫県の事例</li> <li>7. 内発的發展と外来型開発</li> <li>8. 共益から公益の創出へ：NYと東京の事例</li> <li>9. ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』</li> <li>10. 地域づくりとまなざしの多様性：島根県の事例</li> <li>11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 援助の事例</li> <li>12. ソーシャル・キャピタル</li> <li>13. ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』（予定）</li> <li>14. まとめ：まちづくりは人づくり</li> <li>15. 試験対策</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト)</p> <p>北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください</p>		<p>期末試験（80%）、学期中課題（20%）、出席点（+α）。</p>	

09年度以降	フィールドワーク論	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「江戸＝東京＝Tokyo」をテーマに、フィールドワークと呼ばれる学問的営みを、実践的に身につけることを目的としている。人類学者・社会学者・地理学者・建築学者などによって書かれたテキストを参考にして、実際に東京の街を歩き、東京という都市の成り立ちや人々の営みなどについて「解説」を行なう。</p> <p>受講者は複数のグループに分かれ、担当教員が指定した5～6つのコースを1～2つ選択し、5月から6月の週末と一緒に歩いてもらう（実費負担）。そして町歩きの成果について、各々のコースに関連する文献資料の収集・議論を踏まえた上で、学期末にグループ発表を行なう。</p> <p>本講義は、グループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備・街歩きの実習に積極的に参加できる者のみ履修を認める。</p> <p><u>なお、初回授業時にグループ分け等を行なうので、必ず出席すること。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明・グループ分け</li> <li>2. 各町歩きコースに関する講義・解説（5～6回） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 山の手と下町 <ul style="list-style-type: none"> <li>・城北地区（本郷、上野、浅草）</li> <li>・城南地区（赤坂、六本木）</li> </ul> </li> <li>(2) ウォーターフロント <ul style="list-style-type: none"> <li>・深川、佃、月島</li> </ul> </li> <li>(3) 「おばあちゃんの原宿」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・巣鴨</li> </ul> </li> <li>(4) 繁華街の過去・現在・未来 <ul style="list-style-type: none"> <li>・渋谷</li> </ul> </li> <li>(5) エスニック・タウン <ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿、新大久保</li> </ul> </li> <li>(6) ジブリ映画の舞台ニュータウン <ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩ニュータウン</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>3. 各グループの発表・議論(5～6回)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布する。		授業での発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス（50%）、学期末レポート（50%）。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	インターンシップ	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b>          在学中に自らの専攻、将来のキャリア形成に関連した就業体験を行うことで、働くことの意義や、実社会の現状の理解と自己の職業への適応力等を学習し、併せて、その経験を踏まえて自己の人生（キャリア）をどのように形成していくかを考える。</p> <p><b>講義概要</b>          この講義は、事前学習としての12回の講義と、夏休みに行う実習、9月に実施する3回（1日～2日）の事後学習としての報告会から構成されている。</p> <p>事前学習は、インターンシップの意義と目的を理解し、効果的に実習が受けられるようにする。          社会人としての常識、企業で仕事をするものの意義や遵守すべき事項等の一般論と、ツーリズム産業を構成する各業界の現状と業務内容や課題と将来像に関する講義を行う。</p> <p>報告会では、実施報告書、日誌に基づき、実習で得た様々な体験とそこから学んだことに関する発表と議論を行う。          報告会で得た各々の情報を全員が共有することにより各人のキャリア形成に役立てるようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. インターンシップの実際</li> <li>3. ツーリズム産業で働くということ</li> <li>4. 企業としての旅行業界</li> <li>5. 企業としての宿泊業界</li> <li>6. 企業としての航空業界</li> <li>7. 企業としてのエコツーリズム業界</li> <li>8. 公的機関としての政府観光局業務</li> <li>9. マナー講座</li> <li>10. インターンシップ実習前の心得①</li> <li>11. インターンシップ実習前の心得②</li> <li>12. インターンシップ実習前の心得③            夏季休暇中に各企業にて実習（2～4週間）</li> <li>13. 報告会</li> <li>14. 報告会</li> <li>15. 報告会とまとめ</li> </ol> <p>※4回～9回の講義は各業界の方々が担当します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。          参考文献：適宜指示する。</p>		<p>講義への参加度、実施報告書、日誌、発表会内容等を総合的に評価する。</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	トランスナショナル文化論	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「トランスナショナル文化論」の目的は、トランスナショナルな人の移動と文化の変容について、現代世界に見られるさまざまな問題(issues)を手掛かりに考えていくことです。この授業では特に「人の移動（移住労働者、移民、難民）」に焦点を当てます。</p> <p>授業の約1/3を映画『シリアの花嫁（2004年、イスラエル＝フランス＝ドイツ共作）』を題材に用い、残りはプリント等を使いますが、交流文化学科なので、英語の文献も取り入れていきたいと思います。</p> <p>大教室の授業ですが、ディスカッションを取り入れた双方向型で進めていきたいと思います。積極的な発言を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. トランスナショナル研究とは何か1</li> <li>2. トランスナショナル研究とは何か2</li> <li>3. イスラエル・パレスチナ紛争1</li> <li>4. イスラエル・パレスチナ紛争2</li> <li>5. 日本の移民政策と在留資格について1</li> <li>6. 日本の移民政策と在留資格について2</li> <li>7. 日本の移民政策と在留資格について3</li> <li>8. US-Mexico Border</li> <li>9. Immigration Issues in Europe</li> <li>10. Catch up</li> <li>11. 学生プロジェクト</li> <li>12. ポストコロニアリズムとディアスポラ1</li> <li>13. ポストコロニアリズムとディアスポラ2</li> <li>14. ポストコロニアリズムとディアスポラ3</li> <li>15. Catch up &amp; Wrap up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>映画『シリアの花嫁』（図書館 AV コーナーにあり） その他の教材は主に「講義支援システム」を通じて配布される。</p>		<p>「授業レポートシステム」の用紙を使って、隔週を目安に授業時提出してもらおう小レポートと、学期末に提出する長めのレポートの総計で決める。</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	トランスナショナル・メディア論	担当者	横村 出
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>メディアの個性が際立つのは、戦争や騒乱、クーデターといった世界を揺るがす現場である。そうした事象を世界のメディアはいかに伝えているのか。国際報道を現場の視点から読み解くことで、メディアによってつくられる印象が多岐にわたることを実感してもらいたい。</p> <p>また、世界の主要グローバルメディアとローカルメディアとの報道にはなぜ隔たりが生じるのか。メディアやジャーナリストは、どのような立場から、誰に向けて情報を発信するのか。それによって事実がどのように伝えられ、国際政治にどのような影響を与えるのか、といった点についても解説する。</p> <p>講義では、2001年の米同時多発テロ以降の戦争や政変を教材とする。まずロシア南部でのチェチェン戦争を取り上げ、欧米の主要メディアとロシア国内メディアの報道の違いに注目。その裏にある大国の政治的思惑やメディア規制が戦争報道に与える影響を具体的に検証したい。アフガン戦争、イラク戦争などについても言及しながら、国際世論を左右するグローバルメディアの功罪について理解を深めてもらいたい。</p> <p>講師は元朝日新聞のモスクワ・アフリカ特派員で、現フリージャーナリスト。講師自身が直接取材した国際報道の現場を取り上げる。質疑応答など積極的参加を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションー国際メディアとは何か</li> <li>2. テロと戦争を考えるーチェチェン戦争①</li> <li>3. 歴史に立脚する国際報道ーチェチェン戦争②</li> <li>4. 権力とメディアの関係ーチェチェン戦争③</li> <li>5. 「テロの時代」とメディアーチェチェン戦争④</li> <li>6. 授業内レポート実施予定</li> <li>7. 独裁政権とメディアー中央アジア</li> <li>8. 市民革命とは何かーグルジアとウクライナ</li> <li>9. 世界を取材するにはーアフガニスタン戦争</li> <li>10. 切り裂かれた国際世論ーイラク戦争</li> <li>11. 国益と国際報道ー中東パレスチナ情勢</li> <li>12. 紛争解決と国際報道ー南アフリカ</li> <li>13. インターネットと新たな紛争ーアラブの春</li> <li>14. 日本のメディアと戦争報道</li> <li>15. ジャーナリストと新しい時代のメディアの役割</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
横村出著『チェチェンの呪縛-紛争の淵源を読み解く』（岩波書店、2005年）		期末試験と授業内レポート、出席・質疑応答などの実績で総合評価する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	メディア・ライティング論	担当者	横村 出
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>メディアの記事の特質は、より多くの事実を、より正確に、より多くの人に伝えることである。そのためには、深い取材、情報の真偽の峻別、さらに実践に裏打ちされた確かな文章力が必要である。</p> <p>文章の難しさは、単に経験や訓練を積み上げれば上達するものではないということだ。記事を書くことの根底には、個人として、ジャーナリストとしての確たる「ものの見方」が不可欠である。</p> <p>ものの見方には、書き手の全人格が投影されると言っている。いかなる力にも影響されない独立心はあるか、その心は外へ向かって開かれているか、バランス感覚を失っていないか。この3つの心構えを理解し、記事を書くための基礎的な知識を習得してもらう。</p> <p>新聞業界の現状についても言及する。今後、新聞紙から電子ペーパーへ媒体が変貌しても、文字情報の重要性は変わらない。日々発信される記事の功罪を具体例を交えて検証し、情報を正しく理解するための力も養ってほしい。</p> <p>講義では、文章力を高めるために実践的に参加してもらう。各人がルポルタージュのテーマを決めて意欲的に取材し、授業で発表してもらいたい。独創的なものの見方を文章で表現し、より広く伝えることの喜びを分かち合いたいと思う。受講者は新聞必読、英語力も必要。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 新聞記事の読み方</li> <li>3. ジャーナリズムと新聞の役割</li> <li>4. ルポルタージュとは何か</li> <li>5. ルポルタージュの方法①ー取材</li> <li>6. ルポルタージュの方法②ーインタビュー</li> <li>7. ルポルタージュの方法③ー確認</li> <li>8. 課題ルポルタージュのテーマ選定</li> <li>9. どのように書くかー心構え</li> <li>10. どのように表現するかー表現の工夫</li> <li>11. どのように伝えるかー構成の仕方</li> <li>12. ルポルタージュの影響力ー国内編</li> <li>13. ルポルタージュの影響力ー国際編</li> <li>14. 課題ルポルタージュの中間発表</li> <li>15. デジタル時代の表現手法について</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
すぐれたルポルタージュ作品などを随時推薦する。		授業における課題ルポルタージュの成果（70%）と出席・質疑応答などの実績（30%）で評価する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	パフォーマンス研究	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>パフォーマンス研究 (Performance Studies) は、定義や体系化を拒否する反・学問だという人もいます。だから説明するのはちょっと難しいのですが、簡単にいえばパフォーマンスという概念を、演劇の上演や音楽の演奏といった芸能の分野に限定せず、文化、社会、歴史など、より広い領域に応用しようとする研究の姿勢を指します。</p> <p>例えばアイデンティティについて考えてみましょう。アイデンティティって生まれた時から各自が持っているものではないですよね？アイデンティティは、家庭から学校、職場などで、個人の外部からのさまざまな働きかけによって形成されます。こうした働きかけをパフォーマンスとして捉え、アイデンティティ構築の過程を分析することは、パフォーマンス研究の課題の一つです。もう少し拡大して考えれば社会は無数のパフォーマンスから構成されているといえます。</p> <p>2回目の授業で簡単なレポートを提出してもらいます。課題の内容は講義支援システムに掲載しておくので、1回目の授業に出ていない人も、教員名「高橋雄一郎」で検索して、必ず2回目の授業で提出してください。提出がない場合は、登録がなされていても、評価はFになります。</p>		<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：パフォーマンス研究の系譜</p> <p>第3回：パフォーマンス研究の系譜</p> <p>第4回：パフォーマンス研究の系譜</p> <p>第5回：演劇と文化人類学</p> <p>第6回：演劇と文化人類学</p> <p>第7回：演劇と文化人類学</p> <p>第8回：記憶と表象のパフォーマンス</p> <p>第9回：記憶と表象のパフォーマンス</p> <p>第10回：ジェンダーとパフォーマンス</p> <p>第11回：ジェンダーとパフォーマンス</p> <p>第12回：パフォーマンスとコミュニティ、民族、国家</p> <p>第13回：パフォーマンスとコミュニティ、民族、国家</p> <p>第14回：パフォーマンスと現代思想</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋雄一郎・鈴木健編『パフォーマンス研究』（世界思想社）、参考文献（英語文献も含む）は別途指示する。		学期中の小レポートと学期末レポートの合計。但し、2回目の授業で提出するレポートが未提出の者には単位を認定しない。	

09年度以降	開発文化論	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。</p> <p>近年、alternative（もう1つの）という言葉が時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。</p> <p>この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>(参考文献)</p> <p>W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か?』、北野収『国際協力の誕生』</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か</li> <li>3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』）</li> <li>4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話</li> <li>5. 教育・学び・文化</li> <li>6. ジェンダーとフェミニズム</li> <li>7. 宗教と社会開発 NGO</li> <li>8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略</li> <li>9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ</li> <li>10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定）</li> <li>11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛</li> <li>12. 巨大開発計画と地域住民・NGO</li> <li>13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定）</li> <li>14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から</li> <li>15. まとめ、試験対策</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO等で各自購入してください</p> <p>(参考文献) 上欄を参照。</p>		<p>期末試験（60%）、学期中課題（40%）、出席点（+α）。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	トランスナショナル社会学	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の<u>実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における諸現象を<u>考えられるようになる</u>こと、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 社会学とは</li> <li>3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは</li> <li>4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア</li> <li>5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路</li> <li>6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム</li> <li>7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容</li> <li>8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰</li> <li>9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史</li> <li>10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達</li> <li>11. 中間まとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>※ビデオ『となりの外国人』（予定）</li> </ul> </li> <li>12. アイデンティティについて</li> <li>13. 民際協力としての自治体国際協力</li> <li>14. 講義全体のまとめ</li> <li>15. 試験対策</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社</p>		<p>期末試験（90%）、学期中宿題（10%）、出席点（+α）。</p>	

09年度以降	食の文化論	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 食の文化を見る眼：文化とは何か</li> <li>3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定）</li> <li>4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに</li> <li>5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ）</li> <li>6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間</li> <li>7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み</li> <li>8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える</li> <li>9. コーヒーのグローバルヒストリー</li> <li>10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費</li> <li>11. シビック・アグリカルチャー①</li> <li>12. シビック・アグリカルチャー②</li> <li>13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消</li> <li>14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定）</li> <li>15. 講義のまとめと試験対策</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（90%）、学期中課題（10%）、出席点は+α。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：イギリス文化の現在</p> <p>イギリスの文化のいくつかの側面について、下記のテキストの中から7つの論文を選び、それを解説しながら、刻々と変化しつつあるイギリス文化の現状について理解を深める。</p> <p>イギリスは創造的産業を通してグローバルなマーケットの中で重要な位置を確保することを目指している。多文化が共存し、ダイナミックに変化している現在のイギリスの文化について理解を深めることで、「歴史と伝統の国」といった固定観念を見直すことを目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Contemporary British Cinema (1)</li> <li>2. Contemporary British Cinema (2)</li> <li>3. Contemporary British Fiction (1)</li> <li>4. Contemporary British Fiction (2)</li> <li>5. Contemporary British Television (1)</li> <li>6. Contemporary British Television (2)</li> <li>7. British Fashion (1)</li> <li>8. British Fashion (2)</li> <li>9. British sexual cultures (1)</li> <li>10. British sexual cultures (2)</li> <li>11. British newspapers today (1)</li> <li>12. British newspapers today (2)</li> <li>13. The struggle for ethno-religious equality in Britain (1)</li> <li>14. The struggle for ethno-religious equality in Britain (2)</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Higgins, Michael, et al. eds. <i>The Cambridge Companion to Modern British Culture</i> . Cambridge: CUP, 2010		学期末試験によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English.</p> <p>This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The First Americans</li> <li>2. Columbus and the Conquistadors</li> <li>3. The First British in America</li> <li>4. War and Independence</li> <li>5. Building a New Nation</li> <li>6. Civil War Splits the Country</li> <li>7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts</li> <li>8. European Immigrants Pour In</li> <li>9. Agriculture: Amber Waves of Grain</li> <li>10. Industrialists, Inventors, Tycoons</li> <li>11. Black Culture in America</li> <li>12. Imperial World Capital</li> <li>13. Postwar Good Life &amp; The Sunbelt</li> <li>14. America the Beautiful</li> <li>15. Final Test (Essay)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be handed out in class.		Attendance 30%, weekly short quizzes (multiple-choice) 30%, final test (essay) 40%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence.	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの美術 I)	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 17世紀から19世紀までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテキストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。</p> <p>講義概要： 毎回一人の画家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. プッサン</li> <li>3. ラトゥール</li> <li>4. ブーシェ</li> <li>5. ダヴィッド</li> <li>6. アングル</li> <li>7. ドラクロー</li> <li>8. クールベ</li> <li>9. ドーミエ</li> <li>10. ミレー</li> <li>11. マネ</li> <li>12. 印象派-1</li> <li>13. 印象派-2</li> <li>14. 印象派-3</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>		<p>コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート（美術館に行き書いてもらいます。）</p>	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの美術 II)	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 印象派以降、20世紀初頭までのフランス美術の展開を概観します。 代表的な作家と作品について知るとともに、印象派以降のさまざまな美術の動向と、それらが提起する問題について理解を深めることを目的とします。</p> <p>講義概要： 毎回一人の作家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 印象派-1</li> <li>3. 印象派-2</li> <li>4. セザンヌ</li> <li>5. スーラ</li> <li>6. ルドン</li> <li>7. ゴーギャン</li> <li>8. ゴッホ</li> <li>9. トゥールーズ=ロートレック</li> <li>10. ナビ派</li> <li>11. ジャポニスム</li> <li>12. アンリ・ルソー</li> <li>13. マティス</li> <li>14. エコール・ド・パリ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>		<p>コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート（美術館に行き書いてもらいます。）</p>	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語概論 a)	担当者	柿沼 義孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義はドイツ語を始めて学習する皆さんが、あるいはこれまで学習してきた皆さんが、文法の授業とは違った視点からドイツ語を観察し、体験してもらおうとするものです。</p> <p>子供は言語を学ぶとき、文字や文法から学ぶものではありません。そうではなく、まず音を聞いて、それを繰り返すことで学んでいきます。もともと言語は、音を通して互いに意思を伝達することからはじまったのです。</p> <p>そこで、春学期は、主としてドイツ語の音（音韻）とその発音（音声）に重点を置いて、日本語や英語、フランス語などと比べながら、その音の違いや特徴、ヨーロッパ言語の言語の歴史的関係などを概観しながら、ドイツ語そのものを改めて見つめてみようとするものです。</p> <p>皆さんには積極的に発音をしてもらい、互いに発音を聞き合いながら、そして意見交換をしながら、講義を進めていこうと考えています。皆さんの積極的に参加をする授業をしたいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語の世界</li> <li>2. ドイツ語の発音 (イントネーション)</li> <li>3. ドイツ語の発音 (アクセント)</li> <li>4. ドイツ語の音と文字 (母音)</li> <li>5. ドイツ語の音と文字 (母音)</li> <li>6. ドイツ語の音と文字 (子音)</li> <li>7. ドイツ語の音と文字 (子音)</li> <li>8. ドイツ語の発音 (日本語とドイツ語)</li> <li>9. ドイツ語の発音 (英語とドイツ語)</li> <li>10. ヨーロッパ中のドイツ語</li> <li>11. ラテン語、フランス語とドイツ語</li> <li>12. 英語、オランダ語とドイツ語</li> <li>13. ルターのドイツ語</li> <li>14. ドイツ語の歴史概観</li> <li>15. 復習とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. I.Albrecht, U. Hirschfeld, Y.Kakinuma: Einführung ind die deutsche Phonetik 獨協大学外国語教育研究所 2007年</li> <li>2. ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』朝日出版社 2004年</li> </ol>		毎回の質問シートなどの提出と確認テストおよび総合テストによる。	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語概論 b)	担当者	柿沼 義孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は少し専門的にドイツ語を見ていくことにしましょう。ドイツ語という言語の歴史的流れ、ドイツ語を勉強していて、わからない事柄に出会ったとき、疑問がわいたときに、これを自分で解決するにはどうしたらよいでしょうか。</p> <p>その手段には何があるのか。ドイツには方言がたくさんあるというが、それはなぜか、またどのように分布しているのか。ドイツ語を言語学的に研究する方法は、また何が研究対象となりうるのか。また、日本語との違いはどんな点に見られるのか。</p> <p>このように、ドイツ語をめぐる疑問、不思議はいろいろな分野に及んでいます。この学期では皆さんから積極的に疑問や質問を提示していただいて、皆でこれを考えながら、ドイツ語にもっと近づいていきたいと考えています。</p> <p>どうぞ積極的な参加をお願いします。楽しい講義にしましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語とはどういう言語か。</li> <li>2. ドイツ語の文字の成立と発展</li> <li>3. 疑問に答える (1) 辞書について</li> <li>4. 疑問に答える (2) 文法について</li> <li>5. 標準ドイツ語の成立と正書法</li> <li>6. ドイツ語の標準発音と方言</li> <li>7. ドイツ語の標準発音と方言</li> <li>8. 外国語とドイツ語</li> <li>9. ドイツ語の地名</li> <li>10. ドイツ語の人名</li> <li>11. 探求するところ (1) ドイツ語の調査・研究</li> <li>12. 探求するところ (2) ドイツ語の調査・研究</li> <li>13. 日本語とドイツ語の言語表現</li> <li>14. 日本語とドイツ語の言語表現</li> <li>15. 復習とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』朝日出版社 2004年</li> <li>2. 風間喜代蔵『言語学の誕生』岩波書店</li> </ol>		毎回の質問シートなどの提出と確認テストおよび総合テストによる。	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの音楽 I)	担当者	松橋 麻利
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今年度は19世紀のフランス音楽を中心にジャンル別に採り上げます。時代の美意識が音楽にどのように反映されているかを、フランスの周辺国の音楽とも比較しながら見ていき、“フランス的”とはどういうものかを感じ取れるようにしていきます。</p> <p>春学期は右記の3つのジャンルによって、できるだけ音楽を聴き、映像などを見ながら進めていきます。またとくに宗教音楽では実際に歌うことで音感覚を体験しようと考えていますので、履修者は積極的に歌うことが望まれます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 宗教音楽 (1)</li> <li>3. 宗教音楽 (2)</li> <li>4. 宗教音楽 (3)</li> <li>5. 宗教音楽 (4)</li> <li>6. 歌曲 (1)</li> <li>7. 歌曲 (2)</li> <li>8. 歌曲 (3)</li> <li>9. 歌曲 (4)</li> <li>10. 歌曲 (5)</li> <li>11. 室内楽 (1)</li> <li>12. 室内楽 (2)</li> <li>13. 室内楽 (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：プリントを配布。 参考文献：授業時に紹介。</p>		試験 (80%) と出席 (20%)	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの音楽 II)	担当者	松橋 麻利
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き、19世紀のフランス音楽を中心にジャンル別に採り上げます。時代の美意識が音楽にどのように反映されているかを、フランスの周辺国の音楽とも比較しながら見ていき、“フランス的”とはどういうものかを感じ取れるようにしていきます。</p> <p>できるだけ音楽を聴き、映像などを見ながら、また楽譜も例に取りながら進めていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 管弦楽曲 (1)</li> <li>3. 管弦楽曲 (2)</li> <li>4. 管弦楽曲 (3)</li> <li>5. 管弦楽曲 (4)</li> <li>6. ピアノ曲 (1)</li> <li>7. ピアノ曲 (2)</li> <li>8. ピアノ曲 (3)</li> <li>9. ピアノ曲 (4)</li> <li>10. ピアノ曲 (5)</li> <li>11. 劇場音楽 (1)</li> <li>12. 劇場音楽 (2)</li> <li>13. 劇場音楽 (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：プリントを配布。 参考文献：授業時に紹介。</p>		試験 (80%) と出席 (20%)	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏文学・思想概論 a)	担当者	矢羽々 崇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期では、「文学」って何?という問題から授業を始めます。</p> <p>「読書感想文」を書かされて辟易(へキエキ)しませんでしたか? 「国語」の入試で小説などの解釈の問題に正解が1つしかないことに疑問を感じませんでしたか? 「文学」はなぜ「ブン学」で、「音楽」のように「ブン楽」ではないのでしょうか?</p> <p>こんな疑問や不信感(?)を出発点にしながら、最初に「文学」(そして文学研究)という問題を考えます。</p> <p>また、メルヒェン・昔話という「単純な語りの形式」を出発点にして、文学のさまざまな面白さ、問題点を考えていきます。また、詩・劇・散文という主要なジャンルについても、考えてみましょう。</p> <p>また、文学と思想(哲学・宗教など)のつながりも、必要に応じて考えていきます。</p>		<p>詳しくは第1回授業で説明します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 文学はじめの一步(グリム・メルヒェン) 1</li> <li>3. 同2</li> <li>4. 同3</li> <li>5. 「文学」とは何か?</li> <li>6. 文学の基本ジャンル</li> <li>7. 文学研究の意味 読めばわかるのになぜ?</li> <li>8. 文学と思想</li> <li>9. 作者とは? 作者の死?</li> <li>10. 読者とは? 「読む」だけ?</li> <li>11. 本とは? 本はなくなる?</li> <li>12. 翻訳の諸問題</li> <li>13. 明治期の翻訳</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考文献例: 手塚富雄『ドイツ文学案内』岩波文庫 生野幸吉・檜山哲彦編『ドイツ名詩選』岩波文庫 テキストはコピーで、文献は授業でその都度紹介します。</p>		<p>平常点 20% (4回以上の欠席は評価の対象としません)、6月中旬に提出する小レポート 20%および最終回に実施する試験 60%によります。</p>	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏文学・思想概論 b)	担当者	矢羽々 崇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期では、主にドイツ文学と思想のアウトライン(歴史)を知ること为目标とします。</p> <p>皆さんはドイツ語圏の文学を知っていますか? 18世紀後半に書かれたゲーテの『若きウェルテルの悩み』を出発点にして、現代のシュリンク『朗読者』までのドイツ文学の歩みを辿っていきます。また、文学と思想(哲学・宗教など)が、それぞれの時代でどう関連したのかを考えます。</p> <p>授業では、扱う作品を知らなくてもわかるように話しますが、作品を読んでから聞くと、作品および講義内容をよりよく理解でき、より興味を持つことができます。扱う予定の作品をできるかぎり読むようにしてください。</p>		<p>詳しくは第1回の授業で説明します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 近代的な恋愛のはじまり(ゲーテ『ウェルテル』)</li> <li>3. 感情の実験詩、シラー「歓喜に寄せて」</li> <li>4. 苦悩する近代人 ゲーテ『ファウスト』</li> <li>5. 1770年 ベートーベン、ヘーゲル、ヘルダーリン</li> <li>6. ロマン派というアヴァンギャルド(前衛派)</li> <li>7. シャミッソー『影をなくした男』を読む</li> <li>8. 文学が文学だった頃(19世紀リアリズムの時代)(ビュヒナー『ヴォイツェク』)</li> <li>9. 19世紀後半からの児童少年文学(『もじゃもじゃペーター』『ハイディ』など)</li> <li>10. イタリアへのあこがれ(T・マン『ヴェニスに死す』)</li> <li>11. 新しい世界との遭遇(20世紀前半)(カフカ『変身』)</li> <li>12. 明るく楽しくナチス批判?!(ケストナー『エーミールと探偵たち』)</li> <li>13. 過去の克服? 現代ドイツ文学(シュリンク『朗読者』)</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考文献例: H・シュラッファー『ドイツ文学の短い歴史』和泉, 安川訳, 同学社, 2008年 テキストはコピーを配布し、文献はその都度紹介します。</p>		<p>平常点 20% (4回以上の欠席は評価の対象としません)、12月はじめに提出の小レポート 20%および最終回に実施する試験 60%によります。</p>	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏芸術・文化概論 a)	担当者	山本 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン主義時代までを扱う。春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について</li> <li>2 ルネサンス・宗教改革期</li> <li>3 同上</li> <li>4 同上 三十年戦争・バロック期</li> <li>6 同上</li> <li>7 同上</li> <li>8 啓蒙主義時代</li> <li>9 同上</li> <li>10 同上</li> <li>11 ロマン主義時代</li> <li>12 同上</li> <li>13 同上</li> <li>14 グリムのメルヒェン</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		講義で扱ったテーマに関するレポートおよび授業への参加度により評価。詳細は授業中に指示する。	

09年度以降	ヨーロッパの文化 ドイツ語圏芸術・文化概論 b	担当者	山本 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 秋学期は、19世紀後半から現代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について</li> <li>2 19世紀後半</li> <li>3 同上</li> <li>4 世紀転換期</li> <li>5 同上</li> <li>6 モダニズム</li> <li>7 同上</li> <li>8 ヴァイマル文化</li> <li>9 同上</li> <li>10 同上</li> <li>11 ナチズムと芸術</li> <li>12 同上</li> <li>13 現代へ：新たな芸術の展開</li> <li>14 同上</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		講義で扱ったテーマに関するレポートおよび授業への参加度により評価。詳細は授業中に指示する。	

09年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。</p> <p>授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましよう。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましよう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。</p> <p>国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。</p> <p>この授業では、そのノウハウを伝えていきます。国際問題を料理してみましよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際情報ツール「ニュースの見方」 グローバル社会を見る眼</li> <li>2 国際社会の誕生——大航海時代のスタート</li> <li>3 国際システム</li> <li>4 同上</li> <li>5 国際社会のメカニズム——利害調整</li> <li>6 同上</li> <li>7 政治過程——恋愛・結婚・ファミリー 権威——権力＋正統性</li> <li>8 まとめ</li> <li>9 米英欧の世界観</li> <li>10 イギリスの思想家</li> <li>11 ヨーロッパの思想家</li> <li>12 国際社会の比較</li> <li>13 同上</li> <li>14 同上</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は、登録確認の小テスト、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。</p> <p>授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましよう。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましよう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。</p> <p>国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。</p> <p>この授業では、そのノウハウを伝えていきます。国際問題を料理してみましよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際情報ツール「ニュースの見方」 グローバル社会を見る眼</li> <li>2 国際社会の誕生——大航海時代のスタート</li> <li>3 国際システム</li> <li>4 同上</li> <li>5 国際社会のメカニズム——利害調整</li> <li>6 同上</li> <li>7 政治過程——恋愛・結婚・ファミリー 権威——権力＋正統性</li> <li>8 まとめ</li> <li>9 米英欧の世界観</li> <li>10 イギリスの思想家</li> <li>11 ヨーロッパの思想家</li> <li>12 国際社会の比較</li> <li>13 同上</li> <li>14 同上</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は、登録確認の小テスト、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度以降	グローバル社会論 b	担当者	佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目標は、一年時に学習した国際関係論の概要から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。</p> <p>本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組である主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体例として取り上げ、理論的アプローチを適用することによってグローバル社会の実態像の把握をめざす。</p>		<p>第1回 ガイダンス、グローバル化する国際社会</p> <p>第2回 国際政治の理論とは何か</p> <p>第3回 国際政治の分析枠組み①国際関係</p> <p>第4回 国際政治の分析枠組み②国家</p> <p>第5回 国際政治の分析枠組み③個人</p> <p>第6回 国際政治アプローチ①現実主義</p> <p>第7回 国際政治アプローチ②理想主義</p> <p>第8回 国際政治アプローチ③コンストラクティズム</p> <p>第9回 (前半まとめ)</p> <p>第10回 安全保障①伝統的安全保障</p> <p>第11回 安全保障②人間の安全保障</p> <p>第12回 国際経済</p> <p>第13回 地球環境</p> <p>第14回 貧困と開発</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の授業で参考文献を紹介する。		出席状況と学期末試験による評価とする。	

09年度以降	グローバル社会論 b	担当者	佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目標は、一年時に学習した国際関係論の概要から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。</p> <p>本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組である主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体例として取り上げ、理論的アプローチを適用することによってグローバル社会の実態像の把握をめざす。</p>		<p>第1回 ガイダンス、グローバル化する国際社会</p> <p>第2回 国際政治の理論とは何か</p> <p>第3回 国際政治の分析枠組み①国際関係</p> <p>第4回 国際政治の分析枠組み②国家</p> <p>第5回 国際政治の分析枠組み③個人</p> <p>第6回 国際政治アプローチ①現実主義</p> <p>第7回 国際政治アプローチ②理想主義</p> <p>第8回 国際政治アプローチ③コンストラクティズム</p> <p>第9回 (前半まとめ)</p> <p>第10回 安全保障①伝統的安全保障</p> <p>第11回 安全保障②人間の安全保障</p> <p>第12回 国際経済</p> <p>第13回 地球環境</p> <p>第14回 貧困と開発</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の授業で参考文献を紹介する。		出席状況と学期末試験による評価とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	国際協力論	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ほぼ毎回の授業で、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみます。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半は国際協力に関連した2つのトピックを取り上げます。</p> <p>第1のトピックは、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、オーストラリアに注目して、国際協力の視点から取り上げます。</p> <p>第2のトピックは、現代の海賊（パイレーツ）問題です。インド洋や東南アジアに出没するパイレーツに注目します。世界の商船やクルーズ船に脅威を与えるパイレーツ問題への対応が、国際協力で大きな課題となっています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際情報ツール「ニュースの見方」</li> <li>2 オーストラリアは、どんな国</li> </ol> <p>&lt;国際協力の表とウラ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 国境を越える</li> <li>4 国境を越える</li> <li>5 国内の紛争</li> <li>6 国内の紛争</li> <li>7 地域紛争への協力</li> <li>8 ニッチ外交</li> <li>9 まとめ</li> </ol> <p>&lt;現代の海賊問題を考えてみよう&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10 現代のパイレーツ問題</li> <li>11 同上</li> <li>12 同上</li> <li>13 国際協力——パイレーツ対策</li> <li>14 国際協力——パイレーツ対策</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』（中公新書）など		評価方法は、登録確認の小テスト、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度以降	国際開発論	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、開発途上国における貧困およびそれを克服するための開発の実態を明らかにし、さらにグローバル化時代において開発途上国が直面する課題と可能性について検討します。</p> <p>講義は3つのシリーズから構成されます。第1の「開発途上国の貧困」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉えます。</p> <p>第2の「開発途上国の開発とその実態」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、経済成長重視政策の問題点やグローバリゼーションが開発途上国に与えている影響に関して検討し、さらに近年目覚まし中国の経済発展の実態について、その弊害を含めて探ります。</p> <p>第3の「グローバル化時代の国際開発」では、グローバル化時代における開発の新たなトレンドを探りつつ、新たな開発の方向性やビジネスの可能性について考えます。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：開発と国際関係</li> <li>&lt;開発途上国の貧困&gt;</li> <li>2. 貧困の現状／歴史的要因（1）：植民地支配の影響</li> <li>3. 歴史的要因（2）：アジアにおける植民統治</li> <li>4. 歴史的要因（3）：日本による植民地支配の功罪</li> <li>5. 政治的要因（1）：民主主義と開発</li> <li>6. 政治的要因（2）：開発独裁体制</li> <li>7. 社会・文化的要因：インド・カースト制度</li> <li>&lt;開発途上国の開発とその実態&gt;</li> <li>8. 経済開発の方法とパターン</li> <li>9. 高度経済成長の要因と弊害</li> <li>10. 開発途上国にとってのグローバリゼーション</li> <li>11. 中国経済発展の光と影（1） 発展の勢い</li> <li>12. 中国経済発展の光と影（2） 弊害と矛盾</li> <li>&lt;グローバル化時代の国際開発&gt;</li> <li>13. 新産業開拓の展開（1）：ツーリズム関連産業</li> <li>14. 新産業開拓の展開（2）：イスラム関連産業</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	国際交流論	担当者	小松 諄悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、日本の文化交流の中核を担う国際交流基金の活動を中心に、文化交流について論じます。</p> <p>特に、国際交流基金活動の三本柱である、芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流の各分野における、国際文化交流事業の実践を検証します。</p> <p>分野ごとの文化交流事業の実践を学習しながら、文化交流政策、文化交流の目的についても、考察して行きます。</p> <p>国際交流基金を取り巻く環境の変化が、文化交流にいかに関与しているかについても、検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要（日本の国際交流と国際交流基金）</li> <li>2. 国際交流基金の歴史</li> <li>3. 国際文化交流政策の変遷</li> <li>4. 芸術交流</li> <li>5. 芸術交流の実践</li> <li>6. 芸術交流の実践（2）</li> <li>7. 日本語教育</li> <li>8. 日本語教育の実践</li> <li>9. 日本研究</li> <li>10. 日本研究の実践</li> <li>11. 知的交流</li> <li>12. 知的交流の実践</li> <li>13. 知的交流の実践（2）</li> <li>14. 国際交流基金環境と国際文化交流の実践</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
必要に応じ、授業でレジュメを配布		期末レポート 80%、授業への参加度合・学期中の小レポート 20%	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化、社会的ニーズの多様化、途上諸国の多極化といった現象が進む現代社会において、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も多様化し、国家、国際機関、企業などとともに非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、国際協力、とりわけ開発援助における NGO の機能と役割に注目しながら、現代の国際社会が抱える開発協力の諸問題について考えます。</p> <p>本講義は4つのシリーズから構成されます。第1の「開発援助の仕組みと展開」では、政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。</p> <p>第2の「NGO の役割と課題」では NGO やボランティア組織のあり方について歴史的背景を踏まえながら捉え、さらに開発と NGO との関係について具体的なケースを取り上げながら考えます。</p> <p>第3の「日本の NGO 活動」では、日本における国際協力 NGO に焦点を当て、歴史、実態、課題について検討します。最後に、「国際協力の新たなテーマと NGO」として、近年注目されている国際協力の幾つかの側面に着目しながら、新たな開発援助の実態と課題について検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO ＜開発援助の仕組みと展開＞</li> <li>2. ODA の仕組みとトレンド</li> <li>3. 日本の ODA の特徴</li> <li>4. 日本の援助実績と問題点</li> <li>5. 開発援助の課題と矛盾</li> <li>＜NGO の役割と課題＞</li> <li>6. 国際援助の新たなテーマと NGO</li> <li>7. NGO の定義と歴史的経緯</li> <li>8. NGO の機能と途上国での役割</li> <li>9. 開発と NGO：ケーススタディ(1)バングラデシュ</li> <li>10. 開発と NGO：ケーススタディ(2)マレーシア</li> <li>＜日本の NGO 活動＞</li> <li>11. 市民活動の歴史と国際協力 NGO</li> <li>12. 国際協力 NGO の実態と課題</li> <li>＜国際協力の新たなテーマとその実態＞</li> <li>13. マイクロクレジットという方法</li> <li>14. ジェンダー問題と開発</li> <li>15. 中国による「ODA」の特徴と問題点</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

09年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義の問題意識】</b> 日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。</p> <p>それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。日豪両国が戦争をしたことすら知られていない。本講義では、オーストラリアがどのような歴史を歩んできたのかを概観し、同国に対する理解を深める一助となることを願うものである。</p> <p><b>【講義概要】</b> 春学期の講義では、イギリスによるオーストラリア植民地の形成（18世紀後半）から、第二次世界大戦終結までのオーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国）やアメリカ、アジア地域との関係性のなかで概観していく。</p> <p>本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。</p>		<p>第1回：イントロダクションーオーストラリアを学ぶ意義 第2回：植民地オーストラリア①ー植民地の誕生と発展 第3回：植民地オーストラリア② ー大英帝国とオーストラリア 第4回：ゴールドラッシュと白豪主義政策 第5回：多文化主義社会オーストラリア 第6回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ー「二つのナショナリズム」 第7回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ー第一次世界大戦とアンザック精神 第8回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ー第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第9回：第二次世界大戦ーアジア国際関係と黄禍論 第10回：2つの捕虜収容所①ーアンボン捕虜収容所 第11回：2つの捕虜収容所②ーカウラ捕虜収容所 第12回：対日講和問題とオーストラリア 第13回：オーストラリアにおける先住民問題① ー1970年代まで 第14回：オーストラリアにおける先住民問題② ーラッド首相の「謝罪演説」まで 第15回：総括と質疑応答</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：永野隆行他編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。	

09年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義の問題意識】</b> 日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。</p> <p>それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。日豪両国が戦争をしたことすら知られていない。本講義では、戦後のアジアにおいてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、受講者には21世紀の国際関係において日本が学ぶべき何かを考えてもらいたい。</p> <p><b>【講義概要】</b> 秋学期の講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリアの歴史を概観していく。</p> <p>春学期同様、本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。</p>		<p>第1回：イントロダクション ーオーストラリア外交を見る眼 第2回：チフリー労働党政権の外交 ー新たな国際関係構築の模索 第3回：アンザス同盟の実現 第4回：冷戦下のアジア① ー中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争 第一次インドシナ危機 第5回：冷戦下のアジア② ーイギリスのアジアの戦争「対決政策」 第6回：冷戦下のアジア③ ーアメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第7回：ポストベトナムのオーストラリア外交 第8回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ーオーストラリアの「アジア化」 第9回：ミドルパワー外交①PKO、多国間主義 第10回：ミドルパワー外交②移民、難民、援助 第11回：ミドルパワー外交③核軍縮 第12回：ミドルパワー外交④国際テロとの戦い 第13回：日豪関係の歴史的展開ー敵国から同盟国へ 第14回：ギラード労働党政権の政治と外交 第15回：21世紀オーストラリア外交の行方&amp;質疑応答</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済 I)	担当者	尾玉 剛士
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。</p> <p>初めにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。</p> <p>政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス政治史①</li> <li>2. フランス政治史②</li> <li>3. フランス政治史③</li> <li>4. 現代フランスの政治システムの概要</li> <li>5. 議会</li> <li>6. 官僚制</li> <li>7. 政党システム①</li> <li>8. 政党システム②</li> <li>9. 政党システム③</li> <li>10. 選挙</li> <li>11. 政治的リーダーシップ</li> <li>12. 政策決定過程</li> <li>13. 社会運動</li> <li>14. 中央-地方関係</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		小テストと期末テスト。	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済 II)	担当者	尾玉 剛士
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では年金や医療保険などのフランスの社会保障制度の仕組みと最近の改革の動向を日本と比較しながら学習します。</p> <p>2006年にフランスはスウェーデンを追い越し世界最大の福祉国家になりました（対GDP比）。公的年金や医療保険などの社会保障制度の改革は政治家にとっても有権者にとっても最大の関心事の一つです。いまや社会保障は政治・経済に関する議論の中心に位置していると言っても過言ではありません。</p> <p>日本も人口の高齢化・政府の財政難・雇用の不安定化などの問題に直面し、社会保障改革が喫緊の課題になっています。</p> <p>そこでこの講義ではまず社会保障とは何を目的とした制度なのかを明らかにします。次に年金や医療保険などの個々の社会保障制度の基本的な仕組みと、日仏における改革動向について解説します。</p> <p>講義と試験を通じて、学期の終わりには年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 社会保障とは何か？</li> <li>3. フランスの社会保障システム</li> <li>4. フランスにおける経済・人口・社会の動向</li> <li>5-6. 年金制度</li> <li>7-8. 医療保険制度</li> <li>9. 高齢者介護</li> <li>10-11. 雇用政策（失業・非正規雇用・若者の就職）</li> <li>12-13. 公的扶助（生活保護）</li> <li>14. 家族政策（児童手当・保育サービス）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		中間テストと期末テスト。	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済 I)	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代のフランス社会について体系的に理解するうえで、フランスの政治システムや経済の特徴について学ぶことも有益だと言えるでしょう。本講義は、フランスの政治経済についての基礎的な知識の習得を目的とします。具体的には、フランスの政治経済の変遷を歴史的に辿るとともに、現在の政治制度や経済の状況について学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 第二帝政以前(1)</li> <li>3. 第二帝政以前(2)</li> <li>4. 第三共和制からヴィシー政府(1)</li> <li>5. 第三共和制からヴィシー政府(2)</li> <li>6. 第四共和制(1)</li> <li>7. 第四共和制(2)</li> <li>8. 第五共和制の成立</li> <li>9. 第五共和制下における政権交代(1)</li> <li>10. 第五共和制下における政権交代(2)</li> <li>11. 第五共和制の政治制度(1)</li> <li>12. 第五共和制の政治制度(2)</li> <li>13. 現在のフランス経済(1)</li> <li>14. 現在のフランス経済(2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業の際に指示します。		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済 II)	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきました。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を担ってきました。本講義では、第2次世界大戦以前から今日のEUに至るまでの過程において、ヨーロッパ統合構想にフランスがどのように関わってきたかを学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 戦前の統合構想(1)</li> <li>3. 戦前の統合構想(2)</li> <li>4. 戦後復興と経済近代化</li> <li>5. シューマン・プランと ECSC</li> <li>6. EEC の設立に向けて</li> <li>7. ドゴールとヨーロッパ統合(1)</li> <li>8. ドゴールとヨーロッパ統合(2)</li> <li>9. 1970年代のフランスと統合</li> <li>10. ミッテラン時代の統合政策(1)</li> <li>11. ミッテラン時代の統合政策(2)</li> <li>12. シラク時代の統合政策(1)</li> <li>13. シラク時代の統合政策(2)</li> <li>14. サルコジ政権期以降今日まで</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献：吉田徹編『ヨーロッパ統合とフランス』法律文化社、2012年		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (ドイツ語圏歴史概論 a)	担当者	古田 善文
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。</p> <p>講義概要： 春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦までを主要な対象時期に設定し、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配布するほか、DVDやビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。</p>		<p>第1回 &lt;はじめに&gt;ドイツ語圏の歴史理解にむけて 第2回 「記憶」をめぐる論争(1)ドイツ 第3回 「記憶」をめぐる論争(2)オーストリア/日本 第4回 ビデオ上映と解説、映画『ショア』関連 第5回 ハプスブルク帝国史(1)マリア・テレジア以前 第6回 ハプスブルク帝国史(2)マリア・テレジアの時代 第7回 19世紀史(1)ナポレオンとドイツ・オーストリア 第8回 19世紀史(2)1848年革命 第9回 19世紀史(3)若きヒトラーと世紀末ウィーン 第10回 現代の開幕(1)ドイツ統一と世界帝国への夢 第11回 現代の開幕(2)第一次世界大戦（原因） 第12回 映像で見る第一次世界大戦 第13回 現代の開幕(3)第一次世界大戦（経過と帰結） 第14回 &lt;補論&gt;戦時下の民衆生活（ドイツ、オーストリア） 第15回 春学期のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 増谷英樹/古田善文著『図説オーストリアの歴史』河出書房新社、2011		学期末に実施する筆記試験および出席状況に基づいて決定する。	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (ドイツ語圏歴史概論 b)	担当者	古田 善文
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 講義の目標は、ドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の現代史（第一次世界大戦以降）を受講生にわかりやすく解説することである。受講生は20世紀および21世紀にこの地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。</p> <p>講義概要： 秋学期は、(1)ドイツ革命とワイマール共和国、(2)ヒトラーの独裁体制、(3)第二次世界大戦、(4)戦後ドイツの歩み、を主要なテーマとして、ドイツ語圏の激動の現代史を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配布するほか、DVD やビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。</p>		<p>第1回 革命の時代、ドイツ革命とオーストリア革命 第2回 ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 第3回 ファシズムの誕生(1)イタリアを中心とする欧州ファシズム運動の比較検討 第4回 ファシズムの誕生(2)ナチス運動の誕生 第5回 &lt;補論&gt;ファシズム論の変遷(全体主義論、権威主義体制論、近代化論) 第6回 危機の30年代 (1)民主政治システムの崩壊 第7回 危機の30年代(2)戦間期の国際政治 第8回 ビデオ上映と解説、「ナチズム」関連 第9回 受容と抵抗(1)ナチスによる民衆統轄 第10回 受容と抵抗(2)反ナチス抵抗運動の諸相 第11回 第二次世界大戦(1)大戦の経過と帰結 第12回 第二次世界大戦(2)ホロコーストと戦後補償 第13回 占領改革と戦後復興、ドイツ占領から東西ドイツの成立まで 第14回 ドイツ統一とEU新時代 第15回 秋学期のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 増谷英樹/古田善文著『図説オーストリアの歴史』河出書房新社、2011		学期末に実施する筆記試験および出席状況に基づいて決定する。	

**2013 年度**

**第二外国語（英語プラス1言語）**

**【全学共通授業科目】**

**シラバス**

09年度以降	ドイツ語 (Ia 総合1)	担当者	S. ヴィーク
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。</p>		<p>(ネイティブ教員の授業は、週に2回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語学習への導入</li> <li>2. Lektion 1</li> <li>3. Lektion 2</li> <li>4. Lektion 3</li> <li>5. Lektion 4</li> <li>6. Lektion 5</li> <li>7. Lektion 6</li> <li>8. Lektion 7</li> <li>9. Lektion 8</li> <li>10. Lektion 9 (1)</li> <li>11. Lektion 9 (2)</li> <li>12. Lektion 10 (1)</li> <li>13. Lektion 10 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
三宅恭子+Michaela Koch:『CD付き 入門ドイツ語プラクティッシュ (praktisch.de)』(三修社) 2010年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (Ib 総合1)	担当者	S. ヴィーク
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。</p>		<p>(ネイティブ教員の授業は、週に2回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と秋学期への導入</li> <li>2. Lektion 1</li> <li>3. Lektion 2</li> <li>4. Lektion 3</li> <li>5. Lektion 4</li> <li>6. Lektion 5 (1)</li> <li>7. Lektion 5 (2)</li> <li>8. Lektion 6 (1)</li> <li>9. Lektion 6 (2)</li> <li>10. Lektion 7 (1)</li> <li>11. Lektion 7 (2)</li> <li>12. Lektion 8 (1)</li> <li>13. Lektion 8 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
板山+塩路+本河+吉満:『CD&ワークブック付き ベーシック版 自己表現のためのドイツ語 (Grundkurs Farbkasten Deutsch)』(三修社) 2010年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (Ia 総合2)	担当者	S. ヴィーク
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことながら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。</p>		<p>(ネイティブ教員の授業は、週に2回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語学習への導入</li> <li>2. Lektion 1</li> <li>3. Lektion 2</li> <li>4. Lektion 3</li> <li>5. Lektion 4</li> <li>6. Lektion 5</li> <li>7. Lektion 6</li> <li>8. Lektion 7</li> <li>9. Lektion 8</li> <li>10. Lektion 9 (1)</li> <li>11. Lektion 9 (2)</li> <li>12. Lektion 10 (1)</li> <li>13. Lektion 10 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
三宅恭子+Michaela Koch:『CD付き 入門ドイツ語プラクティッシュ (praktisch.de)』(三修社) 2010年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (Ib 総合2)	担当者	S. ヴィーク
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことながら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。</p>		<p>(ネイティブ教員の授業は、週に2回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と秋学期への導入</li> <li>2. Lektion 1</li> <li>3. Lektion 2</li> <li>4. Lektion 3</li> <li>5. Lektion 4</li> <li>6. Lektion 5 (1)</li> <li>7. Lektion 5 (2)</li> <li>8. Lektion 6 (1)</li> <li>9. Lektion 6 (2)</li> <li>10. Lektion 7 (1)</li> <li>11. Lektion 7 (2)</li> <li>12. Lektion 8 (1)</li> <li>13. Lektion 8 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
板山+塩路+本河+吉満:『CD&ワークブック付き ベーシック版 自己表現のためのドイツ語 (Grundkurs Farbkasten Deutsch)』(三修社) 2010年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (Ia 総合3)	担当者	辻本 勝好
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的</p> <p>1) 目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツ語の基本的能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。</p> <p>使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属のDVDによって、映像を通してドイツ語/ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属のCDは、リスニングや発音の練習にも役立ちます。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。</p>		<p>（日本人教員の授業は、週1回）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語学習への導入</li> <li>2. Lektion 1 (1)</li> <li>3. Lektion 1 (2)</li> <li>4. Lektion 2 (1)</li> <li>5. Lektion 2 (2)</li> <li>6. Lektion 3 (1)</li> <li>7. Lektion 3 (2)</li> <li>8. Lektion 4 (1)</li> <li>9. Lektion 4 (2)</li> <li>10. Lektion 5 (1)</li> <li>11. Lektion 5 (2)</li> <li>12. Lektion 6 (1)</li> <li>13. Lektion 6 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
清野 智昭：『ドイツ語の時間<ビデオ教材 恋するベルリン>DVD 付き (Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』(朝日出版社) 2007年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (Ib 総合3)	担当者	辻本 勝好
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的</p> <p>1) 目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツ語の基本的能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。</p> <p>使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属のDVDによって、映像を通してドイツ語/ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属のCDは、リスニングや発音の練習にも役立ちます。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。</p>		<p>（日本人教員の授業は、週1回）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と新学期への導入</li> <li>2. Lektion 7 (1)</li> <li>3. Lektion 7 (2)</li> <li>4. Lektion 8 (1)</li> <li>5. Lektion 8 (2)</li> <li>6. Lektion 9 (1)</li> <li>7. Lektion 9 (2)</li> <li>8. Lektion 10 (1)</li> <li>9. Lektion 10 (2)</li> <li>10. Lektion 11 (1)</li> <li>11. Lektion 11 (2)</li> <li>12. Lektion 12 (1)</li> <li>13. Lektion 12 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
清野 智昭：『ドイツ語の時間<ビデオ教材 恋するベルリン>DVD 付き (Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』(朝日出版社) 2007年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (IIa 総合1)	担当者	H. J. トロル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってください。</p>		<p>(ネイティブ教員の授業は、週に2回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と春学期への導入</li> <li>2. Lektion 1</li> <li>3. Lektion 2</li> <li>4. Lektion 3</li> <li>5. Lektion 4</li> <li>6. Lektion 5</li> <li>7. Lektion 6</li> <li>8. Lektion 7</li> <li>9. Lektion 8</li> <li>10. Lektion 9 (1)</li> <li>11. Lektion 9 (2)</li> <li>12. Lektion 10 (1)</li> <li>13. Lektion 10 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
三宅恭子+Michaela Koch:『CD付き 入門ドイツ語プラクティッシュ (praktisch.de)』(三修社) 2010年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (IIb 総合1)	担当者	H. J. トロル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってください。</p>		<p>(ネイティブ教員の授業は、週に2回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と秋学期への導入</li> <li>2. Lektion 1</li> <li>3. Lektion 2</li> <li>4. Lektion 3</li> <li>5. Lektion 4</li> <li>6. Lektion 5 (1)</li> <li>7. Lektion 5 (2)</li> <li>8. Lektion 6 (1)</li> <li>9. Lektion 6 (2)</li> <li>10. Lektion 7 (1)</li> <li>11. Lektion 7 (2)</li> <li>12. Lektion 8 (1)</li> <li>13. Lektion 8 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
板山+塩路+本河+吉満:『CD&ワークブック付き ベーシック版 自己表現のためのドイツ語 (Grundkurs Farbkasten Deutsch)』(三修社) 2010年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (IIa 総合2)	担当者	H. J. トロル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってください。</p>		<p>(ネイティブ教員の授業は、週に2回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と春学期への導入</li> <li>2. Lektion 1</li> <li>3. Lektion 2</li> <li>4. Lektion 3</li> <li>5. Lektion 4</li> <li>6. Lektion 5</li> <li>7. Lektion 6</li> <li>8. Lektion 7</li> <li>9. Lektion 8</li> <li>10. Lektion 9 (1)</li> <li>11. Lektion 9 (2)</li> <li>12. Lektion 10 (1)</li> <li>13. Lektion 10 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
三宅恭子+Michaela Koch:『CD付き 入門ドイツ語プラクティッシュ (praktisch.de)』(三修社) 2010年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (IIb 総合2)	担当者	H. J. トロル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p><b>講義概要</b> ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってください。</p>		<p>(ネイティブ教員の授業は、週に2回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と秋学期への導入</li> <li>2. Lektion 1</li> <li>3. Lektion 2</li> <li>4. Lektion 3</li> <li>5. Lektion 4</li> <li>6. Lektion 5 (1)</li> <li>7. Lektion 5 (2)</li> <li>8. Lektion 6 (1)</li> <li>9. Lektion 6 (2)</li> <li>10. Lektion 7 (1)</li> <li>11. Lektion 7 (2)</li> <li>12. Lektion 8 (1)</li> <li>13. Lektion 8 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
板山+塩路+本河+吉満:『CD&ワークブック付き ベーシック版 自己表現のためのドイツ語 (Grundkurs Farbkasten Deutsch)』(三修社) 2010年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (IIa 総合3)	担当者	井村 行子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>1年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。</p> <p>使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるように考えられています。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語/ドイツ文化の世界を広げていきましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の確認と春学期への導入</li> <li>2. Lektion 1 (1)</li> <li>3. Lektion 1 (2)</li> <li>4. Lektion 2 (1)</li> <li>5. Lektion 2 (2)</li> <li>6. Lektion 3 (1)</li> <li>7. Lektion 3 (2)</li> <li>8. Lektion 4 (1)</li> <li>9. Lektion 4 (2)</li> <li>10. Lektion 5 (1)</li> <li>11. Lektion 5 (2)</li> <li>12. Lektion 6 (1)</li> <li>13. Lektion 6 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
清野+須藤+會田：『ドイツ語の時間—読解編<読めると楽しい!>(Meine Deutschstunde - Lesen mit Strategie)』(朝日出版社)2011年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (IIb 総合3)	担当者	井村 行子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。</p> <p>2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>1年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。</p> <p>使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテキストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるように考えられています。</p> <p>授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語/ドイツ文化の世界を広げていきましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の確認と新学期への導入</li> <li>2. Lektion 7 (1)</li> <li>3. Lektion 7 (2)</li> <li>4. Lektion 8 (1)</li> <li>5. Lektion 8 (2)</li> <li>6. Lektion 9 (1)</li> <li>7. Lektion 9 (2)</li> <li>8. Lektion 10 (1)</li> <li>9. Lektion 10 (2)</li> <li>10. Lektion 11 (1)</li> <li>11. Lektion 11 (2)</li> <li>12. Lektion 12 (1)</li> <li>13. Lektion 12 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
清野+須藤+會田：『ドイツ語の時間—読解編<読めると楽しい!>(Meine Deutschstunde - Lesen mit Strategie)』(朝日出版社)2011年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (IIIa 応用)	担当者	E. ビリック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch) および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材 &lt;Treffpunkt Berlin&gt; を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際の練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と春学期への導入</li> <li>2. Abschnitt 7 (1)</li> <li>3. Abschnitt 7 (2)</li> <li>4. Abschnitt 8 (1)</li> <li>5. Abschnitt 8 (2)</li> <li>6. Abschnitt 9 (1)</li> <li>7. Abschnitt 9 (2)</li> <li>8. Abschnitt 10 (1)</li> <li>9. Abschnitt 10 (2)</li> <li>10. Abschnitt 11 (1)</li> <li>11. Abschnitt 11 (2)</li> <li>12. Abschnitt 12 (1)</li> <li>13. Abschnitt 12 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。プリントを配布します。		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (IIIb 応用)	担当者	E. ビリック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch) および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材 &lt;Treffpunkt Berlin&gt; を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際の練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習事項の復習と春学期への導入</li> <li>2. Abschnitt 13 (1)</li> <li>3. Abschnitt 13 (2)</li> <li>4. Abschnitt 14 (1)</li> <li>5. Abschnitt 14 (2)</li> <li>6. Abschnitt 15 (1)</li> <li>7. Abschnitt 15 (2)</li> <li>8. Abschnitt 16 (1)</li> <li>9. Abschnitt 16 (2)</li> <li>10. Abschnitt 17 (1)</li> <li>11. Abschnitt 17 (2)</li> <li>12. Abschnitt 18 (1)</li> <li>13. Abschnitt 18 (2)</li> <li>14. ポイントの総復習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Treffpunkt Berlin 2 プリントを配布します。		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	フランス語 (Ia 総合1)	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ia 総合1) は日本人講師、(Ia 総合2) はフランス人講師が担当する。</p> <p>この(Ia 総合1)では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、1a</li> <li>2. 1a, 1b</li> <li>3. 2a, 2b</li> <li>4. 2a, 2b</li> <li>5. 3a, 3b</li> <li>6. 3a, 3b</li> <li>7. révision bilan</li> <li>8. 4a, 4b</li> <li>9. 4a, 4b</li> <li>10. 5a, 5b</li> <li>11. 5a, 5b</li> <li>12. 6a, 6b</li> <li>13. 6a, 6b</li> <li>14. 7a</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (Ib 総合1)	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ib 総合1) は日本人講師、(Ib 総合2) はフランス人講師が担当する。</p> <p>この(Ib 総合1)では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 7b</li> <li>3. 8a, 8b</li> <li>4. 8a, 8b</li> <li>5. révision bilan</li> <li>6. 9a, 9b</li> <li>7. 9a, 9b</li> <li>8. 10a, 10b</li> <li>9. 10a, 10b</li> <li>10. révision bilan</li> <li>11. 11a, 11b</li> <li>12. 11a, 11b</li> <li>13. 12a, 12b</li> <li>14. 12a, 12b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (Ia 総合2)	担当者	B. レウルス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。</p> <p>フランス語 (Ia 総合1：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、1a</li> <li>2. 1a, 1b</li> <li>3. 2a, 2b</li> <li>4. 2a, 2b</li> <li>5. 3a, 3b</li> <li>6. 3a, 3b</li> <li>7. révision bilan</li> <li>8. 4a, 4b</li> <li>9. 4a, 4b</li> <li>10. 5a, 5b</li> <li>11. 5a, 5b</li> <li>12. 6a, 6b</li> <li>13. 6a, 6b</li> <li>14. 7a</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教科書：<i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。</p>		<p>授業時に説明する。</p>	

09年度以降	フランス語 (Ib 総合2)	担当者	B. レウルス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。</p> <p>フランス語 (Ib 総合1：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 7b</li> <li>3. 8a, 8b</li> <li>4. 8a, 8b</li> <li>5. révision bilan</li> <li>6. 9a, 9b</li> <li>7. 9a, 9b</li> <li>8. 10a, 10b</li> <li>9. 10a, 10b</li> <li>10. révision bilan</li> <li>11. 11a, 11b</li> <li>12. 11a, 11b</li> <li>13. 12a, 12b</li> <li>14. 12a, 12b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教科書：<i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。</p>		<p>授業時に説明する。</p>	

09年度以降	フランス語 (Ia 応用)	担当者	富田 正二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実用フランス語検定4級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 演習(1)</li> <li>3. 演習(2)</li> <li>4. 演習(3)</li> <li>5. 演習(4)</li> <li>6. 演習(5)</li> <li>7. 演習(6)</li> <li>8. 演習(7)</li> <li>9. 演習(8)</li> <li>10. 演習(9)</li> <li>11. 演習(10)</li> <li>12. 演習(11)</li> <li>13. 演習(12)</li> <li>14. 演習(13)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (Ib 応用)	担当者	富田 正二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実用フランス語検定4級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 演習(1)</li> <li>3. 演習(2)</li> <li>4. 演習(3)</li> <li>5. 演習(4)</li> <li>6. 演習(5)</li> <li>7. 演習(6)</li> <li>8. 演習(7)</li> <li>9. 演習(8)</li> <li>10. 演習(9)</li> <li>11. 演習(10)</li> <li>12. 演習(11)</li> <li>13. 演習(12)</li> <li>14. 演習(13)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (IIa 総合1)	担当者	富塚 真理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次のフランス語 (Ia 総合1) に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIa 総合1) は日本人講師、(IIa 総合2) はフランス人講師が担当する。</p> <p>この (IIa 総合1) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 13a, 13b</li> <li>3. 13a, 13b</li> <li>4. 14a, 14b</li> <li>5. 14a, 14b</li> <li>6. 15a, 15b</li> <li>7. 15a, 15b</li> <li>8. révision bilan</li> <li>9. 16a, 16b</li> <li>10. 16a, 16b</li> <li>11. 16a, 16b</li> <li>12. 17a, 17b</li> <li>13. 17a, 17b</li> <li>14. 17a, 17b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (IIb 総合1)	担当者	富塚 真理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次のフランス語 (Ib 総合1) に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIb 総合1) は日本人講師、(IIb 総合2) はフランス人講師が担当する。</p> <p>この (IIb 総合1) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 18a, 18b</li> <li>3. 18a, 18b</li> <li>4. 18a, 18b</li> <li>5. 19a, 19b</li> <li>6. 19a, 19b, révision bilan</li> <li>7. 20a, 20b</li> <li>8. 20a, 20b</li> <li>9. 20a, 20b</li> <li>10. 21a, 21b</li> <li>11. 21a, 21b, révision bilan</li> <li>12. 22a, 22b</li> <li>13. 22a, 22b</li> <li>14. 22a, 22b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (IIa 総合2)	担当者	B. ファイフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次のフランス語 (Ia 総合1) に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIa 総合1) は日本人講師、(IIa 総合2) はフランス人講師が担当する。</p> <p>この (IIa 総合2) では決まった言い回しと会話が中心となる。</p> <p>右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 13a, 13b</li> <li>3. 13a, 13b</li> <li>4. 14a, 14b</li> <li>5. 14a, 14b</li> <li>6. 15a, 15b</li> <li>7. 15a, 15b</li> <li>8. révision bilan</li> <li>9. 16a, 16b</li> <li>10. 16a, 16b</li> <li>11. 16a, 16b</li> <li>12. 17a, 17b</li> <li>13. 17a, 17b</li> <li>14. 17a, 17b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (IIb 総合2)	担当者	B. ファイフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次のフランス語 (Ib 総合1) に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(IIb 総合1) は日本人講師、(IIb 総合2) はフランス人講師が担当する。</p> <p>この (IIa 総合2) では決まった言い回しと会話が中心となる。</p> <p>右におおよその進捗を示すが、実際の進捗は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. révision bilan</li> <li>2. 18a, 18b</li> <li>3. 18a, 18b</li> <li>4. 18a, 18b</li> <li>5. 19a, 19b</li> <li>6. 19a, 19b, révision bilan</li> <li>7. 20a, 20b</li> <li>8. 20a, 20b</li> <li>9. 20a, 20b</li> <li>10. 21a, 21b</li> <li>11. 21a, 21b, révision bilan</li> <li>12. 22a, 22b</li> <li>13. 22a, 22b</li> <li>14. 22a, 22b</li> <li>15. révision bilan</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書: <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (IIa 応用)	担当者	竹内 久雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実用フランス語検定3級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 演習(1)</li> <li>3. 演習(2)</li> <li>4. 演習(3)</li> <li>5. 演習(4)</li> <li>6. 演習(5)</li> <li>7. 演習(6)</li> <li>8. 演習(7)</li> <li>9. 演習(8)</li> <li>10. 演習(9)</li> <li>11. 演習(10)</li> <li>12. 演習(11)</li> <li>13. 演習(12)</li> <li>14. 演習(13)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (IIb 応用)	担当者	竹内 久雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実用フランス語検定3級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 演習(1)</li> <li>3. 演習(2)</li> <li>4. 演習(3)</li> <li>5. 演習(4)</li> <li>6. 演習(5)</li> <li>7. 演習(6)</li> <li>8. 演習(7)</li> <li>9. 演習(8)</li> <li>10. 演習(9)</li> <li>11. 演習(10)</li> <li>12. 演習(11)</li> <li>13. 演習(12)</li> <li>14. 演習(13)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (IIIa 応用)	担当者	Ch. ペリセロ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実用フランス語検定2級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 演習(1)</li> <li>3. 演習(2)</li> <li>4. 演習(3)</li> <li>5. 演習(4)</li> <li>6. 演習(5)</li> <li>7. 演習(6)</li> <li>8. 演習(7)</li> <li>9. 演習(8)</li> <li>10. 演習(9)</li> <li>11. 演習(10)</li> <li>12. 演習(11)</li> <li>13. 演習(12)</li> <li>14. 演習(13)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (IIIb 応用)	担当者	Ch. ペリセロ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実用フランス語検定2級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 演習(1)</li> <li>3. 演習(2)</li> <li>4. 演習(3)</li> <li>5. 演習(4)</li> <li>6. 演習(5)</li> <li>7. 演習(6)</li> <li>8. 演習(7)</li> <li>9. 演習(8)</li> <li>10. 演習(9)</li> <li>11. 演習(10)</li> <li>12. 演習(11)</li> <li>13. 演習(12)</li> <li>14. 演習(13)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	スペイン語 (I a 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 (I) は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、それにより簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを旨とする。</p> <p>(総合1, 2) では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語を習得することを目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 (I a 総合2) とのペア授業である。</p> <p>この授業ではとくに予習が不可欠である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>① 発音・アクセント</li> <li>② 発音・アクセント</li> <li>③ 名詞の性・数、冠詞</li> <li>④ 名詞の性・数、冠詞</li> <li>⑤ 形容詞</li> <li>⑥ ser, estar 動詞の用法</li> <li>⑦ ser, estar 動詞の用法</li> <li>⑧ 動詞の活用---直説法現在規則活用 (-ar 動詞)</li> <li>⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用 (-er, -ir 動詞)</li> <li>⑩ 代名詞の用法</li> <li>⑪ gustar 型動詞の用法</li> <li>⑫ 動詞の活用---直説法現在不規則活用</li> <li>⑬ 動詞の活用---直説法現在不規則活用</li> <li>⑭ 動詞の活用---直説法現在不規則活用</li> <li>⑮ 今学期のまとめ</li> </ol> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><b>テキスト：柳沼孝一郎 他 著“Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</b></p> <p>また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらおう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語 (I b 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 (I b 総合1) は、スペイン語 (I a 総合1, 2) の継続の授業である。</p> <p>直説法未来形・過去未来形までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し聞き取る能力の一層の向上を旨とする。直説法までの初級スペイン語文法の学習はすべて完了する。</p> <p>(総合1, 2) では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現を習得し、日常生活に支障がない程度に書くこと、話すこと、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 (I b 総合2) とのペア授業である。</p> <p>この授業ではとくに予習が不可欠である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>① 春学期の復習</li> <li>② 動詞の活用---再帰動詞</li> <li>③ 再帰動詞と諸用法</li> <li>④ 動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形</li> <li>⑤ 動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形</li> <li>⑥ 比較表現</li> <li>⑦ 動詞の活用---直説法点過去規則活用</li> <li>⑧ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用</li> <li>⑨ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用</li> <li>⑩ 動詞の活用---直説法線過去</li> <li>⑪ 点過去と線過去の違い</li> <li>⑫ 受け身表現</li> <li>⑬ 動詞の活用---未来形・過去未来形</li> <li>⑭ 動詞の活用---未来形・過去未来形</li> <li>⑮ 今学期のまとめ</li> </ol> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><b>テキスト：柳沼孝一郎 他 著“Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</b></p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ia 総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語（Ia 総合2）はスペイン語（Ia 総合1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。</p> <p>受講生は週にスペイン語（Ia 総合1）と（Ia 総合2）のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語（Ia 総合1）に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著“Plaza Mayor I（青い表紙）”朝日出版社</p> <p>また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらおう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ib 総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語（Ia 総合2）の継続の授業である。</p> <p>スペイン語（Ib 総合2）はスペイン語（Ib 総合1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。</p> <p>受講生は週にスペイン語（Ib 総合1）と（Ib 総合2）のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語（Ib 総合1）に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著“Plaza Mayor I（青い表紙）”朝日出版社</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ia 会話）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語（I）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>（会話）では、スペイン語（Ia 総合1,2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ia 総合1,2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語（Ia 総合1）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ib 会話）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語（Ia 会話）の継続の授業である。</p> <p>直説法未来・過去未来までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。直説法の初級スペイン語文法の学習を終える。</p> <p>（会話）では、スペイン語（Ib 総合1,2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ib 総合1,2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語（Ib 総合1）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。</p> <p>（会話1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語（Ⅱa 会話1）の継続の授業である。</p> <p>スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。</p> <p>（会話1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。</p> <p>（会話2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語（Ⅱa 会話2）の継続の授業である。</p> <p>スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。</p> <p>（会話2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ⅱa 総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎力をもとに、それを発展、実用化する授業である。</p> <p>（総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で未習の接続法を中心に扱う。また、命令表現を新たに学ぶとともに、点過去・線過去・現在完了・大過去、未来・過去未来、関係詞、前置詞などの重要文法事項については重点的に復習し、より高度な表現力を身につける。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>なお、文法の復習の際に1年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。</p> <p>この授業ではとくに予習が不可欠である。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p> <p>左記の講義目的、講義概要を参照。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：パロマ・トレナド 他 著 <b>“Plaza Mayor II ソフト版（オレンジ色の表紙）”</b> 朝日出版社</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ⅱb 総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語（Ⅱa 総合）の継続の授業である。</p> <p>この授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、その他の重要な文法事項についての復習も行い、接続法現在までの初級文法の学習を完了する。より高度な表現方法を学び、表現力をさらに向上させることも重視する。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>なお、文法の復習の際に1年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。この授業ではとくに予習が不可欠である。</p> <p>この授業ではとくに予習が不可欠である。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p> <p>左記の講義目的、講義概要を参照。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：パロマ・トレナド 他 著 <b>“Plaza Mayor II ソフト版（オレンジ色の表紙）”</b> 朝日出版社</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語 (Ⅲa 応用)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 (Ⅲ) の授業では、スペイン語 (Ⅱ) までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>なお、接続法過去、条件文など、スペイン語 (Ⅱ) までに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。</p> <p>この授業ではとくに予習が不可欠である。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p> <p>左記の講義目的、講義概要を参照。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)。復習の際に使用することがあるので、スペイン語 (Ⅱa, b 総合) で使用した教科書も持参のこと。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語 (Ⅲb 応用)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 (Ⅲa 応用) の継続の授業である。</p> <p>この授業では、スペイン語 (Ⅱ) までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>この授業ではとくに予習が不可欠である。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。</p> <p>左記の講義目的、講義概要を参照。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	中国語 (I a 講読・文法)	担当者	阿邊 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法(ピンイン)、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習し、平易な文章の読解ができるようにします。</p> <p>【講義概要】 ①語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」「読む」にやや重点を置きます。 ②表音文字のない中国語ではローマ字を借用して表音しています。特別な発音規則が作られていますのでそれを先ず習得してください。 ③さらに、基本文型を学習し、それをを用いた作文練習、易しい文章の読解を学びます。 ④将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。</p> <p>注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。</p>		<p>第1回 中国語概論 授業の進め方、履修上の注意、発音①、基本母音発音 第2回 第1課 我饿了 発音② ○声調 ○単母音 ○複母音 ○子音① 第3回 第2課 真好吃! 発音③ ○子音② ○鼻母音 ○主母音の省略 ○声調の変化 第4回 第3課 多少钱? 発音④ ○数詞 ○儿化 ○声調の組合わせ ○挨拶表現 第5～6回 第4課 我们都是学生。 ○“是”構文 ○副詞“也”“都” ○閲読 ○練習問題 第7～8回 第5課 你去哪儿? ○主語+動詞+目的語 ○名乗り方 ○疑問詞 ○選択疑問文 第9回 中間試験・補充説明 第10～11回 第6課 你今年多大了 ○“的”の用法 ○年月日、曜日 第12～13回 第7課 这个很好吃。 ○形容詞述語文 ○比較を表す文 ○反復疑問文 ○指示代 名詞 第14～15回 第8課 你家在哪儿? ○有(存在) ○在(所在) ○時刻と時間量</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「中国語への道」 内田慶市 他(金星堂)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)(20%)、中間・期末試験の結果(80%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語 (I b 講読・文法)	担当者	阿邊 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】春学期に続き以下のことを目標にして進めます。 ・春学期に続き中国語の基礎力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。</p> <p>【講義概要】 ①春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ②総合的表現力を増やすために先ず基本的文型を学び、その文型を用いた作文練習をしていきます。</p> <p>注意 第16課はシラバスでは学習範囲には入りませんが、進度によっては学ぶことができる場合もありますし、2年次にその内容を学習します。</p>		<p>第1～2回 春学期の復習 第9課 我们在哪儿吃饭? ○前置詞 ○経験を表す構文 ○数量と語順 ○方位詞 第3～4回 第10課 好一点儿了吗? ○主述述語文 ○“了”の用法 ○願望の助動詞 ○「少し」の表現 第5～6回 第11課 我在看中国地图。 ○「～している」の表現 ○連動文 ○結果補語 第7回 中間試験 補充説明 第8～9回 第12課 你会开车吗? ○「～できる」の表現 ○必要・義務を表す助動詞 ○“是”～“的”の構文 ○“就”と“才”の用法 第10～11回 第13課 谁教你们汉语? ○様態補語 ○二重目的語を取る文 ○受身表現 ○動詞の重ね型 第12～13回 第14課 我把她送到车站。 ○存現文 ○方向補語 ○可能補語 ○“把”の構文 第14～15回 第15課 你一定能背得很好。 ○使役表現 ○反語の言い方 ○“又”と“再”</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「中国語への道」 内田慶市 他(金星堂)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)(20%)、中間・期末試験の結果(80%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ia 会話 1）	担当者	張 亜紅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国語 Ia 会話1と2はともに張亜紅先生が担当します。</p> <p><b>【講義目標】</b> この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話を主に学習します。</p> <p><b>【講義概要】</b> 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」(会話)に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。</p> <p>注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。</p>		<p>第1回 中国語概説、授業の進め方、履修上の注意、基本母音発音 第2回 発音 有気音と無気音 複合母音 第3回 発音 声調の変化、声調の組み合わせ練習 第4回 第1課 人称代名詞、「～です」の文 反復疑問文 第5回 第2課 動詞述語文 文末の助詞“吧” 連体修飾語① 第6回 第3課 形容詞述語文 副詞“也”と“都”の用法 第7回 第4課 代名詞(指示・場所) 所在を表す“在” 第8回 1～4課中間試験 文法説明不足個所補充 第9回 第5課 助詞“了”の用法① 前置詞“在”の用法 第10回 第6課 “有”の用法 数詞①・量詞 方位詞 第11回 第7課 助詞“了”の用法② 時間量 起点の前置詞 第12回 第8課 名詞述語文 数詞② 数の尋ね方 第13回 説明不足個所補充 会話練習 第14回 第9課 時刻の表現 願望の助動詞 連動文 第15回 春学期のまとめ</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。 途中で学事歴で休みが入った場合は1・2で順序が前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「たのしいの中国語 愉快的汉语」大久保明男他(金星堂)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)(20%)、中間・期末試験の結果(80%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ib 会話 1）	担当者	張 亜紅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目標】</b>春学期に続き以下のことを目標にして進めます。 ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。</p> <p><b>【講義概要】</b> ・春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。</p>		<p>第1回 春学期の復習 秋学期履修上の注意 第2回 第10課 経験・持続を表す助詞 選択疑問文 第3回 第11課 様態補語 可能の助動詞 動量詞 第4回 第12課 比較の表現 義務の助動詞 方向補語 第5回 第13課 連体修飾語③ 後置の程度のを表す副詞 第6回 第14課 動作の進行表現 呼応“是～的”構文 第7回 説明不足個所補充 会話練習 第8回 11課～14課 中間試験 説明不足個所補充 第9回 第15課 兼語文 二重目的語を取る動詞 前置詞“跟” 第10回 第16課 前置詞“到”と“对” 第11回 第17課 存現文 形容詞の重ね型 第12回 第18課 使役文 受身文 後置の前置詞“把”構文 第13回 補充課文 手紙文 第14回 説明不足個所補充 会話練習” 第15回 補充教材 第16回 秋学期まとめ</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。 途中で学事歴で休みが入った場合は1・2で順序が前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「中国語の基礎づくり」楊凱榮(白帝社)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)(20%)、中間・期末試験の結果(80%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ia 会話 2）	担当者	張 亜紅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話ができるように学習します。</p> <p>【講義概要】 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」（会話）に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかりと覚えて語彙力の増強に努めてください。</p> <p>注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。</p>		<p>第1回 第1課 発音（1） ○声調 ○単母音 ○複母音 ○鼻母音 ○子音 第2～3回 第2課 発音（2） ○半3声 ○声調の変化 ○軽声 ○儿化 ○声調の組み合わせ 第4～6回 第3課 她喝啤酒。 ○主語+動詞+目的語 ○禁止表現 ○数詞 ○量詞 ○有（所有） ○在（所在） ○反復疑問文 ○場所代名詞 第7～8回 第4課 她很漂亮！ ○形容詞述語文 ○数を尋ねる ○疑問詞 ○動詞の重型 第9回 中間試験・補充説明 第10～11回 第5課 我是学生。 ○“是”構文 ○副詞“也”“都” ○連体修飾語 ○指示代名詞 ○年齢 ○時刻 ○年月日、曜日 第12～13回 第6課 我喝了五瓶啤酒。 ○完了の動態助詞 ○語気助詞の“了” ○時間量 第14～15回 第7課 他正在看电视呢。 ○経験を表す文 ○動作の進行を表す文 ○状態の持続を表す ○付随状況を表す文</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「中国語 基本文法と会話」 石井宏明（駿河台出版社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20%）、中間・期末試験の結果（80%）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ib 会話2）	担当者	張 亜紅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます。 ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。</p> <p>【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。</p>		<p>第1～3回 春学期の復習 第8課 我想吃中国菜。 ○願望などの助動詞 ○義務・当然の助動詞 第4～5回 第9課 她会拉小提琴。 ○可能の助動詞 第6～8回 第10課 我去动物园看熊猫。 ○連動文 ○“有”の構文 ○使役の表現 ○禁止表現 ○様態補語 第9回 中間試験 第8～10課の補充説明 第10～11回 第11課 我买回来。 ○簡単な方向補語 ○結果補語 ○可能補語 第12～13回 第12課 我还你钱。 ○二重目的語 ○比較の表現 ○介詞表現① 第14～15回 第13課 我在图书馆看书。 ○介詞表現② ○存現文</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「中国語 基本文法と会話」 石井宏明（駿河台出版社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20%）、中間・期末試験の結果（80%）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ⅱa 講読・文法）	担当者	阿邊 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 1年次で学習した語彙、文型、文法事項を復習しながらさらにややレベルアップした中国語を学び、総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 このレベルの学習を終われば中国語検定3級に合格する力を付けたことになります。</p> <p>【講義概要】 ①語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②1年次の教材より量的に少し長めの文章を、文法の復習と更なる文法事項を学習しながら、読解する力を付けていきます。 ③各課の練習問題をしっかり予習復習することで、キーポイントで学習した文法事項の定着を図ってください。 ④複文を作る様々な呼応を学習し、中国語の表現力を増していきます。 ⑤できれば会話の時間と共に学習し、将来就職してからさらに延長できるような、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。</p> <p>注意 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。</p>		<p>第1回 1年次中国語の復習・確認、履修上の注意 第2回 第1課 「首都北京」文法ポイント 連体修飾、呼応“又～又…”、二重目的語をとる動詞 第3回 第1課 復習読み、ミニ会話、練習と練習問題 第4回 第2課 「民族和气候」文法ポイント 呼応“因为～所以…”，“即使～也…” 第5回 第2課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第6回 第3課 「人口」文法ポイント 呼応“因为～所以…”，“由于～所以…”，慣用句“有的～”，“把”構文 第7回 第3課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第8回 中間試験 説明不足箇所補充 第9回 第4課 「方言」文法ポイント 呼応“以～为…”，“好像～一样…”，“会”の用法 第10回 第4課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第11回 第5課 「泰山」文法ポイント 慣用句“对～来说”，呼応“不但～而且…”、“除了～以外，也(还/再)…” 第12回 第5課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第13回 第6課 「节假日」文法ポイント 呼応“一边～一边…”，“一～就…”，“越来越…” 第14回 第6課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第15回 春学期のまとめ</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「楽しく学ぼうやさしい中国語」講読編 王武雲他 (郁文堂)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)(20%)、中間・期末試験の結果(80%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ⅱb 講読・文法）	担当者	阿邊 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】春学期に続き以下のことを目標にして進めます。 ・春学期に続き中国語の基礎プラス応用力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし読解力を増強することを目標とします。 ・中国語の総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。</p> <p>【講義概要】 ①春学期に引き続き「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②複文を作る様々な呼応をさらに学習し、中国語の表現力を増していきます。</p>		<p>第1回 春学期の復習 第2回 第7課 「飲食文化」文法ポイント 呼応“只要～就…”，“着”の用法、助動詞“要”の用法 第3回 第7課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第4回 第8課 「药膳」文法ポイント 複合方向補語、呼応“既～又…”，“动词+成～” 第5回 第8課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第6回 第9課 「体育健身运动」文法ポイント 呼応“无论～都…”，慣用：動詞の後の“于” 第7回 第9課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第8回 中間試験 説明不足箇所補充 第9回 第10課 「动物」文法ポイント 呼応“要是～就…”，“也许～也许…”，“好”の用法 第10回 第10課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第11回 第11課 「旗袍」文法ポイント 連用修飾語、呼応“连～也…”，“虽然～但是…” 第12回 第11課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第13回 第12課 「大学」文法ポイント “为了～”，“一直～”，“就”の用法 第14回 第12課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第15回 補充説明 秋学期のまとめ</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「楽しく学ぼうやさしい中国語」講読編 王武雲他 (郁文堂)		平常の授業への取り組み(予習・復習含む)(20%)、中間・期末試験の結果(80%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ⅱa 会話1）	担当者	星野 芳欣
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目標】 中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。この中国語Ⅱabを習得して中国語検定3級に合格する力を付けたことになります。それを目指して毎日学習してください。</p> <p>【講義概要】 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまうのが上達の最上方法です。 引き続き、教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。</p> <p>注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。</p>		<p>第1回 1年時の学習内容の復習、確認 履修上の留意点の説明 第1課 「打电话」 文法ポイント</p> <p>第2回 第1課 復習読み練習とドリル</p> <p>第3回 第2課 「接风」 文法ポイント</p> <p>第4回 第2課 復習読み練習とドリル</p> <p>第5回 第3課 「介绍」 文法ポイント</p> <p>第6回 第3課 復習読み練習とドリル</p> <p>第7回 中間試験 第4課 「交通工具」 文法ポイント</p> <p>第8回 第4課 復習読み練習とドリル</p> <p>第9回 第5課 「换钱」 文法ポイント</p> <p>第10回 第5課 復習読み練習とドリル</p> <p>第11回 第6課 「吃饭」 文法ポイント</p> <p>第12回 第6課 復習読み練習とドリル</p> <p>第13回 第7課 「生病」 文法ポイント</p> <p>第14回 第7課 復習読み練習とドリル</p> <p>第15回 春学期のまとめ</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「表現する中国語Ⅱ」楊凱榮（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20%）、中間・期末試験の結果（80%）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ⅱb 会話1）	担当者	星野 芳欣
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。</p> <p>【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。</p> <p>注意 第15課はシラバスでは学習範囲には入りませんが、進度によっては学ぶことができる場合もあります。</p>		<p>第1回 春学期復習 第8課 「交通工具」2 文法ポイント</p> <p>第2回 第8課 復習読み練習とドリル</p> <p>第3回 第9課 「网上聊天儿」 文法ポイント</p> <p>第4回 第9課 復習読み練習とドリル</p> <p>第5回 第10課 「网上聊天儿」2 文法ポイント</p> <p>第6回 第10課 復習読み練習とドリル</p> <p>第7回 中間試験 第11課 「买东西」 文法ポイント</p> <p>第8回 第11課 復習読み練習とドリル</p> <p>第9回 第12課 「爱好」</p> <p>第10回 第12課 復習読み練習とドリル</p> <p>第11回 第13課 「坐火车」 文法ポイント ドリル</p> <p>第12回 第13課 復習読み練習とドリル</p> <p>第13回 第14課 「观光」</p> <p>第14回 第14課 復習読み練習とドリル</p> <p>第15回 秋学期のまとめ</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「表現する中国語Ⅱ」楊凱榮（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20%）、中間・期末試験の結果（80%）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ⅱa 会話2）	担当者	蔡 敏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国語Ⅱa(会話1)と中国語Ⅱa(会話2)は2つの科目として、異なる教材、異なる教員が担当します。</p> <p><b>【講義目標】</b> 中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。会話1と共に会話力習得に重点を置きます。</p> <p><b>【講義概要】</b> 語学力の4分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまうのが上達の最上方法です。 引き続き、教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。</p> <p>注意 1) 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。</p>		<p>第1回 1年時の学習内容の復習、確認 履修上の留意点の説明 第2回 第1課 紹介 呼応“是～的”“不但～而且…” 第3回 第1課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第4回 第2課 最初の授業 第5回 第2課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第6回 第3課 おしゃべり 第7回 第3課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第8回 1課～3課 中間試験 説明不足箇所補充 第9回 第4課 値切りの交渉 第10回 第4課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第11回 第5課 タクシーに乗る 第12回 第5課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第13回 第6課 バスに乗る 第14回 第6課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第15回 春学期のまとめ</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
「中国語Ⅱ 中級会話コース」 顧明耀（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20%）、中間・期末試験の結果（80%）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ⅱb 会話2）	担当者	蔡 敏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目標】</b>春学期に続き以下のことを目標にして進めます。 ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。</p> <p><b>【講義概要】</b> ・春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。</p>		<p>第1回 春学期復習 第7課 小包を出す 第2回 第7課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第3回 第8課 レストランで 第4回 第8課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第5回 第9課 診察を受ける 第6回 第9課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第7回 第10課 お呼ばれ 第8回 第10課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第9回 中間試験 説明不足箇所補充 第10回 第11課 旅行 第11回 第11課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第12回 第12課 春節で見たこと 第13回 第12課 復習読み練習と表現練習、練習問題 第14回 第13課 送別 第15回 第13課 復習読み練習と表現練習、練習問題</p> <p>履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
中国語Ⅱ 中級会話コース」 顧明耀（白帝社）		平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（20%）、中間・期末試験の結果（80%）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ⅲ a 応用）	担当者	阿邊 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義概要】 中国語は漢字を使用しているため、中には見ればすぐに内容が理解できるものもある。ところが聞くとなると思うように聞き取れず、内容の理解に苦しむことが多い。これは留学を経験した学生の多くが語ることである。先ず聞いて分かるように、目は極力使わない授業を行う。</p> <p>【講義目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の語彙を増やして読解力を増強する。</li> <li>・発音面では課文の音声を事前に配布するのでそれをよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った読み方ができるようにする。</li> <li>・教材に出てきた現代中国語における様々な構文について文法事項を説明また復習する。</li> </ul>		<p>第1回 中国語基礎の確認、学習方と授業に臨む注意事項を説明 第2回 第1課「山本」 音声を漢字に変換、課文を配布 第3回 第1課 学習語句と文法を説明 読み練習 第4回 第2課「人の好みは様々」 音声を漢字に変換 第5回 第2課 学習語句と文法を説明 読み練習 第4回 第3課「本を2冊買いました」音声を漢字に変換 第6回 第3課 学習語句と文法を説明 読み練習 第7回 第4課「一人っ子」 音声を漢字に変換 第8回 第4課 学習語句と文法を説明 読み練習 中間試験 第9回 第5課「なまりがつよい」音声を漢字に変換 第10回 第5課 学習語句と文法を説明 読み練習 第11回 第6課「まだ取れていない」音声を漢字に変換 第12回 第6課 学習語句と文法を説明 読み練習 第13回 第7課「成田空港へ」音声を漢字に変換 第14回 第7課 学習語句と文法を説明 読み練習 第15回 春学期の総まとめ 履修者の理解状況によっては適宜進度を調整することもある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教材は音声で配布		平常の授業への取り組み（予習の聞き取りを含む）（20%）、中間・期末試験の結果（80%）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	中国語（Ⅲ b 応用）	担当者	阿邊 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【授業目標】春学期に続き以下のことを目標にして進める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の語彙を増やし読解力を増強することを目標とする。</li> <li>・発音面では課文の音声を事前に配布するのでそれをよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った読み方ができるようにする。</li> <li>・教材に出てきた現代中国語における様々な構文について文法事項を説明・復習していく。</li> <li>・辞書を丹念に調べる習慣を身につける。</li> <li>・春学期に続き多読（ピンインなしで）をしていく。多読するなかで語彙力を高め、文法の知識を更に深めていく。</li> </ul>		<p>第1回 第8課「小遣い」音声を漢字に変換 第2回 第8課 学習語句と文法を説明 読み練習 第3回 第9課「曇りのち晴れ」音声を漢字に変換 第4回 第9課 学習語句と文法を説明 読み練習 天気表現 第5回 第10課「ラジカセを買う」音声を漢字に変換 第6回 第10課 学習語句と文法を説明 読み練習 第7回 中間試験 第8回 第11課「インフルエンザ」音声を漢字に変換 第9回 第11課 学習語句と文法を説明 読み練習 第10回 第12課「友人」音声を漢字に変換 第11回 第12課 学習語句と文法を説明 読み練習 第12回 第13課「中華料理」音声を漢字に変換 第13回 第13課 学習語句と文法を説明 読み練習 第14回 課文朗読大会 第15回 秋学期まとめ 履修者の理解状況によっては適宜進度を調整することもある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教材は音声で配布		平常の授業への取り組み（予習の聞き取りを含む）（20%）、中間・期末試験の結果（80%）等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。	

09年度以降	韓国語(I a 総合1)	担当者	森 勇俊
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。</p> <p>ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。</p> <p>よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。</p>		<p>1 ハングルのしくみ①</p> <p>2 ハングルのしくみ②</p> <p>3 ハングルのしくみ③</p> <p>4 あいさつ①</p> <p>5 あいさつ②</p> <p>6 名詞文</p> <p>7 存在文</p> <p>8 用言文</p> <p>9 数詞①</p> <p>10 数詞②</p> <p>11 否定形</p> <p>12 尊敬形</p> <p>13 連用形</p> <p>14 해요体</p> <p>15 해요体の尊敬形</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語(I b 総合1)	担当者	森 勇俊
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。</p>		<p>1 基本事項の確認①</p> <p>2 基本事項の確認②</p> <p>3 過去形</p> <p>4 連体形①</p> <p>5 連体形②</p> <p>6 未来意思形</p> <p>7 ㄷ語幹</p> <p>8 ㄷ変則用言</p> <p>9 ㄴ変則用言</p> <p>10 ㄹ変則用言</p> <p>11 ㅎ変則用言</p> <p>12 ㄹ変則用言</p> <p>13 変則用言のまとめ</p> <p>14 まとめと復習①</p> <p>15 まとめと復習②</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語(I a 総合2)	担当者	森 勇俊
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は「韓国語 I (文法・読解1)」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用してみるにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ハングルのしくみ①</li> <li>2 ハングルのしくみ②</li> <li>3 ハングルのしくみ③</li> <li>4 あいさつ①</li> <li>5 あいさつ②</li> <li>6 名詞文</li> <li>7 存在文</li> <li>8 用言文</li> <li>9 数詞①</li> <li>10 数詞②</li> <li>11 否定形</li> <li>12 尊敬形</li> <li>13 連用形</li> <li>14 ㅏ요体</li> <li>15 ㅓ요体の尊敬形</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語(I b 総合2)	担当者	森 勇俊
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、春学期に学んだ単語、文法を教室内で使用してみるにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 基本事項の確認①</li> <li>2 基本事項の確認②</li> <li>3 過去形</li> <li>4 連体形①</li> <li>5 連体形②</li> <li>6 未来意思形</li> <li>7 ㅓ語幹</li> <li>8 ㅓ変則用言</li> <li>9 ㅓ変則用言</li> <li>10 ㅓ変則用言</li> <li>11 ㅓ変則用言</li> <li>12 ㅓ変則用言</li> <li>13 変則用言のまとめ</li> <li>14 まとめと復習①</li> <li>15 まとめと復習②</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語(I a 応用)	担当者	沈 元燮
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
韓国語初習者向けの授業。会話を中心とする。基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		1. 母音字（短母音、二重母音など） 2. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音）パッチム 3. 第1課 4. 第2課 5. 第3課 6. 第4課 7. 第5課（REVIEW） 8. 中間テスト I 9. 第6課 10. 第7課 11. 第8課 12. 第9課 13. 第10課（REVIEW） 14. 第11課 15. 第12課	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
カナタ韓国語 for Japanese 初級 I、Language Plus		出席 100%が原則、課題 20%、中間テスト I 30%、期末テスト 30%、出席 20%とする。	

09年度以降	韓国語(I b 応用)	担当者	沈 元燮
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
韓国語 I a 応用を引き続き、会話を中心とする。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		1. 第13課 2. 3. 第14課 4. 第15課（REVIEW） 5. 中間テスト 6. 第16課 7. 第17課 8. 第18課 9. 第19課 10. 第20課（REVIEW） 11. 中間テスト 12. 第21課 13. 第22課 14. 第23課 15. 第24課	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
カナタ韓国語 for Japanese 初級 I、Language Plus		出席 100%が原則、課題 20%、中間テスト 30%、期末テスト 30%、出席 20%とする。	

09年度以降	韓国語（Ⅱa 総合1）	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では「韓国語 I 応用」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。</p> <p>履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。</p> <p>●目標を立て、常に復習と予習を繰り返すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国語を学ぼう 初級の復習</li> <li>2. 韓国語を学ぼう 初級の復習</li> <li>3. 第 1 課 何を食べましょうか</li> <li>4. 第 1 課 文型・活用練習(5 級問題集・第 1 章)</li> <li>5. 第 2 課 電話番号を教えてください</li> <li>6. 第 2 課 文型・活用練習(5 級問題集・第 2 章)</li> <li>7. 第 3 課 趣味は何ですか</li> <li>8. 第 3 課 文型・活用練習(5 級問題集・第 3 章)</li> <li>9. 第 4 課 インサドンにはどう行けばいいですか</li> <li>10. 第 4 課 文型・活用練習(5 級問題集・第 4 章)</li> <li>11. 第 5 課 風邪は治りましたか</li> <li>12. 第 5 課 文型・活用練習(5 級問題集・模擬テスト)</li> <li>13. 復習</li> <li>14. 復習</li> <li>15. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>李昌圭『韓国語を学ぼう 中級』 李昌圭『別冊練習帳 韓国語を学ぼう 中級』</p>		出席、小テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語（Ⅱb 総合1）	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では前期で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。</p> <p>履修者には前期より深いコミュニケーションができるように期待したい。</p> <p>●常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ目標をもつこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第 1 課から 5 課まで復習</li> <li>2. 4 級問題集(発音)</li> <li>3. 第 6 課 連休には何をするつもりですか</li> <li>4. 第 6 課 文型・活用練習</li> <li>5. 4 級問題集(語彙)</li> <li>6. 4 級問題集(文法)</li> <li>7. 第 7 課 雨がたくさん降るようですね</li> <li>8. 第 7 課 文型・活用練習</li> <li>9. 4 級問題集(対話文)</li> <li>10. 4 級模擬テスト</li> <li>11. 第 8 課 プルゴギを作ることができますか</li> <li>12. 第 8 課 文型・活用練習</li> <li>13. 第 9 課 このズボン、試着してもいいですか</li> <li>14. 復習</li> <li>15. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>李昌圭『韓国語を学ぼう 中級』 李昌圭『別冊練習帳 韓国語を学ぼう 中級』</p>		出席、小テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語（Ⅱa 総合2）	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では「韓国語 I 応用」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。</p> <p>履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。</p> <p>●目標を立て、常に復習と予習を繰り返すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国語を学ぼう 初級の復習</li> <li>2. 韓国語を学ぼう 初級の復習</li> <li>3. 第 1 課 何を食べましょうか</li> <li>4. 第 1 課 文型・活用練習(5 級問題集・第 1 章)</li> <li>5. 第 2 課 電話番号を教えてください</li> <li>6. 第 2 課 文型・活用練習(5 級問題集・第 2 章)</li> <li>7. 第 3 課 趣味は何ですか</li> <li>8. 第 3 課 文型・活用練習(5 級問題集・第 3 章)</li> <li>9. 第 4 課 インサドンにはどう行けばいいですか</li> <li>10. 第 4 課 文型・活用練習(5 級問題集・第 4 章)</li> <li>11. 第 5 課 風邪は治りましたか</li> <li>12. 第 5 課 文型・活用練習(5 級問題集・模擬テスト)</li> <li>13. 復習</li> <li>14. 復習</li> <li>15. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>李昌圭『韓国語を学ぼう 中級』 李昌圭『別冊練習帳 韓国語を学ぼう 中級』</p>		出席、小テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語（Ⅱb 総合2）	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では前期で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。</p> <p>履修者には前期より深いコミュニケーションができるように期待したい。</p> <p>●常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ目標をもつこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第 1 課から 5 課まで復習</li> <li>2. 4 級問題集(発音)</li> <li>3. 第 6 課 連休には何をするつもりですか</li> <li>4. 第 6 課 文型・活用練習</li> <li>5. 4 級問題集(語彙)</li> <li>6. 4 級問題集(文法)</li> <li>7. 第 7 課 雨がたくさん降るようですね</li> <li>8. 第 7 課 文型・活用練習</li> <li>9. 4 級問題集(対話文)</li> <li>10. 4 級模擬テスト</li> <li>11. 第 8 課 プルゴギを作ることができますか</li> <li>12. 第 8 課 文型・活用練習</li> <li>13. 第 9 課 このズボン、試着してもいいですか</li> <li>14. 復習</li> <li>15. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>李昌圭『韓国語を学ぼう 中級』 李昌圭『別冊練習帳 韓国語を学ぼう 中級』</p>		出席、小テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語（Ⅱa 応用）	担当者	白 寅英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では「韓国語Ⅰ総合」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。</p> <p>履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。</p> <p>●欠席はせず、1回目の授業から出席すること。</p> <p>●変則活用表現を徹底的に覚えること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 復習</li> <li>3. 復習</li> <li>4. 第1課 遅れて申し訳ありません</li> <li>5. 第2課 この背の高い人が主人ですか</li> <li>6. 第3課 付き合っている人はいなかったです</li> <li>7. 第4課 通いながらずっと学びましたか</li> <li>8. 第5課 どこに行くつもりですか</li> <li>9. 第6課 小学校で習ったことがありますよ</li> <li>10. 第7課 韓国が勝ちそうです</li> <li>11. 第8課 見ようと思います</li> <li>12. 第9課 雨が降り始めました</li> <li>13. 第10課 食事でもしに行きましょうか</li> <li>14. 復習</li> <li>15. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>木内明『基礎から学ぶ 韓国語講座 中級』国書刊行会 参考書：油谷幸利『間違いやすい 韓国語表現 中級編』</p>		出席、小テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語（Ⅱb 応用）	担当者	白 寅英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今まで身につけた知識を活かし文法や表現を応用してどんどんチャレンジしていく。韓国語の正確な表現力、会話運用力の学習をめざす。履修者には資格を取り、自分の将来に活かすことを期待したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習</li> <li>2. 復習</li> <li>3. 第11課 実現したらいいのですが</li> <li>4. 第12課 高校の時に修学旅行で来ました</li> <li>5. 第13課 開かれるといいます</li> <li>6. 第14課 すごくきれいになりましたよ</li> <li>7. 第15課 建てられて依頼どのぐらい経ちましたか</li> <li>8. 第16課 健康そうですね</li> <li>9. 第17課 同じ年かもしれません</li> <li>10. 第18課 タレでも作っておいて</li> <li>11. 第19課 痩せるために我慢しなくちゃ</li> <li>12. 第20課 私も行くから</li> <li>13. 総合復習</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>木内明『基礎から学ぶ 韓国語講座 中級』国書刊行会 参考書：油谷幸利『間違いやすい 韓国語表現 中級編』</p>		出席、小テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語 (Ⅲa 応用)	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座は、今まで見につけた知識を活かし文法や表現を応用してどんどんチャレンジしていく。 韓国語の正確な表現力、会話運用力の学習をめざす。 履修者には資格を取り、自分の将来に活かすことを期待したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ目標をもつこと。</li> <li>●6月にハングル能力検定試験3級挑戦。</li> <li>●基本的に欠席は認めないので、1回目の授業から出席すること。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習</li> <li>2. ハングル能力試験対策</li> <li>3. ハングル能力試験対策</li> <li>4. ハングル能力試験対策</li> <li>5. ハングル能力試験対策</li> <li>6. ハングル能力試験対策</li> <li>7. 第1課 病院で</li> <li>8. 第2課 バス停留場で</li> <li>9. 第3課 銀行で</li> <li>10. 第4課 本を読む</li> <li>11. 第5課 韓国料理</li> <li>12. 第6課 天気</li> <li>13. 総合復習</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>李昌圭『韓国語上級』白帝社 李昌圭・安國煥共著『ハングル検定試験実践問題集 3級』 参考書：油谷幸利『間違いやすい 韓国語表現 中級編』</p>		出席、小テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語 (Ⅲb 応用)	担当者	きむ 金 ひいすく 熙淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座は、今まで見につけた知識を活かし文法や表現を応用してどんどんチャレンジしていく。 韓国語の正確な表現力、会話運用力の学習をめざす。履修者には資格を取り、自分の将来に活かすことを期待したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ目標をもつこと。</li> <li>●11月にハングル能力検定試験準2級に挑戦。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の復習</li> <li>2. 第7課 趣味は何ですか</li> <li>3. 第7課 文法と表現</li> <li>4. 第8課 約束</li> <li>5. 第8課 文法と表現</li> <li>6. 第9課 道を歩く</li> <li>7. 第9課 文法と表現</li> <li>8. 第10課 引越し</li> <li>9. 第10課 文法と表現</li> <li>10. 第11課 あけましておめでとうございます</li> <li>11. 第11課 文法と表現</li> <li>12. 第12課 秋夕</li> <li>13. 第7課から12課まで復習</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>李昌圭『韓国語上級』白帝社 前田真彦『韓国語上級演習ノート』白帝社 参考書：油谷幸利『間違いやすい 韓国語表現 中級編』</p>		出席、小テスト、期末テスト	

**2013 年度**

**外国語学部共通科目シラバス**

09年度以降	総合講座（人が世界を変える）	担当者	コーディネーター 片山 亜紀
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「一人の人間にできることには限りがある」という言い方があります。しかし歴史を見てみると、一人の人物が大きく世界を変えたり、あるいは小さくても意味のある変化をもたらしたりしている事例はたくさんあります。どんなとき、どんな条件が揃うと、人は大きなパワーを出せるのでしょうか。この総合講座では、こうした問いについて先生方といっしょに答えを探ります。オムニバス方式で、ほぼ毎回、外国語学部の先生方およびゲスト講師の方々をお招きして、一人の人物についてのお話を伺います。ゲスト講師の方には、世界を変えるためのご自身の活動について語ってもらうこともあります。</p> <p>春学期は古い時代から20世紀の人物まで通史的にたどります。個々の人物について学びつつ、世界史の大きな流れをみんなで実感できたらいいと願っています。右側「授業計画」欄に各回の予定を挙げます（敬称略、カッコ内は所属学科や大学）。順番とタイトルは変更することがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 片山亜紀（英語）：ガイドダンス</li> <li>2. 木村佐千子（ドイツ語）：ルターと音楽</li> <li>3. 木村佐千子（ドイツ語）：ベートーヴェンと交響曲</li> <li>4. 江花輝昭（フランス語）：ルイ14世—イメージとしての権力</li> <li>5. 矢羽々崇（ドイツ語）：グリム兄弟とメルヘンの「発明」</li> <li>6. 片山：メアリ・ウルストンクラフトが生まれていなかったら</li> <li>7. 田村斉敏（本学非常勤講師）：ワーズワスとフランス革命</li> <li>8. Jack Wendel（英語）：Darwin and Revolution in Science</li> <li>9. 日野克美（交流文化）：鶴見祐輔と日米関係</li> <li>10. 福田美雪（フランス語）：ブシコー夫妻とデパートの誕生</li> <li>11. 崔炳美（韓国文化院）： 近代国家を目指した金玉均（キムオッキョン）の三日天下</li> <li>12. 工藤和宏（英語）： もうひとつの日米関係—W・J・フルブライトが遺したもの</li> <li>13. 本橋エレン（英語）：Beate Sirota Gordon: A Champion for Both Japanese Women &amp; Japanese Arts</li> <li>14. 上野直子（英語）：帝国の裏庭からミレニアムのロンドンへ（仮）</li> <li>15. 片山：まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に適宜紹介する		レポート点（約30%）、学期末試験（約70%） *ただし4回を越える欠席は評価対象としない	

09年度以降	総合講座（人が世界を変える）	担当者	コーディネーター 佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「一人の人間にできることには限りがある」という言い方があります。しかし歴史を見渡してみると、一人の人物が大きく世界を変えたり、あるいは小さくても意味のある変化をもたらしたりしている事例はたくさんあります。どういとき、どんな条件が揃うと、人は大きなパワーを出せるのでしょうか。また、ある人がなしたことは、どのように他の人たちに伝わっていくのでしょうか。</p> <p>この総合講座では、こうした問いについて先生方といっしょに答えを探ります。オムニバス方式で、ほぼ毎回、外国語学部の先生方およびゲスト講師の方々をお招きして、一人の人物についてのお話を伺います。秋学期のゲスト講師の方には、世界を変えるためのご自身の活動について語ってもらいます。</p> <p>春学期が歴史を扱うのに対し、秋学期は現代を扱います。秋学期からの受講も歓迎しますが、全体の趣旨を理解した上で臨んでほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 佐野康子（英語）：ガイドダンス</li> <li>2. 小池真美（JICA）：絵本を通じてトキの生息環境を変える</li> <li>3. 北野収（交流文化）：フランツ・ヴェンデルホフとフェアトレード</li> <li>4. 工藤和宏（英語）：偏見と闘う「図書館」 —Human Library 創始者 Ronni Abergel の挑戦</li> <li>5. 大重光太郎（ドイツ語）： ヴィリー・ブランと戦後ドイツの政治と社会</li> <li>6. 黒田多美子（ドイツ語）： 「戦後ドイツの歴史認識と教育：アードルフ・ヒトラーをめぐる」</li> <li>7. 古田義文（ドイツ語）：ヘルムート・コールと欧州新秩序 —ドイツ統一から欧州統合</li> <li>8. 天花寺宏美（NPO コペルニク日本支部）： BOP ビジネスで途上国の人々の暮らしを変える</li> <li>9. 橋本直子（国際移住機：IOM）： 世界における人の移動の現状と IOM の活動</li> <li>10. 原成吉（英語）：アメリカを変えた詩—Allen Ginsberg の“Howl”</li> <li>11. 鈴木英一（英語）：ノーム・チョムスキーと人文科学の革命</li> <li>12. 金子芳樹（英語）：鄧小平が変えた中国 —高度経済成長仕掛け人の功と罪</li> <li>13. 谷口亜沙子（フランス語）： ココ・シャネル—服飾界における「皆殺しの天使」</li> <li>14. 鈴木隆（フランス語）：近代的都市像を求めて —オスマン、ル・コルビュジェ、ハワード</li> <li>15. 佐野：まとめ (カッコ内は所属。順番は変更することがあります)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に適宜紹介する		レポート点（約30%）、学期末試験（約70%） *ただし4回を越える欠席は評価対象としない	

09年度以降	総合講座（EUの歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までのヨーロッパ統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つEU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。地域統合の歴史的な前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動(1)</li> <li>3. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動(2)</li> <li>4. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動(3)</li> <li>5. 第2次大戦と欧州統合</li> <li>6. 戦後復興と欧州統合(1)</li> <li>7. 戦後復興と欧州統合(2)</li> <li>8. ECSCの成立(1)</li> <li>9. ECSCの成立(2)</li> <li>10. EECの成立(1)</li> <li>11. EECの成立(2)</li> <li>12. EECの定着期(1)</li> <li>13. EECの定着期(2)</li> <li>14. EECの定着期(3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年		平常授業における小テスト（複数回実施、70%）と期末レポート（30%）	

09年度以降	総合講座（EUの歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EUの歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 通貨統合(1)</li> <li>3. 通貨統合(2)</li> <li>4. 通貨統合(3)</li> <li>5. マーストリヒト条約以降のEU(1)</li> <li>6. マーストリヒト条約以降のEU(2)</li> <li>7. EUの制度</li> <li>8. EUの政策(1)</li> <li>9. EUの政策(2)</li> <li>10. EUの政策(3)</li> <li>11. 加盟国とEU(1)</li> <li>12. 加盟国とEU(2)</li> <li>13. 加盟国とEU(3)</li> <li>14. EUの課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		平常授業における小テスト（複数回実施、70%）と期末レポート（30%）	

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と目標、情報科学とは</li> <li>2. データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>3. コンピュータの構成要素</li> <li>4. ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5. オペレーティングシステム (OS)</li> <li>6. プログラム言語</li> <li>7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1)</li> <li>10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2)</li> <li>11. 機械翻訳システムの演習</li> <li>12. 情報検索と質問応答システム</li> <li>13. インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14. 授業のまとめ</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(1)</li> <li>9. マクロの利用(2)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(1)</li> <li>9. マクロの利用(2)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要</b>：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要</b>：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要</b>：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要</b>：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳細な用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1): 成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2): 成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳細な用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1): 成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2): 成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理1)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【目的と概要】</b></p> <p>この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行います。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」(learner language)であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なります。また、同じ学習者でも英語力が高い人と低い人の発話は多面的に異なります。しかし、一般的にそれらの違いは「何となく違う」という印象にとどまってしまう。そこでコンピューターを用いて数量的・質的に言語を分析することにより、たとえば語彙的観点、文法的観点、誤りの観点、流暢さの観点から学習者言語の特徴を見つけ出すことが可能になります。</p> <p>この授業は、コンピューターによる言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とします。それにより、言語に対する洞察力を深め、また自分自身の英語力を振り返ることも可能になるでしょう。</p> <p>各人がコンピューターを使い、演習を中心に授業を進めます。自分で学習者言語データを分析し結果をプレゼンテーションする、レポートにまとめることも課題となります。春学期は書き言葉(英文エッセイ)を分析します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 大学生による英語エッセイデータの紹介</li> <li>3. 語彙・コロケーション分析</li> <li>4. 品詞タグ付与の方法</li> <li>5. 品詞分析</li> <li>6. 品詞連鎖分析</li> <li>7. 文法分析 (1)</li> <li>8. 文法分析 (2)</li> <li>9. 誤り分析 (1)</li> <li>10. 誤り分析 (2)</li> <li>11. 流暢さ分析</li> <li>12. プレゼンテーション準備 (1)</li> <li>13. プレゼンテーション準備 (2)</li> <li>14. プレゼンテーション (1)</li> <li>15. プレゼンテーション (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席、授業活動への参加度、プレゼンテーション、レポートによる	

09年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理2)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【概要と注意点】</b></p> <p>目的は春学期と同様です。</p> <p>秋学期は話し言葉(英語によるインタビューにおける学習者の発話)の分析を行います。受講生の皆さんに実際にデータ収集と集めたデータのコンピューターデータベース化(コーパス化)を行っていただきます。そのため、授業外活動も大いに含まれますのでその点を了承して下さい。</p> <p>また、データ分析の方法を授業内で説明はしますが、春学期の「復習程度」に留めますので、春学期の言語情報処理 1a を履修した上での登録が望ましいです。春学期を履修せずに受講を希望する場合は；</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ コンピューターの操作が得意であること</li> <li>■ 言語学の基本的な知識が身につけていることを前提とします。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 日本人学習者による英語発話データの紹介</li> <li>3. 英語インタビューテストの紹介</li> <li>4. 英語インタビューの練習 【データ収集】</li> <li>5. データの書き起こし (1)</li> <li>6. データの書き起こし (2)</li> <li>7. データの加工</li> <li>8. 語彙分析</li> <li>9. 文法分析</li> <li>10. 誤り分析</li> <li>11. 流暢さ分析</li> <li>12. プレゼンテーション準備 (1)</li> <li>13. プレゼンテーション準備 (2)</li> <li>14. プレゼンテーション (1)</li> <li>15. プレゼンテーション (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席、授業活動への参加度、プレゼンテーション、レポートによる	

09年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理1)	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的, 講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析(下に続く↓)</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</p> <p>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</p> <p>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</p> <p>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</p> <p>7 Excel 関数のネスト(1)</p> <p>8 Excel 関数のネスト(2)</p> <p>9 Excel 関数のネスト(3)</p> <p>10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</p> <p>11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</p> <p>12 データベース上のデータの蓄積方法</p> <p>13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</p> <p>14 データベースの活用</p> <p>15 まとめと演習</p>	
<b>テキスト, 参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト, 参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

09年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理2)	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的, 講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましよう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</p> <p>2 Access 上にデータを格納</p> <p>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</p> <p>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</p> <p>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</p> <p>6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習</p> <p>7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</p> <p>8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</p> <p>9 品詞の使われ方と英文の特徴</p> <p>10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー</p> <p>11 語彙の出現情報から何を読み取るか(1)</p> <p>12 語彙の出現情報から何を読み取るか(2)</p> <p>13 語彙の出現情報から何を読み取るか(3)</p> <p>14 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</p> <p>15 まとめと演習</p>	
<b>テキスト, 参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト, 参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTML と FTP の復習 (1)</li> <li>3 HTML と FTP の復習 (2)</li> <li>4 インタラクティブなページ (HTML と CGI)</li> <li>5 プログラミングの基礎知識</li> <li>6 JavaScript (1)</li> <li>7 JavaScript (2)</li> <li>8 JavaScript (3)</li> <li>9 JavaScript (4)</li> <li>10 JavaScript (5)</li> <li>11 CGI の利用</li> <li>12 総合課題 (1)</li> <li>13 総合課題 (2)</li> <li>14 総合課題 (2)</li> <li>15 鑑賞・報告会</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過を含む) で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。	

09年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。春学期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、秋学期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の目的と方法</li> <li>2. 家計の行動①</li> <li>3. 家計の行動②</li> <li>4. 家計の行動③</li> <li>5. 企業の行動①</li> <li>6. 企業の行動②</li> <li>7. 企業の行動③</li> <li>8. 市場価格の決定</li> <li>9. 不完全競争市場</li> <li>10. 厚生経済学の基本定理</li> <li>11. 市場の失敗</li> <li>12. 所得の分配</li> <li>13. 政府による市場介入①</li> <li>14. 政府による市場介入②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

09年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。春学期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、秋学期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の体系</li> <li>2. 国民所得の諸概念</li> <li>3. 消費と貯蓄の理論</li> <li>4. 投資の理論</li> <li>5. 国民所得決定の理論</li> <li>6. 生産物市場の分析</li> <li>7. 金融市場の分析</li> <li>8. 財政・金融政策の有効性①</li> <li>9. 財政・金融政策の有効性②</li> <li>10. 財政赤字と政府債務</li> <li>11. 国際金融システム</li> <li>12. 開放マクロ経済下の経済政策</li> <li>13. 景気の循環</li> <li>14. 経済成長の決定要因</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

シラバス 交流文化学科

---

2013年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	